

PlateSpin® Transformation Manager ユーザガイド

2016年12月

保証と著作権

保証と著作権、商標、免責事項、保証、輸出およびその他の使用制限、米国政府の規制による権利、特許に関する方針、およびFIPSコンプライアンスの詳細については、<https://www.netiq.com/company/legal/>を参照してください。

Copyright © 2016 NetIQ Corporation, a Micro Focus company. All Rights Reserved.

目次

本書およびライブラリについて	11
1 PlateSpin Transformation Managerの概要	13
ワークロード変換に対する固有の取り組み	13
大規模変換にTransformation Managerを使用することのメリット	15
PlateSpinマイグレーション環境	16
PlateSpin検出環境	19
計画モードおよび自動化モード	20
変換方式	21
変換プランニングワークフロー	22
主要なコンポーネントと機能	23
アプライアンス	23
Webインタフェース	24
PlateSpin Migrate Connector	25
Webインタフェースでのプランニングプロジェクト	26
ダッシュボード	26
計画	26
ユーザ	27
リソース	27
環境設定	28
次に行う作業	28
2 はじめに	29
3 Webインタフェースの使用	33
Webインタフェースの使用の前提条件	33
ポートの要件	33
Webインタフェースでサポートされるブラウザ	34
サポートされている言語	34
セキュリティで保護された通信のためのSSL証明書	34
Session Timeout(セッションタイムアウト)	35
Webインタフェースへのアクセス	35
Webインタフェースのツールバー	35
プロジェクトセレクト	37
バルクアクション	37
スプレッドシートインポート	38
範囲インポート	38
バルク編集	38
バルク状態変更	38
ナビゲーションURLのリンクの表示	38
リストのカスタム表示およびフィルタ	39
リスト項目の更新	39
リストの項目数	39
セルに表示するデータを増やす	39
データのソート	40
リストの列の表示/非表示	40
リストのデータのフィルタ	40
データの詳細検索	41

リストの上下スクロール	42
リストでの複数項目の選択	42
連続項目の選択	43
非連続項目の選択	43
すべての項目の選択	43
ページのパート I 環境設定	45
4 ライセンスの管理	47
ライセンスについて	47
フルライセンス	47
評価ライセンス	47
ワークロードがライセンスを使用する方法	48
ライセンスキーの追加	48
ライセンスブロックの追加	49
ワークロードのライセンスの状態の表示	51
ライセンスの警告	51
5 PlateSpin Migrate Connectorの設定	53
Connectorのグローバルオプションについて	53
一般設定	53
Migrateサーバの設定	54
お客様が指定するスクリプト	55
グローバルMigrate Connector設定の表示	55
グローバルMigrate Connector設定の編集	56
Migrate Connectorインスタンスの割り当て	56
6 オペレーティングシステムの設定	59
オペレーティングシステムのタイプについて	59
オペレーティングシステムのタイプのリストを表示	60
オペレーティングシステムのタイプの作成	60
オペレーティングシステムのタイプの編集	61
オペレーティングシステムのタイプの削除	61
ページのパート II ユーザ	63
7 PlateSpinユーザ管理の概要	65
システムユーザおよび組織ユーザ	65
役割	66
システム管理者の役割	66
プロジェクトマネージャの役割	67
プロジェクト設計者の役割	67
マイグレーションスペシャリストの役割	68
ダッシュボードビューアの役割	68
例: Digital Airlinesユーザ	68
8 組織を管理する	71
組織について	71
組織の作成	72
組織のロゴをアップロードする	73

組織の編集	74
組織の削除	75
9 ユーザの管理	77
ユーザについて	77
ユーザの表示	78
ユーザの作成	78
ユーザの編集	78
ユーザパスワードの変更	79
ユーザの削除	79
10 グループを管理する	81
グループについて	81
グループの表示	82
グループの作成	82
グループの編集	82
グループの削除	83
A 役割と権限	85
ページのパート III 計画	93
11 プロジェクト計画の概要	95
ウェーブおよびバッチのプランニング	95
プランニングの前提条件	96
アクセス許可の付与	96
ワークロードの変換	97
日付のスケジューリング	97
12 プロジェクトの管理	99
プロジェクトについて	99
プロジェクトの前提条件	101
プロジェクトの表示	101
プロジェクトの作成	101
プロジェクトの編集	102
プロジェクトのカスタムフィールド名の設定	102
プロジェクトの関連付けの設定	103
プロジェクトの削除	104
13 Waveの管理	105
ウェーブについて	105
ウェーブの前提条件	106
Waveの表示	106
Waveの作成	106
Waveの編集	107
Waveの関連付けの設定	107
Waveを削除	108

14 バッチの管理	109
バッチについて	109
バッチの前提条件	110
バッチの表示	110
バッチの作成	110
バッチの編集	111
別のWaveへのバッチの移動	111
バッチの関連付けの設定	112
バッチの削除	112
15 アプリケーションの管理	115
アプリケーションについて	115
アプリケーションの前提条件	115
アプリケーションの表示	115
アプリケーションの作成	116
スプレッドシートインポート中のアプリケーションの作成	116
アプリケーションの編集	116
アプリケーションとワークロードの関連付け	117
アプリケーションの削除	117
16 プロジェクトの監視	119
ダッシュボードの使用	119
ダッシュボードについて	120
プロジェクト、Wave、またはバッチの数と状態の表示	122
ワークロードの状態の表示	123
B グローバルプランニングオブジェクト	125
ユーザの役割	125
ワークロードタイプ	126
ワークロード変換方式	126
オペレーティングシステムのファミリ	126
オペレーティングシステムのアーキテクチャ	127
クラウドプロバイダ	127
仮想テクノロジー(ハイパーバイザ)	127
ボリュームタイプ	127
ストレージマッピング戦略	128
ストレージオブジェクト	128
ディスクコピー方式	128
圧縮レベル	128
マイグレーションサーバのタイプ	129
ホスト検出の状態	129
プロジェクトフェーズ	129
変換フェーズ	129
ワークロードヘルス	130
ワークフローステータス	130
マイグレーションサブステータス	131

ページのパート IV ワークロード	135
17 ワークロードの概要	137
自動化モード	137
ワークロードタイプ	137
ワークロード変換方式	138
OSタイプ	138
カスタムのフィールド	139
ネットワーク接続とアクセス要件	139
イベントメッセージング	140
PlateSpin検出環境	140
PlateSpinマイグレーション環境	141
PlateSpin Transformation Manager用のセキュアHTTP設定	141
18 ワークロードのインポートおよび検出	143
ワークロードの自動検出について	143
ソースワークロードの検出要件	143
インポートおよび検出プロセス	144
検出失敗のトラブルシューティング	144
ワークロードの表示	145
スプレッドシートを使用したワークロードのインポート	145
自動検出を使用したワークロードのインポート	147
インポートについて	147
IPアドレスまたはFQDNによる単一ワークロードのインポート	148
IPアドレス範囲内のワークロードのインポート	148
ワークロード検出の再試行	149
ワークロードの再検出	150
19 ワークロード変換の設定	151
自動マイグレーションについて	151
自動展開要件	151
自動プロセス	152
自動マイグレーション失敗のトラブルシューティング	152
変換ダイアログについて	153
ヘッダ	154
ワークロードIDおよび検出アドレス	154
[変換] ダイアログのURL	155
[エラーと警告]	155
ステータスと再試行	155
マイグレーションサブステータス	158
検出ステータスと再検出	158
最終更新日時	158
ライセンスの状態	158
変換計画	158
マイグレーションの設定	160
ワークロード	161
場所	162
ネットワークインタフェース	163
ネットワークインタフェースのテスト	164
ストレージ	165
アプリケーション	167
カスタムのフィールド	167
変換履歴	167
ワークロードリストの表示	167

ワークロードのNICおよびボリュームサマリの表示	168
フィルタおよび詳細検索を使用したワークロードの検索	169
ワークロード変換の詳細の表示	170
ワークロード変換の編集	170
レプリケーションに使用するソースNICの設定	171
送信後のワークロード変換の編集	172
複数の提案するワークロードのバルク編集	173
バルク編集について	173
バルク編集するワークロードの選択	176
バルク編集の適用	176
複数の提案するワークロードのバルク状態変更	177
Migrateサーバからの編集の同期	177
変換履歴の表示	178
変換履歴へのユーザ注記の追加	178
送信されたワークロードの取り消し	179
ワークロードの削除	180
 C バルクインポートスプレッドシート	 181
スプレッドシートインポートについて	182
スプレッドシートインポートツール	182
スプレッドシートインポートのワークフロー	183
スプレッドシートパラメータ	184
サンプルインポートスプレッドシートのダウンロード	194
スプレッドシートの検証	195
結果スプレッドシートのダウンロード	195
ワークロードの再インポート	196
 ページのパート V リソース	 197
 20 リソースの概要	 199
リソースについて	199
リソースの前提条件	199
 21 資格情報リソースの管理	 201
資格情報リソースについて	201
資格情報の表示	202
資格情報の作成	203
資格情報とワークロード、ホスト、またはマイグレーションサーバの関連付け	203
資格情報とワークロードの関連付け	203
資格情報とホストの関連付け	204
資格情報とマイグレーションサーバの関連付け	204
資格情報の編集	204
資格情報の削除	205
 22 ホストリソースの管理	 207
ホストの自動検出について	207
ターゲットホストの検出要件	207
ホストの検出プロセス	208
ホスト検出失敗のトラブルシューティング	208
ホストリソースについて	209
ホストの表示	210

ソースホストの作成	211
ターゲットホストの作成	211
ホスト検出の再試行	212
ホストの再検出	212
ターゲットホストの編集	213
ホストとターゲットワークロードの関連付け	213
ホストの削除	214
23 マイグレーションサーバリソースの管理	215
マイグレーションサーバリソースについて	215
マイグレーションサーバの表示	216
マイグレーションサーバの作成	217
マイグレーションサーバとターゲットワークロードの関連付け	217
マイグレーションサーバの編集	218
マイグレーションサーバの削除	218
24 ネットワークリソースの管理	219
ネットワークリソースについて	219
ネットワークの表示	219
ソースネットワークの作成	220
ターゲットネットワークの作成	220
ネットワークとターゲットワークロードの関連付け	221
ターゲットネットワークの編集	221
ネットワークの削除	221
25 データストアリソースの管理	223
データストアリソースについて	223
データストアの表示	223
ソースデータストアの作成	224
ターゲットデータストアの作成	224
データストアとターゲットワークロードの関連付け	225
ターゲットデータストアの編集	225
ターゲットデータストアの削除	226
26 リソースプールリソースの管理	227
リソースプールリソースについて	227
リソースプールの表示	227
リソースプールの作成	228
リソースプールとワークロードの関連付け	228
リソースプールの編集	229
リソースプールの削除	229
27 環境リソースの管理	231
環境リソースについて	231
環境の表示	231
ソース環境の作成	232
環境の作成	232
環境とターゲットワークロードの関連付け	232
環境の編集	233

環境の削除	233
-----------------	-----

本書およびライブラリについて

この「ユーザガイド」では、PlateSpin Transformation Managerを使用して、大規模なデータセンターの変換プロジェクトやマイグレーションプロジェクトを管理する方法について説明します。概念面の情報、ユーザインタフェースの概要、および多用するタスクの手順を追った操作方法について説明します。

本書の読者

このドキュメントは、この製品を使用して、変換プロジェクトを計画、実行、および追跡する、データセンター管理者やオペレータなどのITスタッフ向けです。

ライブラリに収録されている情報

PlateSpin Transformation ManagerマニュアルのWebサイト (<https://www.netiq.com/documentation/platespin-transformation-manager-1-1/>)には、この製品のライブラリがHTML形式とPDF形式で用意されています。

その他の資料

次のオンラインリソースもご利用ください。

- [YouTube.com上のMicro Focus Workload Migration and Disaster Recoveryチャンネル](https://www.youtube.com/channel/UChuzpo3HbYpPI93icqeOzJQ) (<https://www.youtube.com/channel/UChuzpo3HbYpPI93icqeOzJQ>): 製品のWebキャスト、デモ、およびトレーニングを提供するチャンネルです。
- [PlateSpin Transformation Manager製品リソース](https://www.netiq.com/products/platespin-transformation-manager/resources/) (<https://www.netiq.com/products/platespin-transformation-manager/resources/>): ホワイトペーパーおよび他の技術情報を提供する製品Webサイトです。
- [ユーザコミュニティ](https://www.netiq.com/communities/) (<https://www.netiq.com/communities/>): さまざまなトピックについて議論するWebベースのコミュニティです。
- [サポートナレッジベース](https://www.netiq.com/support/kb/) (<https://www.netiq.com/support/kb/>): 詳しい技術情報の記事集です。

顧客サービス

製品の個々の問題については、[顧客サービス](http://www.netiq.com/support) (<http://www.netiq.com/support>)にお問い合わせください。

マニュアルのサポート

弊社の目標は、お客様のニーズを満たすマニュアルの提供です。マニュアルを改善するためのご提案がございましたら、本マニュアルのHTML版で、各ページの下にある[comment on this topic](#)をクリックしてください。Documentation-Feedback@netiq.com宛てに電子メールを送信することもできます。貴重なご意見をぜひお寄せください。

1 PlateSpin Transformation Managerの概要

PlateSpin Transformation Managerは、データセンター変換プロジェクトのための計画、追跡、および自動化ソリューションです。このツールは、なじみのあるプロジェクトの役割、ダッシュボードによる進行状況の表示、およびすべてのワークロード変換方式に対するサポートを特長としています。自動検出付きのインポートにより、計画用のワークロードとターゲットホストのセットアップが簡素化および標準化されます。自動化モードでは、PlateSpin Migrateサーバの大規模サーバファーム間でインポートからカットオーバーまでの変換ワークフローを単一制御ポイントから制御できます。チームはプロジェクトの予測可能性、変換速度、および成功率を向上させ、プロジェクトコスト全体と完了までの時間を削減できます。

PlateSpin Migrate Connectorは、ワークロードおよびホスト検出をサポートし、PlateSpin Migrateサーバへのマイグレーションジョブの割り当て負荷を分散して、VMwareマイグレーションプロジェクトの変換プランの実行およびモニタリング用の通信を管理します。

- [13 ページの「ワークロード変換に対する固有の取り組み」](#)
- [15 ページの「大規模変換にTransformation Managerを使用することのメリット」](#)
- [16 ページの「PlateSpinマイグレーション環境」](#)
- [19 ページの「PlateSpin検出環境」](#)
- [20 ページの「計画モードおよび自動化モード」](#)
- [21 ページの「変換方式」](#)
- [22 ページの「変換プランニングワークフロー」](#)
- [23 ページの「主要なコンポーネントと機能」](#)
- [26 ページの「Webインタフェースでのプランニングプロジェクト」](#)
- [28 ページの「次に行う作業」](#)

ワークロード変換に対する固有の取り組み

ビジネスが進化を遂げていくにつれ、企業の合併や買収を通じて、データセンターは不均等に、または異なる方法で拡張していく可能性があります。それに伴って、レガシーなテクノロジーと新しいテクノロジーが共存していきます。ITスタッフは、ハードウェアアーキテクチャ、オペレーティングシステム、およびアプリケーションの異機種混在の維持に努めます。しかし、このワークロードの多様性はITスタッフへのストレスを高めるとともに人的ミスなども増える原因となります。また、ハードウェアが古くなればなるほど、電力消費も多くなり、冷却もより多く必要となります。

変換のメリット

次のメリットを享受するためにワークロードを変換したい場合があります。

- 現在および将来のビジネスニーズをよりよく満たすためにワークロードの多様性を最適化する
- 日々の運用を簡素化する
- 全体的な効率の改善

- ◆ 運用コストの削減
- ◆ IT環境におけるリスクの削減

変換の目的

ワークロードの変換またはマイグレーションの目的は、現在の運用モードから将来の適切な運用モードにワークロードを変更することです。変更の実現方法は、管理するワークロードおよびビジネスニーズによって異なります。一般的なプロジェクトの目的には次のものがあります。

- ◆ 物理、仮想、およびクラウドインフラストラクチャ間のワークロードの移行。
- ◆ より新しいハードウェア、異なるハードウェアベンダ、またはホストされるプロバイダハードウェアへのワークロードのアップグレード。
- ◆ 仮想化ホストサーバ上、またはクラウドインフラストラクチャへのワークロードの統合。
- ◆ 同じか異なる仮想化ハイパーバイザを実行して、仮想ファイルをより新しい仮想化ホストサーバに移動。
- ◆ 装置をロケーションAからロケーションBへリフトアンドシフト。
- ◆ ソフトウェアやサービスが終了になるときに、古いワークロードを廃止。

変換プロジェクトまたはマイグレーションプロジェクトは、これらの任意の目的、または多数の同様な目的例の組み合わせである場合があります。

変換の取り組み

「**マイグレーションプランニングは進めにくい。**」 ある場所から別の場所へのワークロードのマイグレーションは、サーバが数台から100台ほどの場合は実行するのは容易です。しかし、大規模マイグレーションプロジェクトは、数千から数十万のワークロードがある場合があります。情報およびプランニング要件はスプレッドシートには簡単には取り込めません。

「**ビジネスが優先される。**」 変換により、ミッションクリティカルなアプリケーションおよびサーバは、最低限のダウンタイムが必要になります。各ワークロード変換にはビジネスの需要に基づく異なる優先順位とタイミングがあります。スケジュールを立てる際には、変換の計画および実行に必要な、ターゲット施設、ネットワークリソース、装置、およびITスタッフが常に利用できるかどうかを考慮する必要があります。運営および組織の利害関係者は、プロジェクトの進捗およびステータスを追跡したい場合があります。

「**評価は煩雑。**」 ワークロードの元の状態を定義することは手間がかかる場合があります。コンピュータインフラストラクチャ、オペレーティングシステム、アプリケーション、データ、および設定に関する情報を含む、ワークロードのプロファイルを作成します。ワークロードは時間の経過とともにアップグレードまたは用途変更される場合があるため、変換を実行するためにプロファイルを拡張またはアップデートする必要がある場合があります。また、関連のある提案するワークロードプロファイルを元のワークロードのリビジョンに必要な応じて変更する必要がある場合もあります。

「**プロセスに終わりが見えない。**」 大規模なIT変換プロジェクトは、複数の場所にまたがる場合がある生産環境で長期間にわたって行われることが普通です。大量のワークロードがある複雑なプロジェクトは、完了までに数カ月または数年かかる場合があります。数カ月前になってからのみ詳細の計画が可能になる場合もあります。プロジェクトは、1回だけの実行ではなく、複数フェーズ必要となります。

大規模変換にTransformation Managerを使用することのメリット

PlateSpin Transformation Managerは、プランニングから変換方式までのあらゆる面を集結しています。これにより以下が実現されます。

- 一貫性
- 信頼性
- 再現性

変換ライフサイクル全体を通してイベントを計画および追跡

各ワークロード変換計画は、ハードウェア、アプリケーション、および他の依存リソースを含む、各ワークロードの現在および将来の環境を特定し、ターゲットワークロードの継続的なカットオーバーを推進していく必要があります。インポートから完了までのすべてのフェーズで各ワークロードの進捗を単独で管理および追跡します。また、バッチ、Wave、およびプロジェクトごとの累積的メトリックスも追跡できます。

PlateSpin Migrateサーバの大規模サーバファーム間のマイグレーションを自動化

[PlateSpinマイグレーション環境](#)では、PlateSpin Transformation Managerを介してワークロードマイグレーションを計画、実行、および監視できます。PlateSpin Migrate Connectorでは、PlateSpin Migrateサーバの大規模ファーム間で多数のマイグレーションジョブの負荷を分散します。Transformation Managerでは、Migrate Connectorを介して、その変換計画に従って、各ワークロードのマイグレーションを自動化します。

プランニング機能は柔軟性がある

プロジェクトごとにカスタムリソースを作成し、カスタムフィールドを追加して、重要な情報を追跡できます。検索およびバルクアクションのための強力なフォームを使用して、ワークロードをバッチやWaveに効率的に編成し、複数のワークロードに同じ設定を一度に適用できます。

役割ベースの許可を使用してアクセスおよび表示を制御

プランニングには技術的な作業を行う複数のITスタッフが関与します。主要な利害関係者に許可を割り当て、プロジェクトのステータスとレポートを監視することができます。利害関係者をデータマイグレーションに関与させ続けることで、変換の実行に対する利害相反の可能性を最小限に抑えるかまたは削減できます。

パフォーマンスとスケーラビリティが内蔵

Webインタフェースとデータベースは最大で約50万もの変換を1つのプロジェクトで管理するように設計されています。

役割ベースのマルチテナンシーが複数の顧客とプロジェクトをサポート

役割ベースのマルチテナンシーを使用して、複数の組織やプロジェクトを管理しながら、データのセキュリティと守秘性を保護することができます。組織は、プロバイダ、またはエンタープライズ内の異なる部門のエンドカスタマーとすることができます。ユーザ役割および関連する許可は、ユーザのアクションと情報の表示を制御します。

変換目標は達成可能である

PlateSpin Transformation Managerを使用して変換プロジェクトを計画および監視することにより、変換目標を達成できます。

- ◆ プロジェクトの予測可能性が劇的に向上
- ◆ 変換速度が向上し、完了までの時間を短縮
- ◆ 成功率を改善し、人的エラーなどを削減
- ◆ コストの削減

PlateSpinマイグレーション環境

PlateSpinマイグレーション環境では、PlateSpin Transformation ManagerとPlateSpin Migrate Connectorおよび1つ以上のPlateSpin Migrateサーバを結合することにより、ワークロードマイグレーションの多数のタスクを自動化できます。VMware Clusterホスト上でターゲットVMへ物理および仮想ワークロードのマイグレーションを計画し、実行できます。変換ワークフローおよびスケジュールにより、マイグレーションタスクがいつ実行されるかが決定されます。マイグレーションスペシャリストが一部のタスクを手動で実行できるようにするために、Transformation Managerでは自動化を一時的に停止できます。マイグレーションスペシャリストは、ワークロードマイグレーションを監視し、例外に対応して、より少ない時間でより多くのマイグレーションを処理することが可能です。

PlateSpin Migrate Connectorは、Transformation ManagerとMigrateサーバ間のアクティビティを統合します。また、PlateSpin Migrateサーバの大規模なファーム間でマイグレーションジョブの負荷を分散します。Migrate Connectorは、Transformation Managerからマイグレーションイベントをリスンし、適切なMigrateサーバにコマンドを配布します。Migrate ConnectorはさまざまなPlateSpin Migrateサーバからマイグレーションステータスイベントをリスンし、適切なプロジェクトとワークロード変換計画にのみそれらのイベントを配布します。

図 1-1に、自動化されたPlateSpinマイグレーションのための展開環境を示します。PlateSpinマイグレーション環境における自動マイグレーションの仕組みについては、表 1-1を参照してください。

図 1-1 PlateSpin マイグレーション環境

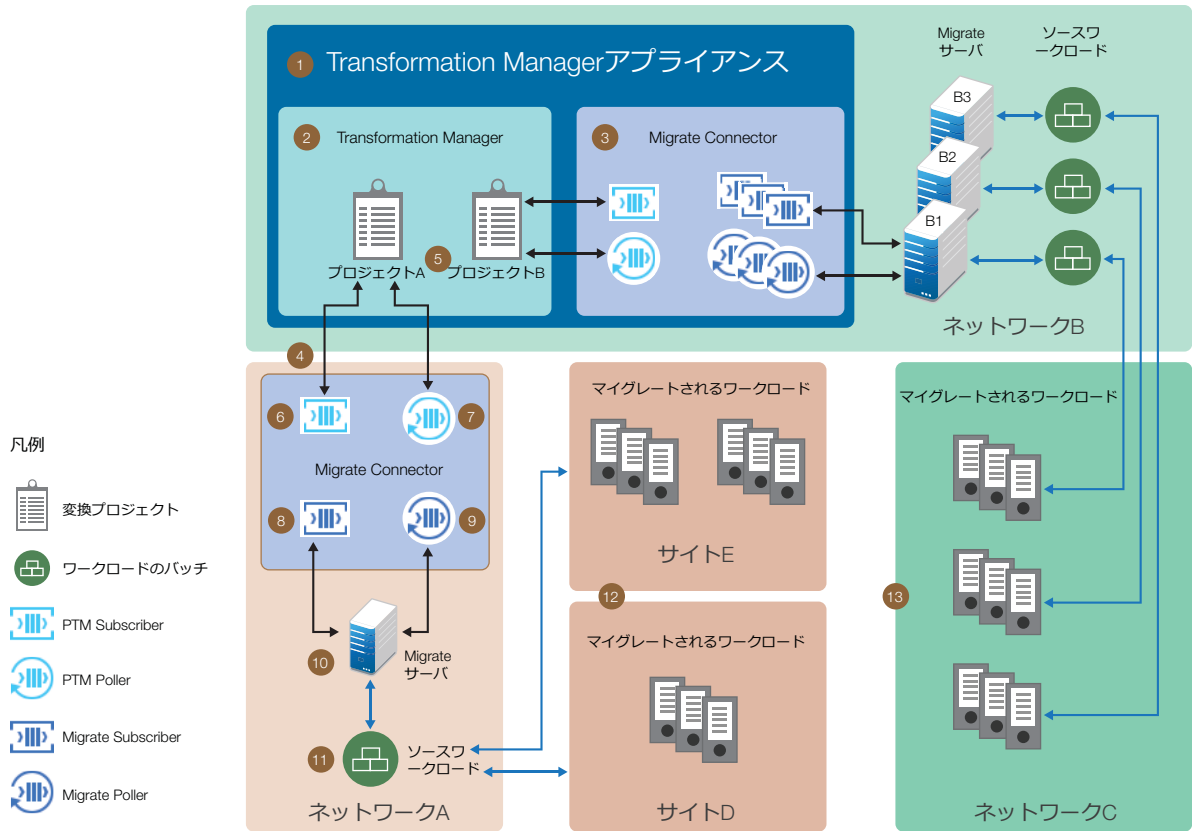


表 1-1 PlateSpin マイグレーション環境における自動マイグレーションの仕組み

PlateSpinマイグレーション環境	説明
1. PlateSpin Transformation Managerアプライアンス	アプライアンスVMIは、PTMサーバとMigrate Connectorのインスタンスをホストします。
2. PlateSpin Transformation Managerサーバ (PTMサーバ)	単一のPTMサーバは 1 つ以上のMigrate Connector インスタンスを管理します。
3. アプライアンス上のPlateSpin Migrate Connector	アプライアンス上のMigrate Connectorインスタンスは、PTMサーバと連携するように事前設定されています。このインスタンスは、アプライアンスと同じネットワーク内にある1つ以上のMigrateサーバのイベントを統合できます。
4. 他のネットワークで展開されるPlateSpin Migrate Connector	PlateSpin Migrateサーバとマイグレートするソースワークロードと同じネットワークにあるMigrate Connectorインスタンスが必要です。SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP4を実行している独自のサーバにConnectorをインストールします。

PlateSpinマイグレーション環境	説明
5. 変換プロジェクト	Migrate Connectorは1つのプロジェクト用に設定されている場合を除き、すべてのプロジェクトと連携します。プロジェクトベースのコネクタを使用して、マルチテナント環境における組織のデータの守秘性とセキュリティを確保します。
6. PlateSpin Transformation Manager Subscriber	各Connectorには1つのPTM Subscriberがあります。サブスクライバは割り当てられたPTMサーバから動的にプッシュされるイベントをリスンします。Connectorをプロジェクトに割り当てている場合、サブスクライバはそのプロジェクトからのイベントのみをリスンします。
7. PlateSpin Transformation Manager Poller	各Connectorには1つのPTM Pollerがあります。ポーラは割り当てられたPTMサーバを定期的にポーリングし、最後のポーリング以降のすべてのイベントを受信していることを確認します。Connectorがプロジェクトに割り当てられている場合、ポーラはそのプロジェクトからのイベントのみを確認します。
8. PlateSpin Migrate Subscriber	各Connectorには接続されているそれぞれのMigrateサーバとは別のMigrate Subscriberがあります。各サブスクライバは割り当てられたMigrateサーバから動的にプッシュされたイベントをリスンします。Connectorをプロジェクトに割り当てている場合、サブスクライバはそのプロジェクトのイベントのみをリスンします。
9. PlateSpin Migrate Poller	各Connectorには接続されているそれぞれのMigrateサーバとは別のMigrate Pollerがあります。各ポーラは割り当てられたMigrateサーバを定期的にポーリングし、最後のポーリング以降のすべてのイベントを受信していることを確認します。Connectorがプロジェクトに割り当てられている場合、ポーラはそのプロジェクトのイベントのみを確認します。
10. PlateSpin Migrateサーバ	プロジェクトに対して、ワークロードマイグレーションを実行するために使用する各PlateSpin Migrateサーバに対してマイグレーションサーバリソースを作成します。マイグレーションジョブが開始されると、Connectorは指定されたMigrateサーバのサブスクライバとポーラを起動し、マイグレーション状態イベントのリスニングとポーリングを開始します。

PlateSpinマイグレーション環境	説明
11. ソースワークロード	プロジェクトに対して、マイグレートを計画しているソースワークロードに関する基本情報をインポートすると、自動検出プロセスにより詳細が追加されます。 ソースワークロードにマイグレーションサーバリソースを手動で割り当てることも、Connectorによってマイグレーションサーバリソースを自動割り当てさせることもできます。自動割り当てにより、Migrateサーバのサーバファーム間でワークロードマイグレーションの負荷が分散されます。 ワークロードを送信した後で、マイグレーションワークフローは、Migrateサーバからのワークロードの変換計画に従って進行します。
12. 異なるサイトのホストにマイグレートされるワークロード	各ワークロードの変換計画は、提案するワークロードとそのターゲットのVMwareクラスタおよびネットワークを定義します。ワークロードマイグレーションをWaveやバッチに編成し、それらをビジネスニーズに応じてスケジュールします。 この例では、同じまたは異なるネットワーク内の複数のサイトにワークロードをマイグレートすることを計画しています。同じ宛先サイトを持つバッチでのワークロード各サイトのマイグレーションスペシャリストは、サイトへのマイグレーションを管理します。
13. 同じサイトの異なるホストにマイグレートされるワークロード	この例では、データセンター内の異なるVMwareクラスタにワークロードをマイグレートすることを計画しています。バッチでのワークロードは同じ宛先のVMwareクラスタを使用します。ターゲットVMwareクラスタを担当するマイグレーションスペシャリストは、そのクラスタへのマイグレーションを管理します。

展開情報については、『[PlateSpin Migrate Connector クイックスタート](#)』の「[展開要件](#)」を参照してください。

PlateSpin検出環境

PlateSpin検出環境では、PlateSpin Transformation ManagerはPlateSpin Migrate Connectorと連携して、インポート時に自動検出機能を提供します。プロジェクト内のソース物理マシン、ソースVMware仮想マシン、およびターゲットVMware Clusterホストを検出できます。

注: PlateSpin Migrateサーバは検出には必要ありません。PlateSpin Migrateサーバは後でVMwareマイグレーションプロジェクトで設定できます。

自動検出付きのインポートにより、計画用のワークロードとターゲットホストのセットアップが簡素化および標準化されます。これらのマシンに対して、最小限の接続情報およびログオン資格情報を提供します。検出プロセスでは、各マシンに関する詳細が取得され、計画データベースに関連するオブジェクトのプロパティを入力して、これらの設定に基づく提案するワークロードを作成します。

- ◆ **ソースワークロードの検出:** Transformation Managerは、ワークロードのインポートと自動検出の方法として次の3つを提供しています。
 - ◆ 表計算ソフト
 - ◆ IPv4アドレスの範囲(0～255)
 - ◆ 単一のIPv4アドレス

詳細については、[143 ページの「ワークロードの自動検出について」](#)を参照してください。

- ◆ **ターゲットホストの検出:** Transformation Managerは、ターゲットVMware Clusterのホストに対する自動検出を提供します。検出によりホストリソースが追加され、検出されたネットワーク、データストア、およびリソースプールのリソースが追加されます。[207 ページの「ホストの自動検出について」](#)を参照してください。

単一ワークロードまたは複数のワークロードの失敗した検出を再試行できます。また、必要に応じて、変更したワークロードまたはホストを再検出することもできます。

計画モードおよび自動化モード

PlateSpin Transformation Managerは、変換ライフサイクル全体をサポートしています。プロジェクトごとに、計画モードか自動化モードのいずれで作業するかを選択できます。必要に応じて2つのモードを切り替えることができます。

- ◆ **計画モード:** 計画モードでは、手動で実行するさまざまなワークロードマイグレーションを計画して追跡できます。個々のワークロードに自動マイグレーションを設定することもできます。
- ◆ **自動化モード:** 自動化モードでは、ユーザの[PlateSpinマイグレーション環境](#)内の自動ワークロードマイグレーションを計画、実行、および追跡できます。個々のワークロードに手動マイグレーションを設定することもできます。

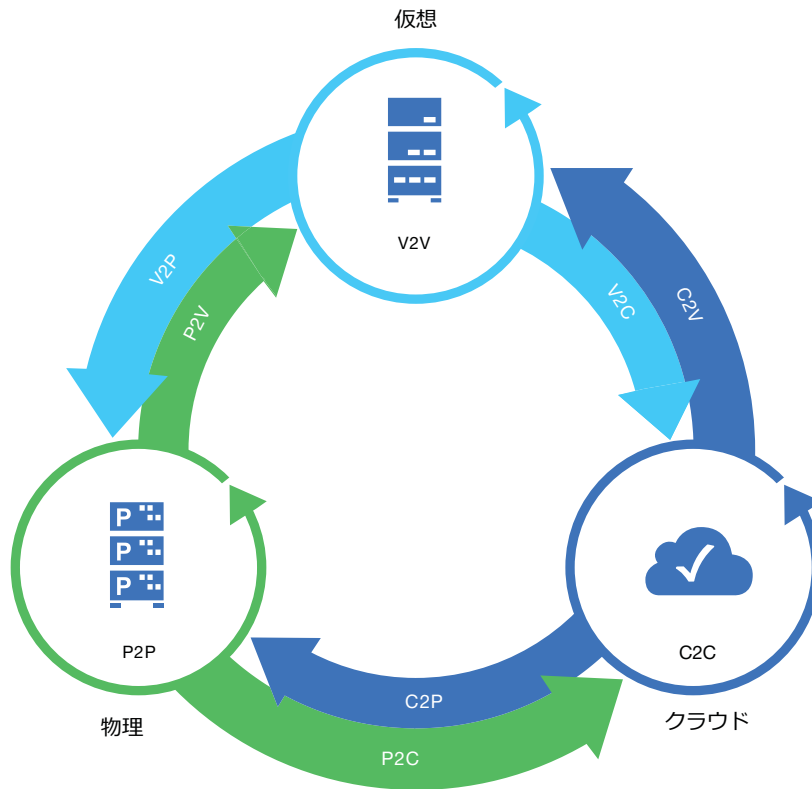
自動化モードは、物理マシンとVMware仮想マシンからVMware Clusterホスト上のターゲット仮想マシンへの変換の自動実行をサポートします。

詳細については、[151 ページの「自動マイグレーションについて」](#)を参照してください。

変換方式

PlateSpin Transformation Managerは、any-to-anyの変換およびマイグレーション方式、および仮想ファイル移動、廃止、リフトアンドシフトのプランニングをサポートします。

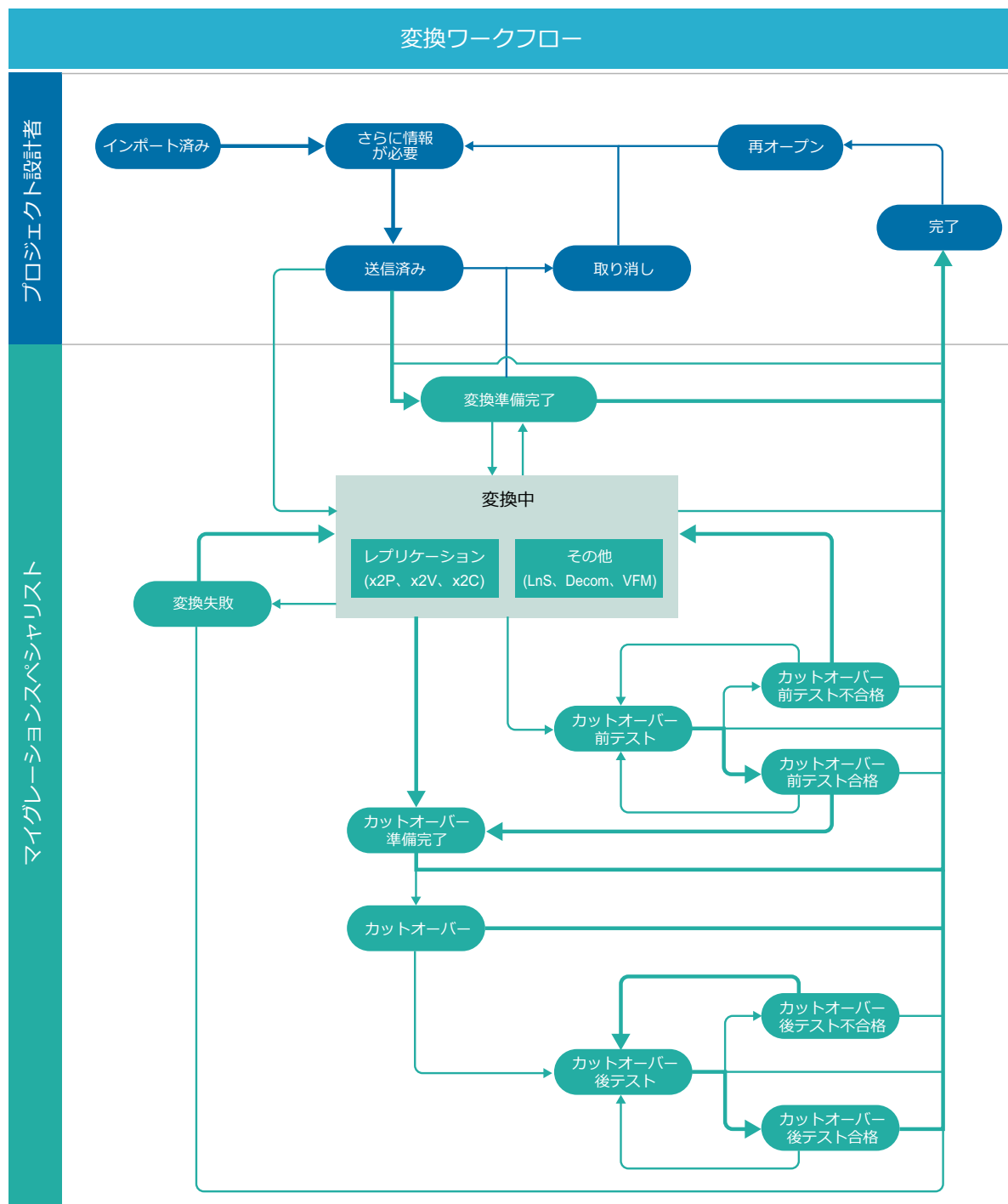
図1-2 Any-to-Anyワークロード変換方式



変換プランニングワークフロー

PlateSpin Transformation Managerは、すべてのマイグレーションソリューションと互換性のある変換ワークフロープランニングをサポートします。図 1-3は、Webインタフェースを使用して追跡する、変換プロジェクトのワークフローを示しています。

図 1-3 変換ワークフロー



IT環境の異なる論理的および物理的的局面を示すコンポーネントを設定することから開始します。グローバルコンポーネントにより事前定義されたリソースが提供されます。

プロジェクトマネージャまたはプロジェクト設計者は、変換用ソースワークロードに関する情報をインポートします。ハードウェア、アプリケーション、NIC、ディスクを含む、ワークロードに関する詳細を定義できます。増分的に詳細をインポートして情報を追加したり、プロジェクトが成熟していくにつれて情報を発展させたり、エラーを修正したりできます。

注: PlateSpin Migrate ConnectorおよびPlateSpin Migrateサーバを使用する場合、インポート方式では、検出機能を使用して、プロジェクトに追加するソースワークロードに関する情報を収集します。16 ページの「PlateSpinマイグレーション環境」を参照してください。

インポートプロセスにより、元のワークロードの設定に基づいてターゲットワークロードが作成されます。ソースワークロード情報を再インポートすると、変換の計画が開始されるまで、そのアップデートがターゲットワークロードに適用されます。

プロジェクト設計者は、将来のワークロード環境を定義し、知識が増えていくにつれてターゲットワークロードに関する詳細を絞り込みます。スケジュールされたWaveおよびバッチにワークロードを割り当てます。

マイグレーションスペシャリストは、進行中の作業に関する異なる状態情報を入力することで、変換フェーズを追跡できます。詳細については、156 ページの表 19-1 「状態の説明および次の状態」を参照してください。

Transformation Managerは、プロジェクトのヘルスを追跡し、ダッシュボードに進捗状況のメトリックスを提供します。ダッシュボードビューアのプロジェクトの利害関係者は、メトリックスおよび関連するレポートを表示できます。

主要なコンポーネントと機能

PlateSpin Transformation Managerでは、導入および維持が簡単なアプライアンスベースのインストールと、標準のWebブラウザ上で簡単にアクセス可能で、使用するのが簡単な、ユーザのためのWebインタフェースを用意しています。

- 23 ページの「アプライアンス」
- 24 ページの「Webインタフェース」
- 25 ページの「PlateSpin Migrate Connector」

アプライアンス

PlateSpin Transformation Managerアプライアンスは、Transformation Managerソフトウェア、PlateSpin Migrate Connectorソフトウェアのインスタンス、および変換プロジェクトのデータベースをホストします。

- 「アプライアンスは仮想環境での導入準備が完了している。」仮想マシンには、PlateSpin Transformation Managerが必要とする完全にテストされたソフトウェアスタックが含まれていて、システムリソースを消費する可能性がある不要なアプリケーションやサービスは省かれています。
- 「Webベースの管理ツールがサーバのセットアップと保守を簡単化。」基盤となっているオペレーティングシステム、ソフトウェア、またはデータベースを理解する必要はありません。

- 「**PlateSpin Migrate Connectorは使用する準備が整っている。**」 PlateSpin Transformation Manager アプライアンスには、アプライアンス上で実行中のPlateSpin Transformation Managerサーバと連携するように自動的にインストールおよび設定されているPlateSpin Migrate Connectorのインスタンスが含まれます。
- 「**チャネルのアップデートによりアプライアンスの保守が容易になる。**」 オンラインアップデートオプションを使用すると、アプライアンスホストVM上でTransformation Manager Serverソフトウェアのリリース後の製品アップデート、インストールされたインスタンスに対するPlateSpin Migrate Connectorソフトウェアの製品アップデート、およびソフトウェアとオペレーティングシステムのセキュリティアップデートを管理できます。『[PlateSpin Transformation Manager Appliance ガイド](#)』の「**オンラインアップデート**」を参照してください。

詳細については、『[PlateSpin Transformation Manager Appliance Guide](#)』を参照してください。

Webインタフェース

PlateSpin Transformation Manager Webインタフェースは、特定範囲のデバイス上のプロジェクト情報へいつでもどこからでもアクセスできます。

- 「**いつでもどこからでもプロジェクト情報に安全にアクセス可能。**」 ユーザ役割に適した内部および外部両方の利害関係者に対する表示とアクションを提供します。
- 「**タスクの優先順位付け、編成、およびスケジューリング。**」 変換目標をプロジェクト、Wave、バッチ別に、扱いやすい単位に分割します。
- 「**ワークロード変換を計画し、追跡。**」 物理、仮想、およびクラウドインフラストラクチャにおけるソースワークロードとターゲットワークロードの詳細を取り込みます(any-to-anyマイグレーション、リフトアンドシフト、仮想ファイル移動、および廃止を使用)。
- 「**各プロジェクトのカスタムコンポーネントを定義。**」 ワークロードをアプリケーション、資格情報、マイグレーションサーバ、ネットワーク、データストア、リソースプール、および環境に関連付けます。
- 「**複数のワークロードの高速で効率的な操作を一度に実現。**」 詳細検索、バルク編集、およびバルク状態変更の強力なフォームにより、選択したワークロードに同じ設定を適用できます。
- 「**リアルタイムのビジュアルダッシュボードおよびステータスレポートを使用して、プロジェクトステータスを監視。**」 内部および外部の利害関係者がプロジェクト、Wave、およびバッチ別に進捗を追跡し、期日超過、スケジュールの逸脱について警告を表示することが可能です。
- 「**異なる組織の複数の同時プロジェクトを管理。**」 エンタープライズ、管理対象サービスプロバイダ、およびシステムインテグレータは、役割ベースのアクセスおよびマルチテナンシーを活用して、エンドカスタマーのデータのセキュリティ保護と守秘性を維持できます。
- 「**大量のプランニング作業を効率的に処理。**」 プロジェクトは数千から数万のワークロードに及ぶ場合がありますが、パフォーマンスには最小限の影響したもたらしません。
- 「**ソースワークロードとターゲットVMwareホストを自動的に検出。**」 インポート時にワークロードに関する詳細を自動的に検出できます。[19 ページの「PlateSpin検出環境」](#)を参照してください。
- 「**VMwareマイグレーションプロジェクトを自動的に実行および追跡。**」 PlateSpinマイグレーション環境では、VMwareマイグレーションプロジェクトのマイグレーションの実行を自動化できます。[16 ページの「PlateSpinマイグレーション環境」](#)および[151 ページの「自動マイグレーションについて」](#)を参照してください。

詳細については、26 ページの「[Webインタフェースでのプランニングプロジェクト](#)」および33 ページの「[Webインタフェースの使用](#)」を参照してください。

PlateSpin Migrate Connector

PlateSpin Migrate Connectorは、プロジェクト内でTransformation ManagerとPlateSpin Migrateサーバを統合することにより、自動検出とマイグレーションをサポートします。PlateSpin Migrate Connectorは、ワークロード変換プロジェクトを計画、管理、および実行する上で以下の利点を提供します。

- ◆ **PlateSpin Transformation ManagerとPlateSpin Migrateサーバを統合する。** Migrate Connectorは、イベントメッセージングとセキュアREST API通信を使用して、Transformation Managerとご使用のPlateSpin Migrateサーバを統合します。
- ◆ **複数のConnectorインスタンスを許可する。** 各インスタンスが個別のプロジェクトに関連付けられている、単一のTransformation Managerサーバの複数のConnectorインスタンスを持つことができます。
- ◆ **Migrate Connectorのグローバル設定を行う。** PlateSpin Transformation Managerの [Migrate Connector] ページのグローバル設定が、すべてのプロジェクトにわたるすべてのConnectorインスタンスに適用されます。[53ページの第5章「PlateSpin Migrate Connectorの設定」](#)を参照してください。
- ◆ **ソースワークロードとターゲットホストの自動検出を提供する。** Migrate Connectorは、Transformation Managerのインポートオプションと連携して、プロジェクトのソースWindows およびLinuxワークロードとターゲットVMware Clusterホストの検出を自動化します。
- ◆ **使用可能なMigrateサーバ間でマイグレーションジョブの負荷を分散する。** Migrate Connectorは、ラウンドロビン負荷分散を使用して、プロジェクト内のPlateSpin Migrateサーバの大規模なサーバファーム間で均等にワークロードマイグレーションをジョブを分散します。
- ◆ **Migrateサーバ上で自動マイグレーションを行う。** 自動化モードでは、Migrate Connectorは、各ワークロードの変換計画に基づいてPlateSpinマイグレーション環境におけるVMwareマイグレーションプロジェクトのワークロードマイグレーションを自動的に実行します。グローバル設定により、実行されるマイグレーションジョブがマイグレーション前に設定され、ジョブがカットオーバー後に削除されるタイミングが制御されます。
- ◆ **PlateSpinマイグレーション環境における通信を調整する。** Migrate Connectorは、PlateSpinマイグレーション環境における通信のポーリングタイプとイベントタイプをサポートします。
 - ◆ Migrate Connectorは、Transformation Managerからマイグレーションイベントをリスンし、適切なMigrateサーバにコマンドを配布します。
 - ◆ Migrate ConnectorはPlateSpin Migrateサーバからマイグレーションステータスイベントをリスンし、適切なプロジェクトとワークロードにのみそれらのイベントを配布します。
- ◆ **ユーザが提供するコールアウトをサポートする。** Migrate Connectorは、Transformation Managerとご使用の内部システムを統合する、変換ワークフロー中のユーザが提供するコールアウトをサポートします。

詳細については、『[PlateSpin Migrate Connector Quick Start](#)』を参照してください。

Webインタフェースでのプランニングプロジェクト

PTMサーバとのやり取りのほとんどがWebインタフェースを通じて行われます。このWebベースのプランニングツールを使用すると、特定範囲のデバイス上のプロジェクト情報にどこからでもアクセスできます。次の主要なWebインタフェースコンポーネントを使用して、1つまたは複数の組織の変換プロジェクトを効果的に管理します。

- [26 ページの「ダッシュボード」](#)
- [26 ページの「計画」](#)
- [27 ページの「ユーザ」](#)
- [27 ページの「リソース」](#)
- [28 ページの「環境設定」](#)

ダッシュボード

- 主要な利害関係者は、割り当てられた役割に応じて、プロジェクト、Wave、バッチ別に統計を表示します。
- ワークロードステータスには、ワークロードの合計数と現在のステータス(インポート済み、定義中、送信済み、進行中、完了、および警告)が表示されます。各カテゴリには、そのカテゴリのワークロードのリストへのリンクが提供されています。
- ワークロードブレークダウンは、変換方式とオペレーティングシステム別のコア統計を示しています。

詳細については、[119 ページの「ダッシュボードの使用」](#)を参照してください。

計画

- 1つまたは複数の組織のプロジェクトを作成します。各プロジェクトを計画モードまたは自動化モードに設定します。
- ワークロード変換をWaveおよびバッチでグループ化して、大規模な変換プロジェクトを扱いやすい単位で計画します。
- プロジェクト、Wave、およびバッチの開始日および終了日を設定します。子オブジェクトはその親から日付を自動的に継承します。日付を手動で設定することもできます。
- 特定のプロジェクトのリストやダイアログを自動的にフィルタする場合はグローバルプロジェクトセレクトを設定します。
- プロジェクトのソースワークロード情報をインポートします。自動検出を利用して、ワークロードの詳細をインポートできます。
- 個別に、またはバルク編集により、ワークロードをバッチに割り当てます。
- 各プロジェクトに使用する、カスタムフィールド、アプリケーション、資格情報、ホスト、マイグレーションサーバ、ネットワーク、データストア、リソースプール、環境などのカスタムワークロードリソースを定義します。
- ワークロードごとに適切な変換設定を定義します。
- 詳細検索、バルク状態変更、およびバルク編集のための強力なフォームを使用して、複数のワークロードの操作を一度に素早くかつ効率的に実行します。

- ◆ ワークロード情報を使用して、割り当てられたワークロード変換を実行し、ワークフローステータスを設定します。
- ◆ カスタムフィールドを使用して、予算ID、連絡先情報、およびワークロード間の論理的またはビジネス上の関連付けを追跡するためのタグなど、プロジェクト固有の詳細をすべてのワークロードに追加します。カスタムフィールドは、グローバルプロジェクトセレクトが設定されているときに、詳細検索およびバルク編集フォームで利用できます。

詳細については、[95 ページの「プロジェクト計画の概要」](#)を参照してください。次の関連するトピックも参照してください。

- ◆ [99 ページの「プロジェクトの管理」](#)
- ◆ [105 ページの「Waveの管理」](#)
- ◆ [109 ページの「バッチの管理」](#)
- ◆ [115 ページの「アプリケーションの管理」](#)
- ◆ [151 ページの「ワークロード変換の設定」](#)
- ◆ [197 ページの「リソース」](#)

ユーザ

- ◆ 組織、ユーザ、およびグループを定義します。
- ◆ 特権と責任を昇格させるため、ユーザを管理者グループに割り当てます。
- ◆ ユーザをプロジェクト役割に割り当てます。
 - ◆ Project Managers
 - ◆ プロジェクト設計者
 - ◆ マイグレーションスペシャリスト
 - ◆ ダッシュボードビューア

マルチテナントアーキテクチャは、割り当てられた役割に基づいてユーザアカウントごとにアクセスを制御します。

詳細については、[65 ページの「PlateSpinユーザ管理の概要」](#)を参照してください。次の関連するトピックも参照してください。

- ◆ [71 ページの「組織を管理する」](#)
- ◆ [77 ページの「ユーザの管理」](#)
- ◆ [81 ページの「グループを管理する」](#)
- ◆ [85 ページの「役割と権限」](#)

リソース

プロジェクト内のワークロードに関連付けることができるカスタムリソースを定義します。

- ◆ 資格情報
- ◆ ホスト
- ◆ マイグレーションサーバ
- ◆ ネットワーク

- ◆ データストア
- ◆ リソースプール
- ◆ 環境

詳細については、[197 ページの「リソース」](#)を参照してください。

環境設定

すべてのプロジェクト間に適用するグローバル設定を行います。

- ◆ **ライセンス:** 各ライセンスブロックの開始日、有効期限、残りのライセンス数を含む、ライセンス情報を表示します。

詳細については、[47 ページの「ライセンスの管理」](#)を参照してください。

- ◆ **Connectorの移行:** 変換環境のプロジェクトで使用するPlateSpin Migrate Connectorのデフォルトのグローバル設定を行います。

詳細については、[53 ページの「PlateSpin Migrate Connectorの設定」](#)を参照してください。

- ◆ **オペレーティングシステム:** 変換環境のすべてのプロジェクトによって使用される、デフォルトのグローバルオペレーティングシステムのタイプを設定します。

詳細については、[59 ページの「オペレーティングシステムの設定」](#)を参照してください。

次に行う作業

[概要チェックリスト](#)を使用して、Webインタフェースについて理解を深め、最初のプロジェクトを設定します。

2 はじめに

Transformation Managerアプライアンスのインストールおよび設定を行った後で、このチェックリストを使用して、Webインタフェースになじみ、組織に対する変換プロジェクトを設定することができます。

表 2-1 概要チェックリスト

ステータス	タスク	詳細については、を参照してください。
☐	1. アプライアンスセットアップ中に作成したシステム管理者のユーザアカウントを使用してWebインタフェースにログインします。	(35 ページ) Webインタフェースへのアクセス
☐	2. Webインタフェースに習熟します。	(35 ページ) Webインタフェースのツールバー (37 ページ) プロジェクトセクタ (37 ページ) バルクアクション (38 ページ) ナビゲーションURLのリンクの表示 (39 ページ) リストのカスタム表示およびフィルタ (42 ページ) リストでの複数項目の選択
☐	3. 組織を作成します。	(71 ページ) 組織について (72 ページ) 組織の作成 (オプション)(73 ページ) 組織のロゴをアップロードする
☐	4. 変換プロジェクトを作成します。	(99 ページ) プロジェクトについて (101 ページ) プロジェクトの作成
☐	5. プロジェクトに1つ以上のWaveを作成します。	(105 ページ) ウェーブについて (106 ページ) Waveの作成
☐	6. Waveごとに1つ以上のバッチを作成します。	(109 ページ) バッチについて (110 ページ) バッチの作成
☐	7. プロジェクトのユーザアカウントを作成し、各ユーザをプロジェクト役割に割り当てます。	(66 ページ) 役割 (78 ページ) ユーザの作成

ステータス	タスク	詳細については、を参照してください。
☐	8. プロジェクトの1つ以上のインポートスプレッドシートを準備するか、自動検出機能のあるインポートを使用します。	(181 ページ) バルクインポートスプレッドシート (145 ページ) スプレッドシートを使用したワークロードのインポート (143 ページ) ワークロードの自動検出について (147 ページ) 自動検出を使用したワークロードのインポート
☐	9. 変換を定義するときに提案するワークロードに使用できるアプリケーションを作成します。	(115 ページ) アプリケーションについて (116 ページ) アプリケーションの作成 (116 ページ) スプレッドシートインポート中のアプリケーションの作成
☐	10. 変換を定義するときに提案するワークロードに使用できるターゲットリソースを作成します。	(197 ページ) リソース ◆ 資格情報 ◆ ホスト ◆ マイグレーションサーバ ◆ ネットワーク ◆ データストア ◆ リソースプール ◆ 環境
☐	11. インポートされたワークロードごとに、バルク編集または個々の編集を使用して、提案するワークロードの変換方式および詳細を定義します。	(137 ページ) ワークロードの概要 (170 ページ) ワークロード変換の編集 (173 ページ) 複数の提案するワークロードのバルク編集
☐	12. プロジェクト設計者は、変換用の1つ以上のワークロードを送信します。	(155 ページ) ステータスと再試行 156 ページの 図 19-1 「変換ワークフロー」 (177 ページ) 複数の提案するワークロードのバルク状態変更
☐	13. (自動マイグレーション)マイグレーションスペシャリストは、ワークロード変換を監視します。	(137 ページ) 自動化モード (155 ページ) ステータスと再試行 (131 ページ) マイグレーションサブステータス
☐	14. (手動マイグレーション)マイグレーションスペシャリストは、ワークロード変換を実行し、PTMの変換ステータスをアップデートします。	(155 ページ) ステータスと再試行 156 ページの 図 19-1 「変換ワークフロー」 (177 ページ) 複数の提案するワークロードのバルク状態変更

ステータス	タスク	詳細については、を参照してください。
	15. リアルタイムのビジュアルダッシュボードで、コアメトリックスおよび関連レポートを表示して、プロジェクトステータスを監視します。	(119 ページ) ダッシュボードの使用 (122 ページ) プロジェクト、Wave、またはバッチの数と状態の表示

3 Webインタフェースの使用

PlateSpin Transformation Managerの操作のほとんどがWebインタフェースで行われます。

- [33 ページの「Webインタフェースの使用の前提条件」](#)
- [35 ページの「Webインタフェースへのアクセス」](#)
- [35 ページの「Webインタフェースのツールバー」](#)
- [37 ページの「プロジェクトセレクト」](#)
- [37 ページの「バルクアクション」](#)
- [38 ページの「ナビゲーションURLのリンクの表示」](#)
- [39 ページの「リストのカスタム表示およびフィルタ」](#)
- [42 ページの「リストの上下スクロール」](#)
- [42 ページの「リストでの複数項目の選択」](#)

Webインタフェースの使用の前提条件

PTMサーバは、Jetty Webサービスを使用して、Webインタフェースをホストします。PlateSpin Transformation Managerアプライアンスをインストールした後で、ネットワーク環境がWebインタフェースを使用するためのこのセクション要件を満たしていることを確認します。

- [33 ページの「ポートの要件」](#)
- [34 ページの「Webインタフェースでサポートされるブラウザ」](#)
- [34 ページの「サポートされている言語」](#)
- [34 ページの「セキュリティで保護された通信のためのSSL証明書」](#)
- [35 ページの「Session Timeout\(セッションタイムアウト\)」](#)

ポートの要件

アプライアンスのインストール中に、PlateSpin Transformation Managerは、PlateSpinサーバ上に[表 3-1](#)に示すデフォルトポートを自動的に設定します。PlateSpinサーバとWebインタフェースへのアクセスに使用するコンピュータ間のネットワークのすべてのファイアウォールで、ポートが開いていることを確認してください。

注: リモート通信の場合、Micro Focusでは、WebインタフェースへのアクセスにセキュアなポートおよびSSLのオプションを使用することをお勧めしています。

表 3-1 デフォルトネットワークポート

ネットワーク ポート	セキュリティ	説明
8183	セキュア(SSL)	WebインタフェースのHTTPSポート。TCPとUDPの着信と発信のトラフィックが許可されます。
8182	非セキュア	WebインタフェースのHTTPトラフィック。このポートはデフォルトで無効になっています。このポートを有効にする場合、TCPとUDPの着信と発信のトラフィックが許可されます。
5432		リモートPTMデータベース用のPostgreSQLポート。着信と発信のTCPトラフィックが許可されます。 アプライアンスにPostgreSQLデータベースがインストールされている場合、このポートはデフォルトで閉じられています。

PlateSpinサーバ上でWebインタフェースのポート設定を変更する方法については、『[PlateSpin Transformation Manager Appliance Guide](#)』の「[Web Server Configuration](#)」を参照してください。

Webインタフェースでサポートされるブラウザ

次のサポートされるブラウザのいずれかを使用して、PlateSpin Transformation Manager Webインタフェースにアクセスできます。

- ◆ Mozilla Firefox (最新リリース)
- ◆ Microsoft Internet Explorer 11
- ◆ Google Chrome (最新リリース)

注: JavaScript (アクティブスクリプト)がブラウザで有効になっている必要があります。

サポートされている言語

PlateSpin Transformation Manager Webインタフェースは、ご使用のWebブラウザで英語(En)および日本語(Ja)をサポートしています。言語の設定はWebブラウザで変更できます。リストの一番上にある言語が優先されます。

セキュリティで保護された通信のためのSSL証明書

PlateSpin Transformation Managerアプライアンスをインストールすると、SSL(セキュアソケットレイヤ)通信のための自己署名証明書が生成されインストールされます。この証明書は、PlateSpin Transformation Managerアプライアンスに指定するDNS名を使用します。この証明書はアプライアンスとソフトウェアに適用されます。

セキュリティを強化するために、Micro Focusでは、VeriSignやEquifaxなどの信頼された認証局(CA)によって署名された、信頼されたサーバ証明書を使用することをお勧めします。独自の既存の署名された証明書を使用したり、アプライアンス上のデジタル証明書ツールを使用して、信頼された認証局で署名を行い、アプライアンスに追加することもできます。サーバのDNS名はセキュリ

ティ証明書の件名に一致する必要があります。署名証明書をインポートするには、『[PlateSpin Transformation Manager Appliance Guide](#)』の「[Digital Certificates](#)」で説明されている証明書とキーを提供する必要があります。

Session Timeout(セッションタイムアウト)

デフォルトのセッションタイムアウトは、非アクティブの状態の30分後に発生します。タイムアウト間隔は、PlateSpin Transformationアプライアンスのグローバル設定で設定できます。間隔をより短く、またはより長く指定したい場合は、システム管理者にお問い合わせください。『[PlateSpin Transformation Manager Appliance Guide](#)』の「[Web Interface Session Timeout](#)」を参照してください。

Webインタフェースへのアクセス

PlateSpin Transformation Managerの操作のほとんどがブラウザベースのWebインタフェースを通じて行われます。Webインタフェースは、変換プロジェクトの計画と管理に使用するとともに、ニーズを満たすために製品を設定する際にも使用します。

アプライアンスのインストール中に、Webインタフェースのデフォルトのシステム管理者ユーザアカウントを設定します。このユーザはシステムワイドな許可を持ちます。システム管理者としてログインして、他のユーザのアカウントを作成して、役割を割り当てます。[65ページのセクション7「PlateSpinユーザ管理の概要」](#)を参照してください。

Webインタフェースにログインするには:

- 1 サポートされているWebブラウザで、PTM Webインタフェースを起動します。

`https://<ptm-server-dns-name_or_ipaddress>:8183` (セキュア、デフォルト)

`http://<ptm-server-dns-name_or_ipaddress>:8182` (非セキュア、デフォルトで無効)

- 2 ユーザアカウントの電子メールアドレスとパスワードを指定して、[ログイン](#)をクリックします。

Webインタフェースのツールバー

PlateSpin Transformation Manager Webインタフェースのツールバーを使用して、[表 3-2](#)で説明されている主要な製品機能にアクセスできます。

図 3-1 PlateSpin Webインタフェースのツールバー

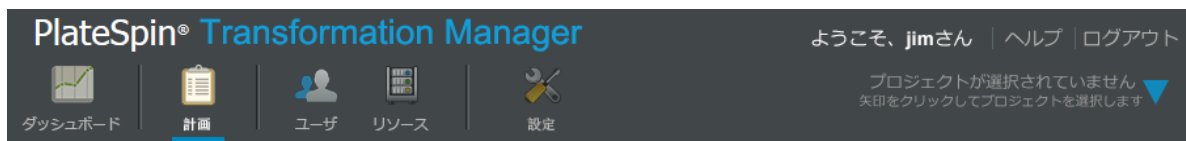


表 3-2 ツールバーオプション

オプション	説明
ダッシュボード	[ダッシュボード] タブには、ワークロード変換に関するステータスおよびヘルス情報が表示されます。 詳細については、119 ページの「ダッシュボードの使用」を参照してください。
計画	[計画] タブでは、変換プロジェクトの次の要素を設定できます。 ◆ プロジェクト ◆ Wave ◆ バッチ ◆ アプリケーション ◆ ワークロード 詳細については、93 ページのパートIII「計画」を参照してください。
ユーザ	[ユーザ] タブでは、変換プロジェクトの次の要素を設定できます。 ◆ 組織 ◆ ユーザ ◆ グループ 詳細については、63 ページのパートII「ユーザ」を参照してください。
リソース	[リソース] タブでは、変換プロジェクトの次の要素を設定できます。 ◆ 資格情報 ◆ ホスト ◆ マイグレーションサーバ ◆ ネットワーク ◆ データストア ◆ リソースプール ◆ 環境 詳細については、197 ページのパートV「リソース」を参照してください。
環境設定	[環境設定] タブを使用して、システム管理者は次のタスクを実行できます。 ◆ ライセンス ◆ Connectorの移行 ◆ オペレーティングシステム 詳細については、45 ページのパートI「環境設定」を参照してください。
プロジェクトセクタ	プロジェクトセクタでは、グローバルスコープを1つのプロジェクトに設定し、情報の表示およびプロジェクトの操作を実行できます。これを有効にすると、ダイアログによって、プロジェクトおよびその親組織のフィールドが自動的に入力されます。 詳細については、37 ページの「プロジェクトセクタ」を参照してください。

オプション	説明
ヘルプ	〔ヘルプ〕メニューでは、現在の場所のページ、共通のタスクに役立つリンクやオンラインマニュアルや製品に関する情報へのリンクが提供されます。

プロジェクトセレクト

プロジェクトセレクトを使用して、グローバルスコープを1つのプロジェクトに設定し、情報の表示およびプロジェクトの操作を実行できます。これを有効にすると、製品全体のダイアログによって、プロジェクトおよびその親組織のフィールドが自動的に入力されます。すべての表がフィルタされ、選択したプロジェクトに割り当てられたコンポーネントまたは選択したプロジェクトに関連付けられたコンポーネントのみが表示されます。プロジェクト用に定義されたカスタムのフィールドも〔詳細検索〕フォームおよび〔Bulk Edit (バルク編集)〕フォームに追加されます。

プロジェクトが選択されると、プロジェクトセレクトは、プロジェクト名およびプロジェクトの親組織のロゴ(ある場合)を表示します。

プロジェクトレベルのフィルタを追加するには:

- 1 〔プロジェクトセレクト〕の矢印をクリックし、プロジェクトのリストを開きます。
- 2 目的のプロジェクトを見つけて選択します。リストをスクロールまたはフィルタし、目的のプロジェクトを見つけることができます。

選択したページによってリストが更新され、選択したプロジェクトのオブジェクトのみが表示されます。

プロジェクトレベルのフィルタを削除するには:

- 1 〔プロジェクトセレクト〕領域で表示されているプロジェクト名およびロゴをマウスオーバーし、**X**をクリックしてプロジェクトフィルタを削除します。

選択したページによってリストが更新され、すべてのプロジェクトのオブジェクトが表示されます。

バルクアクション

PlateSpin Transformation Managerでは、一度に複数のオブジェクトのアクションを操作および実行するの役立つバルクアクションを提供しています。

- [38 ページの「スプレッドシートインポート」](#)
- [38 ページの「範囲インポート」](#)
- [38 ページの「バルク編集」](#)
- [38 ページの「バルク状態変更」](#)

スプレッドシートインポート

バルクインポートスプレッドシートを使用して、マシン情報をインポートまたは再インポートすることにより、ソースワークロード情報をインポートできます。詳細については、[181ページの付録C「バルクインポートスプレッドシート」](#)を参照してください。

PlateSpinマイグレーション環境では、スプレッドシートインポートが正常に完了した後で、PlateSpin Migrate Connectorにより、スプレッドシートのマシンについての詳細が自動的に検出されます。

範囲インポート

「インポート」オプションを使用して、256 IPv4アドレスの範囲をインポートできます。PlateSpin Migrate Connectorでは、指定されたアドレス範囲で検出されたワークロード詳細の自動検出が提供されます。

バルク編集

「バルク編集」ダイアログで値を設定して、一度に複数の提案するワークロードに設定を適用できます。プロジェクトセクタ、フィルタ、詳細検索、ソート、および複数選択機能を使用して、「ワークロード」リストを絞り込み、アクションを行う項目を選択します。「バルク編集」ダイアログを使用して、選択したワークロードの1つ以上のパラメータの値を指定します。指定された各値は、値がその有効な設定である場合にのみ選択したワークロードに対して個別に設定されます。詳細については、[173ページの「複数の提案するワークロードのバルク編集」](#)を参照してください。

バルク状態変更

バルク状態変更ツールを使用して、一度に複数の提案するワークロードに状態変更設定を適用できます。詳細検索およびソートオプションを使用して、リストを絞り込み、アクションを行う項目を選択します。バルク状態変更フォームを使用して、選択したワークロードの適切な状態を指定します。詳細については、[177ページの「複数の提案するワークロードのバルク状態変更」](#)を参照してください。

ナビゲーションURLのリンクの表示

ダイアログのリンクの表示アイコンでは、選択したオブジェクトのダイアログへ直接移動するナビゲーションURLを表示します。サポートされるWebの場所バーにリンクを貼りつけて、Webインタフェースの場所に直接戻ることができます。利害関係者と共有するため、電子メール、Excel、Wordなど、他のアプリケーションのリンクを貼りつけることもできます。

リンクをたどるユーザはWebインタフェースにログインするように求められます。これらのユーザがログインするには、PlateSpin Transformation Managerユーザアカウントが必要です。ターゲットダイアログとそのコンテンツを表示するには、ユーザアカウントがそのページ(およびそのページに表示されるオブジェクト)にアクセスする許可を持つ役割に割り当てられている必要があります。

選択したオブジェクトのダイアログのナビゲーションURLにアクセスするには:

- 1 ダイアログ上で、右上隅にあるリンクの表示アイコンをクリックして、選択したオブジェクトのダイアログのURLを表示します。

- 2 (オプション)新しいタブのダイアログを開くリンクをクリックし、Webインタフェースにもう一度ログインして、アクセスします。
- 3 (オプション)クリップボードにURLをコピーして、次のいずれかを実行します。リンクのユーザはダイアログにアクセスするためにログインする必要があります。
 - ◆ サポートされる任意のWebブラウザの場所バーにリンクを貼りつけて、別のブラウザウィンドウでダイアログを開きます。
 - ◆ 利害関係者と共有するには、電子メールにそのリンクを貼りつけます。
 - ◆ 他のアプリケーションにリンクを貼りつけて、オブジェクトの情報への便利なアクセスを提供することもできます。

リストのカスタム表示およびフィルタ

Webインタフェースで、製品全体を通して統合された表示ツールを使用してリストの表示をパーソナライズできます。

- ◆ [39 ページの「リスト項目の更新」](#)
- ◆ [39 ページの「リストの項目数」](#)
- ◆ [39 ページの「セルに表示するデータを増やす」](#)
- ◆ [40 ページの「データのソート」](#)
- ◆ [40 ページの「リストの列の表示/非表示」](#)
- ◆ [40 ページの「リストのデータのフィルタ」](#)
- ◆ [41 ページの「データの詳細検索」](#)

リスト項目の更新

約1分に1回データを更新するポーリングを一覧表示します。タブのタイトルをダブルクリックすると、リストの通常のポーリングサイクルに関係なく、任意のリストをすぐに強制的に更新できます。

リストの項目数

タブのタイトルをマウスオーバーしてリストの合計項目数およびリストで現在選択されている選択済み項目の合計数を表示します。

セルに表示するデータを増やす

リストの表のセルに表示できる情報よりも多くの情報がある場合、テキストの最後に省略記号(...)が表示されます。セルをマウスオーバーして、ポップアップ情報ヒントに追加の情報を表示できます。

データのソート

選択した列の値に基づいて、リストデータを昇順(AからZ)または降順(ZからA)にソートできます。ソート機能は、数値をテキスト値として扱い、数値順ではなくアルファベット順にソートします。データをソートするとき、列見出しの矢印アイコンによってその列がソートのキーであることが示されます。上矢印▲は昇順ソートを示します。下矢印▼は降順ソートを示します。

ほとんどの列をデータソートキーとして使用できます。列をソートキーとして使用できない場合、トグルソートは機能せず、その列メニューにソートオプションが含まれません。

リストのデータをソートするには:

- 1 次の手法のいずれかを使用してソートを実行します。
 - ♦ **トグルソート:** 列見出しをクリックすると、その列の値に基づいて昇順でエントリがソートされます。列見出しを再度クリックすると、降順でソートされます。
 - ♦ **メニューソート:** 列見出しをマウスオーバーしてそのオプションをアクティブ化し、列の右端にある矢印をクリックしてその列のメニューにアクセスします。**Sort Ascending (昇順ソート)**(AからZ)または**Sort Descending (降順ソート)**(ZからA)を選択し、希望するソート順を指定します。

リストの列の表示/非表示

表示するパラメータを指定して、リストのデータを表示または非表示にできます。非表示データは表示されませんが、フィルタや詳細検索は非表示の値にも適用されます。たとえば、[ワークロード] リストで、非表示データには、場所(サイト、エンクロージャ、スロット)、カスタムのフィールド、IPアドレス、MACアドレス、ワークロードタイプ、および仮想化テクノロジーが含まれています。

注: 個人設定したリストそれぞれの列表示初期設定はセッション間で維持されます。

リストの列を個人設定するには:

- 1 列見出しをマウスオーバーしてそのオプションをアクティブ化し、見出しの右端にある矢印をクリックしてその列のメニューにアクセスします。
- 2 列を選択し、リストにあるパラメータを表示します。

メニューは、リストの左から右の表示順でパラメータを一覧表示します。選択したパラメータがリストに表示されます。選択解除したパラメータは非表示になります。
- 3 表示するパラメータの横にあるチェックボックスをオンにします。リストが更新され、列がすぐに追加されます。
- 4 非表示にするパラメータの横にあるチェックボックスをオフにします。リストが更新され、列がすぐに削除されます。
- 5 操作を完了したら、ページの任意の場所をクリックしてメニューを終了します。

リストのデータのフィルタ

Webインタフェースのほとんどのリストにはフィルタオプションがあり、リストを検索し、目的の情報を見つける際に役に立ちます。フィルタは、リスト内の、非表示列を含む検索可能なすべてのフィールドに適用されます。たとえば、[ワークロード] リストで、デフォルトの非表示列には、カスタムのフィールド、IPアドレス、MACアドレス、およびワークロードタイプが含まれています。

注: 状態の条件でリストをフィルタする場合、状態名のハイフンおよびスペースをアンダースコアに置き換える必要があります。例:

in_progress
pre_cutover_testing

リストのオブジェクトをフィルタするには:

- 1 フィルタフィールドで、文字列を入力し始めると、値が一致するエントリのみが表示されます。検索およびフィルタは、エントリと一致するとほぼ同時にリストに適用されます。
- 2 フィルタアイコン  をクリックし、フィルタフィールドをクリアします。

データの詳細検索

リストの詳細検索  オプションを使用すると、同じアクションを実行するオブジェクトを複数見つけることができます。詳細検索はすべてのリストに使用できるわけではありません。

「詳細検索」ダイアログは複数オプションフォームで、ワークロードについて検索するターゲットに適切な次のパラメータを組み合わせることで検索できます。

プロジェクト	ワークロードタイプ	合計ストレージ	ネットワーク
ウェブ	変換方式	1つのディスクサイズ	VLAN ID
バッチ	環境	ソケットあたりのコア数	状態
ホスト名	サイト	メモリ量	サブ状態
OSタイプ	筐体	保留中	ヘルス
アプリケーション	カスタム1	カスタム2	カスタム3
カスタム4	カスタム5	カスタム6	カスタム7

注: プロジェクトセレクトは、指定されたプロジェクトのワークロードのみが「ワークロード」リストに表示されるように制限します。「詳細検索」フォームおよび「Bulk Edit (バルク編集)」フォームに対してプロジェクト用に定義されたカスタムのフィールドも追加されます。

「ワークロード」リストの詳細検索機能でヘルス>All Warning State (すべての警告状態)オプションを使用して、警告状態のワークロードをすべて表示できます。警告状態のオブジェクトでは、状態セルをマウスオーバーし、警告をトリガした条件を表示できます。

状態オプションを使用して、インポート済み、送信準備完了、変換中、カットオーバー準備完了などの指定の変換状態のオブジェクトをすべて検索できます。

検索するには:

- 1 (オプション)複数のプロジェクトの権限を持っている場合、グローバルプロジェクトセレクトをクリックし、目的のプロジェクトを選択します。
- 2 「フィルタ」フィールドの右にある詳細検索アイコン  をクリックします。
- 3 「詳細検索」ダイアログで、検索パラメータの値を指定します。
検索によってリストがフィルタされ、その設定と一致するオブジェクトが表示されます。
- 4 (オプション)組み合わせ検索では、目的のオブジェクトが見つかるまで追加パラメータの値を指定します。

- 5 (オプション) **クリア** をクリックして [詳細検索] をリセットし、別のフィールドで再試行します。
- 6 目的の項目までリストを絞り込んだ後、リストをクリックして [詳細検索] ダイアログを終了します。

リストの上下スクロール

Webインタフェースは、スクロールバーを使用してリストを移動するように最適化されます。リストには特別な処理があり、応答表示およびリスト項目のスクロールを提供します。項目が数千含まれているリストでも同様です。リストは同時に最大25項目表示できます。ブラウザの約200個の近接項目をキャッシュし、リストの上下スクロールに対応します。スクロールすると、Webインタフェースは近接項目を読み込んでキャッシュにし、現在表示されている項目から遠い項目を解放します。

注: Webインタフェースでリストの上下に移動するにはスクロールバーを使用してください。リストの移動に上矢印キーや下矢印キーは使用しないでください。

リストでの複数項目の選択

Webインタフェースでは、リストには特別な処理があり、応答表示およびリスト項目のスクロールを提供します。項目が数千含まれているリストでも同様です。リストは同時に最大25項目表示できます。ブラウザの約200個の近接項目をキャッシュし、リストの上下スクロールに対応します。スクロールすると、Webインタフェースは近接項目を読み込んでキャッシュにし、現在表示されている項目から遠い項目を解放します。

Webインタフェースは、項目の選択についてお馴染みのキーボードショートカットをサポートしています(Shift+クリック(連続項目)、Ctrl+クリック(非連続項目)、Ctrl+A(すべての項目)など)。項目を選択するとき、Webインタフェースは、その情報を個々の選択済み項目のキャッシュに追加します。選択した行は薄い青に塗りつぶされます。リストに対して実行するアクションは選択した項目のキャッシュにある項目にのみ適用されます。

項目を選択する前に、[フィルタ] オプションおよび [詳細検索] オプションを使用して、目的の項目までリストを減らします。ソート機能を使用してリストの項目のようにグループ化し、連続選択を行えるようにします。

リストのタブのタイトルをマウスオーバーし、次の項目を表示できます。

- **リストサイズ:** リストの合計項目数
- **選択済み:** リストの選択済み項目の現在の数

次の指示を使用してリストをナビゲートし、項目を選択します。

- [43 ページの「連続項目の選択」](#)
- [43 ページの「非連続項目の選択」](#)
- [43 ページの「すべての項目の選択」](#)

連続項目の選択

Shift+クリックを使用してリストの連続項目を選択します。この操作を始める前に、列ヘッダでソートオプションを使用して目的の項目をグループ化し、連続選択を容易にします。

リストの連続項目を選択するには:

- 1 最初の目的項目をクリックし、Shiftキーを押したままにし、表示されたリストの最後の目的項目をクリックしてこれらの連続項目を選択した項目のキャッシュリストに追加します。
- 2 (オプション)上下スクロールして選択解除された項目の次のセットを表示し、Shiftキーを押したままにし、次の最後の項目選択を行い、連続項目の選択を広げます。必要に応じて、スクロールと選択のプロセスを繰り返します。
- 3 (オプション)リストのタブタイトルをマウスオーバーし、選択した項目の現在の数を表示します。

非連続項目の選択

Ctrl+クリックを使用してリストの非連続項目を選択します。

リストの非連続項目を選択するには:

- 1 Ctrlキーを押したままにし、表示された項目から、選択した項目のキャッシュリストに追加する各項目をクリックします。
- 2 (オプション)上下スクロールして選択解除された項目の次のセットを表示し、Ctrlキーを押したままにし、次の非連続項目の選択を行います。必要に応じて、スクロールと選択のプロセスを繰り返します。
- 3 (オプション)リストのタブタイトルをマウスオーバーし、選択した項目の現在の数を表示します。

すべての項目の選択

Ctrl+Aを使用して、現在表示されている項目のみを選択する代わりに、リストキャッシュの現在読み込まれている項目のすべてを選択します。読み込まれた項目を選択した後、140から200の選択済み項目をスクロールし、選択解除された項目の次のセットを表示します。

リストのすべての項目を選択するには:

- 1 リストのタブタイトルをマウスオーバーし、リストの合計項目数を表示します。
項目数によって、どの程度スクロールすれば項目を読み込んで選択できるかがわかります。
- 2 Ctrl+Aを押して現在読み込まれている項目セットを選択し、これらを選択した項目のキャッシュリストに追加します。
- 3 次の選択解除された項目セットが表示されるまで上下スクロールします。
- 4 Ctrl-Aを押して現在読み込まれている項目を選択した項目のキャッシュリストに追加します。
- 5 すべての項目が選択されるまで**ステップ 3**および**ステップ 4**を繰り返します。
- 6 リストのタブタイトルをマウスオーバーし、合計項目数および選択済みの合計項目数を表示します。これらが同じ場合、リストのすべての項目が選択されています。

環境設定

PlateSpin Transformation Managerでは、PlateSpin Serverサーバのライセンスとオペレーティングシステムを設定できます。設定ツールでの設定への変更は、すべての変換プロジェクトに適用されます。

- ◆ [47ページの第4章「ライセンスの管理」](#)
- ◆ [53ページの第5章「PlateSpin Migrate Connectorの設定」](#)
- ◆ [59ページの第6章「オペレーティングシステムの設定」](#)

4 ライセンスの管理

PlateSpin Transformation Managerには、フルライセンスおよび評価ライセンスがあります。ワークロードの変換ごとにライセンスが必要です。

- ♦ 47 ページの「ライセンスについて」
- ♦ 48 ページの「ワークロードがライセンスを使用する方法」
- ♦ 48 ページの「ライセンスキーの追加」
- ♦ 49 ページの「ライセンスブロックの追加」
- ♦ 51 ページの「ワークロードのライセンスの状態の表示」
- ♦ 51 ページの「ライセンスの警告」

ライセンスについて

PlateSpin Transformation Managerには、フルライセンスと評価ライセンスのオプションがあります。

- ♦ 47 ページの「フルライセンス」
- ♦ 47 ページの「評価ライセンス」

フルライセンス

フルライセンスでは、各ライセンスインスタンスのワークロード変換を計画し実行することができます。[カスタマーセンター \(https://www.netiq.com/customercenter/\)](https://www.netiq.com/customercenter/)からブロックでワークロードライセンスを購入します。各ブロックには、指定するアクティベーション日を持つ履行ウィンドウがあります。

アプライアンスをインストールし、プロジェクトの設定を開始してから、ライセンスを有効にする必要があります。ワークロード変換の計画を開始するまで、ワークロードライセンスは必要ありません。ワークロードの変換計画はライセンスを使用するため、有効なライセンスキーを入力し、ライセンスがアクティブなライセンスブロックで使用可能になるまで、インポートされたワークロードを編集することはできません。

評価ライセンス

評価ライセンスでは、試用期間に製品の独自のデータを使用できます。評価モードでは、評価キーと100個のワークロードライセンスを持つ製品を使用することができます。

評価ライセンスの有効期限が切れた後で、未使用のライセンスを使用して、新たなワークロード変換を開始することはできません。変換が完了するまで、ワークフロー全体を通してライセンスのあるワークロードを持つ製品で作業を続行できます。

評価インストールにフルライセンスキーを入力することにより、評価期間中に入力したデータを保持できます。既存のライセンスのあるワークロードは影響を受けません。使用したライセンスは期限切れになりません。ただし、フルライセンスキーを追加した後で、すべての未使用の評価ワークロードライセンスは自動的に削除されます。

ワークロードがライセンスを使用する方法

PlateSpin Transformation Managerのワークロードライセンスは、すべてのプロジェクトの管理に計画しているワークロード数に基づいてブロックで購入します。ワークロードライセンスは、ユーザ、プロジェクト、およびリソースの設定には必要ありません。ライセンスを使用せずにワークロードデータを複数回インポートおよび再インポートできます。

注: PlateSpin Transformation Managerでライセンスを使用するにはその前に、パブリックインターネットでMicro Focusライセンスサーバと通信し、ライセンスがあるかどうかを確認する必要があります。使用するライセンスをトリガするプロセスは、その時にライセンスサーバにアクセスできないと失敗します。エラーメッセージによってその原因がわかります。

各ワークロードは、インポート後に初めてデータを変更したときに使用可能なライセンスを使用します。編集は、個別の編集アクションまたはバルク編集アクションのいずれかです。ライセンスの取得には数秒かかる場合があります。その結果、ワークロードの最初の編集では応答が遅くなる場合があります。この時にワークロード用に使用できるライセンスがない場合、保存アクションは失敗します。ライセンスのないワークロードの変換計画は変更できません。

バルク編集では、事前に選択したリストのライセンスのない各ワークロードは、使用可能なライセンスを使用します。使用できるライセンス数が足りない場合、リストのライセンスのないワークロード以降のライセンスアクションおよび編集アクションは失敗します。

注: ライセンスがない場合、必要なライセンスについてPlateSpin Transformation Managerのシステム管理者に通知します。

ライセンスが使用されると、ライセンスの残りの数が1減ります。複数のライセンスブロックがある場合、次に有効期限が来るブロックの数を変更されます。

使用したライセンスは有効期限切れにはなりません。ワークロードを削除しても使用したライセンスは解放されません。

ライセンスキーの追加

設定>ライセンスページで、システム管理者は、フルライセンスキーまたは評価ライセンスキーを追加し、このPTMサーバのライセンスの現行ブロックのライセンス状態を表示できます。[Licenses Blocks (ライセンスブロック)] リストには、各ブロックがその購入日、開始日、有効期限、ブロックの合計ライセンス数、および残りの未使用ライセンス数とともに表示されます。リストには、アクティブな実行期間および未使用ライセンスが存在するライセンスブロックのみが表示されます。実行期間が期限切れになったライセンスブロックや残りの未使用ライセンス数がゼロのライセンスブロックに関する履歴情報は表示されません。

- 1 (オプション)**カスタマーセンター** (<https://www.netiq.com/customercenter>)にログインし、PlateSpin Transformation Managerの評価ライセンスキーまたはフルライセンスキーを取得します。
- 2 Webインタフェースにシステム管理者の役割を持つユーザとしてログインします。

`https://<ptm-ip-address-or-dns-name>:8183`

- 3 **設定>ライセンス**の順に選択します。
- 4 次の情報を入力します。
 - ライセンスキー:** カスタマーセンターに用意されている14文字の16進数のキー。
 - ライセンスタイプ:** フルまたは評価。
 - 残りのライセンス:** この値は、このPlateSpinサーバ用に購入したライセンスブロックおよびアクティブな実行期間があるライセンスブロックから自動的に計算されます。
 - ライセンスブロック:** このリストはカスタマーセンターから自動的に取得されます。未使用ライセンスが存在するアクティブな実行期間があるまたは今後実行期間があるこのPlateSpinサーバ用に購入したライセンスブロックが表示されます。有効期限切れのブロックまたは空のブロックは表示されません。
- 5 **〔保存〕** をクリックします。
- 6 **閉じる** をクリックして **〔System Configuration (システム設定)〕** ダイアログを終了します。

ライセンスブロックの追加

カスタマーセンター (<https://www.netiq.com/customercenter>) でPlateSpin Transformation Managerのライセンスブロックを購入できます。ブロックライセンス情報は手動では入力しません。PTMIは、カスタマーセンターからライセンスブロックの情報を自動的に取得し、**〔ライセンス〕** ページの **〔Licenses Blocks (ライセンスブロック)〕** リストに表示します。ライセンスを伴うユーザーアクションの更新に加えて、PTMIは、毎日ローカル時刻の午前2:00にカスタマーセンターを使用してライセンス情報を更新します。

図 4-1 ライセンス管理

システム設定

ライセンス

アクティブなライセンスの情報

Migrate Connector

ライセンスキー: 1BD234012DD345

オペレーティングシステム

ライセンスのタイプ: 完全

残りのライセンス: 499961

ライセンスブロック:

購入日	開始日	有効期限日	合計	残り
2013年9月3日	2016年8月7日	2017年8月7日	500000	499961

保存 閉じる

各ライセンスブロックは、独立した実行期間が以下の日付に定義されています。

- ◆ **開始日:** ライセンスのブロックがアクティブになり、そのライセンスを使用開始できる実行日。
- ◆ **有効期限日:** 実行期間の終了日。ブロックの未使用ライセンスはすべてこの日に有効期限切れになります。

次のいずれかの条件が当てはまると、リストにライセンスブロックが表示されなくなります。

- ◆ ライセンスブロックの実行期間の有効期限後。未使用ライセンスが残っていても同様。

注: 未使用ライセンスの有効期限が近くなった場合、[Bulk Edit (バルク編集)] 変更を1つ以上のプロジェクトで次に計画されているワークロードセットに適用して、使用したライセンスは有効期限切れにはなりません。

- ◆ ブロックのすべてのライセンスを使用した後。ブロックの実行期間が期限切れになっていなくても同様。

ワークロードのライセンスの状態の表示

「変換」ダイアログのヘッダ領域の右下に現在選択しているワークロードのライセンスの状態が報告されます。ワークロードのライセンス状態については、表 4-1を参照してください。

表 4-1 ワークロードのライセンスの状態

アイコン	ライセンスの状態	説明
	ライセンスなし	ワークロードはインポート済みで、そのワークロードの変換計画情報をまだ編集していません。
	ライセンス済み	「変換」ダイアログまたは「Bulk Edit (バルク編集)」を使用して、インポートされたワークロードに関する情報を一部編集しました。ライセンスは、このワークロードに恒久的に割り当てられます。 アイコンをマウスオーバーしてし、ライセンスが使用された日付を表示します。ライセンスの有効期限はありません。
	ライセンスを使用できません	インポートしたワークロードの情報をまだ編集していません。現在使用できるワークロードのライセンスがないため、ワークロードを編集しようとしても保存できません。 注: ライセンスがないことをシステム管理者に通知してください。

ライセンスの警告

ワークロードの変換を計画し始める前に、使用するライセンスが使用可能である必要があります。未使用で、実行期間がアクティブであるライセンスを使用できます。実行期間の開始日にまだないライセンスブロックは現時点で非アクティブであり、現時点で使用できません。Webインタフェースは、ライセンスが使用できない、減少している、またはすぐに期限切れになる場合、ユーザに通知します。

PlateSpin Transformation Managerは、ワークフローで次の重要なアクションが行われると、現在使用可能なライセンスの数および有効期限を確認します。

- ログイン時
- 「変換」ダイアログが開いたときまたは閉じたとき
- 「Bulk Edit (バルク編集)」ダイアログが開いたときまたは閉じたとき
- 「設定」ダイアログが閉じたとき

ライセンス警告メッセージは、ライセンスが次の状態になった場合に、Webインタフェースのメインヘッダ直下のバナーに表示されます。

- 現在使用できるライセンス数が50以下である。
- 現在使用できるライセンスの次のセットが7日以内に期限切れになる。

現在選択されている無ライセンスワークロード用のライセンスがない場合は、「変換」ダイアログのヘッダ領域に「ライセンスがありません」アイコン が表示され、編集内容を保存できません。

注: 報告されたライセンスの状態をPlateSpin Transformation Managerのシステム管理者に通知します。

ライセンスの有効期限が近くなった場合、[Bulk Edit (バルク編集)] 変更を1つ以上のプロジェクトの次に計画されているワークロードセットに適用して、複数のライセンスを素早く使用できます。使用したライセンスは有効期限切れにはなりません。

5 PlateSpin Migrate Connectorの設定

PlateSpin Transformation Managerサーバは、ソースワークロードがあるネットワークに導入された1つ以上のPlateSpin Migrate Connectorインスタンスと連携動作します。ConnectorをPTMサーバに関連付けた場合は、そのネットワーク内にソースワークロードを有しているすべてのプロジェクトで、そのConnectorを使用できます。プロジェクトごとに別々のConnectorインスタンスを設定することもできます。

注: Transformation Managerシステム管理者役割に割り当てられたユーザのみが、PlateSpin Migrate Connectorのグローバル設定を変更できます。デフォルトのワークフロー設定を変更する必要がある場合、システム管理者に連絡してください。

Migrate Connectorの詳細については、『[PlateSpin Migrate Connector Quick Start](#)』を参照してください。

- ◆ [53 ページの「Connectorのグローバルオプションについて」](#)
- ◆ [55 ページの「グローバルMigrate Connector設定の表示」](#)
- ◆ [56 ページの「グローバルMigrate Connector設定の編集」](#)
- ◆ [56 ページの「Migrate Connectorインスタンスの割り当て」](#)

Connectorのグローバルオプションについて

PlateSpin Transformation Managerの **[System Configuration (システム設定)]** > **[Migrate Connector (Connectorの移行)]** ページで、システム管理者は、マイグレーションプロジェクトのデフォルトのワークフローをカスタマイズできます。このワークフローは、1つまたは複数のPlateSpin Migrateサーバを利用してワークロードのマイグレーションを実行します。

注: 変更を適用するためには、設定を変更した後に、PlateSpin Migrate Connectorを再起動する必要があります。『[PlateSpin Migrate Connector クイックスタート](#)』の「[PlateSpin Migrate Connectorサービスの開始、再起動、または停止](#)」を参照してください。

- ◆ [53 ページの「一般設定」](#)
- ◆ [54 ページの「Migrateサーバの設定」](#)
- ◆ [55 ページの「お客様が指定するスクリプト」](#)

一般設定

未実行イベントのポーリング間隔

ワークロードのマイグレーションイベントのポーリング間の秒数を指定します。

デフォルト値は300秒です(5分)。値が小さいほどPTMサーバおよびマイグレートサーバへの負荷が増します。

再接続再試行間隔

接続に失敗した後にPTMがPlateSpin Migrateサーバへの再接続を試行するまでに待機する秒数を指定します。

デフォルト値は1500秒です(25分)。

Migrate設定の一時停止

MigrateユーザがMigrateサーバでワークロードのマイグレーションを手動で設定するまで変換ワークフローを一時停止するかどうかを指定します。

手動マイグレート設定はデフォルトでは無効になっています。

手動の事前カットオーバーテストの一時停止

Migrateユーザが事前カットオーバーテストを手動でトリガするまで変換中/インクリメンタルレプリケーション状態の変換ワークフローを一時停止するかどうかを指定します。

手動事前カットオーバーテストはデフォルトでは無効になっています。

Migrateサーバの設定

Add Workload to Migrate (マイグレーションするワークロードの追加)

自動的に割り当てられたPlateSpin Migrateサーバにワークロードマイグレーションジョブを追加する開始日までの日数を指定します。

このオプションは、デフォルトでは0(ゼロ)という値が指定されて無効になっています。ユーザが変換計画を送信すると、Migrate ConnectorはMigrateサーバを直ちに自動割り当てして、ワークロードマイグレーションジョブを追加してから、マイグレーションを実行する開始日まで待機します。このジョブは、開始日までの待機期間中に容量とMigrateライセンスを消費します。容量がまだ必要でない期間に消費されることによって、開始日が早めのワークロードのマイグレーションがブロックされる可能性があります。

1以上の値を設定して自動制御を有効にすることで、指定された開始日前インターバルまで待ってからマイグレーションの準備を開始するようにします。Migrateサーバ上の容量やライセンスを直ちに消費することなく、ワークロード変換計画が準備状態になったときにそれらのワークロード変換計画を送信できます。

最大ワークロード

PlateSpin Migrateサーバで一度に処理できる最大ワークロード数を指定します。

デフォルト値は「100」です。ユーザのPlateSpinマイグレーション環境に適した値を特定するには、『[PlateSpin Migrate 12.2ユーザガイド](#)』の「[Performance](#)」を参照してください。

注: 次の方法によって、さらなるワークロードを追加するための容量を回復できます。

- Migrateサーバにワークロードを追加する開始日の前に、開始日前のインターバルまで待ちます。詳細については、「[Add Workload to Migrate \(マイグレーションするワークロードの追加\)](#)」を参照してください。
 - カットオーバーが正常に実行された後に、ワークロード情報を削除します。詳細については、「[Remove Workload After Cutover \(カットオーバー後のワークロードの削除\)](#)」を参照してください。
-

最大ターゲット

PlateSpin Migrateサーバで処理できる最大検出ターゲット数を指定します。

デフォルトは27です。

SSL証明書の確認

PlateSpin Migrateサーバへの接続のSSL証明書検証を有効にするかどうかを指定します。

証明書検証はデフォルトでは無効になっています。このチェックボックスをオンにすると、この機能が有効になります。

Remove Workload After Cutover (カットオーバー後のワークロードの削除)

カットオーバー完了後にPlateSpin Migrateサーバからワークロード情報をクリーンアップするかどうかを指定します。

デフォルトでは有効になっています。属性を無効にするには、そのチェックボックスをオフにします。

この日数経過後に削除

ワークロードがカットオーバーされてからPlateSpin Migrateサーバからワークロード情報をクリーンアップするまでの日数を指定します。

デフォルトは3日です。

お客様が指定するスクリプト

カスタムインポートスクリプトの実行

最初のワークロード検出後にカスタムインポートコールアウトスクリプトを自動的に実行するかどうかを指定します。

デフォルトは無効です。

送信検証スクリプトの実行

ワークロードをMigrateに追加する前に送信検証コールアウトスクリプトを自動的に実行するかどうかを指定します。

デフォルトは無効です。

事前カットオーバーテストスクリプトの実行

ワークロードのレプリケーション後に事前カットオーバーテストコールアウトスクリプトを自動的に実行するかどうかを指定します。

デフォルトは無効です。

カットオーバー後テストスクリプトの実行

ワークロードのカットオーバー後にカットオーバー後テストコールアウトスクリプトを自動的に実行するかどうかを指定します。

デフォルトは無効です。

グローバルMigrate Connector設定の表示

システム管理者、プロジェクトマネージャ、およびプロジェクト設計者は、PTMサーバに関連付けられているPlateSpin Migrate Connectorインスタンスのグローバル設定を表示できます。

コネクタ設定を表示するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、**設定**を選択します。
- 2 [System Configuration (システム設定)] ダイアログで、**Migrate Connector (Connectorの移行)**を選択します。
- 3 スクロールして設定を表示します。
 - ◆ **一般設定**
 - ◆ **Migrateサーバの設定**
 - ◆ **お客様が指定するスクリプト**
- 4 操作を完了したら、**閉じる**をクリックして [System Configuration (システム設定)] ダイアログを終了します。

グローバルMigrate Connector設定の編集

システム管理者は、PTMサーバに割り当てられているPlateSpin Migrate Connectorインスタンスのあらゆるグローバル設定を変更できます。変更は、すべての変換プロジェクトの製品に適用されます。

コネクタ設定を編集するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、**設定**を選択します。
- 2 [System Configuration (システム設定)] ダイアログで、**Migrate Connector (Connectorの移行)**を選択します。
- 3 **[編集]** をクリックします。
- 4 [Edit Connector Settings (コネクタ設定の編集)] ダイアログで、次の該当のオプション設定を指定します。
 - ◆ **一般設定**
 - ◆ **Migrateサーバの設定**
 - ◆ **お客様が指定するスクリプト**
- 5 **[保存]** をクリックします。
- 6 **閉じる**をクリックして [System Configuration (システム設定)] ダイアログを終了します。
- 7 PTMサーバに接続されているそれぞれのPlateSpin Migrate Connectorサーバについて、Connectorサーバにルートユーザとしてログインし、Connectorサービスを再起動します。

Migrate Connectorインスタンスの割り当て

Migrate ConnectorをPlateSpin Transformation Managerサーバ、または固有のプロジェクトに割り当てることができます。

PlateSpin Transformation Managerアプライアンスには、アプライアンス上でTransformation Managerサーバと連携するように自動的にインストールおよび設定されるPlateSpin Migrate Connectorのインスタンスが含まれます。デフォルトではすべてのプロジェクトと連携します。

Transformation Managerでプロジェクトを設定した後で、ptm_project_idをアプライアンス上の/opt/microfocus/migrate_connector/config/settings.cfg ファイルに追加し、Connectorインスタンスを固有のプロジェクトに割り当てることができます。

ユーザ独自のSUSE Linux Enterprise Server 11 SP4サーバに展開する各PlateSpin Migrate Connectorインスタンスを手動で設定する必要があります。SP4サーバ。

PTMサーバまたは固有のプロジェクトのConnectorインスタンスを設定するには:

- 1 rootユーザアカウントを使用してSLES 11 SP4サーバにログインします。
- 2 テキストエディタで、/opt/microfocus/migrate_connector/config/settings.cfg ファイルを開きます。
- 3 [PlateSpin Transformation Manager Server]という名前の先頭セクションで値を設定します。

オプション	説明
ptm_host	Transformation Managerサーバのホスト名またはIPアドレスを指定します。たとえば、アプライアンス上のMigrate Connectorインスタンスはlocalhostです。 ptm_host=localhost
ptm_port	Transformation Managerサーバ用に使用されるポートを指定します。HTTPSの既定のポートは8183です。HTTPの既定のポートは8182です。 ptm_port=8183
ptm_ssl	SSLを使用してTransformation Managerサーバに接続するには、trueという値を指定します。有効な値はtrueとfalseです。 ptm_ssl=true
verify_ptm_ssl_cert	PlateSpin Transformation Managerサーバに接続する際に、証明書の検証を強制するかどうかを指定します。有効な値はfalseとtrueです。デフォルトでは検証は行われません(false)。 verify_ptm_ssl_cert=false
ptm_username	システム管理者の役割が割り当てられたPlateSpin Transformation Managerサーバ上の有効なユーザアカウントの電子メールアドレスを指定します。 ptm_username=john.doe@example.com 注: コネクタで使用するための専用ユーザアカウントをPlateSpin Transformation Managerで作成することをお勧めします。Migrate Connectorを任意のプロジェクトで実行できるようにするために、そのアカウントにシステム管理者の特権を割り当てることをお勧めします。このユーザアカウントには、Connectorを実行する必要があるプロジェクトに対するプロジェクト設計者レベル以上の特権が割り当てられている必要があります。
ptm_password	ユーザアカウントのパスワードを指定します。 ptm_password=yourpassword

オプション	説明
ptm_project_id	(オプション)すべてのプロジェクトでConnectorを使用可能にする代わりに、単一のプロジェクトのみでConnectorを使用できるように制限するために、Transformation Manager内のプロジェクトのプロジェクトID番号を指定します。Connectorは、この割り当てられたプロジェクト内のイベントとアクションのみを処理します。 ptm_project_id=1234 PlateSpin Transformation Manager内のプロジェクトに関連付けられたID番号を確認するには、次の手順を実行します。 1. Webインタフェースで、プランニング > プロジェクトの順に選択します。 2. 目的のプロジェクトを選択してから、編集をクリックします。 3. [Edit Project (プロジェクトの編集)] ダイアログで、ダイアログのタイトル領域に表示されているプロジェクト名をマウスオーバーします。ツールチップに、そのプロジェクトのID番号が表示されます。

- 4 ファイルを保存し、テキストエディタを終了します。
- 5 PlateSpin Migrate Connectorを開始または再起動します。端末コンソールで、次のコマンドを入力します。

```
rcps_migrate_connector restart
```

アプライアンス管理UIからConnectorを再始動することもできます。

6 オペレーティングシステムの設定

システム管理者は、[System Configuration (システム設定)] で製品に使用できるオペレーティングシステムのタイプ(OSタイプ)のリストを管理します。OSタイプは、プロジェクトマネージャおよびプロジェクト設計者が元のワークロードをインポートするときや提案するワークロードを設定するときに使用できます。

注: OSタイプを作成、編集および削除できるのはシステム管理者だけです。変換プロジェクトにOSタイプを追加する必要がある場合、システム管理者に連絡してください。

- ◆ [59 ページの「オペレーティングシステムのタイプについて」](#)
- ◆ [60 ページの「オペレーティングシステムのタイプのリストを表示」](#)
- ◆ [60 ページの「オペレーティングシステムのタイプの作成」](#)
- ◆ [61 ページの「オペレーティングシステムのタイプの編集」](#)
- ◆ [61 ページの「オペレーティングシステムのタイプの削除」](#)

オペレーティングシステムのタイプについて

それぞれのOSタイプはオペレーティングシステムの1つのディストリビューションを一意的に表します。作成するOSオブジェクトは、一般的なものであっても、必要に応じてニーズを満たす固有のものであってもかまいません。

名前

PlateSpin Transformation Manager環境で一意のオペレーティングシステムのテキスト名を指定します。

説明

オペレーティングシステムの簡単な説明を指定します。

ファミリ

次の選択肢から適切なオペレーティングシステムファミリを選択します。

CentOS
Citrix
Linux
NetWare/OES
その他
Red Hat Linux
Solaris
SUSE Linux
Ubuntu
不明

VMware ESX

Windows

アーキテクチャ

次の選択肢から適切なプロセッサアーキテクチャを選択します。

x32 (32ビット)

x64 (64ビット)

オペレーティングシステムのタイプのリストを表示

システム管理者、プロジェクトマネージャ、およびプロジェクト設計者は、製品のマスタオペレーティングシステムのリストを表示できます。OSタイプの値は、すべての変換プロジェクトで使用できます。

OSタイプのリストを表示するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、**設定**を選択します。
- 2 [System Configuration (システム設定)] ダイアログで、**オペレーティングシステム**を選択します。
- 3 OSタイプのリストをスクロールして表示します。
- 4 操作を完了したら、**閉じる**をクリックして [System Configuration (システム設定)] ダイアログを終了します。

オペレーティングシステムのタイプの作成

システム管理者は、新しいオペレーティングシステムのコンポーネントを作成し、すべての変換プロジェクトに使用できるようにできます。

OSタイプを作成するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、**設定**を選択します。
- 2 [System Configuration (システム設定)] ダイアログで、**オペレーティングシステム**を選択します。
- 3 **作成**をクリックします。
- 4 [Create Operating System (オペレーティングシステムの作成)] ダイアログで、次の情報を指定します。
 - ◆ **Name (名前)**
 - ◆ **説明**
 - ◆ **ファミリ**
 - ◆ **アーキテクチャ**
- 5 **保存**をクリックし、オペレーティングシステムのコンポーネントを作成します。
- 6 **閉じる**をクリックして [System Configuration (システム設定)] ダイアログを終了します。

オペレーティングシステムのタイプの編集

システム管理者は、事前定義されたOSタイプを含むあらゆるオペレーティングシステムのコンポーネントを変更できます。変更は、すべての変換プロジェクトの製品に適用されます。

OSタイプを編集するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、**設定**を選択します。
- 2 [System Configuration (システム設定)] ダイアログで、**オペレーティングシステム**を選択します。
- 3 **[編集]** をクリックします。
- 4 [Edit Operating System (オペレーティングシステムの編集)] ダイアログで、次の情報を指定します。
 - ◆ **Name (名前)**
 - ◆ **説明**
 - ◆ **ファミリ**
 - ◆ **アーキテクチャ**
- 5 **保存**をクリックし、オペレーティングシステムのコンポーネントを更新します。
- 6 **閉じる**をクリックして [System Configuration (システム設定)] ダイアログを終了します。

オペレーティングシステムのタイプの削除

システム管理者は、使用可能なオペレーティングシステムのリストから任意のオペレーティングシステムを削除できます。この削除の結果として、すべての変換プロジェクトのOS設定が削除されます。

注: OSを削除すると、このOSタイプが割り当てられている計画済みのワークロードの準備状況に影響する可能性があります。

OSタイプを削除するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、**設定**を選択します。
- 2 [System Configuration (システム設定)] ダイアログで、**オペレーティングシステム**を選択します。
- 3 オペレーティングシステムのリストから削除するOSタイプを選択します。
- 4 **削除**をクリックし、次に、**はい**をクリックして削除を確認します。
- 5 **閉じる**をクリックして [System Configuration (システム設定)] ダイアログを終了します。

II ユーザ

PlateSpin Transformation Managerにアクセスするには、ユーザアカウントが必要です。ユーザアカウントを通じて、ユーザは1つ以上の割り当てられた変換プロジェクトのタスクを実行する許可を受け取ります。フォルトのシステム管理者ユーザおよびシステム管理者の役割に割り当てられた他のユーザには、ユーザ、グループ、組織を作成、管理、削除するのに必要な許可があります。このセクションでは、一般的なユーザ管理タスクについて説明します。

- ◆ [65ページの第7章「PlateSpinユーザ管理の概要」](#)
- ◆ [71ページの第8章「組織を管理する」](#)
- ◆ [77ページの第9章「ユーザの管理」](#)
- ◆ [81ページの第10章「グループを管理する」](#)
- ◆ [85ページの付録 A「役割と権限」](#)

7 PlateSpinユーザ管理の概要

PlateSpin Transformation Managerでは、ユーザはTransformation Managerにアクセスして、変換プロジェクトを計画、監視、または実行可能な個人です。Transformation Managerでは、インストールプロセス中にユーザアカウントを作成し、このユーザをシステム管理者の役割に割り当てます。このデフォルトユーザは、最初はユーザアカウントを作成し、それに役割を割り当て、また組織やグループを作成することに責任があります。

Transformation Managerは、ユーザアカウント情報を格納し、ユーザを認証してアクセスを許可します。アクセス制御により、ユーザが表示可能な情報および実行可能なアクションが規制されます。

- ◆ [65 ページの「システムユーザおよび組織ユーザ」](#)
- ◆ [66 ページの「役割」](#)
- ◆ [68 ページの「例: Digital Airlinesユーザ」](#)

システムユーザおよび組織ユーザ

デフォルトのシステム管理者ユーザは、ユーザアカウントを追加し、それをプロジェクト役割に割り当て、他のユーザがプロジェクト情報を管理または表示できるようにする必要があります。ユーザまたはグループを作成すると、ユーザのスコップを2つのレベルのうちの1つに設定できます。

- ◆ **システム:** システムユーザおよびグループは、割り当てられた役割に関連付けられている特権のみを持ちます。システムユーザに割り当てることができるのは次のとおりです。
 - ◆ システム管理者役割(管理者グループのメンバー)
 - ◆ プロジェクトマネージャ
 - ◆ プロジェクト設計者
 - ◆ マイグレーションスペシャリスト
 - ◆ ダッシュボードビューアの役割
 - ◆ システムグループ

システムグループを役割に割り当て、グループメンバーシップを管理して、管理を容易にすることもできます。

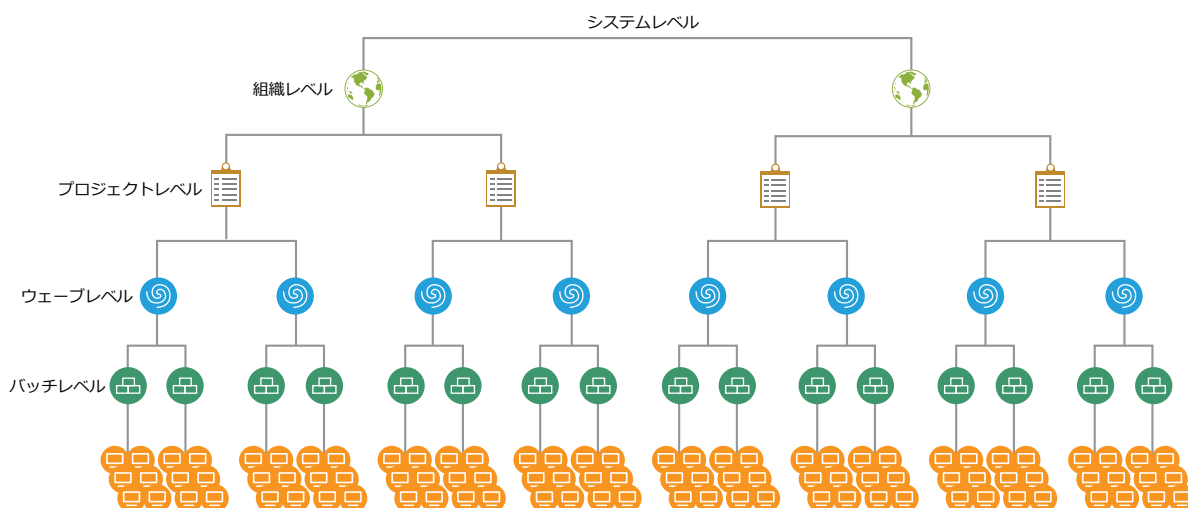
- ◆ **組織:** 組織ユーザおよびグループは、割り当てられた役割に関連付けられている特権のみを持ちます。組織ユーザに割り当てることができるのは次のとおりです。
 - ◆ ダッシュボードビューアの役割

役割

変換プロジェクトを計画、監視、および実行させる役割にユーザまたはグループを割り当てることができます。Transformation Managerは、システム管理者、プロジェクトマネージャ、プロジェクト設計者、マイグレーションスペシャリスト、およびダッシュボードビューアの5つの役割を提供します。各役割にはPTM環境における独自の責任があります。各役割の許可に関する詳細については、[85 ページの付録 A「役割と権限」](#)を参照してください。

役割は直接割り当てるか、継承することができます。継承される役割は、システム、組織、プロジェクト、Wave、またはバッチレベルでシステムユーザまたはグループに設定できます。継承される役割は、組織、プロジェクト、Wave、バッチレベルで組織ユーザまたはグループに設定できます。継承される役割は、[図 7-1](#)に示すように、既存のおよび新しいコンポーネントのそのレベルにおけるすべてのコンポーネントに対して適用されます。たとえば、Johnを組織のプロジェクトマネージャとしてシステムユーザアカウントを割り当てた場合、組織の既存のおよび新しいプロジェクトは自動的にその設定を継承します。

図 7-1 継承される役割の許可の範囲



- [66 ページの「システム管理者の役割」](#)
- [67 ページの「プロジェクトマネージャの役割」](#)
- [67 ページの「プロジェクト設計者の役割」](#)
- [68 ページの「マイグレーションスペシャリストの役割」](#)
- [68 ページの「ダッシュボードビューアの役割」](#)

システム管理者の役割

システム管理者の役割はTransformation Managerのすべての特権を備えています。インストール中に自動作成した初期ユーザアカウントにはこの役割があります。システムユーザまたはシステムグループをAdministratorsグループに追加して、この役割を割り当てることができます。通常システム管理者は次のタスクを実行します。

- PTMサーバのヘルスを設定、管理、および監視します。
- 製品全体においてすべての特権を持っています。

- ◆ 次のタスクを実行する排他的特権を持っています。
 - ◆ 組織を作成および削除します。
 - ◆ プロジェクトを作成および削除します。
 - ◆ オペレーティングシステムの種類を作成および削除します。
 - ◆ 組織レベルでユーザおよびグループを役割に割り当てます。
 - ◆ ユーザおよびグループをプロジェクトマネージャの役割に割り当てます。
- ◆ 任意のプロジェクトのあらゆる役割についてすべてのタスクを実行できます。

プロジェクトマネージャの役割

プロジェクトマネージャの役割はユーザまたはグループにできます。割り当てられたプロジェクトで、この役割は次のタスクを実行するために必要な権限があります。

- ◆ プロジェクトを管理します。
- ◆ ユーザを作成および削除します。
- ◆ 非管理者グループを作成および削除し、メンバーをこのグループに割り当てます。
- ◆ ユーザまたはグループをプロジェクト設計者、マイグレーションスペシャリスト、およびダッシュボードビューアの各役割に割り当てます。
- ◆ ダッシュボードを使用してプロジェクトの進捗状況およびコアの統計を追跡します。
- ◆ プロジェクト設計者のタスクを実行します。
 - ◆ ウェーブ、バッチ、およびアプリケーションを作成および削除します。
 - ◆ プロジェクトのワークロードをバルクインポートします。
 - ◆ リソースを作成および削除します。
 - ◆ 提案するワークロードを定義します。
 - ◆ 変換の準備ができていないワークロードを送信する、または変換を変更する必要がある場合にはワークロードを取り消します。

プロジェクト設計者の役割

プロジェクト設計者の役割はユーザまたはグループにできます。割り当てられたプロジェクトで、この役割は次のタスクを実行するために必要な権限があります。

- ◆ プロジェクトのすべての情報を表示します。
- ◆ ウェーブ、バッチ、およびアプリケーションを作成および削除します。
- ◆ ユーザまたはグループをウェーブおよびバッチのマイグレーションスペシャリストの役割に割り当てます。
- ◆ プロジェクトのワークロードをバルクインポートします。
- ◆ リソースを作成および削除します。
- ◆ 提案するワークロードを定義します。
- ◆ 変換の準備ができていないワークロードを送信する、または変換を変更する必要がある場合にはワークロードを取り消します。

- ダッシュボードを使用してプロジェクトの進捗状況およびコアの統計を追跡します。
- プロジェクトの計画に応じて、個々のマイグレーションを実行できます。

マイグレーションスペシャリストの役割

マイグレーションスペシャリストの役割はユーザまたはグループにできます。割り当てられたプロジェクト、ウェーブまたはバッチで、この役割は次のタスクを実行するために必要な権限があります。

- プロジェクトのウェーブ、バッチ、およびワークロードの情報を表示します。
- プロジェクトのリソースの情報を表示します。
- プロジェクトの計画に応じて、個々のマイグレーションを実行します。
- ダッシュボードを使用してプロジェクトの進捗状況およびコアの統計を追跡します。

ダッシュボードビューアの役割

ダッシュボードビューアの役割はユーザまたはグループにできます。ダッシュボードビューアの役割は、割り当てられた組織、プロジェクト、ウェーブ、またはバッチのダッシュボード情報のみを表示するために必要な権限があります。システム、組織、プロジェクト、ウェーブ、またはバッチレベルでこの役割を割り当てる場合、継承される権限が子コンテナのこの役割に適用されます。

例: Digital Airlinesユーザ

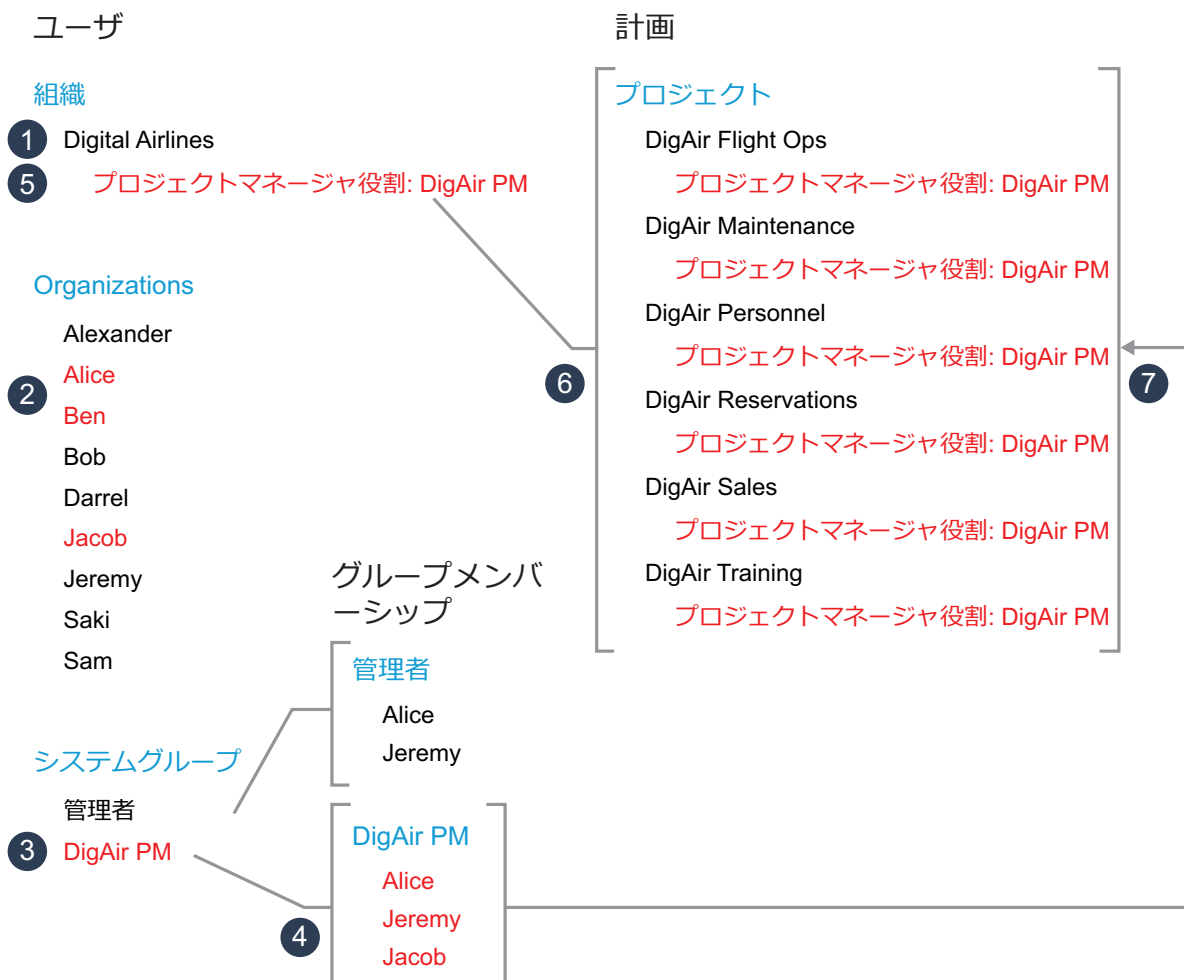
各プロジェクトには通常1人のマネージャがいます。この例では、Digital Airlines組織に複数のプロジェクトがあります。プロジェクトのすべてにわたってプロジェクトマネージャ役割を3人のユーザで共有したいと思っています。個別ではなグループで役割割り当てを管理したいと思っています。グループは、組織レベルでアクセス権を受け取り、そのメンバーが組織のプロジェクトのすべてを管理できるようにします。

システム管理者ユーザ(管理者グループのメンバー)は、[図 7-2](#)に示すように、次のタスクを実行します。

1. Digital Airlinesの組織アカウントを作成します。
2. 作業者Alice、Ben、Jacobのシステムユーザアカウントを作成します。
3. システムグループDigAir PMを作成します。
4. 3人のシステムユーザをこのグループに割り当てます。
5. DigAir PMグループを組織レベルのDigital Airlines組織のプロジェクトマネージャの役割に割り当てます。
6. デジタルエアラインのプロジェクトを作成します。
7. 組織の各プロジェクトはプロジェクトマネージャ役割のグループを自動的に継承します。

この設定では、DigAir PMグループのメンバーは、Digital Airlines組織のすべてのプロジェクトを管理できます。

図7-2 グループのプロジェクトマネージャ役割への割り当て



グループメンバーシップから直接、または間接的にユーザ許可を割り当てることができます。ユーザを複数の役割に割り当てる場合は、Webインタフェースのユーザの許可は累積的になります。

たとえば、Aliceが現在DigAir PMグループに割り当てられているシステムユーザであるとして。彼女にWebインタフェースのシステム管理者の役割も実行してほしいとして。Aliceをシステム管理者役割の関連する許可を付与するため、Aliceを管理者グループのメンバーとして追加することができます。図 7-2の管理者グループメンバーシップを参照してください。

プロジェクトマネージャ役割はユーザに、システム管理者の役割に関連付けられているタスクの追加の権限を付与せずに、ユーザおよびグループを作成、変更、および削除する機能を提供します。たとえば、Aliceにプロジェクトマネージャ役割を割り当てることができます。Aliceがユーザとグループを作成した後で、Digital Airlinesプロジェクトのプロジェクトマネージャ(すなわち、DigAir PMグループのメンバー)は、彼らに従属プロジェクト役割を割り当てることができます。

8 組織を管理する

組織は、ビジネス環境の一部の組織エンティティとの論理的関連付けを表しています。たとえば、データセンターのプロバイダにとっては、各組織が会社を表す場合があります。企業のIT部門にとっては、組織が会社のサイト、ビジネスユニット、部門、または会社内のコストセンターを表す場合があります。

これらのタスクを実行できるユーザ: システム管理者またはシステム管理者役割

- ♦ [71 ページの「組織について」](#)
- ♦ [72 ページの「組織の作成」](#)
- ♦ [73 ページの「組織のロゴをアップロードする」](#)
- ♦ [74 ページの「組織の編集」](#)
- ♦ [75 ページの「組織の削除」](#)

組織について

Transformation Managerを使用すると、組織アカウントの次の情報を追跡できます。

名前: PTMシステムで一意的組織の名前を指定します。この名前は、文字または数字で始まる必要があります。文字、数字、および次の特殊文字のみ使用できます。使用できる特殊文字はスペース、ハイフン、アンダースコア、アポストロフィ、パーセント、アンパサンド、コンマ、およびピリオドです。

説明: (オプション)組織の簡単な説明を指定します。このテキストは、デフォルトでは組織リストに表示されます。

イメージ: (オプション)組織を表すイメージをアップロードします。

関連付け: 次のタブを使用すると、組織に関連付けられたコンポーネントを表示または管理できます。ユーザに割り当てられた役割に応じて、使用できないオプションもあります。

- ♦ **計画**
 - ♦ プロジェクト(作成、編集、表示、削除) - [99ページの第12章「プロジェクトの管理」](#)を参照してください。
- ♦ **リソース**
 - ♦ 資格情報(作成、編集、表示、削除) - [201ページのセクション21「資格情報リソースの管理」](#)を参照してください。
 - ♦ ホスト - [207ページのセクション22「ホストリソースの管理」](#)を参照してください。
 - ♦ ソース(表示)
 - ♦ ターゲット(作成、編集、表示、削除)

- ◆ ネットワーク - [219ページのセクション24「ネットワークリソースの管理」](#)を参照してください。
 - ◆ ソース(表示)
 - ◆ ターゲット(作成、編集、表示、削除)
- ◆ データストア - [223ページのセクション25「データストアリソースの管理」](#)を参照してください。
 - ◆ ソース(表示)
 - ◆ ターゲット(作成、編集、表示、削除)
- ◆ 環境(作成、編集、表示、削除) - [231ページのセクション27「環境リソースの管理」](#)を参照してください。
- ◆ アプリケーション(作成、編集、表示、削除) - [115ページの第15章「アプリケーションの管理」](#)を参照してください。
- ◆ マイグレーションサーバ(作成、編集、表示、削除) - [215ページのセクション23「マイグレーションサーバリソースの管理」](#)を参照してください。
- ◆ リソースプール(作成、編集、表示、削除) - [227ページのセクション26「リソースプールリソースの管理」](#)を参照してください。
- ◆ ユーザ

プロジェクトレベルのプロジェクトの役割割り当ては、その子コンポーネントによって自動的に継承されます。

 - ◆ ダッシュボードビューア(表示、追加、削除) - [68ページの「ダッシュボードビューアの役割」](#)を参照してください。
 - ◆ マイグレーションスペシャリスト(表示、追加、削除) - [68ページの「マイグレーションスペシャリストの役割」](#)を参照してください。
 - ◆ プロジェクト設計者(表示、追加、削除) - [67ページの「プロジェクト設計者の役割」](#)を参照してください。
 - ◆ プロジェクトマネージャ(表示、追加、削除) - [67ページの「プロジェクトマネージャの役割」](#)を参照してください。

組織の作成

- 1 Webインタフェースツールバーで、**ユーザ**を選択します。
- 2 **組織**タブを選択します。
- 3 **作成**をクリックします。
- 4 [組織の作成] ダイアログで、PTMシステム内で一意の組織の名前を指定します。
- 5 (オプション)組織の簡単な説明を指定します。
- 6 (オプション)組織を表すイメージをアップロードします。イメージペインをマウスオーバーし、**Upload New Image (新しいイメージをアップロードする)**をクリックし、ブラウズして組織に使用するイメージを見つけて選択し、**開く**をクリックします。
- 7 **保存**をクリックして組織のインスタンスを作成し、**関連付けペイン**を有効にします。
- 8 (オプション)**関連付けペイン**で、組織の関連付けを定義します。

計画

- ◆ プロジェクト(作成、編集、表示、削除) - 99ページの第12章「プロジェクトの管理」を参照してください。

リソース

- ◆ 資格情報(作成、編集、表示、削除) - 201ページのセクション21「資格情報リソースの管理」を参照してください。
- ◆ ホスト - 207ページのセクション22「ホストリソースの管理」を参照してください。
 - ◆ ソース(表示)
 - ◆ ターゲット(作成、編集、表示、削除)
- ◆ ネットワーク - 219ページのセクション24「ネットワークリソースの管理」を参照してください。
 - ◆ ソース(表示)
 - ◆ ターゲット(作成、編集、表示、削除)
- ◆ データストア - 223ページのセクション25「データストアリソースの管理」を参照してください。
 - ◆ ソース(表示)
 - ◆ ターゲット(作成、編集、表示、削除)
- ◆ 環境(作成、編集、表示、削除) - 231ページのセクション27「環境リソースの管理」を参照してください。
- ◆ アプリケーション(作成、編集、表示、削除) - 115ページの第15章「アプリケーションの管理」を参照してください。
- ◆ マイグレーションサーバ(作成、編集、表示、削除) - 215ページのセクション23「マイグレーションサーバリソースの管理」を参照してください。
- ◆ リソースプール(作成、編集、表示、削除) - 227ページのセクション26「リソースプールリソースの管理」を参照してください。

[ユーザ]

- ◆ ダッシュボードビューア(表示、追加、削除) - 68 ページの「ダッシュボードビューアの役割」を参照してください。
- ◆ マイグレーションスペシャリスト(表示、追加、削除) - 68 ページの「マイグレーションスペシャリストの役割」を参照してください。
- ◆ プロジェクト設計者(表示、追加、削除) - 67 ページの「プロジェクト設計者の役割」を参照してください。
- ◆ プロジェクトマネージャ(表示、追加、削除) - 67 ページの「プロジェクトマネージャの役割」を参照してください。

9 [保存] をクリックします。

10 [閉じる] をクリックします。

組織のロゴをアップロードする

組織のロゴを追加するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、**ユーザ**を選択します。

- 2 組織タブを選択します。
- 3 組織を選択してから、編集をクリックします。
- 4 組織を表すイメージをアップロードします。イメージペインをマウスオーバーし、**Upload New Image (新しいイメージをアップロードする)**をクリックし、組織に使用するイメージをブラウズして見つけ、選択し、開くをクリックします。
- 5 [保存] をクリックします。
- 6 [閉じる] をクリックします。

組織の編集

- 1 Webインタフェースツールバーで、ユーザを選択します。
- 2 組織タブを選択します。
- 3 [組織] リストで、組織をダブルクリック、または組織を選択し、編集をクリックします。
- 4 (オプション)組織の簡単な説明を指定します。
- 5 (オプション)組織を表すイメージをアップロードします。イメージペインをマウスオーバーし、**Upload New Image (新しいイメージをアップロードする)**をクリックし、ブラウズして組織に使用するイメージを見つけて選択し、開くをクリックします。
- 6 関連付けペインで、関連付け情報を表示または変更します。
 - ◆ プロジェクト - [99ページの第12章「プロジェクトの管理」](#) を参照してください。
 - ◆ ユーザ
 - ◆ ダッシュボードビューア - [68 ページの「ダッシュボードビューアの役割」](#) を参照してください。
 - ◆ マイグレーションスペシャリスト - [68 ページの「マイグレーションスペシャリストの役割」](#) を参照してください。
 - ◆ プロジェクト設計者 - [67 ページの「プロジェクト設計者の役割」](#) を参照してください。
 - ◆ プロジェクトマネージャ - [67 ページの「プロジェクトマネージャの役割」](#) を参照してください。
 - ◆ 資格情報 - [201ページのセクション21「資格情報リソースの管理」](#) を参照してください。
 - ◆ ホスト - [207ページのセクション22「ホストリソースの管理」](#) を参照してください。
 - ◆ ネットワーク - [219ページのセクション24「ネットワークリソースの管理」](#) を参照してください。
 - ◆ データストア - [223ページのセクション25「データストアリソースの管理」](#) を参照してください。
 - ◆ 環境 - [231ページのセクション27「環境リソースの管理」](#) を参照してください。
 - ◆ アプリケーション - [115ページの第15章「アプリケーションの管理」](#) を参照してください。
 - ◆ マイグレーションサーバ - [215ページのセクション23「マイグレーションサーバリソースの管理」](#) を参照してください。
 - ◆ リソースプール - [227ページのセクション26「リソースプールリソースの管理」](#) を参照してください。
- 7 情報を変更したら、保存をクリックします。
- 8 [閉じる] をクリックします。

組織の削除

組織を削除すると、組織の関連付けセットアップも自動的に削除されます。

- 1 Webインターフェースツールバーで、**ユーザ**を選択します。
- 2 **組織**タブを選択します。
- 3 [組織] リストで、組織を選択し、**削除**をクリックします。
- 4 **はい**をクリックして削除を確認するか、**いいえ**をクリックして組織を残します。

9 ユーザの管理

Transformation Managerは、インストールプロセス中にユーザアカウントを作成し、このユーザをシステム管理者の役割に割り当てます。このデフォルトのシステム管理者は、最初にユーザアカウント、組織およびグループを作成します。デフォルトのシステム管理者ユーザは削除できません。

これらのタスクを実行できるユーザ: システム管理者、またはシステム管理者役割

- ◆ [77 ページの「ユーザについて」](#)
- ◆ [78 ページの「ユーザの表示」](#)
- ◆ [78 ページの「ユーザの作成」](#)
- ◆ [78 ページの「ユーザの編集」](#)
- ◆ [79 ページの「ユーザパスワードの変更」](#)
- ◆ [79 ページの「ユーザの削除」](#)

ユーザについて

PlateSpin Transformation Managerを使用すると、ユーザの次の情報を追跡できます。

フルネーム: ユーザの姓名を指定します。名前には文字、数字、および次の特殊文字のみ使用できます。スペース、ハイフン、アンダースコア、アポストロフィ、パーセント、アンパサンド、コンマ、およびピリオドです。

電子メールアドレス: PTMシステムで一意的ユーザの電子メールアドレスを指定します。

電話番号: (オプション)ユーザの連絡先電話番号を指定します。

パスワード: PTMシステムのユーザアカウントのパスワードを指定します。確認のためにパスワードを再入力します。パスワードは5文字以上にする必要があります。ユーザアカウントの役割をセットアップした後、初期パスワードをユーザに送信します。ユーザは初期パスワードを使用してログインしてから好みのパスワードを設定します。

注: パスワードは製品ごとに異なります。パスワードはPTMデータベースに安全に格納されます。

スコープ: ユーザの特権がPTMシステムでシステムレベルで適用されるかまたは組織レベルで適用されるかを指定します。ユーザのスコープは、設定後には変更できません。組織のスコープは、組織のプロジェクトのダッシュボードビューアの役割のユーザのみに使用されます。

メンバーシップおよびアクセス: 次のタブを使用すると、変換環境の情報へのユーザのアクセスを表示または管理できます。ユーザに割り当てられた役割に応じて、使用できないオプションもあります。

- ◆ すべての役割
- ◆ システム(追加、削除)
- ◆ 組織(追加、削除)

- ◆ プロジェクト(追加、削除)
- ◆ ウェーブ(追加、削除)
- ◆ バッチ(追加、削除)
- ◆ グループメンバーシップ(表示、追加、削除)

ユーザの表示

- 1 Webインタフェースツールバーで、**ユーザ**を選択します。
- 2 **ユーザ**タブを選択します。
- 3 [ユーザ] リストで、ユーザをダブルクリック、またはユーザを選択し、**表示する**をクリックします。
- 4 [ユーザの表示] ダイアログで、ユーザ、メンバーシップおよびアクセスの情報を表示します。
- 5 [閉じる] をクリックします。

ユーザの作成

- 1 Webインタフェースツールバーで、**ユーザ**を選択します。
- 2 **ユーザ**タブを選択します。
- 3 **作成**をクリックします。
- 4 [ユーザの作成] ダイアログの [ユーザ] ペインで、ユーザアカウントの次の情報を指定します。
 - ◆ 氏名
 - ◆ 電子メールアドレス
 - ◆ 電話番号(オプション)
 - ◆ パスワードおよびパスワードの確認
 - ◆ スコープ(システムまたは組織)
- 5 **保存**をクリックしてユーザアカウントのインスタンスを作成し、**メンバーシップおよびアクセス** ペインを有効にします。
- 6 **メンバーシップおよびアクセス** ペインで、ユーザアカウントに割り当てる権限および役割を定義します。
- 7 [保存] をクリックします。
- 8 [閉じる] をクリックします。

ユーザの編集

- 1 Webインタフェースツールバーで、**ユーザ**を選択します。
- 2 **ユーザ**タブを選択します。
- 3 [ユーザ] リストで、ユーザをダブルクリック、またはユーザを選択し、**編集**をクリックします。
- 4 [ユーザの編集] ダイアログで、ユーザ情報またはメンバーシップおよびアクセスの情報を表示または変更します。

- 5 情報を変更したら、**保存**をクリックします。
- 6 **閉じる**をクリックします。

ユーザパスワードの変更

システム管理者はユーザアカウントのパスワードを変更できます。非管理者ユーザは割り当てられたユーザアカウントに関連付けられているパスワードを変更できます。

ユーザはシステム管理者によって送信された最初のパスワードでログインしてから、希望するパスワードを設定します。新しいパスワードが保存され、次回ユーザがセッションにログインしたときに反映されます。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**ユーザ**を選択します。
- 2 **ユーザ**タブを選択します。
- 3 **ユーザ**リストで、ユーザ名をダブルクリックするか、ユーザ名を選択して、**編集**をクリックします。
- 4 **ユーザの編集**ダイアログで、希望するパスワードを入力し、そのパスワードを再度入力すると変更が確定されます。
- 5 **保存**をクリックします。
- 6 **閉じる**をクリックします。

ユーザの削除

ユーザを削除すると、そのユーザにセットアップされた役割と許可も自動的に削除されます。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**ユーザ**を選択します。
- 2 **ユーザ**タブを選択します。
- 3 **ユーザ**リストで、ユーザを選択し、**削除**をクリックします。
- 4 **はい**をクリックして削除を確認するか、**いいえ**をクリックしてユーザを残します。

10 グループを管理する

ユーザをグループと関連付けし、アクセスをより効果的に管理することもできます。グループのメンバーは、グループに割り当てられたアクセス制御を継承します。

- ◆ [81 ページの「グループについて」](#)
- ◆ [82 ページの「グループの表示」](#)
- ◆ [82 ページの「グループの作成」](#)
- ◆ [82 ページの「グループの編集」](#)
- ◆ [83 ページの「グループの削除」](#)

グループについて

Transformation Managerを使用すると、グループの次の情報を追跡できます。

フルネーム: PTMシステムで一意のグループアカウントの名前を指定します。名前には文字、数字、および次の特殊文字のみ使用できます。スペース、ハイフン、アンダースコア、アポストロフィ、パーセント、アンパサンド、コンマ、およびピリオドです。

電子メールアドレス: (オプション)PTMシステムで一意のグループの電子メールアドレスを指定します。

スコープ: ユーザの特権がPTMシステムでシステムレベルで適用されるかまたは組織レベルで適用されるかを指定します。ユーザのスコープは、設定後には変更できません。組織のスコープは、組織のプロジェクトのダッシュボードビューアの役割のグループのみに使用されます。

メンバーシップおよびアクセス: 次のタブを使用すると、変換環境の情報へのグループのアクセスを表示または管理できます。グループに割り当てられた役割に応じて、使用できないオプションもあります。

- ◆ すべての役割
- ◆ システム(追加、削除)
- ◆ 組織
 - ◆ マイグレーションスペシャリスト(追加、削除)
 - ◆ プロジェクト設計者(追加、削除)
 - ◆ プロジェクトマネージャ(追加、削除)
- ◆ プロジェクト
 - ◆ マイグレーションスペシャリスト(追加、削除)
 - ◆ プロジェクト設計者(追加、削除)
 - ◆ プロジェクトマネージャ(追加、削除)

- ◆ ウェーブ
 - ◆ マイグレーションスペシャリスト(追加、削除)
 - ◆ プロジェクト設計者(追加、削除)
- ◆ バッチ
 - ◆ マイグレーションスペシャリスト(追加、削除)
 - ◆ プロジェクト設計者(追加、削除)
- ◆ メンバー(表示、追加、削除)

グループの表示

- 1 Webインタフェースツールバーで、**ユーザ**を選択します。
- 2 **グループ**タブを選択します。
- 3 [グループ] リストで、グループをダブルクリック、またはグループを選択し、**表示する**をクリックします。
- 4 [グループの表示] ダイアログで、グループ、メンバーシップおよびアクセスの情報を表示します。
- 5 [閉じる] をクリックします。

グループの作成

- 1 Webインタフェースツールバーで、**ユーザ**を選択します。
- 2 [グループ] タブを選択します。
- 3 **作成**をクリックします。
- 4 [グループの作成] ダイアログの [グループ] ペインで、グループアカウントの次の情報を指定します。
 - ◆ フルネーム
 - ◆ 電子メールアドレス
 - ◆ スコープ(システムまたは組織)
- 5 **保存**をクリックしてグループアカウントのインスタンスを作成し、**メンバーシップおよびアクセス**ペインを有効にします。
- 6 **メンバーシップおよびアクセス**ペインで、グループアカウントに割り当てる役割およびメンバーを定義します。
- 7 [保存] をクリックします。
- 8 [閉じる] をクリックします。

グループの編集

- 1 Webインタフェースツールバーで、**ユーザ**を選択します。
- 2 **グループ**タブを選択します。
- 3 [グループ] リストで、グループをダブルクリック、またはグループを選択し、**編集**をクリックします。

- 4 [グループの編集] ダイアログで、グループ、メンバーシップおよびアクセスの情報を表示または変更します。
- 5 情報を変更したら、**保存**をクリックします。
- 6 **閉じる**をクリックします。

グループの削除

グループを削除すると、そのグループにセットアップされた役割およびメンバーシップも自動的に削除されます。

- 1 Webインターフェースツールバーで、**ユーザ**を選択します。
- 2 **[(グループ)]** タブを選択します。
- 3 [グループ] リストで、グループを選択し、**削除**をクリックします。
- 4 **はい**をクリックして削除を確認するか、**いいえ**をクリックしてグループを残します。

A 役割と権限

PlateSpin Transformation Managerには役割ベースのアクセス制御が用意されていて、Webインタフェースでのアクセスが認定ユーザに制限されます。権限は個々のユーザおよびグループではなく役割に関連付けられます。役割によって、Webインタフェースで特定のアクションを実行する権限がユーザまたはグループに付与されます。役割によって実行できるさまざまなジョブ機能が権限によって決まります。Webインタフェースの役割には次のものがあります。

- ◆ システム管理者
- ◆ プロジェクトマネージャ
- ◆ プロジェクト設計者
- ◆ マイグレーションスペシャリスト
- ◆ ダッシュボードビューア

Transformation Managerでユーザおよびグループが持っている権限は、ユーザおよびグループに割り当てた役割を使用して付与した権限以外にありません。グループのメンバーはグループの役割割り当てを自動的に継承するため、適切な役割をグループに割り当ててユーザの権限を簡単に管理できます。ユーザに役割を割り当てるために、さまざまなグループにユーザを簡単に移動できます。

各プロジェクトの役割の責任範囲は、役割割り当てのレベル(システム、組織、プロジェクト、ウェーブ、またはバッチ)によって決まります。システムレベルで役割を割り当てられるのはシステムユーザのみです。また、複数の組織に役割を割り当てられるのもシステムユーザのみです。

役割と権限のマトリクスによって、割り当てられた役割に基づいてユーザおよびグループが持つさまざまなアクションおよびアクセス制御権限が決まります。

ユーザの役割

表 A-1 役割と権限のマトリクスの凡例

カラム見出し	ユーザまたは役割	説明
NA	ネットワーク管理者	PlateSpin Transformation Managerのアプライアンスをデータセンターにインストールして設定するために十分な権限を持つIT管理者。 初期設定後、このユーザ(または別の指名されたITメンバー)は、次のいずれかのアプライアンスユーザ識別情報を使用してアプライアンス管理ツールにログインし、アプライアンスを監視および管理します。 vaadmin root
SA	システム管理者の役割	AdministratorsグループのメンバーであるTransformation Managerのシステムユーザ。

カラム見出し	ユーザまたは役割	説明
PM	プロジェクトマネージャの役割	プロジェクトマネージャの役割を割り当てられた Transformation Managerのユーザ。
PA	プロジェクト設計者の役割	プロジェクト設計者の役割を割り当てられた Transformation Managerのユーザ。
MS	マイグレーションスペシャリストの役割	マイグレーションスペシャリストの役割を割り当てられた Transformation Managerのユーザ。
DV	ダッシュボードビューアの役割	ダッシュボードビューアの役割を割り当てられた Transformation Managerのユーザ。

注釈

N 非対応

Y 対応

Y^U ユーザ自身のユーザアカウントに限定されます。

Y^A ユーザに割り当てられたプロジェクトに限定されます。

Y^N 非管理者グループに限定されます。

役割と権限のマトリクス

表 A-2 アプライアンスおよびアプリケーションの役割と権限

タスクおよびアクション		NA	SA	PM	PA	MS	DV
アプライアンスのインストールおよびセットアップ							
	ソフトウェアのダウンロード	Y	N	N	N	N	N
	VM環境の準備						
	Hypervisorホスト	Y	N	N	N	N	N
	ネットワーク	Y	N	N	N	N	N
	外部ストレージ	Y	N	N	N	N	N
	VMのインストール	Y	N	N	N	N	N
	VMの設定(vaadminまたはroot)						
	VM設定の変更	Y	N	N	N	N	N
	VMの監視(Gangliaマトリクスおよびレポート)	Y	N	N	N	N	N
	システム管理者ユーザの追加	Y	N	N	N	N	N
	システム管理者ユーザのパスワードの変更	Y	N	N	N	N	N
	VMのアップグレード	Y	N	N	N	N	N
	ライセンスキー/ブロック(カスタマーセンターのアカウント所有者)	Y	N	N	N	N	N

タスクおよびアクション		NA	SA	PM	PA	MS	DV
PlateSpinサーバの管理(vaadminまたはroot)							
	初期設定	Y	N	N	N	N	N
	Web Server (Webサーバ)	Y	N	N	N	N	N
	システム管理者ユーザの追加	Y	N	N	N	N	N
	システム管理者ユーザのパスワードの変更	Y	N	N	N	N	N
	Webインタフェースセッションのタイムアウト	Y	N	N	N	N	N
Webインタフェースの設定							
ライセンス							
	ライセンスキーの追加	N	Y	N	N	N	N
	ライセンスキーの編集	N	Y	N	N	N	N
	ライセンスキーの削除	N	Y	N	N	N	N
	アクティブなライセンスキーおよび未使用ブロックの表示	N	Y	N	N	N	N
Connectorの移行							
	一般設定	N	Y	N	N	N	N
	Migrateサーバの設定	N	Y	N	N	N	N
	お客様が指定するスクリプト	N	Y	N	N	N	N
	View (表示)	N	Y	N	N	N	N
オペレーティングシステム							
	作成	N	Y	N	N	N	N
	編集	N	Y	N	N	N	N
	削除	N	Y	N	N	N	N
	View (表示)	N	Y	N	N	N	N

表 A-3 ユーザ管理の役割と権限

タスクおよびアクション		SA	PM	PA	MS	DV
ユーザ						
組織						
	作成	Y	N	N	N	N
	編集	Y	N	N	N	N
	削除	Y	N	N	N	N
	View (表示)	Y	Y ^U	Y ^U	N	N

タスクおよびアクション		SA	PM	PA	MS	DV
ユーザ						
	作成	Y	Y	N	N	N
	編集	Y	Y ^U	Y ^U	Y ^U	Y ^U
	削除(Administratorsグループの最後のメンバーを除く)	Y	Y	N	N	N
	View (表示)	Y	Y	Y	Y	N
	パスワードの変更	Y	Y ^U	Y ^U	Y ^U	Y ^U
グループ						
	作成	Y	Y ^N	N	N	N
	編集	Y	Y ^N	N	N	N
	削除(Administratorsグループを除く)	Y	Y ^N	N	N	N
	View (表示)	Y	Y ^N	Y ^N	N	N
役割ベースのアクセス制御(役割を割り当てることができるユーザ)						
システム管理者の役割(Administratorsグループ)						
	メンバーの追加	Y	N	N	N	N
	メンバーの削除(最後のメンバーを除く)	Y	N	N	N	N
	メンバーの表示	Y	N	N	N	N
プロジェクトマネージャの役割						
	追加	Y	N	N	N	N
	削除	Y	N	N	N	N
プロジェクト設計者の役割						
	追加	Y	Y	N	N	N
	削除	Y	Y	N	N	N
マイグレーションスペシャリストの役割						
	追加	Y	Y	Y	N	N
	削除	Y	Y	Y	N	N
ダッシュボードビューアの役割						
	追加	Y	Y	N	N	N
	削除	Y	Y	N	N	N

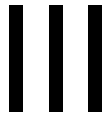
表 A-4 Transformation Management の役割と権限

タスクおよびアクション		SA	PM	PA	MS	DV
ダッシュボード						
	警告およびエラー統計の表示	Y	N	N	N	N
	変換統計の表示	Y	Y ^A	Y ^A	Y ^A	Y ^A
計画						
	プロジェクト					
	View (表示)	Y	Y ^A	Y ^A	Y ^A	Y ^A
	作成	Y	Y ^A	N	N	N
	編集	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	削除	Y	Y ^A	N	N	N
	Wave					
	View (表示)	Y	Y ^A	Y ^A	Y ^A	Y ^A
	作成	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	編集	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	削除	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	バッチ					
	View (表示)	Y	Y ^A	Y ^A	Y ^A	Y ^A
	作成	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	編集	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	削除	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	アプリケーション					
	View (表示)	Y	Y ^A	Y ^A	Y ^A	N
	作成	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	編集	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	削除	Y	Y ^A	Y ^A	N	N

タスクおよびアクション		SA	PM	PA	MS	DV
ワークロード						
	View (表示)	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	インポート(1つまたは範囲)	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	スプレッドシートインポート	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	再試行(マイグレーションアクション)	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	再検出(最初の検出が失敗した場合に自動検出が再試行される)	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	バルク編集	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	編集	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	バルク状態変更	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	削除	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
変換						
	View (表示)	Y	Y ^A	Y ^A	Y ^A	N
	統計の表示	Y	Y ^A	Y ^A	Y ^A	Y ^A
	反映	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	取り消し	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	再オープン	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	バルク状態変更	Y	Y ^A	Y ^A	Y ^A	N
	変換の実行	Y	N	Y ^A	Y ^A	N
リソース						
資格情報						
	View (表示)	Y	Y ^A	Y ^A	Y ^A	N
	作成	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	編集	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	削除	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
ホスト(ソース)						
	View (表示)	Y	Y ^A	Y ^A	Y ^A	N
	削除	Y	Y ^A	Y ^A	N	N

タスクおよびアクション		SA	PM	PA	MS	DV
ホスト(ターゲット)						
	View (表示)	Y	Y ^A	Y ^A	Y ^A	N
	作成	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	編集	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	削除	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
マイグレーションサーバ						
	View (表示)	Y	Y ^A	Y ^A	Y ^A	N
	作成	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	編集	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	削除	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
ネットワーク(ソース)						
	View (表示)	Y	Y ^A	Y ^A	Y ^A	N
	削除	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
ネットワーク(ターゲット)						
	View (表示)	Y	Y ^A	Y ^A	Y ^A	N
	作成	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	編集	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	削除	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
データストア(ソース)						
	View (表示)	Y	Y ^A	Y ^A	Y ^A	N
	削除	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
データストア(ターゲット)						
	View (表示)	Y	Y ^A	Y ^A	Y ^A	N
	作成	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	編集	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	削除	Y	Y ^A	Y ^A	N	N

タスクおよびアクション		SA	PM	PA	MS	DV
	リソースプール					
	View (表示)	Y	Y ^A	Y ^A	Y ^A	N
	作成	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	編集	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	削除	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	環境					
	View (表示)	Y	Y ^A	Y ^A	Y ^A	N
	作成	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	編集	Y	Y ^A	Y ^A	N	N
	削除	Y	Y ^A	Y ^A	N	N



計画

PlateSpin Transformation Managerには、要素を作成して編成し、変換プロジェクトを定義するために必要なツールが用意されています。

- ◆ [95ページの第11章「プロジェクト計画の概要」](#)
- ◆ [99ページの第12章「プロジェクトの管理」](#)
- ◆ [105ページの第13章「Waveの管理」](#)
- ◆ [109ページの第14章「バッチの管理」](#)
- ◆ [115ページの第15章「アプリケーションの管理」](#)
- ◆ [119ページの第16章「プロジェクトの監視」](#)
- ◆ [125ページの付録 B「グローバルプランニングオブジェクト」](#)

11 プロジェクト計画の概要

PlateSpin Transformation Managerは、数千から数万ものワークロードを持つ大規模なプロジェクトの変換をスケジュールできるプランニングツールです。小さなバッチでグループ化されたWaveで発生する変換をWaveごとにスケジュールできます。

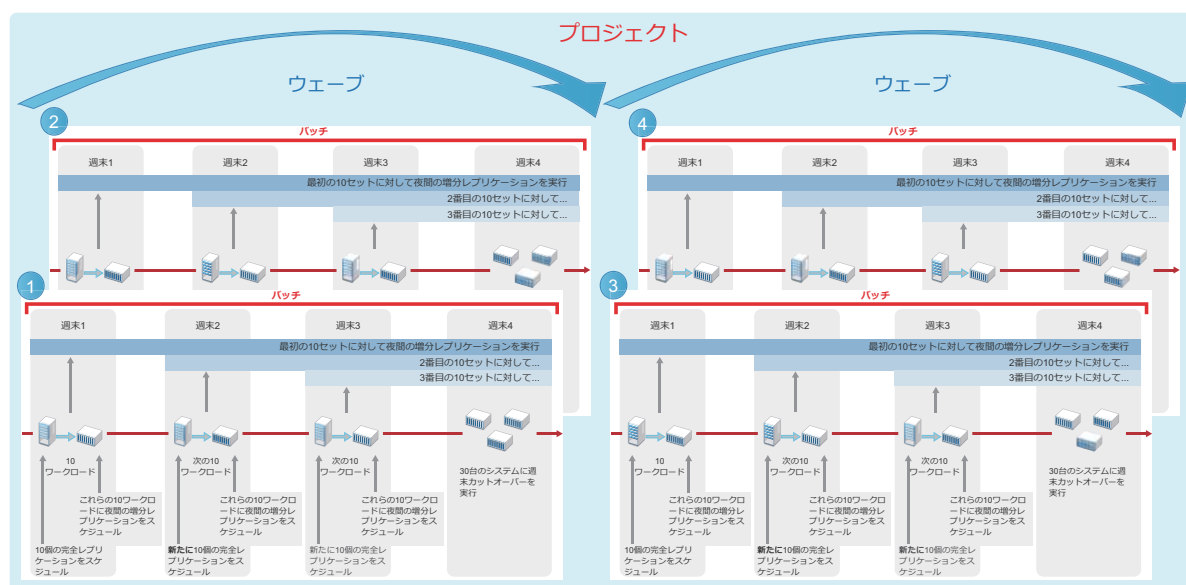
- ◆ 95 ページの「ウェーブおよびバッチのプランニング」
- ◆ 96 ページの「プランニングの前提条件」
- ◆ 96 ページの「アクセス許可の付与」
- ◆ 97 ページの「ワークロードの変換」
- ◆ 97 ページの「日付のスケジューリング」

ウェーブおよびバッチのプランニング

大規模なIT変換プロジェクトは、複数の場所にまたがる場合がある生産環境で長期間にわたって行われることが普通です。将来のネットワークアクティビティおよび条件は、予測しにくいことがあり、詳細は不明です。大量のワークロードがある複雑なプロジェクトは、完了までに数カ月または数年かかる場合があります。数カ月前になってからのみ詳細の計画が可能になる場合もあります。

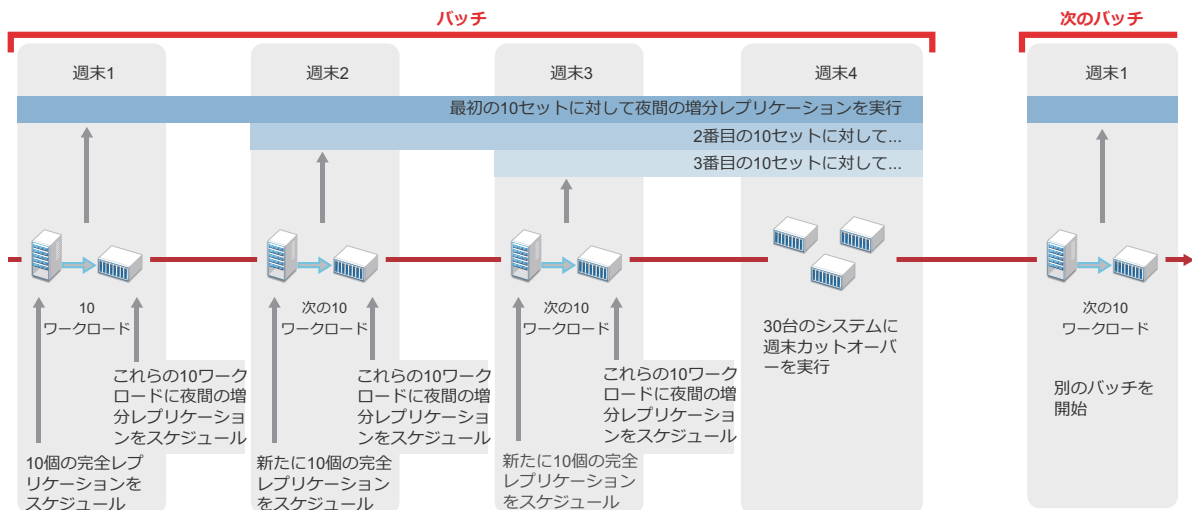
PlateSpin Transformation Managerは、ローリングウェーブプランニングをサポートしていて、変換タスクの短期プランニングおよび長期プランニングが可能になっています。図 11-1 に示すように、プロジェクトの変換タスクをウェーブで編成できます。短期ウェーブでは、タスクを詳細に計画できます。新しく、より適切な情報が入手可能になるにつれ、将来のウェーブの変換計画を洗練できます。

図 11-1 ウェーブのプランニング



ウェブ内では、バッチは同時に変換するワークロードのようにグループ化されます。ネットワークリソースを使用できる間にはバッチの方が簡単にスケジュールできます。各バッチおよびウェブで貴重な結果をもたらすことができます。スケジュールは柔軟性があります。開始日およびカットオーバー日をステークホルダーと調整し、ビジネスに重要な計画済みのイベントを回避できます。

図 11-2 バッチのプランニング



プランニングの前提条件

プロジェクトを作成するとき、これを特定の組織と関連付ける必要があります。プロジェクトを追加するにはその前に、親組織を作成し、変換プロジェクトを作成するときその親組織を使用できるようにする必要があります。ウェブ、バッチ、アプリケーション、およびワークロードはすべてこれらの親プロジェクトの子コンテンツです。

アクセス許可の付与

PlateSpin Transformation Managerには、プロジェクトを管理するために次の役割が用意されています。

- **プロジェクトマネージャ:** プロジェクトマネージャは、プロジェクトのすべての側面を管理する責任があります。
- **プロジェクト設計者:** プロジェクト設計者は、ワークロードの変換計画を設定し、変換をスケジュールリングし、変換のヘルスを監視する責任があります。
- **マイグレーションスペシャリスト:** マイグレーションスペシャリストは、変換を実行する責任があります。
- **ダッシュボードビューア:** ダッシュボードビューアは、プロジェクトの進捗状況およびメトリックを監視するステークホルダーです。

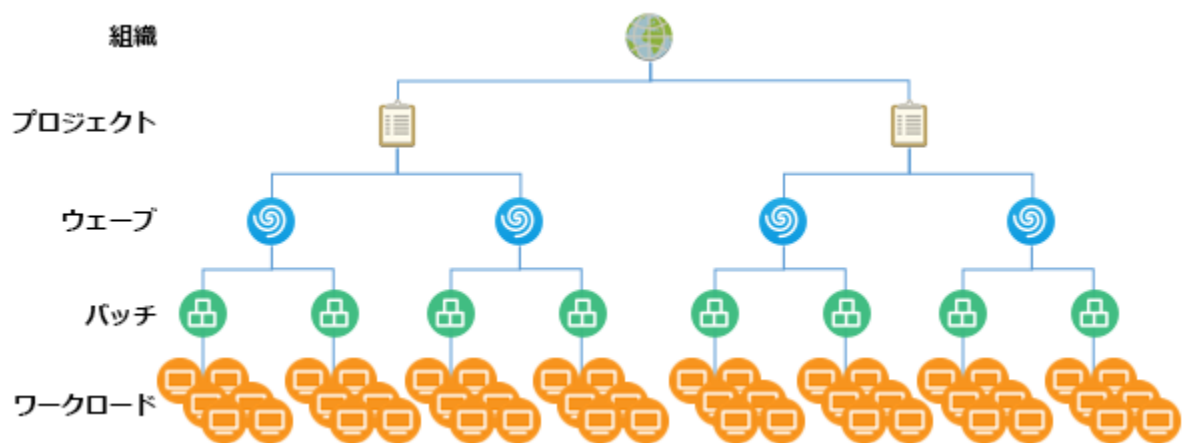
ワークロードの変換

現在の運用モードから将来の運用モードへのワークロードの変換は、変換プロジェクトの基本的な管理目標です。変換計画には次の情報が含まれます。

- ♦ ワークロード間の依存性
- ♦ 元の各ワークロードおよび提案するワークロードについてのデータ
- ♦ ワークロードタスクのシーケンス
- ♦ タスクを実行する必要があるタイミング

図 11-3は、プランニングオブジェクト(組織、プロジェクト、ウェーブ、バッチ、およびワークロード)の間の親子関係を示しています。

図 11-3 プランニングオブジェクトの親子関係



日付のスケジューリング

プロジェクトの日付は、ビジネスニーズおよびネットワークニーズに応じて設定できます。ビジネスの要素には、プロジェクトの優先度、タスクの依存性、およびリソースの利用可否が含まれます。ネットワーク環境の要素には、使用できる帯域幅、接続速度、および変換するデータ量が含まれます。

特定のカットオーバー日がある場合や、できる限り効率的かつ迅速に作業が完了するように計画を作成すればよい場合があります。外部イベントによって、特定のタスクを完了しなければならない日付が決まる場合もあります。ITリソースおよび人的リソースの利用可否もスケジュールを制約します。

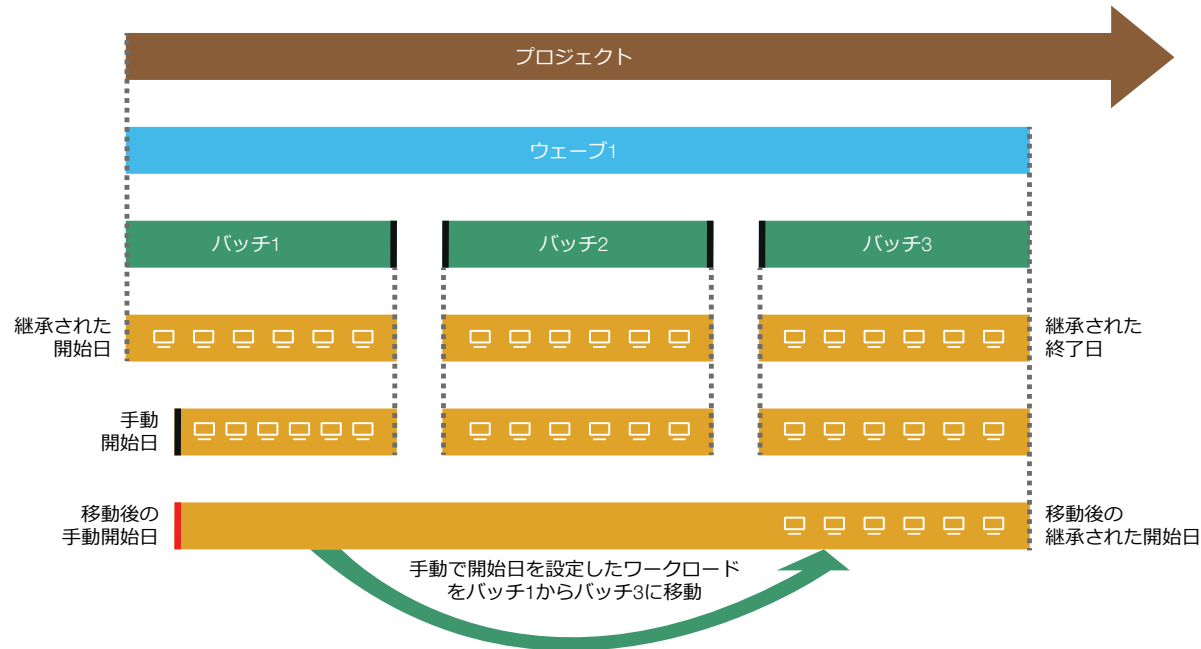
ウェーブおよびバッチの日付は、手動で設定できるほか、親オブジェクトから継承できます。子オブジェクトの日付は、その親オブジェクトの実行ウィンドウ内である必要があります。

図 11-4は、日付が親オブジェクトから子オブジェクトへどのように継承されるかを示しています。手動で設定した日付は、フィールドおよび表に黒のフォントで表示されます。継承された日付は、フィールドおよび表に灰色のフォントで表示されます。

手動で日付を設定すると、この日付設定は継承よりも優先されます。手動設定した日付のあるワークロードをバッチ間で移動すると、この手動日付設定は変更されませんが、継承された日付設定は自動的に変更されます。

図 11-4に、ワークロードをバッチ1からバッチ3に移動した後に手動の日付がどのように同じままになるかを示します。手動の日付が新しいバッチの実行ウィンドウ外になると、その日付はフィールドおよび表に赤のフォントで表示されます。ワークロードの実行ウィンドウが新しい親ウィンドウ外に拡張された場合、その日付を再設定する必要があります。

図 11-4 継承された開始日と終了日



注: 日付は、使用中のコンピュータブラウザのロケール設定のフォーマットで表示されます。

PlateSpin Transformation Managerは、オブジェクトが設定を取得した方法に応じて、次のフォントの色でオブジェクトの日付を表示します。

日付のフォントの色	条件
灰色	日付は親オブジェクトから継承されています。
黒	日付はオブジェクトで直接設定されました。新しい日付は子オブジェクトによって自動的に継承されます。
赤	日付は親オブジェクトで設定された実行ウィンドウの前または後になっています。 - オブジェクトの開始日は親の開始日の前です。 - オブジェクトの終了日またはカットオーバー日は親の終了日またはカットオーバー日の後です。

12 プロジェクトの管理

PlateSpin Transformation Managerを使用すると、ビジネスニーズに基づいて、ワークロード変換の情報を分析し、プロジェクトに編成できます。

- ♦ [99 ページの「プロジェクトについて」](#)
- ♦ [101 ページの「プロジェクトの前提条件」](#)
- ♦ [101 ページの「プロジェクトの表示」](#)
- ♦ [101 ページの「プロジェクトの作成」](#)
- ♦ [102 ページの「プロジェクトの編集」](#)
- ♦ [102 ページの「プロジェクトのカスタムフィールド名の設定」](#)
- ♦ [103 ページの「プロジェクトの関連付けの設定」](#)
- ♦ [104 ページの「プロジェクトの削除」](#)

プロジェクトについて

プロジェクトでは、変換プロジェクトの次の情報を追跡できます。

名前: 組織で一意のプロジェクトのフレンドリ名。この名前は、文字または数字で始まる必要があります。文字、数字、および次の特殊文字のみ使用できます。使用できる特殊文字はスペース、ハイフン、アンダースコア、アポストロフィ、パーセント、アンパサンド、コンマ、およびピリオドです。

組織: プロジェクトの親組織の名前。

説明: (オプション)プロジェクトの簡単な説明。

開始日: ワークロードの変換の開始計画日。

終了日: すべてのワークロードの変換を正常に完了する必要がある日付。

モード: プロジェクトのモードを指定します。必要に応じてモード間を切り替えることができます。

- ♦ **計画:** 計画モードでは、サポートされているさまざまな変換方式とプランニングオプションが許可されています。

計画モードを使用して、手動で、またはサードパーティのマイグレーションツールを使用して実行する変換を計画します。個々のワークロードに自動化を設定することもできます。

- ♦ **自動化:** 自動化モードでは、ユーザのPlateSpinマイグレーション環境内のワークロードマイグレーションを計画して実行できます。PlateSpin Migrateサーバを使用したマイグレーションにのみ適用される追加の設定が提供され、そのいくつかのオプションは自動化によってサポートされている内容に制限されています。詳細については、[16 ページの「PlateSpinマイグレーション環境」](#)を参照してください。

自動化モードを使用して、PlateSpinマイグレーション環境で自動化または半自動化オプションを使用して実行する変換を計画します。個々のワークロードに手動またはサードパーティのマイグレーションを設定することもできます。

カスタムフィールド名: プロジェクトの追跡対象の追加情報タイプ。1～7個のカスタムのフィールドを定義できます。各カスタムのフィールドは独立していて、任意の目的で使用できます。使用方法には、新しい属性、論理タグ、優先度システム、連絡先情報などがあります。

たとえば、ワークロードを日々のIT管理者で特定する場合、**Custom 1 (カスタム1)**フィールドの名前をプロジェクトの**連絡先1**に定義します。値は、プロジェクトに応じて、連絡先担当者の名前、ユーザ名、または電子メールアドレスにできます。[変換] ダイアログの[連絡先] フィールドにワークロードの値を指定します。

関連付け: 関連付けは、さまざまなコンポーネントとプロジェクトの関係を定義します。[ワークロード] タブを除くプライマリタブで実行できるタスクは、各タブでも実行できます。ワークロードでは、プロジェクトに関連付けられた元のワークロードと提案するワークロードの情報を表示できます。

◆ 計画

- ◆ ウェーブ(作成、編集、表示、削除) - [105 ページの「Waveの管理」](#)を参照してください。
- ◆ バッチ(作成、編集、表示、移動、削除) - [109 ページの「バッチの管理」](#)を参照してください。
- ◆ アプリケーション(作成、編集、表示、削除) - [115 ページの「アプリケーションの管理」](#)を参照してください。
- ◆ ワークロード(元、提案) - [151 ページの「ワークロード変換の設定」](#)を参照してください。

◆ リソース

- ◆ 資格情報(作成、編集、表示、削除) - [201 ページの「資格情報リソースの管理」](#)を参照してください。
- ◆ ホスト - [207 ページの「ホストリソースの管理」](#)を参照してください。
 - ◆ ソース(表示)
 - ◆ ターゲット(作成、編集、表示、削除)
- ◆ マイグレーションサーバ(作成、編集、表示、削除) - [215 ページの「マイグレーションサーバリソースの管理」](#)を参照してください。
- ◆ ネットワーク - [219 ページの「ネットワークリソースの管理」](#)を参照してください。
 - ◆ ソース(表示)
 - ◆ ターゲット(作成、編集、表示、削除)
- ◆ データストア - [223 ページの「データストアリソースの管理」](#)を参照してください。
 - ◆ ソース(表示)
 - ◆ ターゲット(作成、編集、表示、削除)
- ◆ リソースプール(作成、編集、表示、削除) - [227 ページの「リソースプールリソースの管理」](#)を参照してください。
- ◆ 環境(作成、編集、表示、削除) - [231 ページの「環境リソースの管理」](#)を参照してください。

◆ ユーザ

プロジェクトレベルのプロジェクトの役割割り当ては、その子コンポーネントによって自動的に継承されます。

- ◆ ダッシュボードビューア(表示、追加、削除) - [68 ページの「ダッシュボードビューアの役割」](#)を参照してください。

- ◆ マイグレーションスペシャリスト(表示、追加、削除) - 68 ページの「[マイグレーションスペシャリストの役割](#)」を参照してください。
- ◆ プロジェクト設計者(表示、追加、削除) - 67 ページの「[プロジェクト設計者の役割](#)」を参照してください。
- ◆ プロジェクトマネージャ(表示、追加、削除) - 67 ページの「[プロジェクトマネージャの役割](#)」を参照してください。

プロジェクトの前提条件

プロジェクトを作成するとき、これを特定の組織と関連付ける必要があります。プロジェクトを作成するにはその前に、親組織を作成し、プロジェクトを作成するときその親組織を使用できるようにする必要があります。詳細については、72 ページの「[組織の作成](#)」を参照してください。

プロジェクトの表示

表示オプションを使用すると、表示権限を持つユーザはプロジェクト情報を表示できます。

プロジェクト情報を表示するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、[プランニング](#)を選択します。
- 2 [プロジェクト](#)タブを選択します。
- 3 [プロジェクト](#)リストで、目的のプロジェクトを検索して見つけます。
- 4 プロジェクトを選択し、[表示](#)をクリックします。
- 5 操作を終了したら[閉じる](#)をクリックします。

プロジェクトの作成

プロジェクトを作成できるのはシステム管理者ユーザだけです。

プロジェクトを作成するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、[プランニング](#)を選択します。
- 2 [プロジェクト](#)タブを選択します。
- 3 [作成](#)をクリックします。
- 4 [プロジェクト](#)ペインに、次の情報を指定します。
 - ◆ 名前
 - ◆ 組織
 - ◆ (オプション)説明
 - ◆ 開始日
 - ◆ 最終日
 - ◆ モード(計画または自動化)
 - ◆ (オプション)カスタムフィールド名(フィールド1～フィールド7)
- 5 [保存](#)をクリックしてプロジェクトのオブジェクトを作成し、[関連付け](#)ペインをアクティブ化します。

- 6 関連付けペインで各タブをクリックし、関連コンポーネントの設定を行います。[103 ページの「プロジェクトの関連付けの設定」](#)を参照してください。
- 7 (オプション)完了済みに設定をクリックするか、またはReopen (再オープン)をクリックします。
- 8 [保存] をクリックします。
- 9 [閉じる] をクリックします。

プロジェクトの編集

プロジェクトを設定し、プロジェクトが完成に近づくにつれて、プロジェクトの日付、カスタムのフィールド、および関連付けを変更する必要がある場合があります。システム管理者およびプロジェクトマネージャは、プロジェクトの設定を変更できます。

プロジェクトを編集するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、[プランニング](#)を選択します。
- 2 [プロジェクト](#)タブを選択します。
- 3 プロジェクトをダブルクリックして [プロジェクトの編集] ダイアログを開き、プロジェクトの詳細を表示します。
代わりに、プロジェクトを選択してから編集をクリックしても構いません。
- 4 必要に応じて値を変更します。
 - ◆ 名前
 - ◆ 組織
 - ◆ (オプション)説明
 - ◆ 開始日
 - ◆ 最終日
 - ◆ モード(計画または自動化)
 - ◆ (オプション)カスタムのフィールド名(フィールド1～フィールド7)
- 5 (オプション)関連付けを表示または変更します。[103 ページの「プロジェクトの関連付けの設定」](#)を参照してください。
- 6 (オプション)完了済みに設定をクリックするか、またはReopen (再オープン)をクリックします。
- 7 [保存] をクリックします。
- 8 [閉じる] をクリックします。

プロジェクトのカスタムフィールド名の設定

カスタムのフィールドでは、プロジェクトで追跡する追加情報を定義します。カスタムのフィールドはプロジェクト全体に適用されます。システム管理者およびプロジェクトマネージャは、1つのプロジェクトに1～7個のカスタムフィールド名を設定できます。各フィールド名はプロジェクト内で一意である必要があります。[変換] ダイアログで使用できるのは、定義済みのカスタムのフィールドだけです。プロジェクト設計者はワークロードに適切な値を設定します。

カスタムフィールド名を定義するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、**プランニング**を選択します。
- 2 **プロジェクト**タブを選択します。
- 3 次のいずれかの操作を行います。
 - 3a **作成**をクリックし、[プロジェクトの作成] ダイアログを開き、必要なフィールドを設定します。
 - 3b プロジェクトをダブルクリックして [プロジェクトの編集] ダイアログを開き、プロジェクトの詳細を表示します。
- 4 **Custom Field Names (カスタムフィールド名)**の下で、最大7つのカスタムのフィールドの名前を指定します。
- 5 (オプション)**完了済みに設定**をクリックするか、または**Reopen (再オープン)**をクリックします。
- 6 **〔保存〕** をクリックします。
- 7 **〔閉じる〕** をクリックします。

プロジェクトの関連付けの設定

プロジェクトの [関連付け] ペインには、可能なすべての関連付けが表示されます。システム管理者ユーザ、プロジェクトマネージャユーザ、およびプロジェクト設計者ユーザは、プロジェクトの関連付けを設定できます。

権限に応じて、これらのコンポーネントのメインタブから実行できるアクションを [関連付け] の下のタブから実行できます。このとき一部のアクションが使用できない場合があります。プロジェクトを保存し、後で戻ってきて情報を入力できます。

プロジェクトにコンポーネントを関連付けるには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、**プランニング**を選択します。
- 2 **プロジェクト**タブを選択します。
- 3 プロジェクトをダブルクリックして [プロジェクトの編集] ダイアログを開き、プロジェクトの詳細を表示します。
- 4 **〔関連付け〕** に下で各タブをクリックし、関連コンポーネントの設定を表示または変更します。

計画

- ◆ ウェーブ - [105ページの第13章「Waveの管理」](#) を参照してください。
- ◆ バッチ - [109ページの第14章「バッチの管理」](#) を参照してください。
- ◆ アプリケーション - [115ページの第15章「アプリケーションの管理」](#) を参照してください。
- ◆ ワークロード - [151ページの第19章「ワークロード変換の設定」](#) を参照してください。

リソース

- ◆ 資格情報 - [201ページのセクション21「資格情報リソースの管理」](#) を参照してください。
- ◆ ホスト - [207ページのセクション22「ホストリソースの管理」](#) を参照してください。
- ◆ マイグレーションサーバ - [215ページのセクション23「マイグレーションサーバリソースの管理」](#) を参照してください。
- ◆ ネットワーク - [219ページのセクション24「ネットワークリソースの管理」](#) を参照してください。

- ◆ データストア - 223ページのセクション25「データストアリソースの管理」を参照してください。
- ◆ リソースプール - 227ページのセクション26「リソースプールリソースの管理」を参照してください。
- ◆ 環境 - 231ページのセクション27「環境リソースの管理」を参照してください。

ユーザ

- ◆ ダッシュボードビューア - 68 ページの「ダッシュボードビューアの役割」を参照してください。
 - ◆ マイグレーションスペシャリスト - 68 ページの「マイグレーションスペシャリストの役割」を参照してください。
 - ◆ プロジェクト設計者 - 67 ページの「プロジェクト設計者の役割」を参照してください。
 - ◆ プロジェクトマネージャ - 67 ページの「プロジェクトマネージャの役割」を参照してください。
- 5 (オプション)完了済みに設定をクリックするか、またはReopen (再オープン)をクリックします。
 - 6 [保存] をクリックします。
 - 7 [閉じる] をクリックします。

プロジェクトの削除

プロジェクトを削除できるのはシステム管理者ユーザだけです。

注: プロジェクトを削除すると、PTMデータベースからプロジェクトのすべてのデータが削除されます。

プロジェクトを削除するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、**プランニング**を選択します。
- 2 **プロジェクト**タブを選択します。
- 3 目的のプロジェクトを選択し、**削除**、はいの順にクリックして削除を確認します。

13 Waveの管理

PlateSpin Transformation Managerは、ローリングウェーブプランニングをサポートしていて、変換タスクの短期プランニングおよび長期プランニングが可能になっています。ウェーブは、ワークロード変換の主な成果を表します。短期ウェーブでは、タスクを詳細に計画できます。新しく、より適切な情報が入手可能になるにつれ、将来のウェーブの変換計画を洗練できます。

- ◆ [105 ページの「ウェーブについて」](#)
- ◆ [106 ページの「ウェーブの前提条件」](#)
- ◆ [106 ページの「Waveの表示」](#)
- ◆ [106 ページの「Waveの作成」](#)
- ◆ [107 ページの「Waveの編集」](#)
- ◆ [107 ページの「Waveの関連付けの設定」](#)
- ◆ [108 ページの「Waveを削除」](#)

ウェーブについて

ウェーブでは、変換アクティビティの次の情報を追跡できます。

名前: 変換プロジェクトで一意的ウェーブのフレンドリ名。この名前は、文字または数字で始まる必要があります。文字、数字、および次の特殊文字のみ使用できます。使用できる特殊文字はスペース、ハイフン、アンダースコア、アポストロフィ、パーセント、アンパサンド、コンマ、およびピリオドです。

組織: ウェーブの親組織の名前。

プロジェクト: ウェーブの親プロジェクトの名前。

説明: (オプション)ウェーブの簡単な説明。

開始日: ワークロードの変換の開始計画日。デフォルトでは、開始日はその親プロジェクトの開始日から継承されます。灰色のフォントの日付は継承された値を示します。

終了日: すべてのワークロードの変換を正常に完了する必要がある日付。デフォルトでは、終了日はその親プロジェクトの終了日から継承されます。灰色のフォントの日付は継承された値を示します。

関連付け: 関連付けは、さまざまなコンポーネントタイプとウェーブの関係を定義します。

- ◆ バッチ(作成、編集、表示、削除) - [109 ページの「バッチの管理」](#)を参照してください。
- ◆ ワークロード - [151 ページの「ワークロード変換の設定」](#)を参照してください。
 - ◆ 元(編集、表示、削除)
 - ◆ 提案(編集、表示、削除)
- ◆ ユーザ
 - ◆ ダッシュボードビューア(表示) - [68 ページの「ダッシュボードビューアの役割」](#)を参照してください。

- ◆ マイグレーションスペシャリスト(表示、追加、削除) - 68 ページの「[マイグレーションスペシャリストの役割](#)」を参照してください。
- ◆ プロジェクト設計者(表示) - 67 ページの「[プロジェクト設計者の役割](#)」を参照してください。
- ◆ プロジェクトマネージャ(表示) - 67 ページの「[プロジェクトマネージャの役割](#)」を参照してください。

ウェーブの前提条件

ウェーブを作成するとき、これを特定の組織およびプロジェクトと関連付ける必要があります。ウェーブを作成するにはその前に、親組織およびプロジェクトを作成し、ウェーブを作成するときにこれらを使用できるようにする必要があります。

手順については、次を参照してください。

- ◆ 72 ページの「[組織の作成](#)」。
- ◆ 101 ページの「[プロジェクトの作成](#)」。

Waveの表示

表示オプションを使用すると、表示権限のみを持つユーザはウェーブの情報を表示できます。

ウェーブの情報を表示するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、[プランニング](#)を選択します。
- 2 [ウェーブタブ](#)を選択します。
- 3 [ウェーブリスト](#)で、目的のウェーブを検索して見つけます。
- 4 ウェーブを選択し、[表示](#)をクリックします。
- 5 操作を終了したら[閉じる](#)をクリックします。

Waveの作成

システム管理者ユーザおよびプロジェクトマネージャはウェーブを作成できます。

ウェーブを作成するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、[プランニング](#)を選択します。
- 2 [ウェーブタブ](#)を選択します。
- 3 [作成](#)をクリックします。
- 4 [ウェーブペイン](#)に、次の情報を指定します。
 - ◆ 名前
 - ◆ 組織
 - ◆ プロジェクト
 - ◆ (オプション)説明

- ◆ 開始日
 - ◆ 最終日
- 5 保存をクリックしてウェーブのオブジェクトを作成し、関連付けペインをアクティブ化します。
 - 6 (オプション)関連付けペインで各タブをクリックし、関連コンポーネントの設定を行います。
107 ページの「Waveの関連付けの設定」を参照してください。
 - 7 (オプション)完了済みに設定をクリックします。
 - 8 [保存] をクリックします。
 - 9 [閉じる] をクリックします。

Waveの編集

ウェーブを設定し、その親プロジェクトが完成に近づくにつれて、ウェーブの日付および関連付けを変更する必要がある場合があります。システム管理者およびプロジェクトマネージャは、ウェーブを変更できます。

ウェーブを編集するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、**プランニング**を選択します。
- 2 **ウェーブ**タブを選択します。
- 3 ウェーブをダブルクリックして [ウェーブの編集] ダイアログを開き、ウェーブの詳細を表示します。
代わりに、ウェーブを選択してから**編集**をクリックしても構いません。
- 4 必要に応じて値を変更します。
- 5 (オプション)関連付けの表示または編集。107 ページの「Waveの関連付けの設定」を参照してください。
- 6 (オプション)完了済みに設定をクリックします。
- 7 [保存] をクリックします。
- 8 [閉じる] をクリックします。

Waveの関連付けの設定

ウェーブの [関連付け] ペインには、すべての関連付けが表示されます。システム管理者ユーザ、プロジェクトマネージャユーザ、およびプロジェクト設計者ユーザは、ウェーブの関連付けを設定できます。

ワークロードの状態に応じて、このとき一部のアクションが使用できない場合があります。ウェーブを保存し、後で戻ってきて情報を入力できます。

ウェーブにコンポーネントを関連付けるには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、**プランニング**を選択します。
- 2 **ウェーブ**タブを選択します。
- 3 ウェーブをダブルクリックして [ウェーブの編集] ダイアログを開き、ウェーブの詳細を表示します。

- 4 [関連付け] に下で各タブをクリックし、関連コンポーネントの設定を表示または変更します。
- ◆ バッチ - 109ページの第14章「バッチの管理」を参照してください。
 - ◆ ワークロード - 151ページの第19章「ワークロード変換の設定」を参照してください。
 - ◆ ユーザ
 - ◆ ダッシュボードビューア - 68 ページの「ダッシュボードビューアの役割」を参照してください。
 - ◆ マイグレーションスペシャリスト - 68 ページの「マイグレーションスペシャリストの役割」を参照してください。
 - ◆ プロジェクト設計者 - 67 ページの「プロジェクト設計者の役割」を参照してください。
 - ◆ プロジェクトマネージャ - 67 ページの「プロジェクトマネージャの役割」を参照してください。
- 5 (オプション)完了済みに設定をクリックします。
- 6 [保存] をクリックします。
- 7 [閉じる] をクリックします。

Waveを削除

ウェーブを削除できるのはシステム管理者ユーザおよびプロジェクトマネージャだけです。ウェーブを削除すると、PTMデータベースからウェーブのすべてのデータが削除されます。メンバーのワークロードがインポート済み状態になりますが、関連するワークロード情報は削除されません。

ウェーブを削除するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、**プランニング**を選択します。
- 2 **ウェーブ**タブを選択します。
- 3 目的のウェーブを選択し、**削除**、**はい**の順にクリックして削除を確認します。

14 バッチの管理

バッチは、ワークロード変換のウェーブのコンポーネント成果です。バッチは同時に変換するワークロードのようにグループ化されます。ネットワークリソースを使用できる間にはバッチの方が簡単にスケジュールできます。開始日およびカットオーバー日をステークホルダーと調整し、ビジネスに重要な計画済みのイベントを回避できます。

- ◆ [109 ページの「バッチについて」](#)
- ◆ [110 ページの「バッチの前提条件」](#)
- ◆ [110 ページの「バッチの表示」](#)
- ◆ [110 ページの「バッチの作成」](#)
- ◆ [111 ページの「バッチの編集」](#)
- ◆ [111 ページの「別のWaveへのバッチの移動」](#)
- ◆ [112 ページの「バッチの関連付けの設定」](#)
- ◆ [112 ページの「バッチの削除」](#)

バッチについて

バッチでは、変換アクティビティの次の情報を追跡できます。

名前: 変換プロジェクトで一意的なバッチのフレンドリ名。この名前は、文字または数字で始まる必要があります。文字、数字、および次の特殊文字のみ使用できます。使用できる特殊文字はスペース、ハイフン、アンダースコア、アポストロフィ、パーセント、アンパサンド、コンマ、およびピリオドです。

組織: バッチの親組織の名前。

プロジェクト: バッチの親プロジェクトの名前。

ウェーブ: バッチの親ウェーブの名前。

説明: (オプション)バッチの簡単な説明。

開始日: メンバーのワークロードの変換の開始計画日。デフォルトでは、開始日はその親ウェーブの開始日から継承されます。灰色のフォントの日付は継承された値を示します。

終了日: すべてのメンバーのワークロードの変換を正常に完了する必要がある日付。デフォルトでは、終了日はその親ウェーブの終了日から継承されます。灰色のフォントの日付は継承された値を示します。

関連付け: 関連付けは、さまざまなコンポーネントタイプとバッチの関係を定義します。

- ◆ ワークロード - [151 ページの「ワークロード変換の設定」](#) を参照してください。
 - ◆ 元(編集、表示、削除)
 - ◆ 提案(編集、表示、削除)

- ◆ ユーザ
 - ◆ ダッシュボードビューア(表示) - 68 ページの「[ダッシュボードビューアの役割](#)」を参照してください。
 - ◆ 마이그레이ション스페셜리스트(表示、追加、削除) - 68 ページの「[마이그레이ション스페셜리스트의 역할](#)」を参照してください。
 - ◆ 프로젝트設計者(表示) - 67 ページの「[프로젝트設計者の役割](#)」を参照してください。
 - ◆ 프로젝트マネージャ(表示) - 67 ページの「[프로젝트マネージャの役割](#)」を参照してください。

バッチの前提条件

バッチを作成するとき、これを特定の組織、プロジェクト、およびウェーブと関連付ける必要があります。バッチを作成するにはその前に、親組織、プロジェクト、およびウェーブを作成し、バッチを作成するときにこれらを使用できるようにする必要があります。

手順については、次を参照してください。

- ◆ 72 ページの「[組織の作成](#)」。
- ◆ 101 ページの「[プロジェクトの作成](#)」。
- ◆ 106 ページの「[Waveの作成](#)」。

バッチの表示

表示オプションを使用すると、表示許可のみを持つユーザはバッチの情報を表示できます。

バッチ情報を表示するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、[プランニング](#)を選択します。
- 2 [バッチ](#)タブを選択します。
- 3 [バッチ](#)リストで、目的のバッチを検索して見つけます。
- 4 バッチを選択し、[表示](#)をクリックします。
- 5 操作を終了したら[閉じる](#)をクリックします。

バッチの作成

システム管理者ユーザおよびプロジェクトマネージャはバッチを作成できます。

バッチを作成するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、[プランニング](#)を選択します。
- 2 [バッチ](#)タブを選択します。
- 3 [作成](#)をクリックします。
- 4 [バッチ](#)ペインに、次の情報を指定します。
 - ◆ 名前
 - ◆ 組織

- ◆ プロジェクト
 - ◆ ウェーブ
 - ◆ (オプション)説明
 - ◆ 開始日
 - ◆ 最終日
- 5 **保存**をクリックしてバッチのオブジェクトを作成し、**関連付け**ペインをアクティブ化します。
 - 6 (オプション)**関連付け**ペインで各タブをクリックし、関連コンポーネントの設定を行います。
参照先 [112 ページの「バッチの関連付けの設定」](#)
 - 7 (オプション)**完了済みに設定**をクリックします。
 - 8 **〔保存〕**をクリックします。
 - 9 **〔閉じる〕**をクリックします。

バッチの編集

バッチを設定し、その親プロジェクトが完成に近づくにつれて、バッチの日付および関連付けを変更する必要が生じる場合があります。システム管理者およびプロジェクトマネージャは、バッチを変更できます。

バッチを編集するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、**プランニング**を選択します。
- 2 **バッチ**タブを選択します。
- 3 バッチをダブルクリックして**〔バッチの編集〕**ダイアログを開き、バッチの詳細を表示します。
代わりに、バッチを選択してから**編集**をクリックしても構いません。
- 4 必要に応じて値を変更します。
- 5 (オプション)関連付けを表示または変更します。参照先 [112 ページの「バッチの関連付けの設定」](#)
- 6 (オプション)**完了済みに設定**をクリックします。
- 7 **〔保存〕**をクリックします。
- 8 **〔閉じる〕**をクリックします。

別のWaveへのバッチの移動

- 1 Webインタフェースで、ツールバーの**プランニング**を選択し、**バッチ**タブを選択します。
- 2 リストから、別のウェーブに移動するバッチを1つ以上選択します。バッチは、同じウェーブにあるものでも異なるウェーブにあるものでも構いません。複数のバッチを選択するには、Shiftを押しながら目的のバッチをクリックします。
- 3 **移動**をクリックします。
- 4 **〔移動〕**ダイアログで、目的のあて先ウェーブを選択し、**OK**をクリックします。
- 5 バッチに設定された日付と新しい親ウェーブに設定された日付の間で日付競合がある場合、日付の処理方法について初期設定を指定します。

たとえば、新しい親ウェブにスケジュールされたウィンドウに合うようにバッチの日付を変更できることを選択するか、または既存の日付を保持し、後で修正します。競合する日付は赤のフォントで表示されます。

バッチの日付が継承される場合、バッチは新しい親ウェブから日付を自動的に継承します。

- 6 [保存] をクリックします。
- 7 [閉じる] をクリックします。
- 8 競合している日付があるバッチそれぞれについて、バッチを選択し、編集をクリックし、日付を変更してから保存をクリックします。

バッチの関連付けの設定

バッチの[関連付け] ペインには、すべての関連付けが表示されます。システム管理者ユーザ、プロジェクトマネージャユーザ、およびプロジェクト設計者ユーザは、バッチの関連付けを設定できます。

ワークロードの状態に応じて、このとき一部のアクションが使用できない場合があります。バッチを保存し、後で戻ってきて情報を入力できます。

バッチにコンポーネントを関連付けるには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、**プランニング**を選択します。
- 2 **バッチ**タブを選択します。
- 3 バッチをダブルクリックして[バッチの編集] ダイアログを開き、バッチの詳細を表示します。
- 4 [関連付け] に下で各タブをクリックし、関連コンポーネントの設定を表示または変更します。
 - ◆ ワークロード - [151ページの第19章「ワークロード変換の設定」](#)を参照してください。
 - ◆ ユーザ
 - ◆ ダッシュボードビューア - [68 ページの「ダッシュボードビューアの役割」](#)を参照してください。
 - ◆ 마이그레이션스페셜리스트 - [68 ページの「마이그레이션스페셜리스트의 역할」](#)を参照してください。
 - ◆ 프로젝트設計者 - [67 ページの「프로젝트設計者の役割」](#)を参照してください。
 - ◆ プロジェクトマネージャ - [67 ページの「프로젝트マネージャの役割」](#)を参照してください。
- 5 (オプション)**完了済みに設定**をクリックします。
- 6 [保存] をクリックします。
- 7 [閉じる] をクリックします。

バッチの削除

バッチを削除できるのはシステム管理者ユーザおよびプロジェクトマネージャだけです。バッチを削除すると、PTMデータベースからバッチのすべてのスケジュールデータが削除されます。メニューのワークロードがインポート済み状態になりますが、関連するワークロード情報は削除されません。

バッチを削除するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、**プランニング**を選択します。
- 2 **バッチ**タブを選択します。
- 3 目的のバッチを選択し、**削除**、**はい**の順にクリックして削除を確認します。

15 アプリケーションの管理

PlateSpin Transformation Managerを使用すると、ワークロード変換で追跡するアプリケーションタイプを定義できます。

- [115 ページの「アプリケーションについて」](#)
- [115 ページの「アプリケーションの前提条件」](#)
- [115 ページの「アプリケーションの表示」](#)
- [116 ページの「アプリケーションの作成」](#)
- [116 ページの「スプレッドシートインポート中のアプリケーションの作成」](#)
- [116 ページの「アプリケーションの編集」](#)
- [117 ページの「アプリケーションとワークロードの関連付け」](#)
- [117 ページの「アプリケーションの削除」](#)

アプリケーションについて

アプリケーションでは、変換アクティビティの次の情報を追跡できます。

名前: 変換プロジェクトで一意的なアプリケーションのフレンドリ名。この名前は、文字または数字で始まる必要があります。文字、数字、および次の特殊文字のみ使用できます。使用できる特殊文字はスペース、ハイフン、アンダースコア、アポストロフィ、パーセント、アンパサンド、コンマ、およびピリオドです。

組織: プロジェクトの親組織の名前。

プロジェクト: アプリケーションコンポーネントの親プロジェクトの名前。

説明: (オプション)アプリケーションの簡単な説明。

アプリケーションの前提条件

アプリケーションコンポーネントを作成するとき、これを特定の組織およびプロジェクトと関連付ける必要があります。アプリケーションを作成するにはその前に、親組織およびプロジェクトを作成し、アプリケーションを作成するときにこれらを使用できるようにする必要があります。

アプリケーションの表示

表示オプションを使用すると、表示権限のみを持つユーザはアプリケーションの情報を表示できます。

アプリケーションの情報を表示するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、[プランニング](#)を選択します。
- 2 [アプリケーション](#)タブを選択します。

- 3 アプリケーションリストで、目的のアプリケーションを検索して見つけます。
- 4 アプリケーションを選択し、**表示**をクリックします。
- 5 操作を終了したら**閉じる**をクリックします。

アプリケーションの作成

システム管理者ユーザおよびプロジェクトマネージャはアプリケーションコンポーネントを作成できます。

アプリケーションを作成するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、**プランニング**を選択します。
- 2 **アプリケーション**タブを選択します。
- 3 **作成**をクリックします。
- 4 次の情報を指定します。
 - ◆ 名前
 - ◆ 組織
 - ◆ プロジェクト
 - ◆ (オプション)説明
- 5 **保存**をクリックしてバッチのオブジェクトを作成し、**関連付け**ペインをアクティブ化します。
- 6 **閉じる**をクリックします。

スプレッドシートインポート中のアプリケーションの作成

スプレッドシートインポート中にアプリケーションオブジェクトを作成することもできます。ワークロードごとに、1つ以上の**アプリケーション**列を追加します。アプリケーションがプロジェクトの既存のアプリケーションオブジェクトに一致しない場合は、インポートによってそれが作成されます。指定されたアプリケーションは自動的にワークロードに関連付けられます。詳細については、[194 ページの表 C-8 「アプリケーションのパラメータ」](#)を参照してください。

アプリケーションの編集

システム管理者およびプロジェクトマネージャは、アプリケーションを変更できます。

アプリケーションを編集するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、**プランニング**を選択します。
- 2 **アプリケーション**タブを選択します。
- 3 アプリケーションをダブルクリックして**アプリケーションの編集** ダイアログを開き、アプリケーションの詳細を表示します。
代わりに、アプリケーションを選択してから**編集**をクリックしても構いません。
- 4 必要に応じて値を変更します。

- 5 [保存] をクリックします。
- 6 [閉じる] をクリックします。

アプリケーションとワークロードの関連付け

[変換] ダイアログの [アプリケーション] パネルには、ワークロードに関連付けられたアプリケーションがすべて表示されます。システム管理者ユーザ、プロジェクトマネージャユーザ、およびプロジェクト設計者は、アプリケーションをワークロードに関連付けることができます。

アプリケーションをワークロードに関連付けるには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、**プランニング**を選択します。
- 2 **ワークロード**タブを選択します。
- 3 ワークロードをダブルクリックして [ワークロードの編集] ダイアログを開き、[アプリケーション] パネルにスクロールダウンし、ワークロードに関連付けられているアプリケーションを表示します。
- 4 **追加**をクリックしてアプリケーションの関連付けを追加します。
- 5 **削除**をクリックしてアプリケーションの関連付けを削除します。
- 6 [保存] をクリックします。
- 7 [閉じる] をクリックします。

スプレッドシートインポートで、ワークロードに指定するアプリケーションがワークロードに自動的に関連付けられます。[194 ページの表 C-8 「アプリケーションのパラメータ」](#) も参照してください。

アプリケーションの削除

アプリケーションを削除できるのはシステム管理者ユーザおよびプロジェクトマネージャだけです。

注: アプリケーションを削除すると、その関連付けが自動的に削除されます。これには、進行中および完了済みのワークロードに割り当てられている関連付けも含まれます。同じ関連付けを適用する場合、アプリケーション名および設定を編集するほうが適切かどうかを検討します。

アプリケーションを削除するには、次の手順に従います。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**プランニング**を選択します。
- 2 **アプリケーション**タブを選択します。
- 3 目的のアプリケーションを選択し、**削除**、**はい**の順にクリックして削除を確認します。

16 プロジェクトの監視

PlateSpin Transformation Managerには、プロジェクトおよび個々のワークロードのステータスとメトリックスを表示する機能が用意されています。

- ◆ [119 ページの「ダッシュボードの使用」](#)
- ◆ [122 ページの「プロジェクト、Wave、またはバッチの数と状態の表示」](#)
- ◆ [123 ページの「ワークロードの状態の表示」](#)

ダッシュボードの使用

PlateSpin Transformation Managerには、変換プロジェクトのサマリメトリックをダッシュボードに表示する機能が用意されています。

- ◆ ユーザが割り当てたプロジェクト、ウェーブ、またはバッチのメトリックのみ表示されます。
- ◆ プロジェクト、ウェーブ、およびバッチの進捗状況が表示されます。
- ◆ 状態、オペレーティングシステムおよび変換方式ごとにワークロードのメトリックが表示されます。
- ◆ 5分おきに状態および計算のジョブが実行されます。計算ジョブ実行中にワークロードの変更が行われると、**Needs Update (更新が必要です)**が表示されます。

ダッシュボードについて

PlateSpin Transformation Managerのダッシュボードには、割り当てた変換プロジェクト、ウェブ、またはバッチの統計が表示されます。

図 16-1 ダッシュボードのプロジェクト表示

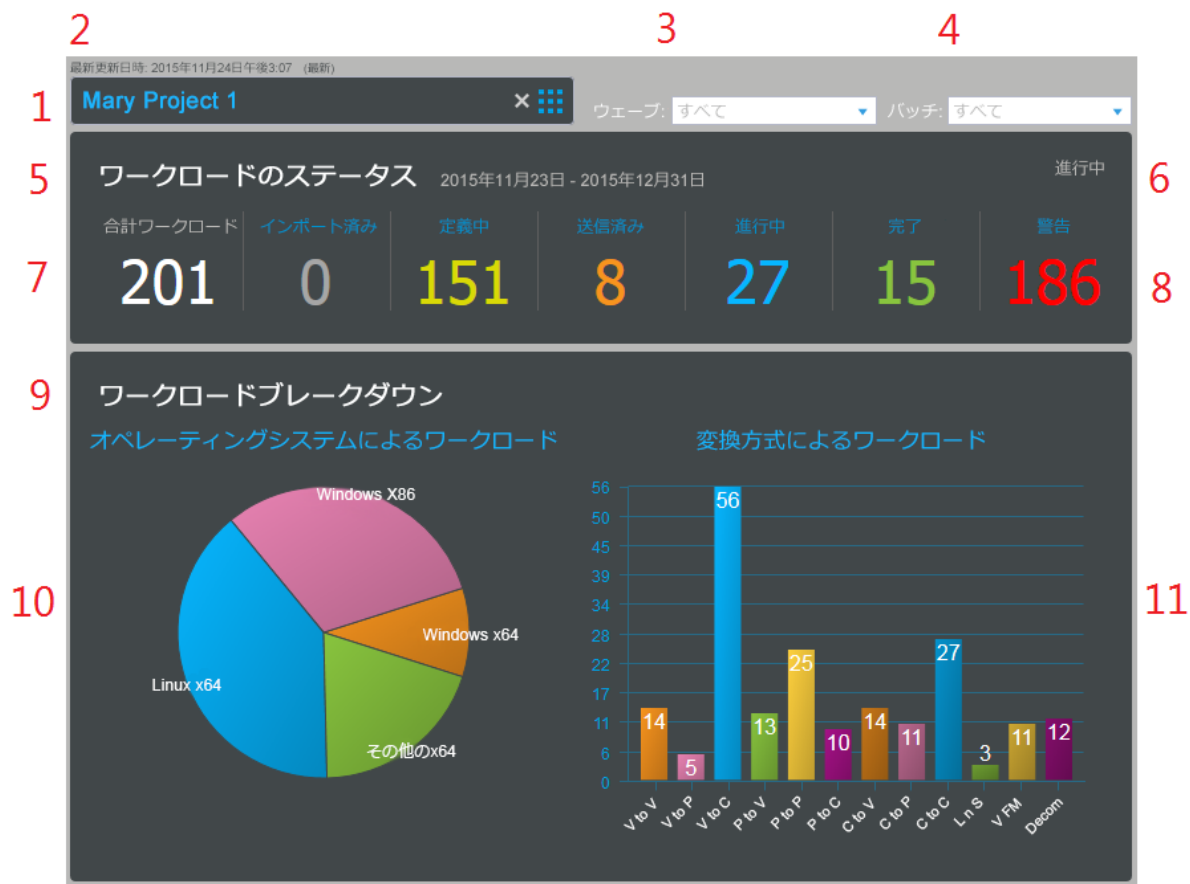


表 16-1 ダッシュボードの情報

キー	メトリック	説明
1	プロジェクト	複数のプロジェクトの役割を持っている場合、[プロジェクト] フィールドで表示するプロジェクトの情報を選択できます。 1つのプロジェクトの役割を持っている場合、[プロジェクト] フィールドおよび[プロジェクトセレクト] の設定は不変です。
2	最終更新日時	PTMサーバは、5分おきに各プロジェクトの状態および数をコンパイルします。このタイムスタンプによって、表示されている統計がどの程度新しいかがわかります。ダッシュボードを表示中に変更が行われると、「Needs update (更新が必要です)」メッセージも表示されます。 変更が行われなかった場合、「Up to date (最新)」メッセージが表示されます。

キー	メトリック	説明
3	ウェーブ	プロジェクトに複数のウェーブがある場合、[ウェーブ] フィールドで表示するウェーブの情報を選択できます。デフォルトの設定はすべてのウェーブです。
4	バッチ	プロジェクトに複数のバッチがある場合、[バッチ] フィールドで表示するバッチの情報を選択できます。デフォルトの設定はすべてのバッチです。
5	スケジュール	PTMIは、[Workload Status (ワークロードの状態)] ペインの上部に、現在表示されているプロジェクト、ウェーブ、またはバッチの開始日およびカットオーバー日を表示します。
6	プロジェクトの状態	プロジェクトの現在の状態。例: 進行中、クローズ
7	変換の状態	現在表示されているプロジェクト、ウェーブ、またはバッチの合計ワークロード数、およびカテゴリ(合計ワークロード、インポート済み、定義中、送信済み、進行中、完了、警告)ごとのワークロード数。 カテゴリのタイトルまたは値をクリックして、該当するメンバー項目を持つ [ワークロード] リストを開きます。 代わりに [詳細検索] ダイアログでヘルス>All Warning State (すべての警告状態) オプションを使用して、警告状態のワークロードをすべて表示できます。
8	Warning (警告)	この数には、次の条件の1つまたは複数当てはまるすべてのワークロード変換が含まれます。 ◆ 変換が障害状態である。 ◆ 変換が進行中になっていないが、変換開始日を過ぎている。 ◆ 変換が完了していないが、変換カットオーバー日を過ぎている。 ◆ 変換開始日とその親の開始日より前である(バッチ、ウェーブ、プロジェクト)。 ◆ 変換カットオーバー日とその親のカットオーバー日より後である。
9	ワークロードのブレイクダウン	ワークロードの特性に基づくワークロードのグラフィック表示。
10	オペレーティングシステムごとのワークロード	オペレーティングシステムのカテゴリそれぞれに現在表示されているプロジェクト、ウェーブ、またはバッチのワークロードの割合を示す円グラフ。この内訳は、親スケジュールコンテナに割り当てられているオペレーティングシステムの比率によって決まります。

キー	メトリック	説明
11	変換方式ごとのワークロード	変換方式カテゴリに現在表示されているプロジェクト、ウェーブ、またはバッチのワークロード数を示す棒グラフ。 ◆ 仮想から仮想(VからV) ◆ 仮想から物理(VからP) ◆ 仮想からクラウド(VからC) ◆ 物理から仮想(PからV) ◆ 物理から物理(PからP) ◆ 物理からクラウド(PからC) ◆ クラウドから仮想(CからV) ◆ クラウドから物理(CからP) ◆ クラウドからクラウド(CからC) ◆ リフトアンドシフト(LnS) ◆ 仮想ファイル移動(VFM) ◆ 廃止(Decom)

プロジェクト、Wave、またはバッチの数と状態の表示

プロジェクト、Wave、およびバッチのリストの**Counts (カウント)**列には、次のサマリヘルスおよび状態の数が含まれています。

合計

プロジェクトの合計ワークロード数。

Def

現在定義中の状態である合計ワークロード数。これは通常 [Needs Additional Info (追加情報が必要です)] または [Ready to be Submitted (送信準備完了)] の状態のワークロード数です。

反映

定義済みで変換開始待機中の合計ワークロード数。

InProg

現在変換中状態の合計ワークロード数。

完了

現在完了状態の合計ワークロード変換数。

Warn

現在1つまたは複数の警告状態であるプロジェクトの合計ワークロード数。

プロジェクト、Wave、バッチ、およびワークロードのリストの [状態] 列では、現在の状態が報告されます。

ワークロードの状態の表示

〔ワークロード〕 タブの〔状態〕 列に変換ワークフローの状態とマイグレーションサブ状態が表示されます。状態またはサブ状態メッセージをマウスオーバーして、ツールヒント形式で詳細を表示できます。

B グローバルプランニングオブジェクト

In PlateSpin Transformation Managerでは、グローバルプランニングオブジェクトがすべてのプロジェクトに使用できます。

- ♦ [125 ページの「ユーザの役割」](#)
- ♦ [126 ページの「ワークロードタイプ」](#)
- ♦ [126 ページの「ワークロード変換方式」](#)
- ♦ [126 ページの「オペレーティングシステムのファミリ」](#)
- ♦ [127 ページの「オペレーティングシステムのアーキテクチャ」](#)
- ♦ [127 ページの「クラウドプロバイダ」](#)
- ♦ [127 ページの「仮想テクノロジー\(ハイパーバイザ\)」](#)
- ♦ [127 ページの「ボリュームタイプ」](#)
- ♦ [128 ページの「ストレージマッピング戦略」](#)
- ♦ [128 ページの「ストレージオブジェクト」](#)
- ♦ [128 ページの「ディスクコピー方式」](#)
- ♦ [128 ページの「圧縮レベル」](#)
- ♦ [129 ページの「マイグレーションサーバのタイプ」](#)
- ♦ [129 ページの「ホスト検出の状態」](#)
- ♦ [129 ページの「プロジェクトフェーズ」](#)
- ♦ [129 ページの「変換フェーズ」](#)
- ♦ [130 ページの「ワークロードヘルス」](#)
- ♦ [130 ページの「ワークフローステータス」](#)
- ♦ [131 ページの「マイグレーションサブステータス」](#)

ユーザの役割

- ♦ システム管理者
- ♦ プロジェクトマネージャ
- ♦ プロジェクト設計者
- ♦ マイグレーションスペシャリスト
- ♦ ダッシュボードビューア

詳細については、[66 ページの「役割」](#)を参照してください。

ワークロードタイプ

- ◆ クラウド
- ◆ 物理
- ◆ 仮想

ワークロード変換方式

- ◆ クラウドからクラウド(CからC)
- ◆ クラウドから物理(CからP)
- ◆ クラウドから仮想(CからV)
- ◆ 廃止(Decom)
- ◆ リフトアンドシフト(LnS)
- ◆ 物理からクラウド(PからC)
- ◆ 物理から物理(PからP)
- ◆ 物理から仮想(PからV)
- ◆ 仮想からクラウド(VからC)
- ◆ 仮想ファイル移動(VFM)
- ◆ 仮想から物理(VからP)
- ◆ 仮想から仮想(VからV)

詳細については、[170 ページの「ワークロード変換の編集」](#)を参照してください。

オペレーティングシステムのファミリー

- ◆ CentOS
- ◆ Citrix
- ◆ Linux
- ◆ NetWare/OES
- ◆ その他
- ◆ Red Hat Linux
- ◆ Solaris
- ◆ SUSE Linux
- ◆ Ubuntu
- ◆ 不明
- ◆ VMware ESX
- ◆ Windows

詳細については、[59ページのセクション6「オペレーティングシステムの設定」](#)を参照してください。

オペレーティングシステムのアーキテクチャ

- ◆ x32 (32ビット)
- ◆ x64 (64ビット)

詳細については、[59ページのセクション6「オペレーティングシステムの設定」](#)を参照してください。

クラウドプロバイダ

クラウドプロバイダのオプションは、業界のマーケットシェアでトップのプロバイダを示しています。

- ◆ Amazon Web Services
- ◆ Google
- ◆ Microsoft Azure
- ◆ なし
- ◆ Rackspace
- ◆ vCloud

詳細については、[209 ページの「ホストリソースについて」](#)を参照してください。

仮想テクノロジー(ハイパーバイザ)

ハイパーバイザオプションは、業界のマーケットシェアでトップの仮想化テクノロジーを示しています。

- ◆ Citrix XenServer
- ◆ Linux KVM
- ◆ Microsoft Hyper-V
- ◆ なし
- ◆ SUSE Xen
- ◆ VMware

詳細については、[209 ページの「ホストリソースについて」](#)を参照してください。

ボリュームタイプ

- ◆ ローカル
- ◆ NAS (Network Attached Storage)
- ◆ SAN (ストレージエリアネットワーク)
- ◆ システム

ストレージマッピング戦略

- ◆ ソースと同じ
- ◆ Custom
- ◆ すべてのボリュームを1つのディスクに作成
- ◆ ディスクごとに1つのボリューム

ストレージオブジェクト

- ◆ ディスク
- ◆ ダイナミックミラー
- ◆ ダイナミックRAID 5
- ◆ ダイナミックシンプル
- ◆ ダイナミックスパン
- ◆ ダイナミックストライプ
- ◆ パーティション
- ◆ スワップ
- ◆ ボリューム
- ◆ ボリュームグループ

ディスクコピー方式

ディスクコピー方式は、ソースワークロードとターゲットワークロード間のデータ転送に使用されます。

- ◆ ドライバありブロック
- ◆ ドライバなしブロック
- ◆ ファイル

圧縮レベル

圧縮レベルは、レプリケーション時のデータ転送で使用可能な圧縮方式を示します。

- ◆ Fast
- ◆ [データポイントの最大値]
- ◆ なし
- ◆ Optimal (最適)

マイグレーションサーバのタイプ

- ◆ PlateSpin Migrate
- ◆ その他(任意のマイグレーションツールがこのカテゴリを使用して定義可能)

ホスト検出の状態

[ホスト] リストには、[状態] 列にホスト検出の状態が表示されます。

- ◆ Discovering (検出中)
- ◆ Discovery Failed (検出の失敗)
- ◆ Discovery Succeeded (検出の成功)
- ◆ Discovered

プロジェクトフェーズ

[プロジェクト] リストには、[状態] 列にプロジェクトフェーズが表示されます。

- ◆ 計画
- ◆ 変換準備完了
- ◆ In Progress
- ◆ 完了

変換フェーズ

変換フェーズは変換計画ワークフローのオプションです。[ワークロード] リストには、[状態] 列に変換フェーズが表示されます。単一のワークロードについては[変換] ダイアログを使用して、1つ以上の選択したワークロードについては[Bulk Status Change(バルク状態変更)] ダイアログを使用して、変換フェーズを手動で設定できます。

- ◆ Ready to be Imported(インポート準備完了)
- ◆ インポート済み
- ◆ 追加情報が必要
- ◆ 送信準備完了
- ◆ 送信済み、開始日を待機
- ◆ 変換準備完了
- ◆ 変換中
- ◆ 変換失敗
- ◆ カットオーバー前テスト
- ◆ カットオーバー前テスト不合格
- ◆ カットオーバー前テスト合格

- ◆ Ready to Cut Over, Waiting for Cutover Date (カットオーバー準備完了、カットオーバー日を待機)
- ◆ Ready to Cut Over (カットオーバー準備完了)
- ◆ カットオーバー
- ◆ カットオーバー後テスト
- ◆ カットオーバー後テスト不合格
- ◆ カットオーバー後テスト合格
- ◆ 完了
- ◆ 再オープン
- ◆ 取り消し
- ◆ Error (エラー)

ワークロードヘルス

ワークロードヘルスはワークロード変換のエラー状態を報告します。ワークロードの詳細検索でヘルスオブジェクトを検索できます。

- ◆ All
- ◆ OK
- ◆ Warning (警告)
- ◆ Error (エラー)
- ◆ All Warning states (すべての警告状態)
- ◆ Other warnings (その他の警告)
- ◆ State warnings (状態の警告)
- ◆ Sub State warnings (サブ状態の警告)
- ◆ All Planning warnings (すべての計画の警告)
- ◆ Start date is before batch start date (開始日はバッチ開始日より前)
- ◆ Cutover date is after batch end date (カットオーバー日はバッチ終了日より後)
- ◆ Invalid date range (無効な日付範囲)
- ◆ Not started, but start date has passed (開始されていないが、開始日が過ぎた)
- ◆ カットオーバーされていないが、カットオーバー日が過ぎた

ワークフローステータス

ステータスはワークロードの変換ワークフローを反映しています。ワークロードの詳細検索でステータスオブジェクトを検索できます。

- ◆ All
- ◆ All Defining states (すべて定義中の状態)
- ◆ All Failed states (すべて失敗した状態)
- ◆ All In-progress states (すべて進行中の状態)

- ◆ All Submitted states (すべて送信済み状態)
- ◆ 完了
- ◆ カットオーバー
- ◆ Error (エラー)
- ◆ インポート済み
- ◆ インポート
- ◆ 追加情報が必要
- ◆ カットオーバー後テスト
- ◆ カットオーバー後テスト不合格
- ◆ カットオーバー後テスト合格
- ◆ カットオーバー前テスト
- ◆ カットオーバー前テスト不合格
- ◆ カットオーバー前テスト合格
- ◆ Ready to Cut Over (カットオーバー準備完了)
- ◆ Ready to Cut Over, waiting for Cutover Date (カットオーバー準備完了、カットオーバー日を待機)
- ◆ インポート準備完了
- ◆ 送信準備完了
- ◆ 変換準備完了
- ◆ 再オープン
- ◆ 送信済み、開始日を待機
- ◆ 変換失敗
- ◆ 変換中
- ◆ 取り消し

マイグレーションサブステータス

PlateSpinマイグレーション環境では、PlateSpin Migrateサーバがマイグレーションプロセスのイベントを報告します。ワークロードの詳細検索でサブステータスオブジェクトを検索できます。

- ◆ All
- ◆ Adding workload failed (ワークロードの追加失敗)
- ◆ Adding workload to migration server (マイグレーションサーバへのワークロードの追加中)
- ◆ Automated testing (自動化テスト)
- ◆ Automated testing failed (自動化テスト不合格)
- ◆ Automated testing stalled. (自動化テストが停止しました。)Attempting auto-recovery.(自動検出の試行中。)
- ◆ Automated testing succeeded (自動化テスト合格)

- Automatic migrations not supported for this workload (自動マイグレーションがこのワークロードでサポートされていない)
- Canceling create test cutover environment (テストカットオーバー環境の作成のキャンセル中)
- Canceling cutover (カットオーバーのキャンセル中)
- Canceling incremental replication (増分レプリケーションのキャンセル中)
- Canceling initial replication (最初のレプリケーションのキャンセル中)
- Canceling reverting test cutover (テストカットオーバーの復帰のキャンセル中)
- Canceling target VM prepare (ターゲットVM準備のキャンセル中)
- Canceling target host discovery (ターゲットホスト検出のキャンセル中)
- Custom import scripts failed (カスタムインポートスクリプト失敗)
- Custom import scripts succeeded (カスタムインポートスクリプト成功)
- Cutover canceled (カットオーバーキャンセル)
- Cutover in progress (カットオーバー進行中)
- Discovering target host (ターゲットホストの検出中)
- Discovery succeeded, ready to plan (検出成功、計画準備完了)
- Incremental replication (増分レプリケーション)
- Incremental replication canceled (増分レプリケーションがキャンセルされました)
- Incremental replication failed (増分レプリケーションに失敗しました)
- Incremental replication paused while testing (増分レプリケーションがテスト中に一時停止しました)
- Incremental replication stalled. (増分レプリケーションが停止しました)Attempting auto-recovery.(自動検出の試行中。)
- Incremental replication succeeded (増分レプリケーションが成功しました)
- Initial replication (最初のレプリケーション)
- Initial replication canceled (最初のレプリケーションがキャンセルされました)
- Initial replication failed (最初のレプリケーションに失敗しました)
- Initial replication stalled. (最初のレプリケーションが停止しました)Attempting auto-recovery.(自動検出の試行中。)
- Initial replication succeeded (最初のレプリケーションが成功しました)
- Initial workload discovery (最初のワークロード検出)
- Initial workload discovery failed (最初のワークロード検出に失敗しました)
- Initial workload discovery stalled. (最初のワークロード検出が停止しました。)Attempting auto-recovery.(自動検出の試行中。)
- Initial workload discovery succeeded (最初のワークロード検出が成功しました)
- Manual tests failed (手動テスト不合格)
- Manual tests in progress (手動テスト進行中)
- Manual tests succeeded (手動テスト合格)
- Migrate Server insufficient licenses (Migrateサーバにライセンス数が不足している)

- ◆ Migrate Server not configured Migrate (サーバが設定されていない)
- ◆ Migration cutover process failed (マイグレーションカットオーバープロセスに失敗しました)
- ◆ Migration cutover progress stalled. (マイグレーションカットオーバーの進行が停止しました。)Attempting auto-recovery.(自動検出の試行中。)
- ◆ Migration environment prepare failed (マイグレーション環境準備に失敗しました)
- ◆ Migration environment prepare stalled. (マイグレーション環境準備が停止しました。)Attempting auto-recovery.(自動検出の試行中。)
- ◆ Post-cutover testing failed (カットオーバー後テスト不合格)
- ◆ Post-cutover testing in progress (カットオーバー後テスト進行中)
- ◆ Post-cutover testing stalled. (カットオーバー後テストが停止しました。)Attempting auto-recovery.(自動検出の試行中。)
- ◆ Post-cutover testing succeeded (カットオーバー後テスト合格)
- ◆ Pre-migration validation (マイグレーション前検証)
- ◆ Pre-migration validation failed (マイグレーション前検証に失敗しました)
- ◆ Pre-migration validation stalled. (マイグレーション前検証が停止しました。)Attempting auto-recovery.(自動検出の試行中。)
- ◆ Pre-migration validation succeeded (マイグレーション前検証が成功しました)
- ◆ Preparing target (VM ターゲットVMの準備中)
- ◆ Ready to replicate (複製準備完了)
- ◆ Removing the completed workload details failed (完了したワークロード詳細の削除に失敗しました)
- ◆ Removing the completed workload details succeeded (完了したワークロード詳細の削除が成功しました)
- ◆ Removing the completed workload from the migration server (マイグレーションサーバから完了したワークロードを削除中)
- ◆ Reverting test cutover (テストカットオーバーを元に戻しています)
- ◆ Reverting test cutover failed (テストカットオーバーの復帰に失敗しました)
- ◆ Reverting test cutover stalled. (テストカットオーバーの復帰が停止しました。)Attempting auto-recovery.(自動検出の試行中。)
- ◆ Running custom import scripts (カスタムインポートスクリプトの実行中)
- ◆ Target VM prepare canceled (ターゲットVM準備がキャンセルされました)
- ◆ Target host discovered (ターゲットホストが検出されました)
- ◆ Target host discovery canceled (ターゲットホストの検出がキャンセルされました)
- ◆ Target host discovery failed (ターゲットホストの検出に失敗しました)
- ◆ Target host discovery stalled. (ターゲットホストの検出が停止しました。)Attempting auto-recovery.(自動検出の試行中。)
- ◆ Test cutover failed (テストカットオーバーに失敗しました)
- ◆ Test cutover in progress (テストカットオーバーが進行中)
- ◆ Test cutover stalled. (テストカットオーバーが停止しました。)Attempting auto-recovery.(自動検出の試行中。)

- ◆ Test cutover succeeded (テストカットオーバーが成功しました)
- ◆ Unhandled error (ハンドルされていないエラー)
- ◆ User-provided note (ユーザによって入力された注記)
- ◆ Waiting for physical host to register (登録する物理ホストの待機中)
- ◆ Waiting for user to complete manual tests (ユーザが手動テストを完了するのを待機中)
- ◆ Waiting for user to initiate prepare (ユーザが準備を開始するのを待機中)
- ◆ Withdrawing workload (ワークロードの取り消し中)
- ◆ Workload add stalled. (ワークロードの追加が停止しました。)Attempting auto-recovery.(自動検出の試行中。)
- ◆ Workload added to migration server (マイグレーションサーバにワークロードが追加されました)
- ◆ Workload being removed from migration serve (ワークロードがマイグレーションサーバから削除されています)
- ◆ Workload configure failed (ワークロードの設定に失敗しました)
- ◆ Workload configure stalled. (ワークロードの設定が停止しました。)Attempting auto-recovery.(自動検出の試行中。)
- ◆ Workload not configured (ワークロードが設定されていません)
- ◆ Workload removed from migration server (ワークロードがマイグレーションサーバから削除されました)
- ◆ Workload target removed from migration server and host (ワークロードターゲットがマイグレーションサーバとホストから削除されました)

IV ワークロード

PlateSpin Transformation Managerを使用すると、各変換プロジェクトのクラウドマシン、物理マシン、および仮想マシンの情報をインポートできます。各ワークロードの元の設定を使用して、適切な先ワークロードおよびターゲットネットワークを定義できます。

- ◆ [137ページの第17章「ワークロードの概要」](#)
- ◆ [143ページの第18章「ワークロードのインポートおよび検出」](#)
- ◆ [151ページの第19章「ワークロード変換の設定」](#)
- ◆ [181ページの付録 C「バルクインポートスプレッドシート」](#)

17 ワークロードの概要

ワークロードは、現在の運用モードから将来の運用モードに変換するクラウドマシン、物理マシン、または仮想マシンです。シングルインポート方式またはバルクインポート方式を使用して、プロジェクトの元のワークロードの情報を変換データベースに追加できます。マシン情報を再インポートして、元のワークロード情報を変更できます。

注: プロジェクトにPlateSpin Migrate ConnectorおよびPlateSpin Migrateサーバを使用する場合、インポートに成功すると、自動検出プロセスがトリガされ、インポートしたソースワークロードそれぞれの情報が追加されます。

元のワークロードのインポート時、PlateSpin Transformation Managerは、元の設定に基づいて対応する提案ワークロードを自動作成します。個別編集およびバルク編集を使用して、提案するワークロードをカスタマイズできます。

- ◆ [137 ページの「自動化モード」](#)
- ◆ [137 ページの「ワークロードタイプ」](#)
- ◆ [138 ページの「ワークロード変換方式」](#)
- ◆ [138 ページの「OSタイプ」](#)
- ◆ [139 ページの「カスタムのフィールド」](#)
- ◆ [139 ページの「ネットワーク接続とアクセス要件」](#)

自動化モード

自動化モードでは、ユーザのPlateSpinマイグレーション環境内のワークロードマイグレーションを計画し、PlateSpin Migrateサーバでサポートされているマイグレーションを自動的に実行できます。マイグレーション環境全体を設定することなく計画を開始できます。

プロジェクトの計画モードから自動化モードに切り替える場合、ストレージおよびNICの提案するワークロード設定は元のワークロードの設定に戻ります。それ以外の場合、以前にインポートされたすべてのワークロード設定は変更されません。以降にインポートされたワークロードについて、マイグレーションサーバは自動的に [Auto Assign (自動割り当て)] に設定されます。

ワークロードタイプ

PlateSpin Transformation Managerは、次のワークロードタイプをサポートしています。

- ◆ **クラウド:** ワークロードは、Amazon Web Services、Google Cloud Platform、Microsoft Azure、Rackspace、VMware vCloudなどのクラウドプロバイダのIaaS(infrastructure-as-a-service)環境にホストされています。
- ◆ **物理:** ワークロードは、タワー、ラック、ブレードサーバなどの物理マシンにホストされています。

- ◆ **仮想:** ワークロードは、Citrix XenServer、LinuxKVM、Microsoft Hyper-V、SUSE Xen、VMwareなどのHypervisorを実行している仮想化ホストサーバにホストされている仮想マシンです。

ワークロード変換方式

PlateSpin Transformation Managerは、次のワークロード変換方式の計画をサポートしています。

- ◆ クラウドからクラウド(CからC)
- ◆ クラウドから物理(CからP)
- ◆ クラウドから仮想(CからV)
- ◆ 物理からクラウド(PからC)
- ◆ 物理から物理(PからP)
- ◆ 物理から仮想(PからV)
- ◆ 仮想からクラウド(VからC)
- ◆ 仮想から物理(VからP)
- ◆ 仮想から仮想(VからV)
- ◆ リフトアンドシフト(LnS)
- ◆ 仮想ファイル移動(VFM)
- ◆ 廃止(Decom)

廃止の場合、[変換] ダイアログに元の設定、プロジェクト、ウェーブ、バッチ、およびスケジュールが表示されます。PTMには提案するワークロード設定は表示されませんが、PTMデータベースに値が格納されます。詳細検索、バルク編集、およびバルク状態変更アクションには提案する値が含まれ、間接的な編集を追跡します。したがって、ワークロードを廃止状態にしたり、廃止以外の状態にしたりできます。

自動化モードでは、仮想化ハイパーバイザがVMwareであり、仮想マシンがVMware Clusterホスト上にある2つの変換方式の自動実行をサポートします。

- ◆ 物理から仮想
- ◆ 仮想から仮想

すべての他の変換方式は、自動マイグレーションにはサポートされていないため、計画モードでは自動的に設定されます。

OSタイプ

システム管理者は、[System Configuration (システム設定)] で製品に使用できるオペレーティングシステムのタイプのリストを管理できます。

変換プロジェクトにOSタイプを追加する必要がある場合、Transformation Managerの管理者に連絡してください。[59ページのセクション6「オペレーティングシステムの設定」](#)を参照してください。

カスタムのフィールド

各プロジェクトにカスタムのフィールドを定義できます。プロジェクトがプロジェクトセクタで選択された場合、[ワークロード] リストにカスタムフィールド名および列ヘッダを含めることができます。PTMIは、[詳細検索] フォームおよび[Bulk Edit (バルク編集)] フォームに対してプロジェクト用に定義されたカスタムのフィールドも追加します。詳細については、[102 ページの「プロジェクトのカスタムフィールド名の設定」](#)を参照してください。

ネットワーク接続とアクセス要件

PlateSpin Migrate Connectorでは、PlateSpin Transformation Managerサーバまたは固有のプロジェクトへの割り当てに基づいて、以下のリソースへのネットワーク接続が必要です。

- Transformation Managerに割り当てられたPlateSpin Transformation Managerサーバ
- ソースワークロード
- ターゲットVMware Clusterホスト
- PlateSpin Migrateサーバ

ご利用の環境がネットワーク接続とアクセスに対する以下の要件を満たしている必要があります。

- [140 ページの「イベントメッセージング」](#)
- [140 ページの「PlateSpin検出環境」](#)
- [141 ページの「PlateSpinマイグレーション環境」](#)
- [141 ページの「PlateSpin Transformation Manager用のセキュアHTTP設定」](#)

イベントメッセージング

PlateSpin Transformation Managerでは、登録済みリスナーに対してワークロードワークフロー状態変更メッセージを発行します。各Migrate Connectorインスタンスは割り当てられたTransformation Managerサーバまたはプロジェクトで登録され、イベントをリスンし、プロジェクト内のMigrateサーバ上でこれらのイベントに対する適切なアクションを実行します。

PlateSpinマイグレーション環境内で、各PlateSpin Migrateサーバは登録済みリスナーに対してワークロードマイグレーション状態変更メッセージを発行します。Migrate Connectorインスタンスはプロジェクト内のMigrateサーバで登録され、メッセージをリスンして、Transformation Managerの適切なプロジェクトとワークロードにこれらのメッセージを配布します。

表 17-1では、検出および自動マイグレーションのメッセージングに必要なプロトコルとポートを示しています。これらのメッセージには、イベントと状態変更が反映されていますが、機密情報は含まれていません。

表 17-1 ネットワークプロトコルおよびポートのイベントメッセージング要件

トラフィック	ネットワークプロトコルおよびポート	その他の要件
イベントメッセージング	61613 TCP、着信 (非セキュア)	このポートは、Transformation Managerアプライアンス上で、デフォルトで開いています。 自動マイグレーションの場合、プロジェクトに割り当てられたPlateSpin Migrateサーバ上でこのポートを開きます。

PlateSpin検出環境

ワークロード検出では、ソースワークロードおよびファイアウォールに対して着信ping (ICMPエコー応答およびICMPv4-Inエコー要求)を有効にする必要があります。PlateSpinはIPv4のみをサポートします。ワークロード検出に必要なソフトウェア、ネットワーク、およびポート設定については、表 17-2を参照してください。

表 17-2 ネットワークアクセスおよび通信のワークロード検出要件

検出ターゲット	ネットワークプロトコルおよびポート	その他の要件
Windowsワークロード	◆ ICMP、着信 ◆ SMB (TCP 445または139)	◆ Microsoft .NET Framework 2.0 SP2、3.5 SP1、または4.0 ◆ ドメイン管理者の資格情報またはビルトイン管理者特権
Linuxワークロード	◆ ICMP、着信 ◆ SSH (TCP 22、着信)	ルートレベルのアクセス。ルート以外のアカウントの使用については、 ナレッジベースの記事 7920711 (https://www.netiq.com/support/kb/doc.php?id=7920711) を参照してください。

ホスト検出では、ターゲットVMwareホストおよびファイアウォールに対して着信ping (ICMPエコー応答およびICMPv4-Inエコー要求)を有効にする必要があります。PlateSpinはIPv4のみをサポートします。ホスト検出に必要なソフトウェア、ネットワーク、およびポート設定については、[表 17-3](#)を参照してください。

表 17-3 ネットワークアクセスおよび通信のホスト検出要件

検出ターゲット	ネットワークプロトコルおよびポート	その他の要件
VMware Clusterホスト	◆ ICMP、着信 ◆ SMB(TCP445または139、着信)	管理者の役割を持つVMwareアカウント

PlateSpin Transformation Managerサーバ上および各PlateSpin Migrate Connector上でイベントメッセージングに必要なポートを開いていることを確認します。詳細については、[140 ページの「イベントメッセージング」](#)を参照してください。

PlateSpinマイグレーション環境

[表 17-4](#)では、PlateSpin Transformation Managerで自動マイグレーションにMigrate REST APIを使用できるように、各Migrateサーバ上に、ファイアウォールで開くポートを提供しています。また、Migrateサーバのマイグレーションサーバリソースは、Migrate管理者ユーザ向けの有効な資格情報リソースを提供する必要があります。

表 17-4 ネットワークアクセスおよび通信のREST API要件

REST APIトラフィック	ネットワークプロトコルおよびポート	アクセス
HTTPS (セキュア)	ポート443、TCP、着信および発信	Migrateサーバ用の管理者ログイン資格情報
HTTP (非セキュア)	ポート80、TCP、着信および発信	Migrateサーバ用の管理者ログイン資格情報

PlateSpin Transformation Managerサーバおよび各PlateSpin Migrateサーバ上でイベントメッセージングに必要なポートを開いていることを確認します。詳細については、[140 ページの「イベントメッセージング」](#)を参照してください。

PlateSpin Transformation Managerでは、ご利用のマイグレーション環境が、ネットワーク通信に対するPlateSpin Migrate要件を満たしている必要があります。『[PlateSpin Migrate 12.2 ユーザガイド](#)』の「[Requirements for Migration](#)」を参照してください。

PlateSpin Transformation Manager用のセキュアHTTP設定

PlateSpin Migrate ConnectorとPlateSpin Transformation Managerの間のセキュアHTTPS接続のために、PlateSpin Transformation ManagerアプライアンスVM上のJetty SSL設定は最新の推奨セキュリティ設定に基づいて設定されています。

18 ワークロードのインポートおよび検出

大規模変換プロジェクトは通常、数百から数千のワークロードが関与します。Transformation Managerシステムで各ワークロードを個別に定義すると時間がかかります。PlateSpin Transformation Managerには、そのプロセスを簡素化するためのツールが用意されています。スプレッドシートからワークロード詳細をインポートするか、ソースワークロードに関する詳細を取得する自動検出プロセスを利用できます。

- ◆ [143 ページの「ワークロードの自動検出について」](#)
- ◆ [145 ページの「ワークロードの表示」](#)
- ◆ [145 ページの「スプレッドシートを使用したワークロードのインポート」](#)
- ◆ [147 ページの「自動検出を使用したワークロードのインポート」](#)
- ◆ [149 ページの「ワークロード検出の再試行」](#)
- ◆ [150 ページの「ワークロードの再検出」](#)

ワークロードの自動検出について

プロジェクトでPlateSpin Migrate Connectorを使用できる場合、PlateSpin Transformation Managerは、ソースワークロードがプロジェクトにインポートされると、そのワークロードの自動検出を提供します。必要に応じて、ワークロードの詳細を再検出することもできます。

- ◆ [143 ページの「ソースワークロードの検出要件」](#)
- ◆ [144 ページの「インポートおよび検出プロセス」](#)
- ◆ [144 ページの「検出失敗のトラブルシューティング」](#)

ソースワークロードの検出要件

自動検出機能を使用してインポートを試行する前に、PlateSpin検出環境を設定する必要があります。

- ◆ **PlateSpin Transformation Manager 1.1**

PlateSpin Transformation Managerを設定し、検出するワークロードのプロジェクトを設定します。

- ◆ **PlateSpin Migrate Connector 1.1**

ソースワークロードと同じネットワークにMigrate Connectorを展開し、それをPTMサーバまたはサーバ上のプロジェクトに割り当てます。展開情報については、『[PlateSpin Migrate Connector クイックスタート](#)』の「[展開要件](#)」を参照してください。

PlateSpin Transformation Manager アプライアンスには、PTMサーバと連携するように事前設定されているMigrate Connectorインスタンスが含まれます。独自のSUSE Linux Enterprise Server 11 SP4サーバにMigrate Connectorインスタンスを別々に展開することもできます。詳細については、『[PlateSpin Migrate Connector Quick Start](#)』を参照してください。

注: ワークロードの検出または再検出を試みる前に、Migrate Connectorが稼働しているどうかを確認してください。

- ◆ **ソースワークロード**

- ◆ Connectorは、次のプラットフォームのWindowsおよびLinuxソースワークロードの自動検出をサポートしています。
 - ◆ x86およびx64アーキテクチャを備えた物理マシン
 - ◆ VMware Clusterホスト上のx86およびx64アーキテクチャを備えた仮想マシン(VM)クラウドまたは他の仮想ワークロードタイプについては、スプレッドシートインポート方式を使用してワークロード詳細を追加できます。
- ◆ ソースワークロードが稼働しているかどうか確認してください。
- ◆ ネットワーク接続がPlateSpin Migrate Connectorとソースワークロード間で機能していることを確認してください。

- ◆ **資格情報**

ソースワークロード検出に使用する資格情報リソースを作成します。資格情報リソースは、ホスト上のターゲットVMへのレプリケーションに後でも使用されます。

- ◆ **ネットワーク接続およびアクセス**

自動検出用のネットワーク接続およびアクセス情報については、[140 ページの「PlateSpin検出環境」](#)を参照してください

インポートおよび検出プロセス

インポートおよび自動検出プロセスでは次のアクションを実行します。

1. 既存のワークロードに一致しない場合は、インポートにより新しいワークロードオブジェクトが作成されます。
2. FQDNが提供されない場合、ワークロード名としてIPアドレスを使用して、次のページ更新時に、[ワークロード] リストに新しいワークロードが表示されます。
3. ワークロードにログインするために提供された資格情報リソースを使用して、新しいワークロードごとに自動検出が開始されます。検出ステータスが[ワークロード] リストと[変換] ダイアログに表示されます。
4. ワークロードが正常に検出されると、次回ページの更新時に、[ワークロード] リストまたは[変換] ダイアログに新たに検出された詳細が表示されます。検出されたホスト名は、必要に応じて、ワークロード名としてIPアドレスまたはFQDNと置き換えられます。

検出失敗のトラブルシューティング

次のいずれかの状態により、検出が失敗します。

- ◆ Migrate Connectorが使用できない。
- ◆ ソースワークロードが自動検出でサポートされていない。
- ◆ ソースワークロードのオペレーティングシステムのファイアウォールで、必要なポートが開いていない。
- ◆ ソースワークロードの資格情報リソースが提供されていない。
- ◆ 資格情報リソースのユーザ名とパスワードの値が無効である。

- ソースワークロードが検出時に実行されていない。
- 提供されたIPアドレスまたはFQDNが、UPS、プリンタ、ネットワーク装置などの非コンピュータデバイスによって使用されている。ワークロードがデータベースから自動的に削除されている。

Migrate Connector、ネットワーク、または資格情報の問題を解決した後で、サポートされるソースワークロードの検出を再試行できます。[149 ページの「ワークロード検出の再試行」](#)を参照してください。

検出に失敗したワークロードの検出を再試行し、ワークロードがインポート済み変換ワークフローフェーズになりワークロード未設定サブステータスを持つ場合、ワークロードに有効な資格情報リソースが割り当てられていないことを示す場合があります。初期検出を続行する場合は、[変換] ダイアログに移動して、[ワークロード] パネルに資格情報リソースを割り当てます。[203 ページの「資格情報とワークロードの関連付け」](#)を参照してください。

ワークロードの表示

ワークロードは、変換ライフサイクル全体を通して [ワークロード] タブからワークロードを管理します。ソースワークロードに関する情報をインポートして、このページからこれらの情報の主な設定とステータスを追跡します。

- 1 **プロジェクトセレクト**でプロジェクトを選択します。
1つのプロジェクトのみの権利がある場合は、そのプロジェクトが自動的に選択されます。
- 2 Webインタフェースで、ツールバーの**プランニング**を選択します。
- 3 **ワークロードタブ**を選択します。
- 4 フィルタを使用してリストの簡易検索を実行します。詳細検索  を使用して、さまざまなワークロード設定、カスタムのフィールド、状態、およびヘルスを検索します。詳細については、[169 ページの「フィルタおよび詳細検索を使用したワークロードの検索」](#)を参照してください。

次でフィルタ...  ...

- 5 **状態**を表示して、ワークロードの状態に従います。

スプレッドシートを使用したワークロードのインポート

大規模変換プロジェクトは通常、数百から数千のワークロードが関与します。Transformation Managerシステムで各ワークロードを個別に定義すると時間がかかります。[ワークロード] ページの [Spreadsheet Import (スプレッドシートインポート)] ダイアログを使用して、専用フォーマットされたスプレッドシートから単一プロジェクトのワークロードの情報をインポートできます。スプレッドシートの準備と検証に関する詳細については、[181 ページの付録C「バルクインポートスプレッドシート」](#)を参照してください。

注: プロジェクトでPlateSpin Migrate Connectorを使用できる場合は、ワークロードが正常にインポートされると、ソースワークロードに関する詳細情報を取得する自動検出プロセスが開始されます。自動検出の詳細については、[144 ページの「インポートおよび検出プロセス」](#)および[143 ページの「ソースワークロードの検出要件」](#)を参照してください。

このタスクを実行できるユーザ: システム管理者、プロジェクトマネージャ、プロジェクト設計者

スプレッドシートを使用してプロジェクトの複数のワークロードをインポートするには、次の手順を実行します。

- 1 Webインタフェースで、ツールバーの**プランニング**を選択し、**ワークロード**タブを選択します。
- 2 **Spreadsheet Import (スプレッドシートのインポート)**をクリックします。
- 3 **プロジェクト**リストから、スプレッドシートのワークロードに使用するプロジェクトを選択します。
運用のグローバルスコープがプロジェクトに設定されている場合、**プロジェクト**フィールドにはその値が事前に入力されています。別のプロジェクトを選択するには、[SpreadsheetImport (スプレッドシートのインポート)] ダイアログを終了し、グローバルスコープを選択解除するか、またはスコープを該当のプロジェクトに再割り当てし、[ステップ 2](#)に戻って再試行します。
- 4 **ブラウズ**をクリックし、指定したプロジェクトに追加するワークロード情報を格納している [Bulk Import (バルクインポート)] スプレッドシート(.xlsファイル)を見つけて選択します。
- 5 **検証**をクリックし、**Validation Results (検証結果)**を表示して必要なすべての情報が存在し、適切なフォーマットになっていることを確認します。
たとえば、エントリに必要な情報がない、フィールドで不明なオプションを使用している、値に対して不正なフォーマットを使用しているなどが報告される場合があります。
- 6 スプレッドシートにエラーが含まれている場合:
 - 6a ダイアログ下部の**Get Results (結果の取得)**をクリックし、注釈付きのスプレッドシートを生成し、ファイルをコンピュータに保存します。
 - 6b [Bulk Import (バルクインポート)] スプレッドシートの誤りを修正し、ファイルを保存します。
 - 6c [ステップ 5](#)に戻り、エラー報告がなくなるまで検証と修正のプロセスを繰り返します。
- 7 スプレッドシートが検証された後、**インポート**をクリックします。
- 8 正常にインポートされた後、ダイアログ下部の**Get Results (結果の取得)**をクリックし、**保存**をクリックします。
PlateSpin Transformation Managerは、最終ステータスのインポート済みとともに、割り当てられたワークロードIDをスプレッドシートに追加します。NICとディスクの情報を提供した場合は、それらのコンポーネント用に割り当てられたUUIDも追加されます。
- 9 Webインタフェースで、**プランニング>ワークロード**の順に選択し、ワークロードのリストを表示します。
- 10 (Connector)スプレッドシートに1つ以上のワークロードの資格情報が含まれていた場合、**状態**を表示し、ワークロードの自動検出を確認します。

自動検出を使用したワークロードのインポート

プロジェクトでPlateSpin Migrate Connectorを使用できる場合は、[インポートオプション](#)を使用してワークロードをインポートして、自動検出プロセスを利用してそれらのワークロードに関する詳細情報を追加できます。

- 単一のワークロードに関する詳細情報をインポートして検出するためのIPv4アドレスまたはFQDNを指定します。
- 最大256個のワークロードの詳細情報を同時にインポートして検出するためのIPv4アドレスの範囲を指定します。

ワークロードは、1つの変換プロジェクトに1つのインスタンスしか持つことができません。プロジェクト内にワークロードがすでに存在する場合は、そのワークロードに対して検出プロセスは実行されません。また、自動検出では、コンピュータネットワークに接続されていないデバイスは無視されます。

このタスクを実行できるユーザ: システム管理者、プロジェクトマネージャ、プロジェクト設計者

- [147 ページの「インポートについて」](#)
- [148 ページの「IPアドレスまたはFQDNによる単一ワークロードのインポート」](#)
- [148 ページの「IPアドレス範囲内のワークロードのインポート」](#)

インポートについて

1つまたは範囲のインポートのための「インポート」ダイアログでは、次の情報が必要です。

組織: プロジェクトの親組織を選択します。

プロジェクト: ワークロードの親プロジェクトを選択します。

説明: (オプション)ワークロードの簡単な説明を指定します。このテキストは、デフォルトでは「ワークロード」リストに表示されます。

IPまたはFQDN: 1つのアドレスまたはアドレス範囲を指定します。

- **シングル:** ワークロードのIPアドレスまたは完全修飾ドメイン名を指定します。PTMIは、この情報を使用してワークロードを検出し、これと通信します。ワークロードは、1つの変換プロジェクトに1つのインスタンスしか持つことができません。

例:

sqlserver5.paris.digitalair.com
192.168.1.1

- **範囲:** ワークロード範囲の最初のIPv4アドレスを指定し、この範囲の最後のIPv4アドレスの4番目のオクテット値を指定します。オクテット範囲の有効な値は0～255です。PTMIは、この情報を使用してワークロードを検出し、これと通信します。

例:

10.10.1.0 – 255
10.10.10.16 – 48

資格情報: PTMは、資格情報を使用してワークロードを検出し、これと通信します。試行用に1～4個の資格情報リソースを指定できます。インポートでは指定された資格情報リソースごとに試行します。検出が成功するためには、1つ以上の指定された資格情報リソースが有効になっている必要があります。

IPアドレスまたはFQDNによる単一ワークロードのインポート

単一のワークロードに関する詳細情報をインポートして検出するための単一のIPv4アドレスまたはFQDNを指定できます。

単一のワークロードをインポートするには、次の手順を実行します。

- 1 Webインターフェースで、ツールバーの**プランニング**を選択し、**ワークロード**タブを選択します。
- 2 **インポート**を選択します。
- 3 [Import a Workload (ワークロードのインポート)] ダイアログで、次の情報を指定します。
 - ◆ 組織
 - ◆ プロジェクト
 - ◆ 説明
 - ◆ IPまたはFQDN
例:

sqlserver5.paris.digitalair.com
192.168.1.1
 - ◆ 資格情報
試行用に1～4個の資格情報リソースを指定します。
- 4 **インポート**をクリックします。
- 5 **閉じる**をクリックして [ワークロード] リストに戻ります。
- 6 [ワークロード] リストで、ワークロードの検出状態を監視します。
- 7 (検出の失敗)検出に失敗した場合は、ワークロードの状態をマウスオーバーして問題を理解してから、問題を解決して検出を再試行します。

IPアドレス範囲内のワークロードのインポート

最大256個のワークロードの詳細情報を同時にインポートして検出するためのIPv4アドレスの範囲を指定できます。

指定したIPアドレス範囲内のワークロードをインポートするには、次の手順を実行します。

- 1 Webインターフェースで、ツールバーの**プランニング**を選択し、**ワークロード**タブを選択します。
- 2 **インポート**を選択します。
- 3 [ワークロード] ダイアログの [Import a Range (範囲をインポート)] で、次の情報を指定します。
 - ◆ 組織
 - ◆ プロジェクト
 - ◆ 説明

- ◆ IPまたはFQDN

範囲内の最初のIPアドレスと範囲内の最後のオクテットを指定します。

例:

10.10.1.0 – 255

10.10.10.16 – 48

- ◆ 資格情報

範囲内の各ワークロードに対して試行するための1～4個の資格情報リソースを指定します。

- 4 **インポート**をクリックします。
- 5 **閉じる**をクリックして [ワークロード] リストに戻ります。
- 6 [ワークロード] リストで、範囲内の各ワークロードの検出プロセスを監視します。
- 7 (検出の失敗)検出に失敗した場合は、ワークロードの状態をマウスオーバーして問題を理解してから、問題を解決して、検出に失敗したワークロードの検出を再試行します。

ワークロード検出の再試行

初期検出に失敗した場合は、ワークロードの検出を再試行することをお勧めします。検出失敗の考えられる原因については、[144 ページの「検出失敗のトラブルシューティング」](#)を参照してください。

1つ以上のワークロードの検出を再試行するには、次の手順を実行します。

- 1 Webインターフェースで、ツールバーの**プランニング**を選択し、**ワークロードタブ**を選択します。
- 2 詳細検索を使用して、初期検出に失敗した1つ以上のワークロードを選択します。**サブ状態**リストで、**Initial workload discovery failed (初期ワークロード検出の失敗)**を選択します。
- 3 [ワークロード] リストをクリックして詳細検索を終了します。
- 4 各ワークロードについて、**Initial workload discovery failed (初期ワークロード検出の失敗)**状態をマウスオーバーして、検出に失敗した理由に関する詳細情報を表示します。
- 5 絞り込まれたリストで1つまたは複数のワークロードを選択します。
- 6 リストの上に表示されている操作の中から**Retry (再試行)**をクリックして、選択した各ワークロードの検出を開始します。

単一ワークロードの検出を再試行するには、次の手順を実行します。

- 1 Webインターフェースで、ツールバーの**プランニング**を選択し、**ワークロードタブ**を選択します。
- 2 フィルタと詳細検索を使用して、目的のワークロードを見つけて選択してから、**編集**をクリックします。
- 3 ヘッダ領域の**Retry (再試行)**をマウスオーバーして、初期検出に失敗した理由に関する情報を表示します。
- 4 **Retry (再試行)**をクリックして検出を開始します。

ワークロードの再検出

実行する変換を送信する前にソースワークロードを変更した場合は、ワークロードを再検出することをお勧めします。[変換] ダイアログまたは [Bulk Edit (バルク編集)] オプションを使用して提案するワークロードを編集した後は、再検出されたワークロードの情報は元のワークロードのみに当てはまります。

1つ以上のワークロードを再検出するには、次の手順を実行します。

- 1 Webインタフェースで、ツールバーの **プランニング** を選択し、**ワークロード** タブを選択します。
- 2 詳細検索を使用して、初期検出に失敗した1つ以上のワークロードを選択します。**サブ状態** リストで、**Discovery succeeded, ready to plan (検出成功、計画準備完了)** を選択します。
- 3 [ワークロード] リストをクリックして詳細検索を終了します。
- 4 絞り込まれたリストで1つまたは複数のワークロードを選択します。
- 5 リストの上に表示されている操作の中から **Rediscover (再検出)** をクリックして、選択した各ワークロードの再検出を開始します。

単一ワークロードを再検出するには:

- 1 Webインタフェースで、ツールバーの **プランニング** を選択し、**ワークロード** タブを選択します。
- 2 フィルタと詳細検索を使用して、目的のワークロードを見つけて選択してから、**編集** をクリックします。
- 3 ヘッダ領域で、**Discovery succeeded, ready to plan (検出成功、計画準備完了)** というサブ状態を確認します。
- 4 **Rediscover (再検出)** をクリックして再検出を開始します。

19 ワークロード変換の設定

ワークロードをインポートし、それらに関する情報を検出したら、各ワークロードの提案する変換を設定する準備が整います。

- ◆ 151 ページの「自動マイグレーションについて」
- ◆ 153 ページの「変換ダイアログについて」
- ◆ 167 ページの「ワークロードリストの表示」
- ◆ 168 ページの「ワークロードのNICおよびボリュームサマリの表示」
- ◆ 169 ページの「フィルタおよび詳細検索を使用したワークロードの検索」
- ◆ 170 ページの「ワークロード変換の詳細の表示」
- ◆ 170 ページの「ワークロード変換の編集」
- ◆ 171 ページの「レプリケーションに使用するソースNICの設定」
- ◆ 172 ページの「送信後のワークロード変換の編集」
- ◆ 173 ページの「複数の提案するワークロードのバルク編集」
- ◆ 177 ページの「複数の提案するワークロードのバルク状態変更」
- ◆ 177 ページの「Migrateサーバからの編集の同期」
- ◆ 178 ページの「変換履歴の表示」
- ◆ 178 ページの「変換履歴へのユーザ注記の追加」
- ◆ 179 ページの「送信されたワークロードの取り消し」
- ◆ 180 ページの「ワークロードの削除」

自動マイグレーションについて

PlateSpinマイグレーション環境で、PlateSpin Transformation Managerは、物理マシンおよびVMware仮想マシンからVMwareClusterホストのターゲット仮想マシンに対して自動マイグレーションを提供します。

- ◆ 151 ページの「自動展開要件」
- ◆ 152 ページの「自動プロセス」
- ◆ 152 ページの「自動マイグレーション失敗のトラブルシューティング」

自動展開要件

自動マイグレーションの実行を試みる前に、PlateSpinマイグレーション環境を設定する必要があります。

- ◆ **PlateSpin Transformation Manager 1.1**

PlateSpin Transformation Managerを設定し、プロジェクトを設定して、ワークロードとホストを検出します。

- ◆ **PlateSpin Migrate Connector 1.1**

PlateSpin Migrate Connectorがプロジェクトに使用できる必要があります。展開情報については、『[PlateSpin Migrate Connector クイックスタート](#)』の「[展開要件](#)」を参照してください。

- ◆ **PlateSpin Migrate 12.2**

PlateSpin Migrateサーバはネットワークに展開される必要があります。展開情報については、『[PlateSpin Migrate 12.2 ユーザガイド](#)』の「[Planning Your PlateSpin Migration Environment](#)」を参照してください。

初期計画の詳細を使用せずに、マイグレーションサーバリソースを作成できます。ワークロードの変換計画の「自動割り当て」を選択すると、PlateSpin Migrate Connectorで、プロジェクトに作成するマイグレーションサーバリソースの中からPlateSpin Migrateサーバ割り当てを管理できるようになります。

- ◆ **サポートされている変換**

Connectorは、次のソースワークロードとターゲットVMホストに対してのみ自動マイグレーションをサポートします。

- ◆ x86およびx64アーキテクチャを備えた物理マシン
- ◆ VMware Clusterホスト上の仮想マシン(VM)
- ◆ ターゲットVMware Clusterホスト

他のワークロードタイプの場合は、手動またはサードパーティ製のマイグレーションツールを使用します。

- ◆ **ソースワークロード**

ソースワークロードが稼動しているかどうか確認してください。

- ◆ **ターゲットホスト**

VMware Clusterホストはターゲットホストとして使用できる必要があります。初期計画の詳細を使用せずにホストリソースを作成できます。ホスト検出情報については、[209 ページの「ホストリソースについて」](#)を参照してください。

- ◆ **ネットワーク接続およびアクセス**

次のネットワーク接続が機能していることを確認します。

- ◆ PlateSpin Migrate Connectorとソースワークロード間
- ◆ PlateSpin Migrate ConnectorとPlateSpin Migrateサーバ間
- ◆ ソースネットワークとターゲットネットワーク間

自動マイグレーション用のネットワーク接続およびアクセス情報については、[141 ページの「PlateSpinマイグレーション環境」](#)を参照してください。

自動プロセス

PlateSpinマイグレーション環境内で自動マイグレーションがどのように機能するかについては、[16 ページの「PlateSpinマイグレーション環境」](#)を参照してください。

自動マイグレーション失敗のトラブルシューティング

次のいずれかの状態により、マイグレーションが失敗します。

- ◆ Migrate Connectorが使用できない。

- ◆ 割り当てられたMigrateサーバが使用できない。
- ◆ ターゲットVMware Clusterホストが使用できない。
- ◆ ソースワークロードが自動マイグレーションでサポートされていない。
- ◆ ターゲットワークロードが自動マイグレーションでサポートされていない。
- ◆ ターゲットホストが自動マイグレーションでサポートされていない。
- ◆ ソースワークロードのオペレーティングシステムのファイアウォールで、必要がポートが開いていない。
- ◆ ソースワークロードの資格情報リソースが提供されていない。
- ◆ Migrateサーバの資格情報リソースが提供されていない。
- ◆ ターゲットVMware Clusterホストの資格情報リソースが提供されていない。
- ◆ 資格情報リソースのユーザ名とパスワードの値が無効である。
- ◆ ソースワークロードがマイグレーション実行時に実行されていない。

変換ダイアログについて

〔変換〕ダイアログでそれぞれの変換を計画します。これには、元のワークロード、提案するワークロード、および変換状態についての情報が含まれます。このダイアログを使用すると、提案するワークロードおよびワークロードの変換状態を変更できます。

〔変換〕ダイアログでは、提案する値のフォントの色がデータの状態を示します。

- ◆ **明るい灰色:** セクションが直接編集されていない場合、提案するフィールド値は明るい灰色(淡色)です。各提案するフィールド値は、ソースワークロードのインポート済みまたは検出済みの値から継承されます。〔変換計画〕セクションで、各フィールド値はその親のバッチ、ウェーブ、またはプロジェクト値から継承されます。
- ◆ **灰色:** セクションが直接編集され、値が表示される元の値に一致する場合は、提案するフィールド値は灰色です。そのセクションの編集アクションが有効な場合は、提案する値は変更可能です。
- ◆ **青のイタリック:** フィールド値はそのインポート済みまたは検出済みの値から変更されています。

〔変換〕ダイアログのセクションが直接編集されていない場合、提案するデフォルトまたはインポート済みの値に対する変更が間接的に行われています。そうでない場合、変更が直接的または間接的に行われている可能性があります。フィールドへの変更のソースおよび履歴は追跡されません。

- ◆ **赤:** セクション見出しは、そのフィールドのいずれかに対してエラーまたは警告が存在する場合、赤い太字の書体で表示されます。赤のエラー状態は、フィールドラベルの横に表示されます。たとえば、必要な値がない場合、エラーが存在します。

このダイアログを使用すると、ワークロード変換の次の情報を表示または変更できます。

- ◆ [154 ページの「ヘッダ」](#)
- ◆ [154 ページの「ワークロードIDおよび検出アドレス」](#)
- ◆ [155 ページの「〔変換〕ダイアログのURL」](#)
- ◆ [155 ページの「\[エラーと警告\]」](#)
- ◆ [155 ページの「ステータスと再試行」](#)

- ◆ 158 ページの「マイグレーションサブステータス」
- ◆ 158 ページの「検出ステータスと再検出」
- ◆ 158 ページの「最終更新日時」
- ◆ 158 ページの「ライセンスの状態」
- ◆ 158 ページの「変換計画」
- ◆ 160 ページの「マイグレーションの設定」
- ◆ 161 ページの「ワークロード」
- ◆ 162 ページの「場所」
- ◆ 163 ページの「ネットワークインタフェース」
- ◆ 164 ページの「ネットワークインタフェースのテスト」
- ◆ 165 ページの「ストレージ」
- ◆ 167 ページの「アプリケーション」
- ◆ 167 ページの「カスタムのフィールド」
- ◆ 167 ページの「変換履歴」

ヘッダ

〔変換〕ダイアログのヘッダは、ワークロードの次の情報を提供します。

- ◆ FQDN(完全修飾ドメイン名)
- ◆ プロジェクト名
- ◆ ウェーブ名または<ウェーブが割り当てられていません>
- ◆ バッチ名または<バッチが割り当てられていません>

ワークロードIDおよび検出アドレス

〔変換〕ダイアログのヘッダ領域の任意のオブジェクトをマウスオーバーし、選択したワークロードの次のIDを表示します。

- ◆ 変換ID
- ◆ 元のワークロードID
- ◆ 提案するワークロードID
- ◆ マイグレーションサーバのワークロードID

この値は、PlateSpin Migrateサーバが割り当てられた後で認識されます。この値は、指定したPlateSpin Migrateサーバのデータベースの対応するワークロード用に使用されます。

- ◆ 検出アドレス

これは、ワークロードの検出およびワークロードとの通信に使用されるIPアドレスです。

〔変換〕ダイアログのURL

〔変換〕ダイアログの右上端のナビゲーションURLアイコンをクリックして、選択したワークロード変換のURLを表示します。新しいタブのリンクを開く、またはクリップボードにURLをコピーできます。コピーしたURLをステークホルダーに電子メールで送り、選択したページに直接移動できるようにすることも可能です。ユーザは、アクセスするにはログインする必要があります。

〔エラーと警告〕

エラーまたは警告がある場合、〔変換〕ダイアログは、ワークロード変換に関連付けられている合計数を報告します。エラーまたは警告のあるセクションでは、セクションのタイトルおよび不足しているフィールド値または無効な情報は赤のフォントで表示されます。



エラーがあります



警告があります

注: 障害状態で、それが復元可能な状態である場合、**再試行するオプション**を使用できます。

ステータスと再試行

ステータスは、ワークロードが変換ワークフローのどこにあるのかを示します。[図 19-1](#)は、ステータス、さまざまなワークロードの状態、および変換プロセスのワークフローを設定するユーザを示します。太い線は、各状態のデフォルトの次の状態を示します。各ワークロード状態および可能性があるその次の状態の説明は、[表 19-1](#)を参照してください。

一部の状態は、ワークロードの割り当てバッチの開始日またはカットオーバー日に関連付けられています。その日が過ぎたが期待されたアクションがまだ発生しない場合、状態が警告を報告します。

注: 障害状態で、それが復元可能な状態である場合、**再試行するオプション**を使用できます。

図 19-1 変換ワークフロー

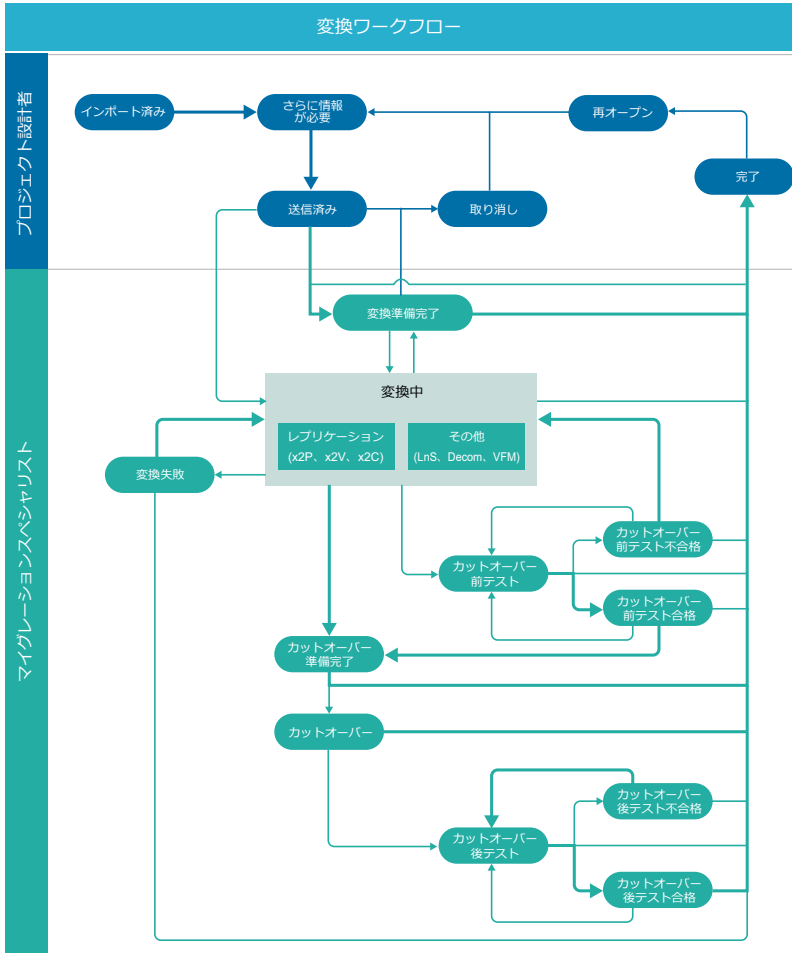


表 19-1 状態の説明および次の状態

状態	説明	可能性がある次の状態
インポート済み	ワークロード情報は、元のワークロードおよび提案するワークロードとしてインポートされています。インポートした情報をまだ変更していません。ワークロードは、ワークロード情報の編集を開始するまでライセンス供与されません。	追加情報が必要(編集時に自動)
追加情報が必要	〔変換〕ダイアログで直接、または〔バッチの編集〕アクションを通じて、インポートしたワークロード情報を変更しました。一部の必須の値が存在しない、または解決すべきエラーがあります。編集には、ワークロードのスケジュールの設定、提案するワークロード設定の変更、または必須の値の追加が含まれます。	送信準備完了(エラーがない場合に自動) 送信済み、開始日を待機
送信準備完了	必須の値がすべて存在し、解決すべきエラーがありません。割り当てられたバッチの開始日が過ぎている場合、赤の警告通知が〔状態〕列に表示されます。	送信済み、開始日を待機

状態	説明	可能性がある次の状態
送信済み、開始日を待機	ワークロードは変換するために送信され、割り当てられたバッチの開始日はまだ来ていません。開始日になると、ワークロードの状態は自動的に変換準備完了に変更されます。マイグレーションスペシャリストは、開始日の前にワークロードの状態を送信済みから変換中に手動で変更できます。	変換準備完了 変換中 完了 取り消し
変換準備完了	ワークロードは、変換する準備ができていて、割り当てられたバッチの開始日が過ぎました。	完了 変換中 取り消し
取り消し	送信したワークロードは、変換プロセスを続行する前に計画した変換を変更する必要があるため、取り消されました。	追加情報が必要
変換中	マイグレーションスペシャリストは、レプリケーション方式(x2P、x2V、またはx2C)またはその他の方式(LnS、Decom、およびVFM)などワークロードの変換プロセスを開始しました。	カットオーバー準備完了 完了 カットオーバー前テスト 変換失敗 変換準備完了
変換失敗	元のワークロードから提案するワークロードへの変換をしようとしたが失敗しました。	変換中 完了
カットオーバー準備完了	変換するワークロードの準備ができていて、カットオーバー日を待っています。	完了 カットオーバー カットオーバー後テスト
カットオーバー前テスト	変換するワークロードのテストが進行中です。	カットオーバー前テスト合格 カットオーバー前テスト不合格 完了
カットオーバー前テスト合格	変換するワークロードのテストに合格し、ワークロードはカットオーバーの準備ができています。	カットオーバー準備完了 完了 カットオーバー前テスト
カットオーバー前テスト不合格	変換するワークロードのテストに不合格でした。変換を繰り返すかまたはワークロードを再テストします。	変換中 完了 カットオーバー前テスト
カットオーバー	ワークロードがそのターゲットネットワークにカットオーバーされました。	完了 カットオーバー後テスト
カットオーバー後テスト	カットオーバー後、カットオーバーワークロードのテストが進行中です。	カットオーバー後テスト合格 カットオーバー後テスト不合格 完了
カットオーバー後テスト合格	カットオーバーワークロードのテストに合格しました。	完了 カットオーバー後テスト
カットオーバー後テスト不合格	カットオーバーワークロードのテストが不合格でした。必要に応じてワークロードを再テストします。	カットオーバー後テスト 完了
完了	ワークロード変換プロセスは完了しました。	再オープン

状態	説明	可能性がある次の状態
再オープン	完了したワークロード変換は、変換プロセスを続行する前に計画した変換を変更する必要があるため、再度開きました。	追加情報が必要

マイグレーションサブステータス

自動マイグレーション中に、PlateSpin Migrateサーバは、マイグレーションサブステータスとも呼ばれる、ワークロードのマイグレーション状態イベントを報告します。[詳細検索] ダイアログでサブステータス状態を検索できます。

報告可能なマイグレーション状態イベントのリストについては、[131 ページの「マイグレーションサブステータス」](#)を参照してください。

検出ステータスと再検出

プロジェクトでPlateSpin Migrate Connectorを使用できる場合は、ヘッダ領域のステータスの下にワークロードの検出ステータスが表示されます。

正常に検出されると、**Rediscovery (再検出)** オプションを使用できます。NICの追加や割り当てられたデータストアの変更など、ソースワークロードを手動で変更する場合は再検出を開始する場合があります。[150 ページの「ワークロードの再検出」](#)を参照してください。

最終更新日時

[最終更新日時] フィールドには、[変換] ダイアログで直接行われた最終変更のタイムスタンプ、または提案するワークロードまたは状態のインポート、検出、および変更を通じて間接的に行われた最終変更のタイムスタンプが表示されます。

ライセンスの状態

[変換] ダイアログのヘッダ領域の右下端にライセンスの状態が表示されます。ライセンス済み(緑)アイコンをマウスオーバーし、ライセンス日を表示します。



ライセンス済み



ライセンスなし



ライセンスを使用できません

変換計画

[変換計画] パネルでは、ワークロード変換について次の情報を指定できます。

- **プロジェクト:** ワークロードの親プロジェクト。
- **ウェブ:** 指定したバッチの親ウェブ。
- **バッチ:** このワークロードにスケジュールされた親バッチ。

- ◆ **開始日:** ワークロード変換に計画された開始日。この日付は、その親バッチの実行ウィンドウ内、かつカットオーバー日の前にする必要があります。
 - ◆ **時間:** マイグレーションのためのワークロードレプリケーションを開始する時刻を指定します。時刻は、マイグレーションを実行するために使用するPlateSpin Migrateサーバのタイムゾーンの時刻です。
- ◆ **カットオーバーの日時:** ワークロード変換に計画されたカットオーバー日。この日付は、その親バッチの実行ウィンドウ内にする必要があります。
 - ◆ **時間:** カットオーバーの実行を開始する時刻を指定します。時刻は、マイグレーションを実行するために使用するPlateSpin Migrateサーバのタイムゾーンの時刻です。
- ◆ **変換方式:** このワークロード用に使用する変換方式。選択肢は、元のワークロードのワークロードタイプによって決まります。138 ページの「[ワークロード変換方式](#)」を参照してください。
- ◆ **マイグレーションサーバ:** 元のワークロードを提案するワークロードに移行する際に使用するマイグレーションサーバのリソース。マイグレーションサーバを選択するにはその前に、まず **リソース>マイグレーションサーバ**でプロジェクトのマイグレーションサーバのリソースを作成する必要があります。215ページの第23章「[マイグレーションサーバリソースの管理](#)」を参照してください。

注: マイグレーションサーバの選択は「自動割り当て」を有効にしている場合は無効です。

URLおよび資格情報のない不完全な状態でマイグレーションサーバのリソースを保存できます。この場合、「**マイグレーションサーバ**」フィールドの「**変換計画**」パネルにマイグレーションサーバのリソース名および**未設定**状態が表示されます。マイグレーションサーバを環境に後で展開する場合、マイグレーションサーバのリソースをそのURLおよび資格情報を使用して更新する必要があります。リソース状態はその関連付けられているワークロードのすべてに対して自動的に更新されます。

- ◆ **Auto Assign (自動割り当て):** このチェックボックスをオンにすると、PlateSpin Migrateサーバにマイグレーションジョブが負荷分散的に自動割り当てされるようになります。自動化モードでは、固有のマイグレーションサーバリソースを各ワークロードに割り当てる代替手段として、自動割り当て機能を使用できます。

Migrate Connectorはラウンドロビン負荷分散を使用して、プロジェクト内のPlateSpin Migrateサーバのすべてにわたってワークロードマイグレーションジョブを均等に分散します。ラウンドロビン用に現在実行中のMigrateサーバのすべてを検出します。新しいワークロードマイグレーション要求を受信すると、Connectorは使用可能な容量とライセンスの順番で次のMigrateサーバにワークロードを割り当てます。

ワークロードがMigrateサーバに割り当てられると、PlateSpin Migrateのワークロードへのリンクがワークロードの「**変換**」ダイアログで使用可能になります。そのリンクをたどって、割り当てられたMigrateサーバ上のワークロードに直接アクセスできます。

注: Windows Clusterマイグレーションの場合、PlateSpin Migrateサーバは『[PlateSpin Migrate 12.2 ユーザガイド](#)』の「[Migrating Windows Clusters](#)」で説明される前提条件を満たしている必要があります。自動割り当て機能を使用する場合は、プロジェクトのすべてのMigrateサーバがこれらの前提条件を満たしていることを確認します。

- ◆ **保留状態:** このチェックボックスをオンにすると、ワークロードが「**On Hold (保留状態)**」状態になり、ワークロードが進行不能になります。このチェックボックスをオフにすると、保留状態が解除されます。「**On Hold (保留状態)**」状態のワークロードは、「**ワークロード**」リストで淡色表示されます。

マイグレーションの設定

「マイグレーションの設定」パネルでは、レプリケーション環境のデフォルト動作に関する情報が表示されます。

一般設定

- ◆ **ディスクコピー方式:** ソースディスクからターゲットディスクへの正確なボリュームデータコピーを作成するための方式です。データ転送のオプション:
 - ◆ **ドライバありブロック:** ソースワークロードに特殊なドライバを動的にインストールするディスク転送方式。ブロックレベルでのボリュームデータ転送が容易になります。この方式ではスナップショットが使用されます(使用可能な場合)。PlateSpin Migrateでは、すべてのLinuxワークロードに対してこのオプションを使用することが要求されます。
 - ◆ **ドライバなしブロック:** Windowsワークロード用のドライバなしデータ転送方式。この方式では、スナップショットが使用されるか(使用可能な場合)、MD5ベースレプリケーションによるドライバなしの同期が使用されます。
 - ◆ **ファイル:** ファイル単位でデータをコピーして変更内容を複製するWindowsワークロード用のデータ転送方式。
- ◆ **ドライバのインストール:** ディスクコピー方式として「ドライバありブロック」を選択する場合は、マイグレーションプロセス中のどのタイミングでソースワークロードにドライバをインストールするのかを指定できます。
 - ◆ **準備:** ソースワークロードに必要なデータ転送ソフトウェアをインストールし、ワークロードのレプリケーションの準備としてターゲットワークロードを作成します。
 - ◆ **最初のレプリケーション:** ソースワークロードに必要なデータ転送ソフトウェアをインストールし、ワークロードの最初の完全レプリケーションを開始します。
- ◆ **圧縮レベル:** ターゲットワークロードにレプリケーションを転送する前に、ワークロードデータに適用する圧縮のレベルを指定します。
 - ◆ **高速:** ソースで消費されるCPUリソースは最小になりますが、圧縮率は低くなります。
 - ◆ **Optimal (最適):** (推奨) ソースで消費されるCPUリソースとその圧縮率が最適なものになります。
 - ◆ **[最大]:** ソースで消費されるCPUリソースは最大になりますが、圧縮率は高くなります。
 - ◆ **なし:** 圧縮しません。
- ◆ **日々の増分レプリケーションの実行:** このチェックボックスをオンにすると、ターゲットワークロードへの日次増分レプリケーションが有効になります。
 - ◆ **時間:** 増分レプリケーションジョブを実行する時刻を指定します。時刻は、マイグレーションを実行するために使用するPlateSpin Migrateサーバのタイムゾーンの時刻です。デフォルトの実行時刻は、PlateSpin Migrateサーバのタイムゾーンの午前1時です。
- ◆ **データの暗号化:** このチェックボックスをオンにすると、転送するデータを暗号化できるようになります。
- ◆ **ワークフローの一時停止:** このチェックボックスをオンにすると、マイグレーション設定とワークロード準備プロセスの間にワークフローを一時停止できるようになります。
- ◆ **自動カットオーバー:** このチェックボックスをオンにすると、カットオーバー日付に達したときにワークロードの自動カットオーバーが実行されます。
- ◆ **テストカットオーバーでレプリケーションを実行:** このチェックボックスをオンにすると、テストカットオーバーの実行前に増分レプリケーションを実行できます。

- ◆ **カットオーバーでレプリケーションを実行:** このチェックボックスをオンにすると、カットオーバーの実行前に増分レプリケーションを実行できます。
- ◆ **カットオーバー中にソースをシャットダウン:** このチェックボックスをオンにすると、カットオーバー中にソースワークロードをシャットダウンできます。
- ◆ **カットオーバー中にターゲットをシャットダウン:** このチェックボックスをオンにすると、カットオーバー中にターゲットワークロードをシャットダウンできます。

レプリケーションネットワーク

- ◆ **ネットワーク:** ターゲットのホストマシンに割り当てられたネットワークリソースを選択します。
- ◆ **[MTU] :** レプリケーションネットワークで利用できる最大パケットサイズを表すバイト単位の最大転送ユニット設定。有効な値は68から65535です。たとえば、ほとんどのEthernetネットワークは1500バイトのMTU設定に対応しています。VPNでは、MTU値は通常1500バイト未満です。

ソースワークロードとターゲットワークロードの間のレプリケーションネットワークパスの最小MTU設定と一致するMTU設定を指定します。パケットがインタフェースのMTU値より大きい場合、パケットが小さいパケットに分割されるか、またはパケットがドロップされる場合があります。パケットのフラグメンテーションと再転送は、どちらも遅延および輻輳をもたらし、レプリケーション時間が大幅に増える可能性があります。レプリケーションネットワークに合わせてワークロードのMTU値を調整するとこのような状況を回避する役に立ち、転送パフォーマンスが最適化され、レプリケーション時間が最小化されます。

- ◆ **DHCPを使用してネットワークアドレスの詳細を取得:** この設定は、デフォルトで有効になっています。このチェックボックスをオフにして、静的IPアドレスを指定してから、レプリケーションネットワークのネットワークアドレス設定を指定します。
 - ◆ **IPアドレス:** IPv4フォーマット。
 - ◆ **サブネットマスク:** IPv4フォーマット。
 - ◆ **デフォルトゲートウェイ:** IPv4フォーマット。
 - ◆ **DNSサーバ:** IPv4フォーマット。複数エントリの場合、ラインごとに1つのDNSサーバを指定します。

ワークロード

「ワークロード」パネルには、スプレッドシートのインポート機能を使用してインポートまたは再インポートされた元のワークロード設定が表示されます。初めには、提案するワークロードの設定は同じです。提案するワークロードの設定を編集できます。

ワークロードの詳細

- ◆ **ホスト名:** ワークロードの単純なホスト名(またはマシン名)。ワークロードのFQDNではありません。例: sqlserver10
- ◆ **ドメイン名:** 提案するワークロードが結合するドメインの名前。例: digitalair.com、paris.digitalair.com
- ◆ **管理者資格情報:** (オプション)指定したソースワークロードの認証を受けるために使用する資格情報リソースを選択します。
- ◆ **オペレーティングシステム:** OSタイプリストから指定した値。
- ◆ **アーキテクチャ:** この値は、指定したオペレーティングシステムから継承されます。

- ◆ **説明:** (オプション)マイグレーションの制約や依存性についての情報などのワークロードのテキストの説明。
- ◆ **ワークロードタイプ:** クラウド、物理、または仮想この値は、変換方式から継承されます。

ワークロードリソース

- ◆ **RAM容量:** ワークロードのメモリ量(MB、GB、TB、PB、EB、ZB、またはYB)。
- ◆ **# ソケット:** ワークロードに搭載されているソケットの数。
- ◆ **ソケットあたりのコア数:** 各ソケットのコア数。ワークロードの合計コア数は、ソケットあたりのコア数にソケット数を掛けた値です。

Windows設定

Windows仮想ワークロード用にWindows設定領域があります。

- ◆ **ドメインまたはワークグループ:** Windowsワークロードがドメインのメンバーなのかワークグループのメンバーなのかを指定してから、名前を指定します。
 - ◆ **ドメイン:** そのドメイン名を指定します(例: PARISやparis.digitalair.com)。
 - ◆ **ワークロード:** そのワークグループ名を指定します(例: WORKGROUP)。
- ◆ **ドメイン資格情報:** [ドメイン] を指定した場合は、ワークロードを既存のドメインに参加させるために必要なドメイン管理者アカウントの資格情報リソースを選択します。

場所

[場所] パネルには、ネットワークのどこに提案するワークロードがあるかが表示されます。

ホスト

- ◆ **使用環境:** ワークロードに割り当てられる環境リソース。
- ◆ **クラウドプロバイダ:** (タイプ: クラウド)ワークロードをホストするクラウドプロバイダ:
 - ◆ Amazon Web Services
 - ◆ Microsoft Azure
 - ◆ Rackspace
 - ◆ vCloud
 - ◆ Google
- ◆ **搭載:** (タイプ: 仮想)ワークロードのVMをホストするHypervisorのタイプ:
 - ◆ Citrix XenServer
 - ◆ Linux KVM
 - ◆ Microsoft Hyper-V
 - ◆ SUSE Xen
 - ◆ VMware
- ◆ **ホスト:** (タイプ: 仮想)ターゲットホストに使用するホストリソース。
- ◆ **サイト:** ワークロードのネットワークがある地理的場所または施設。例: London
- ◆ **ハードウェア:** ワークロードが使用するハードウェアのベンダまたはモデル。例: Dell PowerEdge
- ◆ **筐体:** データセンター内のワークロードの場所。例: Rack A-31

- ◆ **スロット:** ホストマシンのラックのスロット番号。例: 8

仮想マシンの設定

- ◆ **VM名:** ワークロードに使用するVMの名前。デフォルト値はワークロードのホスト名です。
- ◆ **リソースプール:** (VMware)ターゲットVMがVMwareホスト上に作成されるリソースプールリソースを選択します。
- ◆ **VM設定データストア:** VM設定ファイルを格納するデータストアのリソース。
- ◆ **データストアのパス:** VM設定ファイルへのパス。
- ◆ **VMwareツールのインストール:** (VMware)VMwareホストで動作しているターゲット仮想ワークロードにVMwareツールをインストールするかどうかを指定します。

ネットワークインタフェース

〔ネットワークインタフェース〕パネルでは、ワークロード上の各NICに関する情報を設定します。インポート中に提供されたソースNIC情報は削除できませんが、ターゲットワークロードのその他のNICは追加、編集および削除できます。

少なくともソースワークロードのNICを1つとターゲットワークロードのNICを1つ持っている必要があります。リストに残ったNICは削除できません。まず別のNICを作成してから不要なNICを削除する必要があります。

ソースワークロードに複数のNICがある場合、レプリケーションに使用するNICを指定します。

- ◆ **インタフェース名:** NICの名前。例: eth0
- ◆ **ネットワーク:** ワークロードに割り当てられるネットワークリソース。複数のNICがある場合は、NICごとにこの設定が必要です。
- ◆ **MACアドレス:** (計画モード)ソースワークロードのNICのMACアドレス。フォーマット: 00-00-00-00-00-0c。
提案するワークロードの場合は、MACアドレスがターゲットワークロードによって割り当てられます。このアドレスは計画のために追跡されません。
- ◆ **VLAN ID:** ワークロードのトラフィックを運ぶネットワークVLAN。
- ◆ **ブート時に接続:** ブート時にネットワークに接続するようにNICが自動的に設定されます。
- ◆ **DHCPを使用してネットワークアドレスの詳細を取得:** この設定は、デフォルトで有効になっています。このチェックボックスをオフにして、静的IPアドレスを指定してから、ターゲットネットワークのネットワークアドレス設定を指定します。
 - ◆ **IPアドレス:** IPv4フォーマット。
 - ◆ **サブネットマスク:** IPv4フォーマット。
 - ◆ **デフォルトゲートウェイ:** IPv4フォーマット。

注: ソースワークロードまたはターゲットワークロードがネットワークアドレス変換(NAT)デバイスの背後の異なる内部(プライベート)ネットワークにある場合、他方のワークロードと通信してワークロードを複製できない場合があります。影響を受けるワークロードでは、レプリケーションに使用するNICのパブリックIPアドレスを必ず指定します。

- ◆ **DHCPを使用してネームサーバを取得:** 関連ネットワークのDHCPサーバからDNS名を取得するかどうかを指定します。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。静的IPアドレスを使用する場合、このオプションを選択解除し、次の情報を提供します。
 - ◆ **DNSサーバ:** IPv4フォーマット。複数エントリの場合、ラインごとに1つのDNSサーバを指定します。
 - ◆ **検索ドメイン:** 1つまたは複数の検索ドメインのFQDN。
- ◆ **レプリケーションの使用:** [ネットワークインタフェース] パネルで、当該NICをレプリケーション通信に使用するかどうかを指定します。デフォルト値は **はい** です。1つ以上のNICがレプリケーション用に有効になっている必要があります。

ネットワークインタフェースのテスト

[ネットワークインタフェースのテスト] パネルでは、ターゲットワークロードのカットオーバーテスト中のNIC設定に関する情報を設定します。ネットワークインタフェースからデフォルト設定をコピーまたは再適用し、テストネットワークの設定を使用して、ライブネットワーク設定を変更できます。テスト用のNICを作成および削除することもできます。

- ◆ **インタフェース名:** NICの名前。例: eth0
- ◆ **ネットワーク:** ワークロードに割り当てられるネットワークリソース。複数のNICがある場合は、NICごとにこの設定が必要です。
- ◆ **MACアドレス:** (計画モード)ソースワークロードのNICのMACアドレス。フォーマット: 00-00-00-00-0c。
提案するワークロードの場合は、MACアドレスがターゲットワークロードによって割り当てられます。このアドレスは計画のために追跡されません。
- ◆ **VLAN ID:** ワークロードのトラフィックを運ぶネットワークVLAN。
- ◆ **ブート時に接続:** このチェックボックスをオンにすると、ブート時にNICをネットワークに接続できるようになります。
- ◆ **DHCPを使用してネットワークアドレスの詳細を取得:** この設定は、デフォルトで有効になっています。このチェックボックスをオフにして、静的IPアドレスを指定してから、ターゲットネットワークのネットワークアドレス設定を指定します。
 - ◆ **IPアドレス:** IPv4フォーマット。
 - ◆ **サブネットマスク:** IPv4フォーマット。
 - ◆ **デフォルトゲートウェイ:** IPv4フォーマット。

注: ソースワークロードまたはターゲットワークロードがネットワークアドレス変換(NAT)デバイスの背後の異なる内部(プライベート)ネットワークにある場合、他方のワークロードと通信してワークロードを複製できない場合があります。影響を受けるワークロードでは、レプリケーションに使用するNICのパブリックIPアドレスを必ず指定します。

- ◆ **DHCPを使用してネームサーバを取得:** 関連ネットワークのDHCPサーバからDNS名を取得するかどうかを指定します。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。静的IPアドレスを使用する場合、このオプションを選択解除し、次の情報を提供します。
 - ◆ **DNSサーバ:** IPv4フォーマット。複数エントリの場合、ラインごとに1つのDNSサーバを指定します。
 - ◆ **検索ドメイン:** 1つまたは複数の検索ドメインのFQDN。

ストレージ

「ストレージ」パネルでは、ストレージマッピング戦略に関する情報とワークロード上のマウントされたボリュームに関する情報を設定します。ソースワークロードの情報を変更することはできません。ソースワークロードのディスクとボリュームの情報を更新するには、自動検出を使用している場合はソースワークロードを再検出できます。または、バルクインポートスプレッドシートを更新して、スプレッドシートのインポートを使用してワークロードを再びインポートすることもできます。

ストレージマッピング戦略

マッピング戦略によって、ストレージディスクおよびボリュームのレイアウトが、ソースワークロードからあて先ストレージの場所の提案するレイアウトに変換されます。計画モードでは、結果として得られる提案レイアウトを保持することも、ディスクの詳細を変更してカスタムのマップソリューションにすることもできます。

- ◆ **ソースと同じ:** ターゲットボリュームおよびディスクのストレージオブジェクトが、ソースワークロードと同じレイアウト、サイズ、およびフォーマットを使用して、あて先のストレージの場所に設定されます。提案するワークロードの場合、ターゲットVMware環境のパスおよびデータストアを選択して、SANデバイスとNASデバイスのリモートパスを設定できます。
- ◆ **カスタム:** 計画モードでは、ボリュームグループ、ボリューム、ディスク、およびパーティションを追加、編集、および削除できます。元のボリュームとディスク用の「Same as Source (ソースと同じ)」設定に戻すこともできます。

ボリュームタブ

「ボリューム」タブでは、ボリュームの観点から提案するワークロードで提案するボリュームレイアウトを表示および設定できます。

- ◆ **ボリューム:** 提案するワークロードのボリュームとボリュームグループのツリービューリスト。
 - ◆ **名前:** ボリュームグループの名前またはそのメンバーのボリューム。
 - ◆ **ファイルシステム:** パーティションのファイルシステムフォーマット。例: Ext3、Linux-swaps、NTFS、未割り当て、拡張。
 - ◆ **サイズ:** ボリュームグループまたはその子ボリュームに割り当てられる合計容量(指定の単位)。ボリュームまたはボリュームグループ内で使用可能な未使用容量がサイズの下に表示されます。
 - ◆ **Cluster Size (クラスタサイズ):** (Windows)NTFSボリュームの場合は、ブロック割り当てサイズを指定します。
 - ◆ **以下のコマンドをタイプします。** 選択したボリュームのストレージオブジェクトおよびファイルシステムのタイプ。

ストレージタイプの例:

- ◆ ダイナミックミラー
- ◆ ダイナミックRAID 5
- ◆ ダイナミックシンプル
- ◆ ダイナミックスパン
- ◆ ダイナミックストライプ
- ◆ ローカル
- ◆ NAS
- ◆ SAN

- ◆ スワップ
- ◆ システム
- ◆ ボリューム

ファイルシステムタイプの例:

- ◆ NTFS
- ◆ Ext4
- ◆ **マウントポイント:** ボリュームをマウントできるワークロードのパス。例: K:、/mnt/data2。ボリュームはマウントまたはマウント解除されます。
- ◆ **データストア:** ボリュームに使用するVMデータストアの名前。データストアの仮想ディスクファイルへのリモートパスはデータストア名の下に表示されます。
- ◆ **データストアのパス:** データストアでは、ボリューム用にデータストアのパスを指定します。
- ◆ **Remote Path (リモートパス):** SANまたはNetwork Attached Storageのリモートパス。
- ◆ **デバイス:** 選択したボリュームグループまたはボリュームで使用するデバイスとパーティション。

ディスクタブ

[ディスク] タブでは、提案するワークロードの提案するディスクおよびパーティションレイアウトを表示および設定できます。

- ◆ **ディスク:** 提案するワークロードのディスクとパーティションのツリービューリスト。
 - ◆ **名前:** 親ディスクの名前およびその子パーティション。
 - ◆ **サイズ:** ディスクおよびそのパーティションに割り当てられた合計容量(指定の単位)。使用可能な未割り当て容量がサイズの下に表示されます。
 - ◆ **ボリューム:** 子パーティションにあるボリュームの名前。
 - ◆ **以下のコマンドをタイプします。** ストレージオブジェクトのタイプ(ディスクまたはパーティション)。パーティションタイプにはファイルシステムフォーマットが含まれます(例: Ext3、Linuxスワップ、NTFS、未割り当て、拡張など)。
 - ◆ **データストア:** ディスクに使用するVMデータストアの名前。データストアの仮想ディスクファイルへのパスはデータストア名の下に表示されます。
- ◆ **ディスクの詳細:** ディスクリストのパーティションを選択し、提案するワークロードのディスクおよびボリュームの詳細を表示または変更します。
 - ◆ **以下のコマンドをタイプします。** ストレージオブジェクトのタイプ(ディスクまたはパーティション)。
 - ◆ **サイズ:** ディスクまたはパーティションに割り当てられた合計容量(指定の単位)。
 - ◆ **名前:** ボリュームまたはボリュームグループの名前。例: Network_Share_11-T1。
 - ◆ **マウントポイント:** ボリュームをマウントできるワークロードのパス。例: K:、/mnt/data2。ボリュームはマウントまたはマウント解除されます。
 - ◆ **ボリューム:** パーティションにあるボリュームの名前。
 - ◆ **未割り当て:** ディスクまたはパーティションで利用できる空き容量(指定の単位)。

- **仮想ディスクの詳細:** ディスクリストのパーティションを選択し、提案するワークロードの仮想ディスクおよびボリュームの詳細を表示または変更します。マップしたディスクまたはボリュームのカスタマイズはオプションです。
 - **データストア:** 使用するターゲットVMのVMwareデータストアの名前。
 - **データストアのパス:** 選択したデータストアの仮想ディスクファイル(.vmdk)へのパス。
 - **ディスクのプロビジョニング:** 仮想ディスク用にVMwareで使用する仮想ディスクプロビジョニングポリシー。
 - **シンディスク:** スペース効率の良いスパースディスクフォーマットでディスクを作成します。これは、作成時にプロビジョニングしたサイズに拡張できます。
 - **シックディスク:** シック仮想ディスクのタイプで仮想ディスクを作成します。これは耐障害性などのクラスタリング機能をサポートします。仮想ディスクに必要なスペースは作成時に割り当てられます。

アプリケーション

［アプリケーション］パネルでは、ワークロードにインストールされているアプリケーションが表示されます。提案するワークロードのアプリケーションを追加または削除できます。

カスタムのフィールド

［カスタムのフィールド］パネルでは、プロジェクト用に設定されるカスタムのフィールド1-7の値を指定できます。カスタムのフィールドを使用できるのは、プロジェクトに対してカスタムフィールドが設定されており、［変換］ダイアログを開いたときにグローバルプロジェクトセレクトでプロジェクトが選択されている場合のみです。

変換履歴

［Transformation History (変換履歴)］パネルでは、直近の件のワークフロー状態変更、マイグレーションのサブ状態変更、またはユーザによって提供されたワークロードに関するメモが表示されます。状態が変更されるたびにエントリがトリガされます。ログに記録されるユーザ注記を入力することもできます(手動の変更や、ワークロードに対して実行された操作など)。

ワークロードリストの表示

［ワークロード］タブでは、各ワークロードの重要な設定および状態を追跡できます。次のヒントに従って、ページを操作して、各種の状態や詳細を表示してください。

- プロジェクトセレクトを対象のプロジェクトに設定し、そのプロジェクトのワークロードのみリストします。
- 元のワークロードまたは提案するワークロードの詳細に基づいてリストを表示します。
- [Status (状態)] または [Sub Status (サブ状態)] の状態をマウスオーバーして、イベントやエラーの状態に関する詳細情報を表示します。

- ◆ フィルタを使用してリストの簡易検索を実行します。詳細検索を使用して、さまざまなワークロード設定、カスタムのフィールド、状態、およびヘルスを検索します。詳細については、[169 ページの「フィルタおよび詳細検索を使用したワークロードの検索」](#)を参照してください。



- ◆ ヘルスの警告タイプを選択し、特定の状態のすべてのワークロードを素早くリストします。たとえば、カットオーバーされていないが、カットオーバー日が過ぎたです。[130 ページの「ワークロードヘルス」](#)を参照してください。
- ◆ タブのタイトルをダブルクリックすると、リストの通常のポーリングサイクルに関係なく、任意のリストをすぐに強制的に更新できます。
- ◆ タブのタイトルをマウスオーバーしてリストの合計項目数およびリストで現在選択されている選択済み項目の合計数を表示します。
- ◆ 障害状態のワークロードを選択し、それが復元可能な状態である場合、[再試行する](#)オプションを使用できます。
- ◆ [Rediscover \(再検出\)](#)オプションを使用できるのは、以前に正常に検出されたワークロードを選択する場合です。

ワークロードのNICおよびボリュームサマリの表示

ワークロードのサマリでは、[ワークロードの編集] ダイアログを開かずに、元のワークロードおよび提案するワークロードの重要な情報を表示できます。情報は、ワークロード名をマウスオーバーすると、ツールチップとしてポップアップ表示されます。

ワークロードのNICおよびディスクサマリを表示するには:

- 1 Webインターフェースで、ツールバーの[プランニング](#)を選択し、[ワークロードタブ](#)を選択します。
- 2 [フィルタ](#)および[詳細検索](#)オプションを使用して、目的のワークロードを見つけます。
- 3 (オプション)ワークロード名をマウスオーバーし、その元のワークロードおよび提案するワークロードの設定(NICとボリュームに関する設定)のサマリを表示します。

 mail.da.test Windows Server 2003 R2			
NIC 1	IPアドレス	VLAN ID	ネットワーク
元	14.53.212.61	34	prod
提案	14.53.212.61	34	
NIC 2	IPアドレス	VLAN ID	ネットワーク
元	14.53.238.61		prodbackup
提案	14.53.238.61		
ボリューム1	ボリュームタイプ	サイズ	マウントポイント
元	システム	80 GB	c:\
提案	システム	80 GB	c:\
ボリューム2	ボリュームタイプ	サイズ	マウントポイント
元	SAN	1 TB	d:\
提案	SAN	1 TB	d:\

- 4 ワークロード名からマウスを移動し、サマリのポップアップ表示を終了します。

フィルタおよび詳細検索を使用したワークロードの検索

フィルタツールおよび詳細検索ツールを使用すると、アクションの実行対象のワークロードを1つ以上見つけることができます。これは複数のワークロードを選択し、バッチに割り当てるかまたは変換情報を変更する簡単な方法です。

- 1 Webインタフェースで、**グローバルプロジェクトセレクト**をクリックしてから、目的のプロジェクトを選択します。
- 2 Webインタフェースで、ツールバーの**プランニング**を選択し、**ワークロード**タブを選択します。
- 3 **フィルタ**で、検索できる列に値を検索する文字を入力します。フィルタは、文字を入力するとすぐにリストに適用されます。

Clear Filter (フィルタのクリア)  アイコンをクリックすると、フィールドをクリアし、フィルタを削除できます。

- 4 **詳細検索**アイコン  をクリックすると、目的の検索パラメータおよび値を指定して検索を絞り込めます。

〔詳細検索〕ダイアログは複数オプションフォームで、ワークロードについて検索するターゲットに適切な次のパラメータを組み合わせで検索できます。

プロジェクト	ワークロードタイプ	合計ストレージ	ネットワーク
ウェブ	変換方式	1つのディスクサイズ	VLAN ID
バッチ	環境	ソケットあたりのコア数	状態
ホスト名	サイト	メモリ量	サブ状態
OSタイプ	筐体	保留中	ヘルス
アプリケーション	カスタム1	カスタム2	カスタム3
カスタム4	カスタム5	カスタム6	カスタム7

注: プロジェクトのために定義する各カスタムのフィールドは、グローバルプロジェクトセレクトが特定のプロジェクトに設定されている場合にフォームに表示されます。

クリアをクリックして「詳細検索」をリセットし、別のフィールドで再試行します。

- 5 目的の項目までリストを絞り込んだ後、リストをクリックして「詳細検索」ダイアログを終了します。
- 6 「ワークロード」タブをマウスオーバーしてし、リストの合計項目数を表示します。
- 7 フィルタした「ワークロード」リストで、検索結果にリストされているワークロードを表示します。項目の上下に移動するにはスクロールバーを使用します。詳細については、[42 ページの「リストの上下スクロール」](#)を参照してください。
- 8 (オプション)リストの複数の項目を選択し、選択したワークロードに対してバルク編集アクションまたはバルク状態変更アクションを実行します。詳細については、[42 ページの「リストでの複数項目の選択」](#)を参照してください。
- 9 「ワークロード」タブをマウスオーバーしてし、リストの合計項目数および選択した合計項目数を表示します。

ワークロード変換の詳細の表示

「ワークロード」リストには、各ワークロードに関する主要な情報と統計情報が表示されます。
「ワークロード」タブの表示オプションを使用すると、「表示」許可のみを持つユーザが選択されたワークロードのワークロード変換詳細を表示できます。

ワークロード変換の詳細を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 Webインタフェースで、ツールバーの**プランニング**を選択し、**ワークロード**タブを選択します。
- 2 **ワークロード**リストで、**フィルタ** および **詳細検索** を使用して目的のワークロードを見つけます。
- 3 ワークロードを選択してから、**表示**をクリックして**変換**ダイアログを開きます。
- 4 ワークロード情報を表示します。
- 5 操作を終了したら**閉じる**をクリックします。

ワークロード変換の編集

最初のワークロードインポートにより、元のワークロードと提案するワークロードが作成されます。ワークロードの**変換**ダイアログを使用して、変換および提案するワークロードに適した設定を行います。

これらのタスクを実行できるユーザ: システム管理者、プロジェクトマネージャ、プロジェクト設計者

ワークロードのさまざまなパラメータについては、[153 ページの「変換ダイアログについて」](#)を参照してください。

変換、および提案するワークロードを単一ワークロード向けに設定するには、次の手順を実行します。

- 1 Webインタフェースで、ツールバーの**プランニング**を選択し、**ワークロード**タブを選択します。
- 2 **フィルタ**および**詳細検索**オプションを使用して、目的のワークロードを見つけます。

- 3 (オプション)ワークロードの**名前**をマウスオーバーしてし、その元のワークロードおよび提案するワークロードの設定のサマリを表示します。
- 4 変更するワークロードをダブルクリックし、その「変換」ダイアログを開きます。代わりに、ワークロードを選択してから**編集**をクリックしても構いません。
- 5 必要に応じて「変換」ダイアログでワークロード情報を変更します。
 - ◆ ステータス
 - ◆ ライセンス
 - ◆ 変換計画
 - ◆ マイグレーションの設定
 - ◆ ワークロード
 - ◆ 場所
 - ◆ ネットワークインタフェース
 - ◆ ネットワークインタフェースのテスト
 - ◆ ストレージ
 - ◆ アプリケーション
 - ◆ カスタムのフィールド
 - ◆ 変換履歴
- 6 以下を実行してここで変更を保存し、実行準備完了としてワークロードを送信するか、または送信したワークロードに戻って変更します。
 - ◆ **Mark In Progress (マークの進行中)**を選択し、追加の変更を行うためにワークロードを保持します。戻って追加の変更を行うまでエラーが存在していても構いません。
 - ◆ すべてのエラーを解決し、適切な変換の詳細を指定してから**送信**をクリックし、ワークロードが変換の準備が完了していることを示します。

注: 自動化モードでは、正常に検出されていないワークロード変換を送信することはできません。

レプリケーションに使用するソースNICの設定

ソースワークロードに複数のNICがある場合、レプリケーションに使用するNICを指定する必要があります。

レプリケーション用にNICを有効にするには:

- 1 Webインタフェースで、ツールバーの**プランニング**を選択し、**ワークロード**タブを選択します。
- 2 **フィルタ**および**詳細検索**オプションを使用して、目的のワークロードを見つけます。
- 3 変更するワークロードをダブルクリックし、その「変換」ダイアログを開きます。代わりに、ワークロードを選択してから**編集**をクリックしても構いません。
- 4 スクロールダウンして「ネットワークインタフェース」パネルを表示して、レプリケーションに使用するNICを検索します。
- 5 元のワークロードの下で、**有効にする**をクリックして、**レプリケーションの使用**をはいに設定します。1つ以上のソースNICを有効にする必要があります。
- 6 「**閉じる**」をクリックします。

送信後のワークロード変換の編集

ワークロードの送信後にそのワークロードを取り消すことなく、ワークロード変換に関する次の設定を変更できます。

- ◆ 変換計画
 - ◆ ウェーブ
 - ◆ バッチ
 - ◆ 開始日と終了日
 - ◆ カットオーバーの日時
 - ◆ 保留状態
- ◆ 変換履歴
 - ◆ ユーザにより提供されたメモ

単一ワークロードの計画または注記の追加を行うには、次の手順を実行します。

- 1 Webインタフェースで、グローバルプロジェクトセクタでプロジェクトを選択します。
- 2 ツールバーの**プランニング**を選択してから、**ワークロード**タブを選択します。
- 3 **フィルタ**および**詳細検索**オプションを使用して、目的のワークロードを見つけます。
- 4 変更するワークロードをダブルクリックし、その**変換**ダイアログを開きます。代わりに、ワークロードを選択してから**編集**をクリックしても構いません。
- 5 **変換計画**パネルで、**編集**をクリックしてから、スケジュール情報を必要に応じて変更します。
- 6 **Transformation History (変換履歴)** パネルで**表示**をクリックしてから、必要に応じてメモを追加します。
- 7 **閉じる**をクリックして**変換**ダイアログを閉じます。

[Bulk Edit (バルク編集)] を使用して1つ以上のワークロードの計画を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 Webインタフェースで、グローバルプロジェクトセクタでプロジェクトを選択します。
- 2 ツールバーの**プランニング**を選択してから、**ワークロード**タブを選択します。
- 3 **フィルタ**オプションと**詳細検索**オプションを使用して、目的のワークロードを見つけます。
- 4 変更するワークロードを選択します。
- 5 **Bulk Edit (バルク編集)**をクリックします。
- 6 (オプション)計画の設定を必要に応じて変更します。
 - ◆ ウェーブ
 - ◆ バッチ
 - ◆ バッチおよびウェーブから削除
 - ◆ **Start Date (開始日)**
 - ◆ カットオーバー日
 - ◆ 保留状態
- 7 **適用**をクリックします。

8 変更を確認してから、**Proceed (続行)**をクリックします。

[On Hold (保留状態)] 状態になって淡色表示されているワークロードは [ワークロード] リストで淡色表示されます。

複数の提案するワークロードのバルク編集

バルク編集機能は、選択した複数のワークロードに同じパラメータ設定を同時に適用できる強力なエディタです。各パラメータは独立していて、選択した一連のワークロードに別々に適用されます。バルク編集は、ワークロードのタイプおよびその他の特性に対して各値を検証し、そのワークロードに対して有効な設定のみ変更を行います。この保護機構によって、ネットワーク環境に意味のある論理的に関係のあるさまざまなワークロードを並行して編集できます。

- ◆ [173 ページの「バルク編集について」](#)
- ◆ [176 ページの「バルク編集するワークロードの選択」](#)
- ◆ [176 ページの「バルク編集の適用」](#)

バルク編集について

[Bulk Edit (バルク編集)] ダイアログのタイトル領域には、[Bulk Edit (バルク編集)] ダイアログを開く前に [ワークロード] リストで事前選択したワークロード数が表示されます。システム管理者および複数のプロジェクトでプロジェクトマネージャまたはプロジェクト設計者の役割を持つユーザは、プロジェクトをまたいでワークロードを選択できます。

指定したパラメータ値が選択した1つまたは複数のワークロードに適用される場合、確認ダイアログは影響を受けるワークロード数、スキップされるワークロード数、およびワークロードをスキップする要因を特定します。

注: 同じバルク編集要求で複数のパラメータに値を指定する場合、確認ダイアログは、パラメータの残りのさまざまな一致条件のすべてを表示するわけではありません。最初に検出した一致のみを報告します。したがって、明確な因果関係のレポートが必要な場合、バルク編集要求で同時に編集するパラメータ設定を1つのみにする必要があります。

ワークロードは、指定した変更または値がワークロードタイプに対して有効でない場合、スキップされる場合があります。たとえば、ホストおよびデータストアの変更は、ターゲット仮想ワークロード、または変換方式が不明であるワークロードに対してのみ適用されます。クラウドプロバイダは、ターゲットクラウドワークロード、または変換方式が不明であるワークロードに対してのみ適用されます。

一部のアクションは、ワークロードの状態に基づいて、選択したワークロードに実行できません。

- ◆ 送信済み以降の状態のワークロードの値は編集できません。ワークロードを取り消して編集できる状態に戻す必要があります。
- ◆ 完了状態のワークロードの値は編集できません。ワークロードを再度開いて編集できる状態に戻す必要があります。完了状態が親のウェブ、バッチ、またはプロジェクトから開始された場合、まず親を再度開く必要があります。

表 19-2は、同時に1つのプロジェクトのワークロードに適用するウェブ、バッチ、およびネットワークのパラメータについて説明します。値を選択すると、特定のプロジェクトのワークロードにアクションが限定されます。1つのプロジェクトに変更を適用した後、[プロジェクト] フィールドをクリアし、異なる値を選択して2番目のプロジェクトを分離できます。同様のアクションを繰り返し、該当のすべての変更を完了します。

表 19-2 1つのプロジェクトのパラメータの同時バルク編集

パラメータ	説明
プロジェクト	プロジェクトセレクトを事前設定する場合、プロジェクト値は参考値です。選択したすべてのワークロードがそのプロジェクトに所属します。 プロジェクト固有パラメータのいずれかを選択すると、プロジェクト値は、選択した値に関係するプロジェクトを表します。残りのすべてのプロジェクト関連パラメータ値はその選択に基づいて制限されます。
ウェーブ	このオプションは、ターゲットのバッチの親ウェーブを反映し、プロジェクト値が設定されていない場合にこれを設定します。
バッチ	選択したワークロードのターゲットのバッチ割り当てを設定します。親のウェーブおよびプロジェクトが設定されていない場合、これらを設定します。 各ワークロードは、新しく割り当てたバッチから日付を継承します。手動での日付設定は継承よりも優先されます。手動設定した日付が新しい実行ウィンドウ範囲外の場合、影響を受ける日付は「ワークロード」リストおよび「変換」ダイアログに赤色フォントで表示されます。
バッチおよびウェーブから削除	選択されたワークロードをそれらに現在割り当てられているバッチおよびウェーブの外に移動します。
VLAN ID	任意のネットワークのVLAN IDを変更します。 ◆ 任意の値から指定した値へ。 ◆ 指定した値から新しい指定した値へ。 指定したネットワークのVLAN IDを変更します。 ◆ 任意の値から指定した値へ。 ◆ 指定した値から新しい指定した値へ。
ネットワークリソース	任意のNICのネットワークリソースを変更します。 ◆ 任意の値から指定した値へ。 ◆ 指定した値から新しい指定した値へ。 指定したNICのネットワークリソースを変更します。 ◆ 任意の値から指定した値へ。 ◆ 指定した値から新しい指定した値へ。
ホストリソース	ホストリソースを変更します。 ◆ 任意の値から新しい指定した値へ。 ◆ 指定した値から新しい指定した値へ。 ホストリソース設定は、仮想ターゲットワークロード、または現在変換方式が設定されていないワークロードに対してのみ適用されます。

パラメータ	説明
データストアリソース	データストアリソースを変更します。 ◆ 任意の値から新しい指定した値へ。 ◆ 指定した値から新しい指定した値へ。 データストアリソース設定は、仮想ワークロード、または現在変換方式が設定されていないワークロードに対して適用されます。
マイグレーションサーバリソース	マイグレーションサーバリソースを変更します。 ◆ 任意の値から新しい指定した値へ。 ◆ 指定した値から新しい指定した値へ。
レプリケーションネットワーク	レプリケーションネットワークを変更します。 ◆ 任意のネットワークから新しい指定したネットワークへ。 ◆ 指定したネットワークから新しい指定したネットワークへ。

表 19-3は、選択したすべての編集できる状態のワークロードに適用するパラメータを説明します。

表 19-3 1つのプロジェクトまたは複数のプロジェクトのパラメータのバルク編集

パラメータ	説明
選択したワークロード数	[Bulk Edit (バルク編集)] ダイアログを開く前に [ワークロード] リストで事前選択したワークロード数。
表示するプロジェクト数	システム管理者および複数のプロジェクトでプロジェクトマネージャまたはプロジェクト設計者の役割を持つユーザは、プロジェクトをまたいでワークロードを選択できます。
変換方式	変換方式を指定します。この設定は、ソースワークロードタイプが一致するワークロードに対してのみ適用されます。 たとえば、物理からクラウドへの場合、選択したワークロードの物理ソースワークロードの提案変換タイプのみを変更します。
ディスクコピー方式	ディスクコピー方式としてドライバありブロック、ドライバなしブロック、またはファイルを指定します。
クラウドプロバイダ	クラウドワークロードのクラウドプロバイダを指定します。 注: クラウドプロバイダ設定は、クラウドワークロード、または現在変換方式が設定されていないワークロードに対して適用されます。
開始日	変換実行の開始日を設定します。
カットオーバー日	ワークロードのカットオーバー日を設定します。
保留状態	選択したワークロードのワークロード変換ワークフローを一時停止します。
メモリ量	ターゲットメモリのサイズを指定します。
カスタムのフィールド	プロジェクトのために定義する各カスタムのフィールドは、グローバルプロジェクトセレクトが特定のプロジェクトに設定されている場合にフォームに表示されます。

バルク編集するワークロードの選択

「Bulk Edit (バルク編集)」ダイアログを開く前に、プロジェクトセクタ、フィルタ、詳細検索、ソート、および複数選択機能を使用して、「ワークロード」リストを絞り込み、アクションを行うワークロードを選択します。並行バルク編集アクションを行う任意の数のワークロードを事前選択できます。

バルク編集アクションを行うワークロードを選択するには:

- 1 (条件付き)1つのプロジェクトのワークロードを操作するには、**プロジェクトセクタ**をクリックし、目的のプロジェクトを選択します。
- 2 Webインタフェースで、ツールバーの**プランニング**を選択し、**ワークロード**タブを選択します。
- 3 フィルタオプションおよび詳細検索オプションを使用してワークロードのリストを絞り込みます。
- 4 複数選択機能を使用して、同じ方法で変更する1つまたは複数のワークロードを選択します。
- 5 「ワークロード」タブをマウスオーバーしてし、現在リストにあるワークロードの数、および選択されているワークロードの数を表示します。
- 6 [176 ページの「バルク編集の適用」](#)に進みます。

バルク編集の適用

選択したら、「Bulk Edit (バルク編集)」ダイアログを使用して選択したワークロードの1つまたは複数のパラメータの値を指定します。

バルク編集を実行するには:

- 1 対象のワークロードを選択した後、**Bulk Edit (バルク編集)**をクリックします。
- 2 選択したワークロードで変更する情報を指定します。[173 ページの「バルク編集について」](#)を参照してください。

次のフィールドは選択した1つのプロジェクトに適用されます。

- ◆ プロジェクト
- ◆ ウェーブ
- ◆ バッチ
- ◆ バッチおよびウェーブから削除
- ◆ VLAN ID(ネットワーク、VLAN IDから、VLAN IDへ)
- ◆ ネットワークリソース(NIC、ネットワークから、ネットワークへ)
- ◆ ホストリソース(ホストから、ホストへ)
- ◆ データストアリソース(データストアから、データストアへ)
- ◆ マイグレーションサーバリソース(マイグレーションサーバから、マイグレーションサーバへ)
- ◆ レプリケーションネットワーク(ネットワークから、ネットワークへ)

次のフィールドは選択したすべてのワークロードに適用されます。

- ◆ 変換方式
- ◆ ディスクコピー方式

- ◆ クラウドプロバイダ
- ◆ 開始日
- ◆ カットオーバー日
- ◆ 保留状態
- ◆ メモリ量
- ◆ カスタムフィールド値(グローバルプロジェクトセレクトが設定されている場合にのみ使用可能)

3 適用をクリックします。

4 確認メッセージを確認し、**Proceed (続行)**をクリックします。

[On Hold (保留状態)] 状態のワークロードは、[ワークロード] リストで淡色表示されます。

複数の提案するワークロードのバルク状態変更

バルク状態変更ツールを使用して、複数のワークロードに提案するワークロードの状態の値を同時に変更できます。フィルタおよび詳細検索オプションを使用して、目的のワークロードを見つけて選択します。詳細については、[155 ページの「ステータスと再試行」](#)を参照してください。

[Bulk Status Change (バルクステータスの変更)] ダイアログに、選択したワークロード数およびバルクステータスの変更で影響を受けるプロジェクト数が示されます。変更は、選択した次のフェーズが有効な状態変更である、選択した項目のみに適用されます。

1つ以上のワークロードの状態を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 Webインターフェースで、ツールバーの**プランニング**を選択し、**ワークロードタブ**を選択します。
- 2 同じ状態に設定するワークロードを1つ以上選択します。
- 3 **Bulk Status Change (バルクステータスの変更)**をクリックします。
- 4 選択したワークロードに対して次のいずれかの操作を実行します。
 - ◆ **送信**オプションを使用できる場合、選択したワークロードを1つ以上変換準備完了のフェーズに移行できます。**送信**をクリックして、ワークロードの状態を変換準備完了に変更します。
 - ◆ 選択したワークロードに設定する**Next Phase (次のフェーズ)**を指定し、**適用する**をクリックします。

Migrateサーバからの編集の同期

PlateSpinマイグレーション環境では、マイグレーションスペシャリストによってMigrateサーバ上のワークロードマイグレーションジョブに手動で変更が加えられることがあります。その変更がTransformation Managerによって追跡される設定に影響を与える場合は、イベントがMigrate Connectorを通じてTransformation Managerとの間で同期されます。

同期されるワークロード設定の例としては、コア数、ソケットあたりのコア数、データストア数、レプリケーションネットワーク用の静的IPアドレスなどが挙げられます。Transformation Managerには[Blackout Window (ブラックアウト時間帯)]や[Bandwidth Throttling (帯域幅調整)]の設定はないため、これらの設定の変更はTransformation Managerによって同期されません。また、

Migrateで設定されたソース資格情報も同期されません。マイグレーション担当者は、Migrateでコマンドをクリックすることによって操作を開始する場合があります。状態の変更は同期され、Transformation Managerには変更された状態が表示されます。

変換履歴の表示

変換履歴によって以下が追跡されます。

- ワークフロー状態の変更
- マイグレーションのサブ状態の変更
- ユーザにより提供されたメモ(Transformation Managerによる監視の範囲外で発生したイベントを記述するもの)

「変換」ダイアログの「Transformation History (変換履歴)」パネルには、直近の10件のイベントまたはユーザにより提供されたメモが表示されます。すべてのイベントは該当するワークロードの変換履歴ログに記録されています。

ワークロードの変換履歴を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 Webインターフェースで、ツールバーの**プランニング**を選択し、**ワークロード**タブを選択します。
- 2 **フィルタ**および**詳細検索**オプションを使用して、目的のワークロードを見つけます。
- 3 変更するワークロードをダブルクリックし、その「変換」ダイアログを開きます。代わりに、ワークロードを選択してから**編集**をクリックしても構いません。
- 4 スクロールダウンして「Transformation History (変換履歴)」パネルを表示して、直近の10件のイベントとユーザにより提供されたメモを表示します。
- 5 **表示**をクリックして変換履歴ログを開きます。
- 6 スクロールするかフィルタを使用して目的のイベントを見つけます。
ユーザにより提供されたメモが長い場合は、注記をマウスオーバーすると、注記全体をツールヒント形式で表示できます。
- 7 **閉じる**をクリックして変換履歴ログを閉じます。
- 8 **閉じる**をクリックして「変換」ダイアログを閉じます。

変換履歴へのユーザ注記の追加

変換履歴で、ユーザ注記(Transformation Managerによる監視の範囲外で発生したイベントを記述するもの)を追加できます。

ユーザ注記を履歴に追加するには、次の手順を実行します。

- 1 Webインターフェースで、ツールバーの**プランニング**を選択し、**ワークロード**タブを選択します。
- 2 **フィルタ**および**詳細検索**オプションを使用して、目的のワークロードを見つけます。
- 3 変更するワークロードをダブルクリックし、その「変換」ダイアログを開きます。代わりに、ワークロードを選択してから**編集**をクリックしても構いません。
- 4 スクロールダウンして「Transformation History (変換履歴)」パネルを表示してから、**表示**をクリックします。
- 5 **Create Note (メモの作成)**で、ログに追加するコメントを入力します。

入力できる注記の長さは、注記フィールドの大きさによって制限されません。入力するにつれて語句が左側にスクロールしていきます。

6 Add Note (メモを追加)をクリックします。

新しい注記は、タイムスタンプが付加されてから、**User-provided note (ユーザにより提供されたメモ)**という状態で変換履歴に追加されます。注記の先頭の2行が「Transformation History (変換履歴)」ダイアログに表示されます。3行以上の注記の場合は、注記をマウスオーバーすると、注記全体をツールヒント形式で表示できます。

7 閉じるをクリックして変換履歴ログを閉じます。

新しい注記は、変換履歴で最新イベントの1項目として表示されます。ユーザにより提供されたメモの1行目が「Transformation History (変換履歴)」パネルに表示されます。2行以上の注記の場合は、注記をマウスオーバーすると、注記全体をツールヒント形式で表示できます。

8 閉じるをクリックして「変換」ダイアログを閉じます。

送信されたワークロードの取り消し

マイグレーション用ワークロードを送信した後で、マイグレーションの任意のポイントでそれを取消することができます。計画モードでは、状態がすぐに**Prepared, waiting (準備済み 待機中)**に戻ります。

自動化モードでは、取り消すと、ターゲットVMを削除し、Migrateサーバからワークロードジョブをクリーンアップするオプションがあります。この動作は、ワークフローにおけるその時点のマイグレーションの場所によって異なります。

- マイグレーションが開始を待機している場合は、その状態はすぐに**Prepared, waiting (準備済み 待機中)**に戻ります。
- マイグレーションが開始されている場合、VMホストとMigrateサーバを自動的にクリーンアップするオプションがあります。
 - ターゲットVMを削除することを選択する場合は、その状態が**Prepared, waiting (準備済み 待機中)**に戻る前に、クリーンアップが発生します。クリーンアップにはしばらく時間がかかる場合があります。クリーンアップが完了するまでワークロードを変更することはできません。
 - ターゲットVMを削除しないことを選択する場合は、状態はすぐに**Prepared, waiting (準備済み 待機中)**に戻ります。ワークロードジョブはMigrateサーバ上に残り、ターゲットVMはターゲットホスト上に残ります。ターゲットVMとMigrateサーバを手動でクリーンアップする必要があります。

ワークロードを取り消すには:

- 1 Webインターフェースで、ツールバーの**プランニング**を選択し、**ワークロード**タブを選択します。
- 2 **フィルタ**および**詳細検索**オプションを使用して、目的のワークロードを見つけます。
- 3 変更するワークロードをダブルクリックし、その「変換」ダイアログを開きます。代わりに、ワークロードを選択してから**編集**をクリックしても構いません。
- 4 「変換」ダイアログで、**取り消し**をクリックします。

- 5 ターゲットVMを削除する許可を求めるプロンプトが表示されたら、次のいずれかを実行します。
 - ◆ VMホスト上のターゲットVMとMigrateサーバ上のワークロードジョブを開始し、自動的にクリーンアップするには、**はい**をクリックします。
 - ◆ VMホスト上のターゲットVMとMigrateサーバ上のワークロードジョブを手動でクリーンアップするには、**いいえ**をクリックします。

1つ以上のワークロードを取り消すには:

- 1 Webインターフェースで、ツールバーの**プランニング**を選択し、**ワークロード**タブを選択します。
- 2 取り消したい送信済みワークロードを1つ以上選択します。
- 3 **Bulk Status Change (バルク状態変更)**をクリックします。
- 4 **取り消し**をクリックします。
- 5 ターゲットVMを削除する許可を求めるプロンプトが表示されたら、次のいずれかを実行します。
 - ◆ 選択したワークロードのそれぞれに対してVMホスト上のターゲットVMとMigrateサーバ上のワークロードジョブを開始し、自動的にクリーンアップするには、**はい**をクリックします。
 - ◆ 選択したワークロードのそれぞれに対してVMホスト上のターゲットVMとMigrateサーバ上のワークロードジョブを手動でクリーンアップする場合は、**いいえ**をクリックします。

ワークロードの削除

「削除」オプションを使用して、ワークロード管理許可を持つユーザは、プロジェクトからワークロードを削除できます。ライセンスのあるワークロードを削除する場合、使用したライセンスは解放されません。

ワークロードがもはや存在しないか、変換またはマイグレーションの候補ではない場合は、ワークロード変換またはマイグレーションを実行する前に、ワークロードを削除したい場合があります。たとえば、変換プロジェクトの前に、ハードウェアに障害が発生したり、ワークロードが廃止される場合、ワークロードはもはや使用できません。一部のワークロードが現在の設備に残っていても、そのワークロードはもはや候補ではありません。

ただし、ソースワークロードのプロファイルが変更された場合にのみ、それを削除する代わりに、ソースワークロード情報を再インポートする必要があります。データが変更されたソースワークロードを再インポートするには、バルクインポートスプレッドシートの同じFQDNを使用できます。提案するワークロードを編集した後で、再インポートすると、ソースワークロード情報のみが変更されます。詳細については、[196 ページの「ワークロードの再インポート」](#)を参照してください。

プロジェクトからワークロードを削除するには:

- 1 Webインターフェースで、ツールバーの**プランニング**を選択し、**ワークロード**タブを選択します。
- 2 **ワークロード**リストで、**フィルタ** および **詳細検索** を使用して目的のワークロードを見つけます。
- 3 ワークロードを選択してから、**削除**をクリックします。
- 4 削除を確認するために **はい** をクリックします。

C バルクインポートスプレッドシート

このタスクを実行できるユーザ: プロジェクトマネージャ、プロジェクト設計者、または管理者グループ内の任意のユーザ

大規模データセンターの変換またはマイグレーションプロジェクトは、数百から数千のワークロードが関与する場合があります。スプレッドシートからのデータのインポートでは、すでにアセットデータベース内にあるデータを利用することができます。

スプレッドシートに含める情報は、インポート目的によって異なります。

- **プランニングのみ:** PlateSpin Transformation Managerでは、さまざまな変換目的、マイグレーションツール、環境用に計画を立てることができます。同じまたは異なるスプレッドシートからワークロード用データをインポートまたは再インポートして、元のワークロードを定義することができます。
- **自動検出:** PlateSpin検出環境では、インポートスプレッドシートには、ワークロードごとの最小限のアクセス情報と資格情報の値のみが含まれている必要があります。インポートにより自動検出が開始され、新しいワークロードごとに詳細情報が取得されます。スプレッドシートをインポートする前に、セットアップが次の要件を満たしていることを確認してください。
 - PlateSpin Migrate Connectorインスタンスは、ソースワークロードが存在するネットワークに導入され、実行されている必要がある。
 - Connectorインスタンスは、PTMサーバと連携するように設定されている必要がある。
 - Connectorインスタンスはご使用のプロジェクトで利用できる必要がある。
 - Connectorは、物理マシンおよび仮想マシンに対してのみ自動検出をサポートしている。

ソースワークロードごとに、インポートによって、プロジェクトの元のワークロードオブジェクトが自動的に作成されます。これらの元の設定に基づいて最初に提案するワークロードも作成されます。

このセクションでは、バルクインポートプロセス、およびマシンに関するデータを含む専用フォーマットされたスプレッドシートを準備してプロジェクト用にインポートする方法について説明します。

- [182 ページの「スプレッドシートインポートについて」](#)
- [184 ページの「スプレッドシートパラメータ」](#)
- [194 ページの「サンプルインポートスプレッドシートのダウンロード」](#)
- [195 ページの「スプレッドシートの検証」](#)
- [195 ページの「結果スプレッドシートのダウンロード」](#)
- [196 ページの「ワークロードの再インポート」](#)

スプレッドシートインポートについて

PlateSpin Transformation Managerでは、変換プロジェクトへの一度に複数マシンのバルクインポートをサポートしています。「バルクインポート」とは、特別にフォーマットされたMicrosoft Excel 97-2003 (.xls)スプレッドシートファイルから以前に定義されたプロジェクトにマシンに関するデータをロードすることを指します。

新たにインポートされたマシンごとに、インポートにより元のワークロードと最初に提案するワークロードが自動的に設定されます。その後、ワークロードはプロジェクトリソース、ユーザ、およびスケジュールとさらに関連付けるため、Webインタフェースで利用できるようになります。[変換] ダイアログまたは[バルク編集] オプションを使用して提案するワークロードを編集した後で、再インポートされたワークロードの情報は元のワークロードにのみ適用されます。

スプレッドシートにより、各マシンに関するさまざまなデータをインポートできます。PlateSpin Transformation Managerでは、検出用IPアドレスまたはFQDN (完全修飾ドメイン名)およびマシンのタイプ(物理、仮想、またはクラウド)のみが必要です。事前定義されたカスタムパラメータを使用して、ニーズに応じて、ワークロードに関する詳細を指定できます。

注: プロジェクトでPlateSpin Migrate Connectorを使用できる場合は、ワークロードが正常にインポートされると、ソースワークロードに関する詳細情報を取得する自動検出プロセスが開始されます。自動検出の詳細については、[144 ページの「インポートおよび検出プロセス」](#) および [143 ページの「ソースワークロードの検出要件」](#) を参照してください。

バルクインポートスプレッドシートを作成するには、独自のスプレッドシートソフトウェアを使用します。バルクインポートスプレッドシートの1つ以上のバージョンにデータをマップおよびエクスポートすることにより、ネットワークインベントリレコードのデータを活用できます。

- [182 ページの「スプレッドシートインポートツール」](#)
- [183 ページの「スプレッドシートインポートのワークフロー」](#)

スプレッドシートインポートツール

PlateSpin Transformation Manager Webインタフェースのスプレッドシートインポート機能では、インポート用スプレッドシートを検証するのに役立つ次のツールが用意されています。

- **確認:** 検証ツールでは、含めるデータのタイプを特定するためにスプレッドシートフォーマットをチェックし、値の限定チェックを実行して、エラーを特定します。

Transformation Managerでは、一部のパラメータには使用可能な値を制限し、その他のパラメータにはテキストまたは数を予期しています。また、すべての予期される値が存在することを確認するため、パラメータ間の依存関係もチェックされます。それ以外の場合は、パラメータに対して入力される値を受け入れます。ネットワーク環境内の実際のマシンに対する個別マシンの値の検証は行いません。

再インポートされたマシンごとに、検証ツールにより、そのマシンに対する現在のワークフロー状態もチェックされます。変換のためにすでに送信されているマシンの行は無視されます。変換からマシンを取り消し、再インポートするためそれを再び利用対象とすることができません。

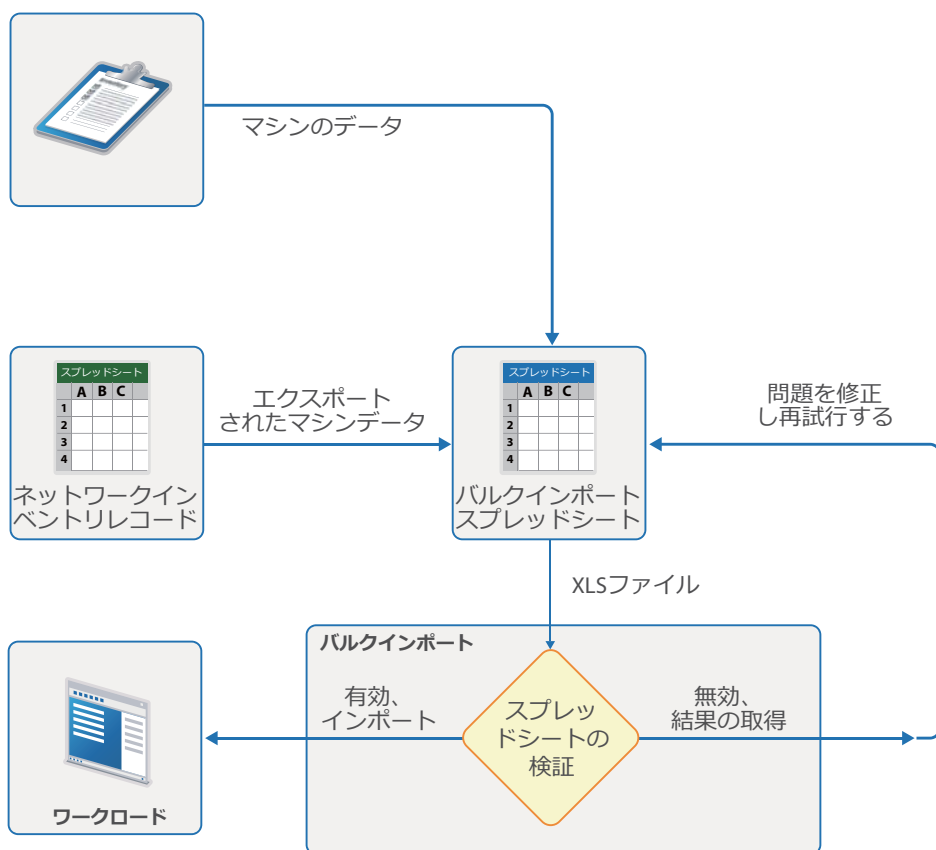
データのすべての行が有効で、スプレッドシートのインポートの準備が完了するまで、スプレッドシートをインタラクティブに再送信できます。

- ◆ **検証結果:** 検証結果レポートツールでは、スプレッドシートにマシンごとの検証ステータスが提供されます。無効な各行については、エラーのタイプと場所が特定されます。無視される行も特定されます。すべての行、有効な行、無効な行、および無視する行について結果を表示できます。
- ◆ **結果の取得:** 結果の取得ツールを使用して、Microsoft Excel 97-2003 (.xls)フォーマットで結果のスプレッドシートをダウンロードできます。マシンごとの検証ステータスのほか、列が存在する場合は次の情報が追加されます。
 - ◆ Workload ID(ワークロードID)
 - ◆ NIC UUID
 - ◆ ディスク UUID

スプレッドシートインポートのワークフロー

図 C-1に示される、スプレッドシートインポートのワークフローには、インポート用データを準備するために実行するタスクと、PlateSpin Transformation Manager環境にインポートする前にそのデータを検証するために必要なタスクが含まれます。

図 C-1 スプレッドシートインポートのワークフロー



1つのプロジェクトで1つ以上のマシンのデータをインポートするか、更新するには:

1. スプレッドシートに単一変換プロジェクト用のマシンに関するデータを収集し、それをMicrosoft Excel 97-2003 (.xls)フォーマットで保存します。

この専用にフォーマットされたスプレッドシート用テンプレートは、[スプレッドシートインポート] ダイアログで使用できます。

2. [スプレッドシートインポート] ダイアログを開きます。
3. プロジェクトを選択し、準備したスプレッドシートを参照して選択します。
4. スプレッドシートを検証します。
5. すべての行、有効な行、無効な行、または無視する行別に検証結果を表示します。
6. 行が無効な場合、注釈付き結果のスプレッドシートをダウンロードします。PTMでは、問題をトラブルシューティングするために役立つ検証情報が追加されます。
7. 無効な行ごとに、さまざまな検証メッセージに従ってエラーを修正し、その検証ステータスのセルをクリアします。
8. すべての行が有効になるまで、ステップ2から7までをインタラクティブに繰り返します。
9. すべての行が有効になった後で、スプレッドシートをインポートします。

空の検証ステータスのセルがあるマシンごとに、PTMは次の操作を実行します。

 - a. マシンの元のワークロードと提案するワークロード(未編集の場合)を作成または更新します。
 - b. (Connector) PlateSpin Migrate Connectorが有効でプロジェクトに対してアクティブな場合、スプレッドシートに資格情報を提供すると、自動検出機能により、インポートされた各ワークロードに関する追加情報が取得されます。検出ステータスが[ワークロード] リストで利用できます。
 - c. 結果スプレッドシートを生成し、必要に応じて次の情報を含めます。
 - ◆ マシンデータ
 - ◆ **インポート済み**の検証ステータス
 - ◆ 元のワークロードのワークロードID
 - ◆ NICインスタンスごとのNIC UUID
 - ◆ ディスクインスタンスごとのディスクUUID
10. (オプション) [スプレッドシートインポート] ダイアログを閉じる前に、結果スプレッドシートをダウンロードします。
11. (オプション) 同じまたは異なるバルクインポートスプレッドシートからマシンのデータを再インポートします。再インポートにより、新しいデータを追加し、以前に提出されたデータを変更することができます。

スプレッドシートパラメータ

バルクインポートスプレッドシートには、変換プロジェクトの1つ以上のワークロードについて次の情報が含まれています。

- ◆ 必要なワークロードデータ
- ◆ ワークロードの資格情報
- ◆ ワークロードの詳細
- ◆ 場所
- ◆ カスタムのフィールド
- ◆ NIC
- ◆ ディスク
- ◆ アプリケーション

Webインタフェースの「Spreadsheet Import (スプレッドシートのインポート)」ダイアログ(プランニング>ワークロード>Spreadsheet Import (スプレッドシートインポート))から、サンプルのスプレッドシートをダウンロードできます。見出しセルの赤い三角形をマウスでポイントし、列のデータの目的とフォーマット、およびこれがマッピングプロセスの一環として必要かどうかについてのヘルプを表示します。

バルクインポートスプレッドシートの各パラメータに予測される値およびフォーマットについては、次の表を参照してください。

- 185 ページの表 C-1 「必要なワークロードのパラメータ」
- 186 ページの表 C-2 「ワークロードの資格情報のパラメータ」
- 188 ページの表 C-3 「ワークロードの詳細のパラメータ」
- 189 ページの表 C-4 「場所のパラメータ」
- 191 ページの表 C-5 「カスタムのフィールドのパラメータ」
- 191 ページの表 C-6 「NICパラメータ」
- 193 ページの表 C-7 「ディスクパラメータ」
- 194 ページの表 C-8 「アプリケーションのパラメータ」

必要なワークロードのパラメータ

スプレッドシートでは、ワークロードを設定するために必要な列は、「FQDN」、「Type (タイプ)」、および「Validation Status (検証ステータス)」という3つの列のみです。表 C-1を参照してください。ヘッダ行には正しい列名を入力する必要があります。これらの3つの列は、ワークロードのすべての再インポートにおいて存在する必要があります。Workload ID(ワークロードID)列も含めると、PTMは、結果スプレッドシートにこのIDを自動的に入力します。

注: 列見出しのないスプレッドシートを用意する場合、サンプルのスプレッドシートで示された順序で、定義したすべての列を含める必要があります。

表 C-1 必要なワークロードのパラメータ

パラメータ	必須/オプション	説明
IPまたはFQDN	すべてのインポートに必須。	ワークロードのIPアドレスまたは完全修飾ドメイン名を指定します。このパラメータは、ワークロードの検出およびワークロードとの通信に使用される場合があります。検出または検証を必要としない場合のみホスト名を指定できます。 例: sqlserver5.paris.digitalair.com sqlserver5 192.168.1.1 ワークロードは、1つの変換プロジェクトに1つのインスタンスしか持つことができません。
Validation Status(検証ステータス)	すべてのインポートに必須。値はPTMが提供します。	Transformation Managerは、検証後またはインポート完了後に、各ワークロードの状態を結果スプレッドシートに書き込みます。インポート用のフィールドをクリアします。

パラメータ	必須/オプション	説明
Workload ID(ワークロードID)	すべてのインポートに推奨(オプション)。値はPTMが提供します。	この列がある場合、PTMは、ワークロードがプロジェクトに正常にインポートされた後に、元のワークロードの固有ワークロードIDを結果スプレッドシートに書き込みます。 例: 1635326
タイプ	すべてのインポートに必須。	ワークロードのタイプを指定します。 使用できる値は、CLOUD、PHYSICAL、またはVIRTUALです。

ワークロードの資格情報

ワークロードのマイグレーションにPlateSpin Migrateを使用する場合、Migrateサーバとの通信に使用する資格情報リソースを指定できます。PlateSpin Migrate Connectorも使用する場合、PTMは資格情報リソースを使用して、ワークロードの検出、ホストの検出、およびマイグレーションの実行を行います。詳細については、[表 C-2](#)を参照してください。

注: 自動検出には有効な資格情報リソースが必要です。既存の、有効な資格情報リソースのワークロード資格情報名を提供するか、3つすべての資格情報フィールドに入力して新しい資格情報リソースを作成してください。

資格情報リソースを作成した後で、スプレッドシートの値を変更し、ワークロードを再インポートすることによってそのユーザ名とパスワードを変更することはできません。Webインタフェースの「資格情報の編集」ダイアログを使用して、リソースの設定を変更します。[204ページの「資格情報の編集」](#)を参照してください。

表 C-2 ワークロードの資格情報のパラメータ

パラメータ	必須/オプション	説明
ワークロードの資格情報名	オプション	プロジェクト内で固有の資格情報の名前を指定します。資格情報のリストに一致する値がない場合、PTMは新しい資格情報リソースを作成します。名前は大文字と小文字が区別されません。 ワークロードの資格情報のユーザ名およびパスワードを指定し、資格情報の名前を指定しないと、PTMは資格情報の名前としてFQDNを使用します。

パラメータ	必須/オプション	説明
ワークロードの資格情報のユーザ名	オプション(新しい資格情報リソースに必要)	ワークロードとの通信に使用するための、ドメイン管理者またはローカル管理者のログオンユーザ名を指定します。 ワークロードのオペレーティングシステムおよび環境が期待しているユーザ名を正確に入力します。 ♦ Windows: 大文字と小文字の区別なし.ローカルまたはドメインの管理者資格情報を使用します。次に例を示します。 ♦ ドメインメンバーのマシンの場合: CORPDOM\username ♦ ワークグループメンバーのマシンの場合: WORKGROUP\username ♦ ローカルユーザアカウントの場合: username ♦ Linux: 大文字と小文字の区別あり. sudoを使用するように正しく設定されたワークロードのルートまたはルートレベルのユーザ名を使用します。 ナレッジベースの記事7920711 (https://www.netiq.com/support/kb/doc.php?id=7920711)を参照してください。
ワークロードの資格情報のパスワード	オプション(新しい資格情報リソースに必要)	指定したユーザ名のパスワードを指定します。後で資格情報のパスワードをWebインタフェースから追加または変更できます。 パスワードでは大文字と小文字が区別されます。パスワードは安全に保存され、Webインタフェースでは表示できません。

ワークロードの詳細

ワークロードの詳細は、ソースワークロードのオペレーティングシステムおよびハードウェアを定義します。これらの詳細は、ターゲットワークロードに自動的に入力されます。Webインタフェースの [変換] ダイアログまたは [Bulk Edit (バルク編集)] アクションを使用して、ターゲットワークロードの詳細を後で変更できます。詳細については、[表 C-3](#)を参照してください。

スプレッドシートにホスト、ネットワーク、およびデータストアの列を含めてこれらのソースリソースを作成できます。ソースワークロードまたはターゲットワークロードに適用できるリソースを作成するには、環境列を含めます。

注: ソースリソース名は、同じタイプのソースリソースで一意である必要があります。環境リソース名は、プロジェクトの環境リソースで一意である必要があります。

リソース名は、文字または数字で始まる必要があります。文字、数字、および次の特殊文字のみ使用できます。使用できる特殊文字はスペース、ハイフン、アンダースコア、アポストロフィ、パーセント、アンパサンド、コンマ、およびピリオドです。

表 C-3 ワークロードの詳細のパラメータ

パラメータ	必須/オプション	説明
オペレーティングシステム	オプション	PTMで設定したオペレーティングシステムリストからオペレーティングシステムを指定します。名前は大文字と小文字が区別されます。 例: CentOS 6 Citrix XEN Server Red Hat Enterprise Linux 7 Solaris 11 SUSE Linux Enterprise Server 12 Windows Server 2003 (x32) Windows 2008 Windows Server 2012 R2 Windows Server 2016 VMware ESX PTMのデフォルトのオペレーティングシステムリストには、ほとんどの種類のオペレーティングシステムおよびリリースバージョンが含まれています。リストにカスタムのオペレーティングシステム値を追加するには、システム管理者にお問い合わせください。
メモリ(MB)	オプション	ワークロードに使用できる最大メモリを指定します。単位が指定されていない場合、値はデフォルトでMBです。有効なバイナリ単位はB、MB、GB、TB、PB、EB、ZB、およびYBです。 例: 2GB、512、8GB
プロセッサ数	オプション	ワークロードに搭載されているプロセッサ数を指定します。 例: 2
コア数	オプション	プロセッサあたりのコア数を指定します。 例: 8

場所

場所の情報は、ワークロードの論理的な場所、仮想の場所、物理的な場所を記述できます。詳細については、表 C-4 を参照してください。

表 C-4 場所のパラメータ

パラメータ	必須/オプション	説明
使用環境	オプション	このワークロードの環境リソースの名前を指定します。値は大文字と小文字が区別されます。一致する値がない場合、PTMはプロジェクトに新しい環境リソースを作成します。 例: 段階的推進、運用前、および運用 注: 環境リソース名は、プロジェクトの環境リソースで一意である必要がありますが、複数のワークロードに適用できます。
クラウドプロバイダ	オプション。クラウドワークロードには推奨します。	クラウドワークロードをホストするクラウドプロバイダを指定します。 使用できる値: ◆ Amazon Web Services ◆ Microsoft Azure ◆ Rackspace ◆ vCloud ◆ Google
ホスト	オプション	仮想ワークロードでは、ソースワークロードのソースホストリソースの名前を指定します。値は大文字と小文字が区別されます。一致する値がない場合、PTMはプロジェクトに新しいソースホストリソースを作成します。 例: mailhost、hyperv-cluster、esx2、citrix5.digitalair.com 注: ソースホストリソース名は、プロジェクトのソースホストリソースで一意である必要がありますが、複数のワークロードに適用できます。
搭載	オプション	仮想ワークロードでは、そのソースホストリソースで実行しているHypervisorのタイプを指定します。名前は大文字と小文字が区別されます。 使用できる値: ◆ Citrix XenServer ◆ Linux KVM ◆ Microsoft Hyper-V ◆ SUSE Xen ◆ VMware

パラメータ	必須/オプション	説明
VM名	オプション	仮想ワークロードでは、その仮想化ホストサーバとして知られるVM名を指定します。 例: vm-erm2、vm-msx-mailbox、vm-msx-web
サイト	オプション	ホストマシンの地理的な場所または論理的な場所を指定します。 例: Paris、Metro General Hospital、South Campus
ハードウェアタイプ	オプション	ワークロードのホストマシンのハードウェア(つまり、物理マシンまたはVMの仮想化ホストマシン)を指定します。 例: Dell PowerEdge、Levono X、IBM BladeCenter
筐体	オプション	ホストマシンの筐体を指定します。 例: AA-21、C205-R5、IL6-C5-R3
筐体スロット	オプション	指定の筐体のスロット番号を指定します。 例: U19、B07
ドメインかどうか	オプション	(OS: Windowsファミリ)ブール値はTRUEまたはFALSEのいずれかである必要があります。 Windowsのワークロードがドメインのメンバーである場合、TRUEを指定します。 Windowsのワークロードがワークグループのメンバーである場合、FALSEを指定します。
ドメイン/ワークグループの名前	オプション	Windowsのワークロードのドメインまたはワークグループの名前を適切に指定します。 ドメイン名の例: CORPDOM、PARIS、またはparis.digitalair.com ワークグループ名の例: WORKGROUP

カスタムのフィールド

スプレッドシートのインポートでは、**Custom X (カスタムX)**列の見出しが、プロジェクト用に以前に設定したカスタムフィールド名と一致すると想定されています。各プロジェクトは、プロジェクト全体に適用するユーザ定義のフィールドを最大7つ備えることができます。詳細については、[表 C-5](#)を参照してください。

論理名および目的を各プロジェクトのカスタムのフィールドに関連付けることができます。たとえば、ワークロードを日々のIT管理者で特定する場合、プロジェクトの**連絡先のフィールド1**の名前を定義します。スプレッドシートで、列見出しとして**Custom 1 (カスタム1)**の代わりに**連絡先**を使用します。連絡先の人の名前、ユーザ名、電子メールアドレスなど、プロジェクトに適切なフィールドの値を指定します。

表C-5 カスタムのフィールドのパラメータ

パラメータ	必須/オプション	説明
カスタム1	オプション	列見出しとしてプロジェクトのフィールド1の名前を指定します。各ワークロードに対して、プロジェクトのフィールド1の定義に基づいて値を指定します。
カスタム2	オプション	列見出しとしてプロジェクトのフィールド2の名前を指定します。各ワークロードに対して、プロジェクトのフィールド2の定義に基づいて値を指定します。
カスタム3	オプション	列見出しとしてプロジェクトのフィールド3の名前を指定します。各ワークロードに対して、プロジェクトのフィールド3の定義に基づいて値を指定します。
カスタム4	オプション	列見出しとしてプロジェクトのフィールド4の名前を指定します。各ワークロードに対して、プロジェクトのフィールド4の定義に基づいて値を指定します。
カスタム5	オプション	列見出しとしてプロジェクトのフィールド5の名前を指定します。各ワークロードに対して、プロジェクトのフィールド5の定義に基づいて値を指定します。
カスタム6	オプション	列見出しとしてプロジェクトのフィールド6の名前を指定します。各ワークロードに対して、プロジェクトのフィールド6の定義に基づいて値を指定します。
カスタム7	オプション	列見出しとしてプロジェクトのフィールド7の名前を指定します。各ワークロードに対して、プロジェクトのフィールド7の定義に基づいて値を指定します。

NIC

1つのワークロードに1つ以上のNICを指定できます。使用できるNIC入力パラメータのいずれかを指定してNICをセットアップできます。表 C-6を参照してください。NIC1 UUID列も含めると、PTMIは、結果スプレッドシートにこのUUIDを自動的に入力します。NIC#列のインスタンスを追加して複数のNICをセットアップできます。

表C-6 NICパラメータ

パラメータ	必須/オプション	説明
NIC1 UUID	オプション。NICには推奨します。値はPTMIが提供します。	UUIDは、プロジェクトでNICを一意に識別する一連の16進数です。この列がある場合、PTMIは、ワークロードがプロジェクトに正常にインポートされた後に、各NICの固有IDを結果スプレッドシートに書き込みます。 再インポート時には、PTMIは同じIDを保持し、元のワークロードのNICの設定情報を置き換えます。 例: b916afef-ccfc-4501-aa4c-a4658cd9845d
NIC1のインタフェース名	オプション	ワークロードの一意のインタフェース名を指定します。 例: eth0、eth1

パラメータ	必須/オプション	説明
NIC1 IP DHCP	オプション	DHCPサーバがNICにIPアドレスを渡すかどうかを指定します。 ブール値はTRUEまたはFALSEのいずれかにする必要があります。
NIC1 IPアドレス	オプション	NICのアドレスをIPv4フォーマットで指定します。 例: 10.10.10.40
NIC1 MAC	オプション	ソースワークロードのNICのMACアドレスをMM:MM:MM:SS:SS:SSの形式で指定します。 例: 01:23:45:67:89:ab
NIC1ネットワーク名	オプション	ソースワークロードのソースネットワークリソースの名前を指定します。値は大文字と小文字が区別されます。一致が見つからない場合、PTMIはプロジェクトに新しいソースネットワークリソースを作成します。 例: OrgNet-DMZ、OrgNet-Isolated、Azure-VNet-01、VMnet-08 注: ソースネットワークリソースの名前は、プロジェクトのソースネットワークリソースで一意である必要がありますが、同じまたは異なるワークロードの複数のNICに適用できます。
NIC1 VLAN ID	オプション	このNICに割り当てられたVLAN IDを指定します。IDを指定すると、検証機能およびインポート機能の実行が高速になります。 有効な値は1から4094です。
NIC1ネットワークマスク	オプション	ネットワークマスクをIPv4フォーマットで指定します。 例: 255.255.252.0
NIC1ゲートウェイ	オプション	デフォルトのゲートウェイアドレスをIPv4フォーマットで指定します。複数入力にはサポートされていません。
NIC1 DNS DHCP	オプション	DNS DHCPをNICで使えるかどうかを指定します。 ブール値はTRUEまたはFALSEのいずれかにする必要があります。
NIC1 DNSサーバ	オプション	1つ以上のアドレスをIPv4フォーマットで指定します。複数入力するには、各値を別の行に入力します。
NIC1検索ドメイン	オプション	1つ以上の検索ドメインを指定します。複数入力するには、各値を別の行に入力します。
適切に追加のNIC#セクションを作成し、次のコンポーネントセクションに進みます。		
ワークロードは、それぞれが固有のネットワーク設定を持つ複数のネットワークカードを備えることができます。最初に定義したネットワークカードがNIC1に指定され、2番目がNIC2に指定され、その後も同様に指定されます。		

ディスク

1つのワークロードに1つ以上のディスクを指定できます。表 C-7を参照してください。ディスクに必要な列はDisk1 Vol Type (ディスク1ボリュームタイプ)列とDisk1 Size (ディスク1サイズ)列のみです。Disk1 UUID (ディスク1UUID)列も含めると、PTMは、結果スプレッドシートにこのUUIDを自動的に入力します。少なくともDisk# Vol Type (ディスク#ボリュームタイプ)列およびDisk# Size (ディスク#サイズ)列があるディスク#列インスタンスを追加して、複数のディスクをセットアップできます。

表 C-7 ディスクパラメータ

パラメータ	必須/オプション	説明
ディスク1 UUID	オプション。ディスクには推奨します。値はPTMが提供します。	UUIDは、プロジェクトでディスクを一意に識別する一連の16進数です。この列がある場合、PTMは、ワークロードがプロジェクトに正常にインポートされた後に、各ディスクの固有IDを結果スプレッドシートに書き込みます。 再インポート時には、PTMは同じIDを保持し、元のワークロードのディスクの設定情報を置き換えます。 例: 866b4209-4779-48f8-a81d-e8aa04c63d55
ディスク1データストア名	オプション。仮想ワークロードに適用されません。	ディスクを含むソースデータストアリソースの名前を指定します。値は大文字と小文字が区別されます。一致する値がない場合、PTMはプロジェクトに新しいソースデータストアリソースを作成します。 例: san-dc-east 注: データストア名は、プロジェクトのソースデータストアリソースで一意である必要があります。データストアは、同じ仮想ワークロードまたは異なる仮想ワークロードの複数のディスクに適用できます。
ディスク1ボリューム名	オプション	ワークロードの一意のボリューム名を指定します。
ディスク1ボリュームタイプ	オプション。ディスクには必須です。	使用できる値はSystem、Local、NAS、またはSANです。
ディスク1マウントポイント	オプション	ボリュームのルートからのパスを指定します。
ディスク1リモートパス	オプション	(ボリュームタイプ: SANまたはNAS)ボリュームのリモートパスを指定します。 例: \\vol1\mnt
ディスク1サイズ	オプション。ディスクには必須です。	ディスクの合計サイズを指定します。単位が指定されていない場合、値はデフォルトでMBです。有効なバイナリ単位はB、MB、GB、TB、PB、EB、ZB、およびYBです。 例: 2TB、500GB、102400

パラメータ	必須/オプション	説明
ディスク1使用済み容量	オプション	ディスクの使用済み容量を指定します。単位が指定されていない場合、値はデフォルトでMBです。有効なバイナリ単位はB、MB、GB、TB、PB、EB、ZB、およびYBです。
例: 1.22TB、162GB、51200		

適切に追加のDisk#セクションを作成し、次のコンポーネントセクションに進みます。

ワークロードは、それぞれが固有の設定を持つ複数のディスクを備えることができます。最初に定義したディスクがDisk1に指定され、2番目がDisk2に指定され、その後も同様に指定されます。

アプリケーション

1つのワークロードに1つ以上のアプリケーションを指定できます。表 C-8を参照してください。ワークロードについて追跡する各アプリケーションに対してApplication# (アプリケーション#)列のインスタンスを追加します。

表 C-8 アプリケーションのパラメータ

パラメータ	必須	説明
Application1 Name	オプション	アプリケーションの名前のみが必要です。ワークロードでアプリケーションを使用できる必要があります。値は大文字と小文字が区別されます。一致する値がない場合、PTMはプロジェクトに新しいアプリケーションリソースを作成します。
例: Paris-Project2-Exchange		
注: アプリケーション名は、プロジェクトのアプリケーションで一意である必要がありますが、複数のワークロードに適用できます。		

必要に応じて、追加の [Application# (アプリケーション#)] セクションを作成します。

ワークロードは、これに関連付けられたアプリケーションまたはサービスを複数備えることができます。最初に定義したアプリケーションはApplication1 Nameの列見出しで指定され、2番目の列見出しはApplication2 Nameになり、以下同様に続きます。

サンプルインポートスプレッドシートのダウンロード

サンプルスプレッドシートをダウンロードするには:

- 1 プロジェクトマネージャユーザまたは任意のシステムユーザとしてWebインタフェースにログインします。
 - 2 プランニング>ワークロード>スプレッドシートインポートを選択して、[スプレッドシートインポート] ダイアログを開きます。
 - 3 Get sample spreadsheet (サンプル スプレッドシートの取得)をクリックし、ファイルをローカルマシンに保存します。
- スプレッドシートは、.xlsファイル形式です。

スプレッドシートの検証

バルクインポートのスプレッドシートを送信する前に、インポート(または再インポート)を検証する各マシンの検証ステータスセルの内容をクリアします。

検証ツールには、マシンの次の状態が表示され、結果スプレッドシートの検証ステータス列に情報が追加されます。

- ◆ **インポート準備完了:** 行には有効な情報が含まれています。

検証ツールはマシンに送信されたデータにエラーがないことを確認しました。すべての値は有効で、期待どおりのフォーマットになっています。必須の値および依存性のある値がすべて存在します。

- ◆ **無効:** 行には無効な情報が含まれています。

検証ツールはこのマシンに送信されたデータに1つ以上のエラーがあることを確認しました。セルには、エラーのタイプおよび場所についてのメッセージも含まれています。

- ◆ **インポート済み:** 行は正しくインポートまたは再インポートされました。

インポート時、PTMは、指定したプロジェクトのこのマシンに元のワークロードおよび提案するワークロードを作成(または変更)します。Webインターフェースを使用して提案するワークロードを編集した場合、再インポートすると、元のワークロード用のデータのみ変更されます。

- ◆ **無視:** この行は、変換のためにすでに送信済みのワークロード用に以前インポートされました。

[変換] ダイアログを使用して変換からこのマシンを取り消し、再インポートできるようになります。

結果スプレッドシートのダウンロード

バルクインポートスプレッドシートの検証またはインポートを実行した後で、[スプレッドシートインポート] ダイアログで**結果の取得**オプションが使用可能になります。

- 1 [スプレッドシートインポート] ダイアログで、**結果の取得**をクリックし、ファイルをローカルマシンに保存します。

スプレッドシートは、.xlsファイル形式です。

検証後、結果スプレッドシートがワークロードごとのインポート準備状況を報告します。

正常にインポートされた後、結果スプレッドシートには、次のものを含む、インポートプロセスの現在の状態の正確な結果が記載されます。

- ◆ 空の行の削除
- ◆ 検証ステータスの詳細な結果
- ◆ 各ワークロードに割り当てられたワークロードID (ワークロードID列が入力バルクインポートスプレッドシートにある場合)
- ◆ 各NICに割り当てられたUUID(NIC#UUID列が入力バルクインポートスプレッドシートにある場合)
- ◆ 各ディスクに割り当てられたUUID(Disk#UUID列が入力バルクインポートスプレッドシートにある場合)

ワークロードの再インポート

ワークロードを複数回再インポートして、データのさまざまなカテゴリを個別にセットアップできます。この部分インポート機能によって、それぞれ独自のインポートスプレッドシートを使用して、複数のソースからワークロードの完全な詳細をインポートできます。それぞれの再インポートで、元のワークロードの詳細および提案するワークロードの詳細を追加します。

たとえば、最小のデータをインポートしてワークロードを作成できます。その後の再インポートで、個別のスプレッドシートを使用して、ワークロードの詳細、場所、NIC、ディスク、アプリケーション、およびカスタムのフィールドを追加できます。または、同じスプレッドシートで作業を継続し、再インポートごとに適切な列をスプレッドシートの最後に追加できます。

注: Webインターフェースを使用して、提案するワークロードを編集した後は、提案するワークロードはその後の再インポートでは更新されなくなります。

送信済み以降のフェーズのワークフロー状態のワークロードを再インポートしようとすると、検証ステータスは次のメッセージを返します。

変換を送信した後はワークロードを再インポートできません。

インポートは、送信済み以降の状態のワークロードを無視し、無効な行がない限り続行します。無視された状態の行は、検証結果の「Ignored Rows (無視された行)」タブに表示されます。

V リソース

PlateSpin Transformation Managerを使用すると、ワークロード変換で追跡するリソースを定義できます。リソースには、資格情報、ホスト、ネットワーク、データストア、環境、マイグレーションサーバ、およびリソースプールが含まれます。

- ♦ [199ページの第20章「リソースの概要」](#)
- ♦ [201ページの第21章「資格情報リソースの管理」](#)
- ♦ [207ページの第22章「ホストリソースの管理」](#)
- ♦ [215ページの第23章「マイグレーションサーバリソースの管理」](#)
- ♦ [219ページの第24章「ネットワークリソースの管理」](#)
- ♦ [223ページの第25章「データストアリソースの管理」](#)
- ♦ [227ページの第26章「リソースプールリソースの管理」](#)
- ♦ [231ページの第27章「環境リソースの管理」](#)

20 リソースの概要

PlateSpin Transformation Managerを使用すると、ワークロード変換で追跡するリソースを定義できます。リソースには、資格情報、ホスト、ネットワーク、データストア、環境、マイグレーションサーバ、およびリソースプールが含まれます。

- ◆ [199 ページの「リソースについて」](#)
- ◆ [199 ページの「リソースの前提条件」](#)

リソースについて

リソースは、変換対象のワークロード外部のITインフラの要素です。これらのリソースは、ワークロードの運用環境およびレプリケーション環境を表します。リソースタイプは次のとおりです。

- ◆ 資格情報
- ◆ ホスト
- ◆ マイグレーションサーバ
- ◆ ネットワーク
- ◆ データストア
- ◆ リソースプール
- ◆ 環境

リソース機能を使用して、プロジェクトのリソースに関する情報を作成、管理、および削除できます。スプレッドシートのインポートでは、ホスト、ネットワーク、およびデータストアの値によってソースリソースが作成され、資格情報と環境の値はソースとターゲットの両方に当てはまります。

リソースの前提条件

リソースを作成するとき、これを特定の変換プロジェクトと関連付ける必要があります。プロジェクトにリソースを追加するにはその前に、親組織およびプロジェクトを作成し、プロジェクトのリソースを作成するときに使用できるようにする必要があります。

21 資格情報リソースの管理

資格情報リソースを使用すると、管理者ユーザとして関連する場所にログインするために必要な認証資格情報を追跡できます。

- ワークロード
- ターゲットホスト
- マイグレーションサーバ

「資格情報」ページを使用して、変換プロジェクト内のターゲットワークロードの資格情報リソースを作成、管理、表示、および削除できます。資格情報はソースワークロードには適用されません。

- [201 ページの「資格情報リソースについて」](#)
- [202 ページの「資格情報の表示」](#)
- [203 ページの「資格情報の作成」](#)
- [203 ページの「資格情報とワークロード、ホスト、またはマイグレーションサーバの関連付け」](#)
- [204 ページの「資格情報の編集」](#)
- [205 ページの「資格情報の削除」](#)

資格情報リソースについて

資格情報リソースを使用すると、認証資格情報の次の情報を追跡できます。

名前: 変換プロジェクトに固有の資格情報リソースの名前を指定します。この名前は、文字または数字で始まる必要があります。文字、数字、および次の特殊文字のみ使用できます。使用できる特殊文字はスペース、ハイフン、アンダースコア、アポストロフィ、パーセント、アンパサンド、コンマ、およびピリオドです。

組織: プロジェクトの親組織を選択します。

プロジェクト: 資格情報の親プロジェクトを選択します。

説明: (オプション)資格情報の簡単な説明を指定します。このテキストは、デフォルトでは「資格情報」リストに表示されます。

ユーザ名: ワークロードとの通信に使用するための、ドメイン管理者またはローカル管理者のログインユーザ名を指定します。

目的のワークロードのオペレーティングシステムまたは認証システムが期待しているユーザ名を正確に入力します。

- **Windows:** 大文字と小文字の区別なし。ローカルまたはドメインの管理者資格情報を使用します。次に例を示します。
 - ドメインメンバーのマシンの場合: CORPDOM\username
 - ワークグループメンバーのマシンの場合: WORKGROUP\username
 - ローカルユーザアカウントの場合: username

- ◆ **Linux:** 大文字と小文字の区別あり. sudoを使用するように正しく設定されたワークロードのルートまたはルートレベルのユーザ名を使用します。 [ナレッジベースの記事7920711 \(https://www.netiq.com/support/kb/doc.php?id=7920711\)](https://www.netiq.com/support/kb/doc.php?id=7920711)を参照してください。

パスワード: ユーザ名のパスワードを指定します。

パスワードの確認: パスワードを再入力します。

資格情報リソースによって、関連付けられたコンポーネントの認証が簡易化されます。パスワードはPlateSpin Transformation Managerデータベースに安全に格納されます。パスワードはインタフェースでは伏せて表示されます。

注: 資格情報リソース設定は、ディレクトリパスワード管理システムと統合されません。ユーザのネットワーク環境内でパスワードが変更された場合や、クラウドプロバイダ側の場所にあるアカウントのパスワードが変更された場合は、該当リソース用に保管されているパスワードを手動で更新する必要があります。

資格情報の表示

プロジェクトのすべての役割が資格情報リソースの情報を表示できます。ユーザ名のパスワードが表示されることはありません。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**リソース**を選択してから**資格情報**タブを選択します。
[Edit Project (プロジェクトの編集)] ダイアログの**関連付け**領域で、単一プロジェクトの資格情報リソースを表示することもできます。**プランニング>プロジェクト**の順に選択し、プロジェクトをダブルクリックします。**関連付け**の下に [Edit Project (プロジェクトの編集)] ダイアログで、**リソース**タブを選択してから**資格情報**を選択します。
- 2 **資格情報**タブで、リソースのリストを表示します。
- 3 資格情報リソースを選択してから**表示**をクリック(または当該リソースをダブルクリック)し、当該リソースの次の設定を表示します。
 - ◆ 名前
 - ◆ 組織
 - ◆ プロジェクト
 - ◆ 説明
 - ◆ ユーザ名
 - ◆ パスワード
 - ◆ パスワードの確認
- 4 (オプション)**検索**フィールドを使用して [資格情報] リストのエントリをフィルタし、目的のリソースプールのみを表示します。**検索**領域に文字列を入力し、フィルタ処理を開始します。入力するにつれてフィルタが適用されます。いずれか1つの列の情報を同時にフィルタできます。
- 5 (オプション)列の値を基準にしてエントリをソートします。列をマウスオーバーしてメニューオプションを表示し、これをクリックしてから**Sort Ascending (昇順ソート)**または**Sort Descending (降順ソート)**を選択します。

資格情報の作成

「資格情報」ページを使用して、プロジェクトのターゲット変換環境の資格情報リソースを作成できます。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**リソース**を選択します。
- 2 **資格情報**タブを選択します。
- 3 **作成**をクリックし、「Create Credential (資格情報の作成)」ダイアログを開きます。
- 4 資格情報リソースの次の情報を指定します。
 - ◆ 名前
 - ◆ 組織
 - ◆ プロジェクト
 - ◆ 説明
 - ◆ ユーザ名
 - ◆ パスワード
 - ◆ パスワードの確認
- 5 **保存**をクリックし、資格情報リソースを作成します。
- 6 **閉じる**をクリックしてダイアログを終了します。

資格情報とワークロード、ホスト、またはマイグレーションサーバの関連付け

プロジェクトの資格情報リソースを作成した後、必要に応じてこれらをワークロード、ホスト、またはマイグレーションサーバと関連付けることができます。

- ◆ [203 ページの「資格情報とワークロードの関連付け」](#)
- ◆ [204 ページの「資格情報とホストの関連付け」](#)
- ◆ [204 ページの「資格情報とマイグレーションサーバの関連付け」](#)

資格情報とワークロードの関連付け

プロジェクトの資格情報リソースを作成した後、これらをワークロードと関連付けることができます。

- 1 Webインタフェースで、ツールバーの**プランニング**を選択し、**ワークロード**タブを選択します。
- 2 **ワークロード**リストで、「フィルタ」および「詳細検索」を使用して目的のワークロードを見つけます。
- 3 ワークロードを選択してから、**編集**をクリックします。または、目的のワークロードをダブルクリックします。
- 4 「変換」ダイアログで、**ワークロード**パネルまでスクロールしてから、**編集**をクリックします。
- 5 **管理者資格情報**リストから、ターゲットワークロードに割り当てる資格情報リソースを選択します。

- 6 (Windowsワークロード)ドメインで、**Windows設定**で**ドメイン**を選択し、ドメイン名を指定してから、**Domain Credential (ドメイン資格情報)**リストでそのドメイン用に使用する資格情報リソースを選択します。
- 7 (オプション)必要に応じてその他のワークロード情報を変更します。
- 8 **保存、閉じる**の順にクリックします。
- 9 **閉じる**をクリックして「変換」ダイアログを閉じます。

資格情報とホストの関連付け

プロジェクトの資格情報リソースを作成した後、これらをホストリソースと関連付けることができます。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**リソース**を選択します。
- 2 **ホスト**タブを選択します。
- 3 ホストを選択してから、**編集**をクリックします。または、目的のホストをダブルクリックします。
- 4 **資格情報**リストから、ターゲットホストに割り当てる資格情報リソースを選択します。
- 5 (オプション)必要に応じてその他のホスト情報を変更します。
- 6 **保存**をクリックします。
- 7 **閉じる**をクリックしてダイアログを終了します。

資格情報とマイグレーションサーバの関連付け

プロジェクトの資格情報リソースを作成した後、これらをマイグレーションサーバと関連付けることができます。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**リソース**を選択します。
- 2 **マイグレーションサーバ**タブを選択します。
- 3 マイグレーションサーバを選択し、**編集**をクリックします。または、目的のマイグレーションサーバをダブルクリックします。
- 4 **資格情報**リストから、ターゲットマイグレーションサーバに割り当てる資格情報リソースを選択します。
- 5 (オプション)必要に応じてその他のマイグレーションサーバ情報を変更します。
- 6 **保存**をクリックします。
- 7 **閉じる**をクリックしてダイアログを終了します。

資格情報の編集

「資格情報」ページを使用して、プロジェクトのターゲット変換環境の資格情報リソースを編集できます。たとえば、資格情報に割り当てたユーザ名およびパスワードを変更する必要がある、または既存のユーザ名のパスワードを変更する必要があるとします。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**リソース**を選択します。
- 2 **資格情報**タブを選択します。
- 3 **資格情報**リストで、資格情報を選択してから**編集**をクリック(または資格情報をダブルクリック)し、「資格情報の編集」ダイアログを開きます。

4 資格情報リソースの次の情報のいずれかを変更します。

- ◆ 名前
- ◆ 組織
- ◆ プロジェクト
- ◆ 説明
- ◆ ユーザ名
- ◆ パスワード
- ◆ パスワードの確認

5 **保存**をクリックし、資格情報リソースを更新します。

6 **閉じる**をクリックしてダイアログを終了します。

資格情報の削除

「資格情報」ページを使用して、プロジェクトのターゲット変換環境の資格情報リソースを削除できます。

注: リソースを削除すると、そのリソースの関連付けが自動的に削除されます。これには、進行中および完了済みのワークロードに割り当てられている関連付けも含まれます。同じ関連付けを適用する場合、リソース名およびそのユーザ名とパスワードを編集するほうが適切かどうかを検討します。

1 Webインタフェースツールバーで、**リソース**を選択します。

2 **資格情報**タブを選択します。

3 資格情報リソースのリストを表示します。

4 目的の資格情報を選択し、**削除**、**はい**の順にクリックして削除を確認します。

5 **閉じる**をクリックしてダイアログを終了します。

22 ホストリソースの管理

ホストリソースを使用すると、ワークロードVMのホストマシンについての情報を追跡できます。

[ホスト] ページを使用して、変換プロジェクトのターゲットワークロードのホストリソースを作成、編集、表示、および削除できます。マシンのデータをインポートするときにソースワークロードのホストリソースを定義できます。ホストリソースはソースワークロード用またはターゲットワークロード用に使用できますが、両方には使用できません。物理マシンのホストリソースは単一ワークロードのみに割り当てることができます。

- [207 ページの「ホストの自動検出について」](#)
- [209 ページの「ホストリソースについて」](#)
- [210 ページの「ホストの表示」](#)
- [211 ページの「ソースホストの作成」](#)
- [211 ページの「ターゲットホストの作成」](#)
- [212 ページの「ホスト検出の再試行」](#)
- [212 ページの「ホストの再検出」](#)
- [213 ページの「ターゲットホストの編集」](#)
- [213 ページの「ホストとターゲットワークロードの関連付け」](#)
- [214 ページの「ホストの削除」](#)

ホストの自動検出について

プロジェクトでPlateSpin Migrate Connectを使用できる場合は、PlateSpin Transformation ManagerがターゲットVMware Clusterホストに対して自動検出を提供します。検出により、ネットワーク、データストア、リソースプールを含む、ホストに関する詳細が取得されます。ネットワーク、データストア、およびリソースプールが既存のリソースに一致しない場合は、それらに対するリソースを作成します。必要に応じて、ホストの詳細を再検出することもできます。

- [207 ページの「ターゲットホストの検出要件」](#)
- [208 ページの「ホストの検出プロセス」](#)
- [208 ページの「ホスト検出失敗のトラブルシューティング」](#)

ターゲットホストの検出要件

VMware Clusterホストの検出を試みる前に、PlateSpin検出環境を設定する必要があります。

- **PlateSpin Transformation Manager 1.1**

PlateSpin Transformation Managerを設定し、検出するターゲットホストのプロジェクトを設定します。

- **PlateSpin Migrate Connector 1.1**

PlateSpin Migrate Connectorがプロジェクトに使用できる必要があります。展開情報については、『[PlateSpin Migrate Connector クイックスタート](#)』の「[展開要件](#)」を参照してください。

PlateSpin Transformation Manager アプライアンスには、PTMサーバと連携するように事前設定されているMigrate Connectorインスタンスが含まれます。独自のSUSE Linux Enterprise Server 11 SP4サーバにMigrate Connectorインスタンスを別々に展開することもできます。詳細については、『[PlateSpin Migrate Connector Quick Start](#)』を参照してください。

注: ターゲットホストの検出または再検出を試みる前に、Migrate Connectorが稼働しているかどうかを確認してください。

- ◆ **ターゲットホスト**

- ◆ Connectorは、VMware Clusterホストの自動検出をサポートしています。

他のターゲットホストタイプについては、スプレッドシートインポート方式を使用してホスト詳細を追加できます。

- ◆ ターゲットVMware Clusterホストが稼動しているかどうか確認してください。
- ◆ ネットワーク接続がPlateSpin Migrate ConnectorとターゲットVMware Clusterホスト間で機能していることを確認してください。

- ◆ **資格情報**

ターゲットVMwareホストにアクセスするために必要な管理者レベルの資格情報を提供する、ホスト検出に使用する資格情報リソースを作成します。資格情報リソースは、ホスト上のターゲットVMの自動マイグレーションのセットアップに後でも使用されます。

- ◆ **ターゲットホストのネットワーク接続およびアクセス**

ターゲットホスト検出用のネットワーク接続およびアクセス要件については、[140 ページの「PlateSpin検出環境」](#)を参照してください。

ホストの検出プロセス

ホストの自動検出プロセスでは次のアクションを実行します。

1. 既存のホストに一致しない場合は、[ホストの作成] ダイアログにより、新しいホストオブジェクトが作成されます。
2. ホストにログインするために提供された資格情報リソースを使用して、ホストに対する自動検出が開始されます。
3. ホストの検出詳細にネットワーク、データストア、またはリソースプールが含まれる場合、これらが既存のリソースに一致しない場合は、PTMにより、プロジェクト内のそれぞれに対して新しいリソースが作成されます。
4. ホストが正常に検出されると、[ホスト] リストまたは[ホストの編集] ダイアログにホスト情報が表示されます。

ホスト検出失敗のトラブルシューティング

次のいずれかの状態により、検出が失敗します。

- ◆ Migrate Connectorが使用できない。
- ◆ ターゲットホストが自動検出でサポートされていない。
- ◆ 資格情報リソースが提供されていない。

- 資格情報リソースのユーザ名とパスワードの値が無効である。
- ホストが検出時に実行されていない。

Migrate Connector、ネットワーク、または資格情報の問題を解決した後で、サポートされるホストの検出を再試行できます。[149 ページの「ワークロード検出の再試行」](#)を参照してください。

ホストリソースについて

ホストリソースを使用すると、1つの物理ワークロードをホストするサーバ、または複数の仮想ワークロードのHypervisorをホストするサーバについての次の情報を追跡できます。

ステータス: ターゲットVMホストの検出状態。検出を実行できるのは、PlateSpin Migrate Connectorをプロジェクトで使用可能であり、かつターゲットVMホストがVMware Clusterである場合のみです。

名前: 変換プロジェクトに固有のサーバの名前を指定します。この名前は、文字または数字で始まる必要があります。文字、数字、および次の特殊文字のみ使用できます。使用できる特殊文字はスペース、ハイフン、アンダースコア、アポストロフィ、パーセント、アンパサンド、コンマ、およびピリオドです。

組織: プロジェクトの親組織を選択します。

プロジェクト: 仮想化ホストの親プロジェクトを選択します。

説明: (オプション)ホストの簡単な説明を指定します。このテキストは、デフォルトでは「ホスト」リストに表示されます。

IP/DNS名: (オプション、検出および自動マイグレーションに必要) IPv4フォーマットでIPアドレスを指定するか、またはFQDNフォーマットでホストマシンのDNS名を指定します。

資格情報: (オプション、検出および自動マイグレーションに必要)資格情報リストを展開し、ホストマシンへのアクセスに使用する資格情報リソースを見つけて選択します。リストをスクロール、または「フィルタ」に文字列を入力して目的の資格情報を見つけることができます。

搭載: ホストが使用するHypervisorタイプを選択します。指定できる値は、次のとおりです。

Citrix XenServer
Linux KVM
Microsoft Hyper-V
None (物理ワークロード用)
SUSE Xen
VMware

クラス: (オプション)vSphereクラスタの名前。

ハードウェア: (オプション)ホストサーバのハードウェアアーキテクチャのテキストによる説明を指定します。一致が見つからない場合、PTMはデータベースに新しいハードウェアタイプを追加します。オプションにはx32、x64が含まれます。

サイト: (オプション)ホストサーバがある施設または場所のテキストによる説明を指定します。一致が見つからない場合、PTMはデータベースに新しいサイトタイプを追加します。例: HQ data center、West campus、Sydney。

筐体: (オプション)ホストサーバがある筐体のテキストによる説明を指定します。ラックキャビネット、ブレードサーバシャーシ、タワーキャビネットなどです。一致が見つからない場合、PTMはデータベースに新しい筐体タイプを追加します。例: RC-10、BS-2、TC-5。

スロット: (オプション)指定した筐体のホストサーバがあるスロットのテキストによる説明を指定します。一致が見つからない場合、PTMはデータベースに新しいスロットタイプを追加します。例: R3-2U、Bay-2、Sh-1。

ホストの表示

管理する変換ワークロードのホスト情報を表示できます。ホストを定義するために使用されるパラメータについては、[209 ページの「ホストリソースについて」](#)を参照してください。

- 1 Webインタフェースで、ツールバーの**リソース**を選択してから、**ホスト**タブを選択します。
[Edit Project (プロジェクトの編集)] ダイアログの**関連付け**領域で1つのプロジェクトのホストを表示することもできます。**プランニング>プロジェクト**の順に選択し、プロジェクトをダブルクリックしてから**関連付け**の下で、**ホスト**タブを選択します。
- 2 **ホスト**タブで、次のいずれかを実行してリソースのリストを表示します。
 - ◆ **ソース**リンクをクリックして、[Spreadsheet Import (スプレッドシートのインポート)]を使用して元のワークロード用にインポートしたホスト情報を表示します。
 - ◆ **ターゲット**リンクをクリックして、ターゲット変換環境のホスト情報を表示します。
- 3 ホストリソースを選択してから**表示**をクリック(またはリソースをダブルクリック)し、リソースの次の設定を表示します。
 - ◆ ステータス
 - ◆ 名前
 - ◆ 組織
 - ◆ プロジェクト
 - ◆ 説明
 - ◆ IP/DNS名
 - ◆ 資格情報
 - ◆ 搭載
 - ◆ クラスタ
 - ◆ ハードウェア
 - ◆ サイト
 - ◆ 筐体
 - ◆ スロット
- 4 (オプション)検索フィールドを使用して [ホスト] リストのエントリをフィルタし、目的のホストのみを表示します。
検索領域に文字列を入力し、フィルタ処理を開始します。入力するにつれてフィルタが適用されます。いずれか1つの列の情報を同時にフィルタできます。
- 5 (オプション)列の値を基準にしてエントリをソートします。列をマウスオーバーしてメニューオプションを表示し、これをクリックしてから**Sort Ascending (昇順ソート)**または**Sort Descending (降順ソート)**を選択します。

ソースホストの作成

バルクインポートスプレッドシートのマシン定義を使用してホスト情報を指定し、ソースワークロードのホストリソースを作成できます。

ターゲットホストの作成

[ホスト] ページを使用して、プロジェクトのターゲット変換環境のホストリソースを作成できます。

注: プロジェクトでPlateSpin Migrate Connectorを使用できる場合に、ターゲットVMホストがVMware Clusterである場合は、自動検出によって、関連するネットワークリソースとデータストアリソースが作成されます(これらがまだ存在していない場合)。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**リソース**を選択します。
- 2 **ホスト**タブを選択してから**ターゲット**をクリックします。
- 3 **作成**をクリックし、[Create Host (ホストの作成)] ダイアログを開きます。
- 4 ホストリソースの次の情報を指定します。
 - ◆ 名前
 - ◆ 組織
 - ◆ プロジェクト
 - ◆ 説明
 - ◆ IP/DNS名(検出および自動マイグレーションに必要)
 - ◆ 資格情報(検出および自動マイグレーションに必要)
 - ◆ 搭載
 - ◆ クラスタ
 - ◆ ハードウェア
 - ◆ サイト
 - ◆ 筐体
 - ◆ スロット
- 5 **保存**をクリックし、ホストリソースを作成します。

自動検出を実行できる場合は、ホストのネットワークリソースとデータストアリソースが自動的に作成されます。
- 6 **閉じる**をクリックしてダイアログを終了します。

ホスト検出の再試行

初期検出に失敗した場合は、ホストの検出を再試行することをお勧めします。検出失敗の考えられる原因については、[208 ページの「ホスト検出失敗のトラブルシューティング」](#)を参照してください。

1つ以上のホストの検出を再試行するには、次の手順を実行します。

- 1 Webインタフェースで、ツールバーの**リソース**を選択してから、**ホスト**タブを選択します。
- 2 詳細検索を使用して、初期検出に失敗した1つ以上のホストを選択します。**サブステータス**リストで、**ターゲットホスト検出失敗**を選択します。
- 3 [ホスト] リストをクリックして詳細検索を終了します。
- 4 各ホストについて、**ターゲットホスト検出失敗**ステータスをマウスオーバーして、検出に失敗した理由に関する詳細情報を表示します。
- 5 絞り込まれたリストで1つまたは複数のホストを選択します。
- 6 リストの上に表示されている操作の中から**再試行**をクリックして、選択した各ホストの検出を開始します。

単一ホストの検出を再試行するには、次の手順を実行します。

- 1 Webインタフェースで、ツールバーの**リソース**を選択してから、**ホスト**タブを選択します。
- 2 フィルタと詳細検索を使用して、目的のホストを見つけて選択してから、**編集**をクリックします。
- 3 ヘッダ領域の**Retry (再試行)**をマウスオーバーして、初期検出に失敗した理由に関する情報を表示します。
- 4 **Retry (再試行)**をクリックして検出を開始します。

ホストの再検出

ホストのプラットフォームを変更した場合、ネットワークを変更した場合、またはデータソースを追加または削除した場合は、ホストを再検出することをお勧めします。再検出を行うと、新しいデータストアリソースやネットワークリソースが自動的に追加されますが、古いリソースは削除されません。

1つ以上のホストを再検出するには、次の手順を実行します。

- 1 Webインタフェースで、**リソース>ホスト**の順に選択します。
- 2 [ホスト] リストで1つまたは複数のホストを選択します。
- 3 リストの上に表示されている操作の中から**Rediscover (再検出)**をクリックして、選択した各ホストの再検出を開始します。

単一ホストを再検出するには、次の手順を実行します。

- 1 Webインタフェースで、**リソース>ホスト**の順に選択します。
- 2 [ホスト] リストで、目的のホストを選択してから**編集**をクリックします。
- 3 ヘッダ領域で、**Discovered (検出済み)**というサブ状態を確認します。
- 4 **Rediscover (再検出)**をクリックして再検出を開始します。

ターゲットホストの編集

[ホスト] ページを使用して、プロジェクトのターゲット変換環境のホストリソースを編集できます。ホストの定義に使用されるパラメータについては、[209 ページの「ホストリソースについて」](#)を参照してください。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**リソース**を選択します。
- 2 **ホスト**タブを選択してから**ターゲット**をクリックします。
- 3 **ホスト**リストで、ホストを選択してから**編集**をクリック(またはホストをダブルクリック)し、[Edit Host (ホストの編集)] ダイアログを開きます。
- 4 ホストリソースの情報を変更します。
 - ◆ 名前
 - ◆ 組織
 - ◆ プロジェクト
 - ◆ 説明
 - ◆ IP/DNS名(検出および自動マイグレーションに必要)
 - ◆ 資格情報(検出および自動マイグレーションに必要)
 - ◆ 搭載
 - ◆ クラスタ
 - ◆ ハードウェア
 - ◆ サイト
 - ◆ 筐体
 - ◆ スロット
- 5 **保存**をクリックし、ホストリソースを更新します。
- 6 **閉じる**をクリックしてダイアログを終了します。

ホストとターゲットワークロードの関連付け

プロジェクトのターゲットホストリソースを作成した後で、そのリソースをワークロードと関連付けることができます。ホストを定義するために使用されるパラメータについては、[209 ページの「ホストリソースについて」](#)を参照してください。

- 1 Webインタフェースで、ツールバーの**プランニング**を選択し、**ワークロード**タブを選択します。
- 2 仮想ワークロードに変換されるワークロードを選択してから、**編集**をクリックします。または、目的のワークロードをダブルクリックします。
- 3 変換ターゲットワークロードが仮想マシンであることを確認します。
 - 3a [変換] ダイアログの[変換計画] パネルで、**編集**をクリックします。
 - 3b [変換方式] リストで、適切な方式を選択します。
 - 3c **保存**をクリックし、**閉じる**をクリックします。
- 4 [変換] ダイアログの**場所**パネルで、**編集**をクリックします。
- 5 **ホスト**リストから、ターゲットワークロードに割り当てるホストリソースを選択します。
- 6 (オプション)必要に応じてその他の場所情報を変更します。

- 7 保存をクリックし、閉じるをクリックします。
- 8 閉じるをクリックして「変換」ダイアログを閉じます。

ホストの削除

「ホスト」ページを使用して、プロジェクトのソースまたはターゲットの変換環境のホストリソースを削除できます。削除したリソースは、割り当てられた各ワークロードから自動的に削除されます。

注: リソースを削除すると、そのリソースの関連付けが自動的に削除されます。これには、進行中および完了済みのワークロードに割り当てられている関連付けも含まれます。同じ関連付けを適用する場合、リソース名および設定を編集するほうが適切かどうかを検討します。

- 1 Webインタフェースツールバーで、リソースを選択します。
- 2 ホストタブを選択します。
- 3 (オプション)ソースのホストリソースを削除します。
 - 3a ホストタブで、ソースをクリックし、ソースのホストリソースのリストを表示します。
 - 3b 目的のホストを選択し、削除、はいの順にクリックして削除を確認します。
- 4 (オプション)ターゲットのホストリソースを削除します。
 - 4a ホストタブで、ターゲットをクリックし、ターゲットのホストリソースのリストを表示します。
 - 4b 目的のホストを選択し、削除、はいの順にクリックして削除を確認します。

23 マイグレーションサーバリソースの管理

マイグレーションサーバリソースを使用すると、ワークロードを変換するためにマイグレーションスペシャリストが使用するマイグレーションツールをホストするサーバを追跡して関連付けることができます。たとえば、マイグレーションサーバがマイグレーションツール [PlateSpin Migrate](https://www.netiq.com/products/migrate/) (<https://www.netiq.com/products/migrate/>) をホストしているとします。[マイグレーションサーバ] ページを使用して、変換プロジェクトのターゲットワークロードのマイグレーションサーバリソースを作成、管理、および削除できます。マイグレーションサーバリソースはソースワークロードには適用されません。

- ◆ 215 ページの「マイグレーションサーバリソースについて」
- ◆ 216 ページの「マイグレーションサーバの表示」
- ◆ 217 ページの「マイグレーションサーバの作成」
- ◆ 217 ページの「マイグレーションサーバとターゲットワークロードの関連付け」
- ◆ 218 ページの「マイグレーションサーバの編集」
- ◆ 218 ページの「マイグレーションサーバの削除」

マイグレーションサーバリソースについて

マイグレーションサーバリソースを使用すると、変換プロジェクトにあるマイグレーションサーバのついでの次の情報を追跡できます。

名前: 変換プロジェクトに固有のマイグレーションサーバの名前を指定します。この名前は、文字または数字で始まる必要があります。文字、数字、および次の特殊文字のみ使用できます。使用できる特殊文字はスペース、ハイフン、アンダースコア、アポストロフィ、パーセント、アンパサンド、コンマ、およびピリオドです。

組織: プロジェクトの親組織を選択します。

プロジェクト: マイグレーションサーバの親プロジェクトを選択します。

説明: (オプション) マイグレーションサーバの簡単な説明を指定します。このテキストは、デフォルトでは [マイグレーションサーバ] リストに表示されます。

マイグレーションサーバタイプ: 次のいずれか1つを選択します。

- ◆ **PlateSpin Migrate:** このオプションを選択して PlateSpin Migrate Server としてマイグレーションサーバを特定し、PlateSpin Migrate Server との統合を可能にします。
- ◆ **その他:** このオプションを選択して、マイグレーションサーバがその他の種類のマイグレーションソフトウェアを実行していることを特定します。PTM は統合を提供しません。

サーバURL: マイグレーションサーバにホストされているマイグレーションツールのログインページのURLを指定します。URL はすべての構文ルールに準拠する必要があります。URL は最大1024文字です。次に例を示します。

<https://psmigrate.example.com/Migrate>

資格情報: [資格情報] リストを展開し、マイグレーションサーバのWebベース管理ツールにログインするために使用する資格情報リソースを見つけて選択します。リストをスクロールするか [フィルタ] に文字列を入力して、目的の資格情報リソースを見つけることができます。

マイグレーションサーバリソースは不完全な状態で保存できます。[マイグレーションサーバ] フィールドには、[変換] ダイアログの値**未設定**が表示されます。後でサーバを展開する場合、マイグレーションサーバリソースを更新できます。このステータスは、その関連ワークロードのすべてに対して自動的に更新されます。

マイグレーションサーバの表示

プロジェクトのすべての役割がマイグレーションサーバ情報を表示できます。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**リソース**を選択してから**マイグレーションサーバ**タブを選択します。
[Edit Project (プロジェクトの編集)] ダイアログの**関連付け領域**で1つのプロジェクトのマイグレーションサーバを表示することもできます。**プランニング>プロジェクト**の順に選択し、プロジェクトをダブルクリックします。**関連付け**の下の [Edit Project (プロジェクトの編集)] ダイアログで、**リソース**タブを選択してから**マイグレーションサーバ**を選択します。
- 2 **マイグレーションサーバ**タブで、リソースのリストを表示します。
- 3 マイグレーションサーバリソースを選択してから**表示**をクリック(またはリソースをダブルクリック)し、リソースの次の設定を表示します。
 - ◆ 名前
 - ◆ 組織
 - ◆ プロジェクト
 - ◆ 説明
 - ◆ マイグレーションサーバタイプ
 - ◆ サーバURL
 - ◆ 資格情報
- 4 (オプション)**グローバルプロジェクトセレクト**でプロジェクトを選択し、単一プロジェクトのマイグレーションサーバリソースのみを一覧表示します。
- 5 (オプション)**検索**フィールドを使用して [マイグレーションサーバ] リストのエントリをフィルタし、目的のマイグレーションサーバのみを表示します。**検索**領域に文字列を入力し、フィルタ処理を開始します。入力するにつれてフィルタが適用されます。いずれか1つの列の情報を同時にフィルタできます。
- 6 (オプション)列の値を基準にしてエントリをソートします。列をマウスオーバーしてメニューオプションを表示し、これをクリックしてから**Sort Ascending (昇順ソート)**または**Sort Descending (降順ソート)**を選択します。

マイグレーションサーバの作成

「マイグレーションサーバ」ページを使用して、プロジェクトのターゲット変換環境のマイグレーションサーバリソースを作成できます。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**リソース**を選択します。
- 2 **マイグレーションサーバ**タブを選択します。
- 3 **作成**をクリックし、[Create Migration Server (マイグレーションサーバの作成)] ダイアログを開きます。
- 4 マイグレーションサーバリソースの次の情報を指定します。
 - ◆ 名前
 - ◆ 組織
 - ◆ プロジェクト
 - ◆ 説明
 - ◆ マイグレーションサーバタイプ
 - ◆ サーバURL
 - ◆ 資格情報
- 5 **保存**をクリックし、マイグレーションサーバリソースを作成します。
- 6 **閉じる**をクリックしてダイアログを終了します。

マイグレーションサーバとターゲットワークロードの関連付け

プロジェクトのマイグレーションサーバリソースを作成した後、これらをワークロードと関連付けることができます。各ワークロードのマイグレーションサーバリソースを指定するか、**[自動割り当て]**を選択して、PlateSpin Migrate Connectorにより、PlateSpin Migrateタイプのプロジェクトで使用可能なマイグレーションサーバリソースのすべてにわたってマイグレーションジョブの負荷を分散することができます。

自動化モードでは、インポートされたワークロードは自動的に**[自動割り当て]**に設定されます。個々のワークロードを個別に設定できます。変換方式が自動マイグレーションによってサポートされていない場合、ワークロードの**[自動割り当て]**は無効になっています。[138 ページの「ワークロード変換方式」](#)を参照してください。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**プランニング**を選択します。
- 2 **ワークロード**タブを選択します。
- 3 ワークロードを選択してから、**編集**をクリックします。または、目的のワークロードをダブルクリックします。
- 4 [変換] ダイアログの**変換計画**パネルで、**編集**をクリックします。
- 5 次のいずれかの操作を行います。
 - ◆ **マイグレーションサーバ**: **マイグレーションサーバ**リストから、ターゲットワークロードに割り当てるマイグレーションサーバリソースを選択します。
 - ◆ **Auto Assign (自動割り当て)**: [Auto Assign (自動割り当て)] チェックボックスをオンにすると、PlateSpin Migrateタイプの使用可能なマイグレーションサーバリソースの中から自動割り当てすることが可能になります。

- 6 (オプション)必要に応じてその他の変換計画情報を変更します。
- 7 **保存**をクリックし、**閉じる**をクリックします。
- 8 **閉じる**をクリックして「変換」ダイアログを閉じます。

マイグレーションサーバの編集

「マイグレーションサーバ」ページを使用して、プロジェクトのターゲット変換環境のマイグレーションサーバリソースを編集できます。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**リソース**を選択します。
- 2 **マイグレーションサーバ**タブを選択します。
- 3 **マイグレーションサーバ**リストで、マイグレーションサーバを選択してから**編集**をクリック(またはマイグレーションサーバをダブルクリック)し、「Edit Migration Server (マイグレーションサーバの編集)」ダイアログを開きます。
- 4 マイグレーションサーバリソースの次の情報のいずれかを変更します。
 - ◆ 名前
 - ◆ 組織
 - ◆ プロジェクト
 - ◆ 説明
 - ◆ マイグレーションサーバタイプ
 - ◆ サーバURL
 - ◆ 資格情報
- 5 **保存**をクリックし、マイグレーションサーバリソースを更新します。
- 6 **閉じる**をクリックしてダイアログを終了します。

マイグレーションサーバの削除

「マイグレーションサーバ」ページを使用して、プロジェクトのターゲット変換環境のマイグレーションサーバリソースを削除できます。

注: リソースを削除すると、そのリソースの関連付けが自動的に削除されます。これには、進行中および完了済みのワークロードに割り当てられている関連付けも含まれます。同じ関連付けを適用する場合、リソース名および設定を編集するほうが適切かどうかを検討します。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**リソース**を選択します。
- 2 **マイグレーションサーバ**タブを選択します。
- 3 マイグレーションサーバリソースのリストを表示します。
- 4 目的のマイグレーションサーバを選択し、**削除**、**はい**の順にクリックして削除を確認します。

24 ネットワークリソースの管理

ネットワークリソースを使用すると、ワークロードのネットワークについての情報を追跡できます。
[ネットワーク] ページを使用して、変換プロジェクトのターゲットワークロードのネットワークを作成、管理、および削除できます。バルクインポートするマシン情報に、ソースワークロードのネットワークリソースを定義できます。ネットワークリソースは、ソースワークロードまたはターゲットワークロードに適用できますが、両方には適用できません。

- [219 ページの「ネットワークリソースについて」](#)
- [219 ページの「ネットワークの表示」](#)
- [220 ページの「ソースネットワークの作成」](#)
- [220 ページの「ターゲットネットワークの作成」](#)
- [221 ページの「ネットワークとターゲットワークロードの関連付け」](#)
- [221 ページの「ターゲットネットワークの編集」](#)
- [221 ページの「ネットワークの削除」](#)

ネットワークリソースについて

ネットワークリソースを使用すると、変換プロジェクトの1つまたは複数のワークロードが使用するネットワークについての次の情報を追跡できます。

名前: 変換プロジェクトに固有のネットワークの名前を指定します。この名前は、文字または数字で始まる必要があります。文字、数字、および次の特殊文字のみ使用できます。使用できる特殊文字はスペース、ハイフン、アンダースコア、アポストロフィ、パーセント、アンパサンド、コンマ、およびピリオドです。

組織: プロジェクトの親組織を選択します。

プロジェクト: ネットワークの親プロジェクトを選択します。

説明: (オプション) ネットワークの簡単な説明を指定します。このテキストは、デフォルトでは [ネットワーク] リストに表示されます。

ネットワークの表示

プロジェクトのすべての役割がネットワーク情報を表示できます。

- 1 Webインタフェースツールバーで、リソースを選択してから **ネットワーク** タブを選択します。
[Edit Project (プロジェクトの編集)] ダイアログの **関連付け領域** で1つのプロジェクトのネットワークを表示することもできます。 **プランニング>プロジェクト** の順に選択し、プロジェクトをダブルクリックしてから **関連付け** の下で、 **ネットワーク** タブを選択します。

- 2 ネットワークタブで、次のいずれかを実行してリソースのリストを表示します。
 - ◆ ソースリンクをクリックして、[Spreadsheet Import (スプレッドシートのインポート)]を使用して元のワークロード用にインポートしたネットワーク情報を表示します。
 - ◆ ターゲットリンクをクリックして、ターゲット変換環境のネットワーク情報を表示します。
- 3 ネットワークリソースを選択してから表示をクリック(またはリソースをダブルクリック)し、リソースの次の設定を表示します。
 - ◆ 名前
 - ◆ 組織
 - ◆ プロジェクト
 - ◆ 説明
- 4 (オプション)検索フィールドを使用して[ネットワーク] リストのエントリをフィルタし、目的のネットワークのみを表示します。検索領域に文字列を入力し、フィルタ処理を開始します。入力するにつれてフィルタが適用されます。いずれか1つの列の情報を同時にフィルタできます。
- 5 (オプション)列の値を基準にしてエントリをソートします。列をマウスオーバーしてメニューオプションを表示し、これをクリックしてからSort Ascending (昇順ソート)またはSort Descending (降順ソート)を選択します。

ソースネットワークの作成

バルクインポートスプレッドシートのマシン定義のNIC#nネットワーク名を指定して、ソースワークロードのネットワークリソースを作成できます。名前では大文字と小文字が区別されます。一致が見つからない場合、PTMはプロジェクトに新しいソースネットワークリソースを作成します。インポート時に、ネットワークリソースがソースワークロードと自動的に関連付けられます。

ターゲットネットワークの作成

[ネットワーク] ページを使用して、プロジェクトのターゲット変換環境のネットワークリソースを作成できます。ターゲットVMware Clusterホストの自動検出によって、ターゲットホスト用に検出された新しいネットワークリソースが自動的に作成されます。

- 1 Webインタフェースツールバーで、リソースを選択します。
- 2 ネットワークタブを選択してからターゲットをクリックします。
- 3 作成をクリックし、[Create Network (ネットワークの作成)] ダイアログを開きます。
- 4 ネットワークリソースの次の情報を指定します。
 - ◆ 名前
 - ◆ 組織
 - ◆ プロジェクト
 - ◆ 説明
- 5 保存をクリックし、ネットワークリソースを作成します。
- 6 閉じるをクリックしてダイアログを終了します。

ネットワークとターゲットワークロードの関連付け

プロジェクトのターゲットネットワークリソースを作成した後、これらをワークロードと関連付けることができます。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**プランニング**を選択します。
- 2 **ワークロード**タブを選択します。
- 3 ワークロードを選択してから、**編集**をクリックします。または、目的のワークロードをダブルクリックします。
- 4 [変換] ダイアログの**ネットワークインタフェース**パネルで、**編集**をクリックします。
- 5 **ネットワーク**リストから、ターゲットワークロードに割り当てるネットワークリソースを選択します。
- 6 (オプション)必要に応じてその他のネットワークインタフェース情報を変更します。
- 7 **保存**をクリックし、**閉じる**をクリックします。
- 8 **閉じる**をクリックして[変換] ダイアログを閉じます。

ターゲットネットワークの編集

[ネットワーク] ページを使用して、プロジェクトのターゲット変換環境のネットワークリソースを編集できます。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**リソース**を選択します。
- 2 **ネットワーク**タブを選択してから**ターゲット**をクリックします。
- 3 **ネットワーク**リストで、ネットワークを選択してから**編集**をクリック(またはネットワークをダブルクリック)し、[Edit Network (ネットワークの編集)] ダイアログを開きます。
- 4 ネットワークリソースの次の情報のいずれかを変更します。
 - ◆ 名前
 - ◆ 組織
 - ◆ プロジェクト
 - ◆ 説明
- 5 **保存**をクリックし、ネットワークリソースを更新します。
- 6 **閉じる**をクリックしてダイアログを終了します。

ネットワークの削除

[ネットワーク] ページを使用して、プロジェクトのソースまたはターゲットの変換環境のネットワークリソースを削除できます。

注: リソースを削除すると、そのリソースの関連付けが自動的に削除されます。これには、進行中および完了済みのワークロードに割り当てられている関連付けも含まれます。同じ関連付けを適用する場合、リソース名および設定を編集するほうが適切かどうかを検討します。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**リソース**を選択します。
- 2 **ネットワーク**タブを選択します。

- 3 (オプション)ソースのネットワークリソースを削除します。
 - 3a ソースをクリックして、ソースのネットワークリソースのリストを表示します。
 - 3b 目的のネットワークを選択し、削除、はいの順にクリックして削除を確認します。
- 4 (オプション)ターゲットのネットワークリソースを削除します。
 - 4a ターゲットをクリックして、ターゲットのネットワークリソースのリストを表示します。
 - 4b 目的のネットワークを選択し、削除、はいの順にクリックして削除を確認します。

25 データストアリソースの管理

データストアリソースを使用すると、仮想ワークロードのデータストアについての情報を追跡できます。仮想化環境では、データストアは、仮想マシンファイルおよび仮想ディスクファイルのストレージの場所を表します。

[データストア] ページを使用して、変換プロジェクトのターゲットワークロードのデータストアを作成、管理、および削除できます。バルクインポートするマシン情報に、ソースワークロードのデータストアリソースを定義できます。データストアリソースは、ソースワークロードまたはターゲットワークロードに適用できますが、両方には適用できません。

- [223 ページの「データストアリソースについて」](#)
- [223 ページの「データストアの表示」](#)
- [224 ページの「ソースデータストアの作成」](#)
- [224 ページの「ターゲットデータストアの作成」](#)
- [225 ページの「データストアとターゲットワークロードの関連付け」](#)
- [225 ページの「ターゲットデータストアの編集」](#)
- [226 ページの「ターゲットデータストアの削除」](#)

データストアリソースについて

データストアリソースを使用すると、変換プロジェクトの1つまたは複数のワークロードが使用するデータストアについての次の情報を追跡できます。

名前: 変換プロジェクトに固有のデータストアの名前を指定します。この名前は、文字または数字で始まる必要があります。文字、数字、および次の特殊文字のみ使用できます。使用できる特殊文字はスペース、ハイフン、アンダースコア、アポストロフィ、パーセント、アンパサンド、コンマ、およびピリオドです。

組織: プロジェクトの親組織を選択します。

プロジェクト: データストアの親プロジェクトを選択します。

説明: (オプション)データストアの簡単な説明を指定します。このテキストは、デフォルトでは [データストア] リストに表示されます。

データストアの表示

プロジェクトのすべての役割がデータストア情報を表示できます。

- 1 Webインタフェースツールバーで、[リソース](#)を選択してから[データストアタブ](#)を選択します。

[Edit Project (プロジェクトの編集)] ダイアログの[関連付け領域](#)で1つのプロジェクトのデータストアを表示することもできます。[プランニング>プロジェクト](#)の順に選択し、プロジェクトをダブルクリックしてから[関連付け](#)の下で、[データストアタブ](#)を選択します。

- 2 データストアタブで、次のいずれかを実行してリソースのリストを表示します。
 - ◆ ソースリンクをクリックして、[Spreadsheet Import (スプレッドシートのインポート)]を使用して元のワークロード用にインポートしたデータストア情報を表示します。
 - ◆ ターゲットリンクをクリックして、ターゲット変換環境のデータストア情報を表示します。
- 3 データストアリソースを選択してから表示をクリック(またはリソースをダブルクリック)し、リソースの次の設定を表示します。
 - ◆ 名前
 - ◆ 組織
 - ◆ プロジェクト
 - ◆ 説明
- 4 (オプション)検索フィールドを使用して[データストア] リストのエントリをフィルタし、目的のデータストアのみを表示します。検索領域に文字列を入力し、フィルタ処理を開始します。入力するにつれてフィルタが適用されます。いずれか1つの列の情報を同時にフィルタできます。
- 5 (オプション)列の値を基準にしてエントリをソートします。列をマウスオーバーしてメニューオプションを表示し、これをクリックしてからSort Ascending (昇順ソート)またはSort Descending (降順ソート)を選択します。

ソースデータストアの作成

バルクインポートスプレッドシートのマシン定義のディスクxデータストア名を指定して、ソースワークロードのデータストアリソースを作成できます。名前では大文字と小文字が区別されます。一致が見つからない場合、PTMはプロジェクトに新しいソースデータストアリソースを作成します。インポート時に、データストアリソースがソースワークロードと自動的に関連付けられます。

ターゲットデータストアの作成

[データストア] ページを使用して、プロジェクトのターゲット変換環境のデータストアリソースを作成できます。ターゲットVMware Clusterホストの自動検出によって、ターゲットホスト用に検出された新しいデータストアリソースが自動的に作成されます。

- 1 Webインタフェースツールバーで、リソースを選択します。
- 2 データストアタブを選択してからターゲットをクリックします。
- 3 作成をクリックし、[Create Datastore (データストアの作成)] ダイアログを開きます。
- 4 データストアリソースの次の情報を指定します。
 - ◆ 名前
 - ◆ 組織
 - ◆ プロジェクト
 - ◆ 説明
- 5 保存をクリックし、データストアリソースを作成します。
- 6 閉じるをクリックしてダイアログを終了します。

データストアとターゲットワークロードの関連付け

プロジェクトのターゲットデータストアリソースを作成した後、これらを仮想ワークロードと関連付けることができます。システムおよびデータのボリュームに同じデータストアまたは異なるデータストアを使用できます。また、VM設定データストアを使用できます。

ストレージのボリュームにターゲットデータストアリソースを設定するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、**プランニング**を選択します。
- 2 **ワークロード**タブを選択します。
- 3 ワークロードを選択してから、**編集**をクリックします。または、目的のワークロードをダブルクリックします。
- 4 [変換] ダイアログの**ストレージ**パネルで、**編集**をクリックします。
- 5 [ボリューム] タブで、ボリュームを選択します。
- 6 **データストア**リストから、ターゲットワークロードに割り当てるデータストアリソースを選択します。
- 7 (オプション)必要に応じてその他のディスクおよびボリュームのインタフェース情報を変更します。
- 8 **保存**をクリックし、**閉じる**をクリックします。
- 9 **閉じる**をクリックして [変換] ダイアログを閉じます。

仮想ワークロードのVM設定データストアにデータストアリソースを設定するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、**プランニング**を選択します。
- 2 **ワークロード**タブを選択します。
- 3 ワークロードを選択してから、**編集**をクリックします。または、目的のワークロードをダブルクリックします。
- 4 [変換] ダイアログの**場所**パネルで、**編集**をクリックします。
- 5 **VM Config Datastore (VM設定データストア)**リストから、ターゲットワークロードに割り当てるデータストアリソースを選択します。
- 6 **保存**をクリックし、**閉じる**をクリックします。
- 7 **閉じる**をクリックして [変換] ダイアログを閉じます。

ターゲットデータストアの編集

[データストア] ページを使用して、プロジェクトのターゲット変換環境のデータストアリソースを編集できます。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**リソース**を選択します。
- 2 **データストア**タブを選択してから**ターゲット**をクリックします。
- 3 **データストア**リストで、データストアを選択してから**編集**をクリックし、[Edit Datastore (データストアの編集)] ダイアログを開きます。または、目的のデータストアをダブルクリックします。
- 4 データストアリソースの次の情報のいずれかを変更します。
 - ◆ 名前
 - ◆ 組織

- ◆ プロジェクト
- ◆ 説明

- 5 **保存**をクリックし、データストアリソースを更新します。
- 6 **閉じる**をクリックしてダイアログを終了します。

ターゲットデータストアの削除

「データストア」ページを使用して、プロジェクトのソースまたはターゲットの変換環境のデータストアリソースを削除できます。

注: リソースを削除すると、そのリソースの関連付けが自動的に削除されます。これには、進行中および完了済みのワークロードに割り当てられている関連付けも含まれます。同じ関連付けを適用する場合、リソース名および設定を編集するほうが適切かどうかを検討します。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**リソース**を選択します。
- 2 **データストア**タブを選択します。
- 3 (オプション)ソースのデータストアリソースを削除します。
 - 3a **ソース**をクリックして、ソースのデータストアリソースのリストを表示します。
 - 3b 目的のデータストアを選択し、**削除**、**はい**の順にクリックして削除を確認します。
- 4 (オプション)ターゲットのデータストアリソースを削除します。
 - 4a **ターゲット**をクリックして、ターゲットのデータストアリソースのリストを表示します。
 - 4b 目的のデータストアを選択し、**削除**、**はい**の順にクリックして削除を確認します。

26 リソースプールリソースの管理

リソースプールリソースを使用すると、VMware Hypervisorを実行しているホストサーバのVMが使用するリソースプールを追跡できます。[リソースプール] ページを使用して、変換プロジェクトのターゲットワークロードのリソースプールリソースを作成、管理、表示、および削除できます。リソースプールはソースワークロードには適用されません。

- ◆ 227 ページの「リソースプールリソースについて」
- ◆ 227 ページの「リソースプールの表示」
- ◆ 228 ページの「リソースプールの作成」
- ◆ 228 ページの「リソースプールとワークロードの関連付け」
- ◆ 229 ページの「リソースプールの編集」
- ◆ 229 ページの「リソースプールの削除」

リソースプールリソースについて

リソースプールリソースを使用すると、変換プロジェクトに1つまたは複数の仮想ワークロードが存在するVMwareリソースプールについての次の情報を追跡できます。

名前: 変換プロジェクトに固有のリソースプールの名前を指定します。この名前は、文字または数字で始まる必要があります。文字、数字、および次の特殊文字のみ使用できます。使用できる特殊文字はスペース、ハイフン、アンダースコア、アポストロフィ、パーセント、アンパサンド、コンマ、およびピリオドです。

組織: プロジェクトの親組織を選択します。

プロジェクト: リソースプールの親プロジェクトを選択します。

説明: (オプション)リソースプールの簡単な説明を指定します。このテキストは、デフォルトでは [リソースプール] リストに表示されます。

リソースプールの表示

プロジェクトのすべての役割がリソースプール情報を表示できます。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**リソース**を選択してから**リソースプール**タブを選択します。
[Edit Project (プロジェクトの編集)] ダイアログの**関連付け領域**で1つのプロジェクトのリソースプールを表示することもできます。**プランニング>プロジェクト**の順に選択し、プロジェクトをダブルクリックします。**関連付け**の下に [Edit Project (プロジェクトの編集)] ダイアログで、**リソース**タブを選択してから**リソースプール**を選択します。
- 2 **リソースプール**タブで、リソースのリストを表示します。
- 3 リソースプールリソースを選択してから**表示**をクリック(またはリソースをダブルクリック)し、リソースの次の設定を表示します。
 - ◆ 名前

- ◆ 組織
 - ◆ プロジェクト
 - ◆ 説明
- 4 (オプション)検索フィールドを使用して [リソースプール] リストのエントリをフィルタし、目的のリソースプールのみを表示します。検索領域に文字列を入力し、フィルタ処理を開始します。入力するにつれてフィルタが適用されます。いずれか1つの列の情報を同時にフィルタできます。
 - 5 (オプション)列の値を基準にしてエントリをソートします。列をマウスオーバーしてメニューオプションを表示し、これをクリックしてから**Sort Ascending (昇順ソート)**または**Sort Descending (降順ソート)**を選択します。

リソースプールの作成

[リソースプール] ページを使用して、プロジェクトのターゲット変換環境のリソースプールリソースを作成できます。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**リソース**を選択します。
- 2 **リソースプール**タブを選択します。
- 3 **作成**をクリックし、[Create Resource Pool (リソースプールの作成)] ダイアログを開きます。
- 4 リソースプールリソースの次の情報を指定します。
 - ◆ 名前
 - ◆ 組織
 - ◆ プロジェクト
 - ◆ 説明
- 5 **保存**をクリックし、リソースプールリソースを作成します。
- 6 **閉じる**をクリックしてダイアログを終了します。

リソースプールとワークロードの関連付け

プロジェクトのリソースプールリソースを作成した後、これらをVMware仮想化ホストサーバの仮想ワークロードと関連付けることができます。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**プランニング**を選択します。
- 2 **ワークロード**タブを選択します。
- 3 ワークロードを選択してから、**編集**をクリックします。または、目的のワークロードをダブルクリックします。
- 4 [変換] ダイアログの**場所**パネルで、**編集**をクリックします。
- 5 **リソースプール**リストから、ターゲットワークロードに割り当てるリソースプールリソースを選択します。
- 6 (オプション)必要に応じてその他の場所情報を変更します。
- 7 **保存**をクリックし、**閉じる**をクリックします。
- 8 **閉じる**をクリックして[変換] ダイアログを閉じます。

リソースプールの編集

「リソースプール」ページを使用して、プロジェクトのターゲット変換環境のリソースプールリソースを編集できます。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**リソース**を選択します。
- 2 **リソースプール**タブを選択します。
- 3 **リソースプール**リストで、リソースプールを選択してから**編集**をクリック(またはリソースプールをダブルクリック)し、[Edit Resource Pool (リソースプールの編集)] ダイアログを開きます。
- 4 リソースプールリソースの次の情報のいずれかを変更します。
 - ◆ 名前
 - ◆ 組織
 - ◆ プロジェクト
 - ◆ 説明
- 5 **保存**をクリックし、リソースプールリソースを更新します。
- 6 **閉じる**をクリックしてダイアログを終了します。

リソースプールの削除

「リソースプール」ページを使用して、プロジェクトのターゲット変換環境のリソースプールリソースを削除できます。

注: リソースを削除すると、そのリソースの関連付けが自動的に削除されます。これには、進行中および完了済みのワークロードに割り当てられている関連付けも含まれます。同じ関連付けを適用する場合、リソース名および設定を編集するほうが適切かどうかを検討します。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**リソース**を選択します。
- 2 **リソースプール**タブを選択します。
- 3 リソースプールリソースのリストを表示します。
- 4 目的のリソースプールを選択し、**削除**、**はい**の順にクリックして削除を確認します。

27 環境リソースの管理

環境リソースを使用すると、ネットワークのワークロードの論理環境を追跡できます。たとえば、段階的推進、運用前、運用などがあります。[環境] ページを使用して、変換プロジェクトのターゲットワークロードの環境を作成、管理、および削除できます。バルクインポートするマシン情報に、ソースワークロードの環境リソースを定義できます。環境リソースは、ソースおよびターゲットのワークロードに適用できます。

- ◆ 231 ページの「環境リソースについて」
- ◆ 231 ページの「環境の表示」
- ◆ 232 ページの「ソース環境の作成」
- ◆ 232 ページの「環境の作成」
- ◆ 232 ページの「環境とターゲットワークロードの関連付け」
- ◆ 233 ページの「環境の編集」
- ◆ 233 ページの「環境の削除」

環境リソースについて

環境リソースを使用すると、変換プロジェクトに1つまたは複数のワークロードが存在する論理環境についての次の情報を追跡できます。

名前: 変換プロジェクトに固有の環境の名前を指定します。この名前は、文字または数字で始まる必要があります。文字、数字、および次の特殊文字のみ使用できます。使用できる特殊文字はスペース、ハイフン、アンダースコア、アポストロフィ、パーセント、アンパサンド、コンマ、およびピリオドです。

組織: プロジェクトの親組織を選択します。

プロジェクト: 環境の親プロジェクトを選択します。

説明: (オプション)環境の簡単な説明を指定します。このテキストは、デフォルトでは[環境] リストに表示されます。

環境の表示

プロジェクトのすべての役割が環境情報を表示できます。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**リソース**を選択してから**環境**タブを選択します。
[Edit Project (プロジェクトの編集)] ダイアログの**関連付け**領域で1つのプロジェクトの環境を表示することもできます。**プランニング>プロジェクト**の順に選択し、プロジェクトをダブルクリックしてから**関連付け**の下で、**環境**タブを選択します。
- 2 **環境**タブで、リソースのリストを表示します。

- 3 環境リソースを選択してから**表示**をクリック(またはリソースをダブルクリック)し、リソースの次の設定を表示します。
 - ◆ 名前
 - ◆ 組織
 - ◆ プロジェクト
 - ◆ 説明
- 4 (オプション)検索フィールドを使用して [環境] リストのエントリをフィルタし、目的の環境のみを表示します。検索領域に文字列を入力し、フィルタ処理を開始します。入力するにつれてフィルタが適用されます。いずれか1つの列の情報を同時にフィルタできます。
- 5 (オプション)列の値を基準にしてエントリをソートします。列をマウスオーバーしてメニューオプションを表示し、これをクリックしてから**Sort Ascending (昇順ソート)**または**Sort Descending (降順ソート)**を選択します。

ソース環境の作成

バルクインポートスプレッドシートのマシン定義の**環境**を指定して、スプレッドインポート中に環境リソースを成できます。名前では大文字と小文字が区別されます。一致が見つからない場合、PTMはプロジェクトに新しい環境リソースを作成します。インポート時に、環境リソースがソースワークロードと自動的に関連付けられます。

環境の作成

[環境] ページを使用して、プロジェクトの環境リソースを作成できます。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**リソース**を選択します。
- 2 **環境**タブを選択します。
- 3 **作成**をクリックし、[Create Environment (環境の作成)] ダイアログを開きます。
- 4 環境リソースの次の情報を指定します。
 - ◆ 名前
 - ◆ 組織
 - ◆ プロジェクト
 - ◆ 説明
- 5 **保存**をクリックし、環境リソースを作成します。
- 6 **閉じる**をクリックしてダイアログを終了します。

環境とターゲットワークロードの関連付け

プロジェクトの環境リソースを作成した後、これらをワークロードと関連付けることができます。

- 1 Webインタフェースツールバーで、**プランニング**を選択します。
- 2 **ワークロード**タブを選択します。
- 3 ワークロードを選択してから、**編集**をクリックします。または、目的のワークロードをダブルクリックします。

- 4 [変換] ダイアログの場所パネルで、編集をクリックします。
- 5 環境リストから、ターゲットワークロードに割り当てる環境リソースを選択します。
- 6 (オプション)必要に応じてその他の場所情報を変更します。
- 7 保存をクリックし、閉じるをクリックします。
- 8 閉じるをクリックして[変換] ダイアログを閉じます。

環境の編集

[環境] ページを使用して、プロジェクトの環境リソースを編集できます。

- 1 Webインタフェースツールバーで、リソースを選択します。
- 2 環境タブを選択します。
- 3 環境リストで、環境を選択してから編集をクリック(または環境をダブルクリック)し、[Edit Environment (環境の編集)] ダイアログを開きます。
- 4 環境リソースの次の情報のいずれかを変更します。
 - ◆ 名前
 - ◆ 組織
 - ◆ プロジェクト
 - ◆ 説明
- 5 保存をクリックし、環境リソースを更新します。
- 6 閉じるをクリックしてダイアログを終了します。

環境の削除

[環境] ページを使用して、プロジェクトの環境リソースを削除できます。

注: リソースを削除すると、そのリソースの関連付けが自動的に削除されます。これには、進行中および完了済みのワークロードに割り当てられている関連付けも含まれます。同じ関連付けを適用する場合、リソース名および設定を編集するほうが適切かどうかを検討します。

- 1 Webインタフェースツールバーで、リソースを選択します。
- 2 環境タブを選択します。
- 3 ターゲットをクリックして、環境リソースのリストを表示します。
- 4 目的の環境を選択し、削除、はいの順にクリックして削除を確認します。

